

本件ノ費用ハ夫役ヲ以テ賦課シタルコト明ナレハ假令其換算金ハ普通村稅ト同一ノ方法ヲ以テ徵收シタルモ之ヲ以テ本末異性質タル一般村稅ト混同シ制第十三條ノ直接町村稅ノ納額ニ算入ス可キモノニ非ストス

三 本訴ハ原告ニ於テ被告縣知事カ告示ヲ以テ現品増課方法ヲ定メタルヲ不當ナリトシテ提出シタルモノニシテ事實現品増課ノ賦課ヲ受ケタルモノニ非サルヲ以テ原告ハ未タ行政訴訟ヲ提起スルノ訴權ナキモノトス

第二百二條

市ニ於テ徵收スル使用料、手数料(第八十九條)市稅(第九十條)夫

役ニ代フル金圓(第一百一條)共有物使用料及加入金(八十四條)其他市ノ收入

ヲ定規内ニ納メサルキハ市參事會ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セサルトキハ國稅滯

納處分法ニ依リ之ヲ徵收ス可シ其督促ヲ爲スニハ市條例ノ規定ニ依リ手数料

料ヲ徵收スルコトヲ得 納稅者中無資力ナル者アルトキハ市參事會ノ意見ヲ以テ會計年度内ニ限り納稅

延期ヲ許スコトヲ得其年度ヲ越ユル場合ニ於テハ市會ノ議決ニ依ル 本條ニ記載スル徵收金ノ追徵、期滿得免及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル規

判決要領

- 一 町村稅滯納處分財產差押ハ地方長官ノ命令書ヲ要セス(二十六年七月五日)
- 一 質入書入財產ノ公賣ヲ其債權者ニ通知セス又ハ公賣時間ノ伸長ハ違法ニ非ス(同上)

- 一 價格豫定ハ公賣處分ヲ爲ス收入官吏ノ認定ニ任ス可シ(同上)
- 二 村長ノ財產差押處分ヲ無効トスル縣參事會ノ裁決ニ對シ村長ヨリ起訴シ得ル法令ナシ(二十八年十一月九日)
- 三 租稅賦課ニ關スル事件ニ附滯シテ督促令狀ノ取消ヲ求ムルヲ得ス(三十年三月十六日)
- 四 國稅滯納處分法ニ依ル財產差押ニハ差押調書ノ作製ヲ要ス(三十年十月十二日)
- 五 町村稅滯納處分ニ關スル町村長ノ處分ニ對スル訴願ハ郡長ニ提出ス可キモノナリ(三十一年七月二日)

判決理由

一 原告ハ本件差押ニ付テハ國稅滯納處分法第十二條ニ依リ地方長官ノ命令書ヲ要スルモノナリト云フト雖モ國稅ノ滯納處分ニ關シテハ同條ノ規定ニ從ヒ地方長官ノ差押命令書ヲ要スルハ勿論ナレトモ町村稅ノ滯納處分ニ付テハ町村長タル者自ラ差押ノ手續ヲ爲スヲ以テ足ルモノトス又原告ハ質入書入ノ財產ヲ公賣スルトキハ之カ差押ノ旨ヲ各債務者ニ通知セサルニ之ヲ爲サ、ルハ不當ナリト云フト雖モ債主ニ對スル通知ノ有無ハ原告カ權利ニ何等ノ影響ヲ及ホサ、ルモノナレハ通知ヲ爲サ、ルトノ申立ヲ以テ公賣不當ノ理由ヲ爲スヲ得ヌ又賣却ノ順序ヲ誤リタリト云フモ原告所有ノ動産ナキコト明カナレハ被告ニ於テ本件不動產ヲ賣却シタルハ國稅滯納處分法ノ規定ニ背キ順序ヲ誤リタル賣却ナリト云フヲ得ヌ又原告ハ被告カ不動產賣却ニ方リ時間ヲ遷延シタルハ違法ナリト云フト雖モ買受人出張遅刻ノ爲メ公賣時刻遷延シタルモ之ヲ以テ違法ナリト云フヲ得ヌ又原告ハ本件不動產ハ少クトモ七八百圓ノ價格アルハ明瞭ナルニ八十四圓ノ評價ト定メタルハ不當ナリト云フト雖モ國稅滯納處分法第三十二條ノ所謂收入官吏タル被告ニ於テ物件ノ價格ヲ豫定スルハ其認定ニ依ルモノナレハ原告ハ其豫定價格ヲ不當ナリト云フヲ得ヌ



二 原告請求ノ要旨ハ某村某ノ滯納處分ニ關シ財產差押ヲ執行セリ而シテ某郡參事會ハ某ノ議員資格ヲ失ヒタルヲ裁決シタルニ某ハ之ヲ不當トシ縣參事會ニ訴願シタルニ某カ滯納處分ヲ受ケタルハ事實ナルモ其滯納村稅ヲ完納シタルハ村長カ財產差押ヲ爲シタル前ニアルヲ以テ其差押處分ハ有効ノモノニ非ス云々ト裁決セルモ之レ原告ノ答申書ニ信ヲ措カサルモノナレハ不當ナリト云フニ在レトモ法律勅令中本件ノ場合ニ於テ村長ヨリ出訴スルノ規定アラサルヲ以テ受理ス可キ限ニ在ラス

三 原告ハ本件追加村稅ニ關スル督促令狀ハ某村徵收督促及國稅滯納處分ニ違背スルモノナレハ其取消ヲ請求スレトモ租稅賦課ト督促手續トハ自ラ別箇ノ事柄ニシテ督促手續ニ關シテハ設令違法ノ點アリトスルモ爲メニ租稅賦課ノ當否ニ對シテ影響ヲ及ホスモノニアラサレハ租稅賦課ニ關スル事件ニ附滯シテ督促令狀ノ取消ヲ訴フルコトヲ得サルモノトス

四 被告ハ財產差押調書ハ後日ニ至リ處分ノ適法ナルヤ否ヤヲ證スル爲メ作ルヘキモノニシテ事實ニ異論ナキ限リハ此ノ手續ヲ缺キシトテ全部ノ處分ヲ無効トスヘキモノニ非スト云フト雖トモ國稅滯納處分法第二十四條ニ財產ヲ差押ヘタルトキハ收入官吏其差押調書ヲ作り立會人ニ交付スヘシトアルヲ以テ何レノ場合ヲ問ハス國稅滯納處分法ニ據テ財產ヲ差押フルモノハ必ス調書ヲ作ラサル可カラス然ルニ本件某村長カ原告ノ財產差押ヲ爲スニ方リ其調書ヲ作ラサルハ違法ナリト云ハサルヲ得ス

五 抑郡參事會ハ訴願ノ裁決ヲ爲ス權限ヲ有スルカ故ニ訴願書ノ宛名ニ郡參事會郡長某トアル以上ハ之ヲ以テ郡參事會ニ提出シタルモノト認ムルハ當然ニシテ郡參事會ナル肩書ハ何等ノ意義ヲ有セサル符字ナリト認ルヲ得ス訴願書ニシテ既ニ其宛名ノ指示スル所ニ從ヒ郡參事會ニ提出シタルモノト認ムル以上ハ其宛名ハ即チ正當ニシテ方式ヲ闕ク所ナケレハ之レカ補正ヲ命スルノ理ナシ元來本件ノ如キ村稅滯納處分ニ關スル事件ハ訴願法ニ依リ郡長ニ提起ス可キ性質ノモノナレトモ原告ニ於テ

訴願ノ途ヲ過リ郡參事會ニ提起スルニ於テハ郡參事會ト郡長トハ各獨立ノ權限ヲ有スルモノナルヲ以テ訴願ノ性質上郡長ニ提起ス可キモノト認ムトスルモ法律上郡參事會ハ之ヲ郡長ニ移送スル義務ナク郡長モ亦宛名ノ變更ヲ命スル義務ナキモノトス原告ハ本件ニ關スル上申書ノ宛名ニハ郡參事會ノ肩書無ク單ニ郡長某トアルニ據ルモ訴願書ノ郡長ニ宛テ、差出シタルモノナルコト明瞭ナリト云フモ一旦訴願ヲ郡參事會ニ提起シタル後ニ在テハ該事件ニ關スル其後ノ書面ニ於テ郡參事會ノ肩書ヲ附セサルモノアルモ郡長ハ法律上郡參事會ノ議長ナルヲ以テ其書面ハ郡參事會議長ニ宛テ、差出シタルモノト看做サル可キカ故ニ之ヲ以テ以前ノ訴願書ヲ郡長ニ提出シタル證據ト爲スニ足ラス右ノ如ク原告ハ訴願經由ノ途ヲ過マリタルモノニシテ本件ハ正當ニ訴願ノ手續ヲ盡シタルモノニアラサレハ原告ハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノトス

第百三條 地租ノ附加稅ハ地租ノ納稅者ニ賦課シ其他土地ニ對シテ賦課スル

市稅ハ其所有者ニ賦課スルコトヲ得

第百四條 市稅ノ賦課ニ對スル訴願ハ賦課令狀ノ交付後三箇月以内ニ之ヲ

市參事會ニ申立ツ可シ此期限ヲ經過スルトキハ其年度内減稅免稅及償還ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノトス

判決要領

一 日ヲ以テスル期限ノ計算ハ初日ヲ算入セス(二十九年五月二十六日)

二 市稅ノ賦課ヲ不法ナリトスル者ハ其不法ノ點ハ何レニ在ルヲ問ハス出訴スルヲ得(三十一年十月七日)

三 村稅賦課ノ村會議決ヲ取消サントシ出訴スルヲ得ス(三十二年十月二十日)



三 町村税賦課ニ關スル訴願ハ期限經過後爲スヲ得ス(同上)

判決理由

一 原告ハ訴願期限ハ交付云々トアルヲ以テ其即日ヨリ起算セサル可ラスト云フト雖モ凡日ヲ以テ起算スル期限ノ計算ハ初日ヲ算入セサルヲ一般ノ原則トスルモノナレハ訴願期限ニ付テモ此通則ニ依ルヲ相當トス

二 被告ニ於テ租税ノ賦課ニ關スル訴訟ニ於テハ賦課ノ原因ニ溯リ其當否ヲ争フコトヲ許サスト云フモ市税賦課ニ付テハ本條及第百五條ニ依リ訴願訴訟ヲ許サレタリ而シテ同條ニ於テ争論ノ範圍ヲ賦課ノ方法形式算數等ノ上ニ限ラサル以上ハ賦課ヲ以テ不當トスル者ハ不法ノ點カ何レニ在ルヤヲ問ハス皆盡ク之ヲ争論スルコトヲ得ルモノニシテ原告ノ如ク狹隘ニ解釋ス可キモノニ非ス

三 原告訴求ノ要旨ハ某年度某村村會ハ越權不法ノ決議ヲ爲シ猥リニ村税ヲ賦課徴收シタルヲ以テ該議決ヲ取消シ併セテ賦課税ノ償還ヲ求ムト云フニ在レトモ村會ノ議決ヲ違法トスル點ニ於テハ出訴シ得ヘキ法令ナキヲ以テ原告ハ之ヲ出訴シ得サルモノトス又不法村税ノ償還ヲ求ムル點ニ於テハ原告ハ本條ニ示セル三ヶ月ノ期限ハ經過シタルニ相違ナキモ斯ハ之レ其年度内ニ於テ償還ヲ請求シ得サルニ止リ之ヲ以テ絶對的ニ權利ヲ失フモノニアラスト主張スレトモ町村税ノ賦課ニ對スル訴權ハ本條ニ示セル三ヶ月ノ期限ヲ經過スルトキハ該賦課ニ對シ絶對的ニ喪失スルモノナレハ本件ハ右期限經過後初メテ訴願ヲ提起シタルヲ以テ之ヲ受理スル限ニアラス

第百五條

市參事會町村税ノ賦課及町村ノ營造物町村有財產並其所得ヲ使用スル權利ニ關スル訴願ハ町村長之ヲ裁決ス但民法上ノ權利ニ係ルモノハ此限ニ在ラス前項ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其那參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事

會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得ス

決判要領

- 一 既納税償還ニ關シ村長ニ與ヘタル縣知事ノ命令ニ對シ出訴スルヲ得ス(二十四年二月二十七日)
- (二) 町村内一部ニ專屬スル用水路ニ關スル費用ハ其一部ニ於テ負擔ス可キモノトス(二十五年六月四日)
- 三 町村有基本財産ノ處分ニ關シテハ其共用權アル町村民ハ訴權ヲ有ス(二十六年一月十七日)
- 四 本條ハ町村長ニ訴願及訴訟ヲ許シタル規定ニ非ス(二十六年十月十日、二十八年三月二十八日)
- 五 本條ハ財産ノ賣却讓與ニ適用セス(二十八年二月八日)
- 五 町村有民築新地地主權ノ賣渡讓渡ニ關スル區會ノ議決取消ニ出訴ヲ許ス法令ナシ(同上)
- 六 本條ハ區有財産管理並處分ニ關スル議決執行順序ニ付訴ヲ許シタルニ非ス(二十九年五月二十二日)
- 六 區有基本財産ノ處分方法ニ關スル區會ノ議決ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ(同上)
- 七 租税賦課ニ關シ訴願ノ起リタル末町長ヨリ出訴シ得ル規定ナシ(二十九年十月八日)
- 八 町村有財産使用ノ權利ヲ主張スル者ニ非サレハ本條ニ依リ出訴スルヲ得ス(同上)
- 八 基本財産ノ項目ヲ掲ケサル豫算表等ヲ村會ニ提出シタルニ關シ出訴ヲ許ス法令ナシ(同上)
- 九 土地ヲ收容シタル私立鐵道會社ニ町村税ヲ課スルヲ得(三十年六月三十日)
- 九 登記ノ土地價格ヲ賦課ノ標準トシタルハ不當ニ非ス(同上)



- 二 夫役割ハ本條町村税ニ包含ス(三十年十一月十九日)
- (二) 村税ノ賦課ニ關スル訴願ハ町村制第二百十條第二項ニ定メタル期限内ニ提出スルコトヲ要ス(三十二年十二月二十五日)
- 三 村税賦課ニ關シ村會ニ出訴ヲ許シタル法令ナシ(三十四年五月二十三日)

判決理由

- 一 本訴ノ要旨ハ原告ニ於テ某村長カ戸別等級割税ヲ附加税トシテ徵收シタルハ不法ナルヲ以テ其既納税金ノ返還ヲ訴願シタルニ縣知事ハ其訴願ニ對シ村税追加中戸別等級割ハ特別税ニ屬シ附加税トシテ徵收ス可キモノニ非スト、裁決シタルニモ拘ラス該既納税金ハ原告等ニ償還スルニ及ハサル旨ヲ村長ニ命シタルヲ不當トシ之カ取消ヲ請求スルニ在レトモ村税ノ賦課ニ關シテハ村長ニ係リ出訴スルヲ得可キモノ本件ノ如ク縣知事カ村長ニ與ヘタル命令ニ對シ起訴スルヲ得サルモノトス
- 三 被告妨訴ノ要點ハ本條町村制ニ於テ行政訴訟ヲ許シタルハ同制第八十三條乃至第八十六條使用權ヲ特定シタルモノニ限ルト云フニ在リト雖町村制第六條及第八十二條町村有財產ヲ共用云々トアルハ即チ町村住民共同ノ使用權ヲ規定シタルモノニシテ使用權ノ文字ヲ明記シタルナシト雖モ均ク使用權ナルニ依リ之ニ關スル事件ハ本條訴願訴訟ヲ許シタル規定以外ニ屬スルモノト謂フヘカラス故ニ被告ノ抗辯ハ妨訴ノ理由ナキモノトス
- 四 原告訴求ノ要旨ハ原告カ村税ニ單戸割ヲ賦課シタルハ違法ニ非ストノ訴願ニ對シ被告知事ハ訴願法第十六條ヲ適用シ本案ヲ裁決セスシテ該訴願ヲ却下セリ抑訴願法ハ一般法ニシテ町村制ハ特別法ナリ故ニ被告ハ本條ニ依リ裁決ヲ與フ可キニ訴願法ニ依リタルハ不當ナリト云フニ在レトモ本條ハ町村税ノ賦課等ニ關シ町村長ニ訴願シタル者カ其裁決ニ服セサル場合ニ於テ逐次訴願出訴スル事ヲ得ル規定ニシテ町村長ニ訴願出訴ヲ許シタルモノニ非ス故ニ本件ノ場合ニ於テハ町村長ヨリ行政訴訟

訟ヲ提起スルヲ得サルモノトス

- 五 本訴ハ某町共有ノ民築新地地主權賣渡及讓渡ニ關スル該町區會ノ議決ヲ不當トシ本條ニ依リ其取消ヲ請求スルモノナレトモ本條ノ規定ハ町村有財產並其所得ヲ使用スル權利ニ關スル場合ニ適用ス可キモノニシテ本件ノ如キ財產ノ賣却讓與ニ關スル場合ニ適用ス可キモノニ非ス又本件ハ他ノ法律勅令ニ於テモ行政訴訟ヲ許シタルモノニ非サルヲ以テ受理ス可キ限ニ在ラス
- 六 原告訴求ノ要旨ハ某村區會ニ於テ議決セル區有貸付粉返還ノ方法ニ付米納ヲ變更シテ金納トナセシ件ハ郡參事會ノ許可ヲ受ク可キモノナルニ其許可ヲ得ス村長ニ於テ借受人ニ對シ徵收令狀ヲ發付セシハ違法ナルニ付本條ニ依リ本訴ヲ提起シタル次第ニシテ右區有貯粉ハ町村制第八十一條ニ依リ改メテ基本財産トシテ之ヲ管理ス可シ而シテ其處分ニ關スル區會ノ議決ハ制第二百二十七條ニ依リ郡參事會ノ許可ヲ受ケテ執行ス可シトノ判決ヲ求ムト云フニ在レトモ本條ハ町村税ノ賦課並ニ町村有財產使用ノ權利ニ關シ出訴ヲ許シタル規定ニシテ區有財產ノ管理方法並ニ其處分ニ關スル議決ノ執行順序ニ付訴ヲ許シタル規定ニアラス他ノ法律勅令ニ於テモ本件ノ如キ請求ニ對シ行政訴訟ヲ許シタル規定ナキヲ以テ本件ハ之ヲ受理ス可キ限ニアラサルモノトス
- 七 原告請求ノ要旨ハ某町會ノ議決シタル地方税戸數割賦課方法ニ依リ被告兩人ニ該税ヲ賦課シタルシニ兩人ハ之ヲ不當トシ郡長ニ訴願シ郡長モ亦之ヲ不當ナリト裁決セシニ因リ原告ハ之ニ服セス縣知事ニ訴願セシ處縣知事ハ法律勅令ニ明文ナキヲ以テ之ヲ却下スル旨裁決シタルトモ原告ハ到底該裁決ノ理由ヲ發見スルコト能ハス被告兩人ハ戸數割税ヲ負擔スルノ義務アリトノ判決ヲ請フト云フニ在レトモ法律勅令中租税ヲ賦課シタルニ由リ訴願ノ起リタル末町村長ヨリ訴訟ヲ爲スコトヲ得ルノ規定ナキヲ以テ原告町長ハ本訴ヲ提起スルコトヲ得サルモノナリ
- 八 原告等請求ノ要旨ハ某村ニ於テ某河普通水利組合ヨリ受ケタル金圓ハ基本財産トシテ寄附セラレ



其目的ヲ以テ之ヲ受ケタルカ故ニ該村ノ基本財産タルヤ疑ナシ然ルニ本年ニ至リ町村制第百八條第二項ニ則リ村長カ村會ニ提出シタル豫算表報告書及財産明細表ニ本件基金ノ項目ヲ掲ケサルヲ以テ該金額ヲ不當ニ處分シタルモノト見做シ順次村長郡參事會及府縣參事會ニ訴願シタル處就レモ訴願法第九條ニ依テ之ヲ却下シタリ元來本件ハ同村有ノ財産ニ關スル訴願ナレハ本條ニ依テ受理裁決スヘキモノナルニ法令中訴願ヲ許シタル規定ナキヲ理由トシテ却下シタルハ不法ノ裁決ナリト云フニ在レトモ原告等ハ町村有財産ヲ使用スル權利ヲ主張スルニアラサレハ本條ニ依テ出訴スルヲ得サルノミナラス他ノ法律勅令ニ於テモ之ヲ許スノ規定ナキヲ以テ本訴ハ受理スヘキ限ニ在ラス

九 第一元來讓渡ナル語ハ一定ノ用例アルニ非ス之ヲ使用スル場合ノ如何ニ由リ所有權移轉ノ意義ヲ有スルコト尠カラス而シテ本件某村歩一稅賦課條例ハ素ト賣買其他所有權移轉ノ場合ニ於テ其取得者ニ對シ一種ノ町村稅ヲ賦課スル趣意ニシテ別ニ收用ヲ除外セシ精神ノ見ル可キモノナキ以上ハ收用モ亦一種ノ所有權移轉方法ニシテ課稅ノ點ニ於テ賣買其他ノ移轉方法ト差別スヘキ理由ナキニ依リ廣義ノ解釋ニ從ヒ收用ヲ包含スト爲スヲ相當トス第二本件補償金額中別ニ收用ニ因リ生シタル損失ノ補償金ヲ包含スルモノト認ム可キ證據ナキニ依リ登記ヲ爲セシ金高ヲ以テ物件ノ收用ニ對スル補償金即チ物件ノ價格ナリトシ之ヲ課稅ノ標準ト爲セシハ不當ニアラス第三本件歩一稅ハ相當ノ手續ヲ經テ成立セル町村條例ニ基ク一種ノ町村特別稅ニシテ私設鐵道用地ノ收用ニ付キ町村制其他法律勅令中此種ノ租稅ヲ免除スル規定ナキ以上ハ之ニ對シ町村稅ヲ賦課スルモ敢テ不當ニアラス依テ原告ノ請求相立タス

一〇 被告主張スル所ノ要點ハ第一原告カ訴求スル夫役割賦課命令ハ夫役ナル一種ノ負擔ヲ命スルモノニシテ町村稅ヲ賦課シタルニ非サレハ本條ノ町村稅中ニ包含セサルヲ以テ行政裁判ニ屬セスト云フニ在レトモ本件夫役割制ナルモノハ其原ク所町村制第四章第一款ノ規定ニ依リ賦課スヘキモノナルヲ

以テ見レハ町村稅タルコト灼然トシテ明カナリ故ニ本條ニ從ヒ出訴シ得ヘキハ當然ニシテ被告ノ主張ハ全然理由ナキモノトス

三 原告訴求ノ要旨ハ原告ハ明治三十一年度定額豫算六百九十五圓ヲ以テ道路其他ノ工事ヲ起シタルモ豫算ニ不足ヲ生シタルニ付明治三十二年三月ニ至リ其不足額金七百餘圓ヲ豫定トシ村會ニ提出シタルニ村會ハ之カ認定ヲ與ヘタリ爰ニ於テ村長ハ町村制第百九條ニ依リ村稅戶別割トシテ追徵ヲ爲シタルニ村民ヨリ之ヲ不法ノ賦課ナリトシ逐次訴願シタル末縣參事會ハ其賦課ヲ取消ストノ裁決ヲ與ヘタリ然ルニ原告ハ此裁決ニ服スル能ハサルヲ以テ裁決ノ取消ヲ請求スト云フニ在レトモ本件ノ如キ村稅ノ賦課ニ對シテハ町村制及其他ノ法令中村會ニ行政訴訟ヲ許シタル規定ナシ

第百六條 市ニ於テ公債ヲ募集スルハ從前ノ公債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災時變等已ムヲ得サル支出若クハ市ノ永久ノ利益トナル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ増加スルトキハ其市ノ住民ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限ルモノトス

市會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ其募集ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ム可シ償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々償還ノ歩合ヲ定メ募集ノ時ヨリ三十年以内ニ還了ス可シ  
定額豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其年内ノ收入ヲ以テ償還ス可キモノトス但此場合ニ於テハ市會ノ議決ヲ要セス

判決要領



- 一 起債方法ニ異動アルモ本條ノ範圍内ナルトキハ許可ヲ要セス(二十八年五月十八日)
- 二 町債ノ償還年次ヲ擅ニ繰下ケタルハ違法ナリ(三十年十二月二十五日)

判決理由

一 被告ハ本件募集ノ公債ハ既ニ一旦許可ヲ經タル公債組織ヲ廢シ之ニ代ルニ新組織ヲ以テスルモノナレハ此新組織方法ニ就テモ亦許可ヲ要スト云フト雖モ本條第二項ハ公債募集ヲ議決スルト同時ニ豫メ募集方法等ヲ定ム可シト規定シタルノミニシテ其方法如何ハ市會ノ議決權内ニ屬セシメタルモノナレハ前後起債ノ方法ニ異動アルモ償還ノ初期及終期ニシテ本條規定ノ範圍ヲ出テサル限りハ許可ヲ要ス可キモノニ非サルナリ

二 原告ハ本件許可ハ町會議決ニ對シ與ヘラレタルモノニシテ而シテ之ニ掲ケタル方法ハ元金借入ノ會計年度ハ据置キ翌會計年度ヨリ向フ五個年賦ヲ以テ償還スルノ方法ナレハ借入ノ翌年度ヨリ償還セシハ不當ニアラスト云フト雖モ負債償還年次表ニ依レハ町會議決書ニ所謂會計年度トハ二十八年度ヲ指シタルモノト認ムヘク隨テ内務大臣ニ於テモ此條件ヲ以テ許可シタルモノト認ムレハ原告カ其償還年次ヲ繰下ケタルハ右兩大臣許可ノ精神ニ背キタルモノト謂ハサルヲ得ヌ又原告ハ明治二十九年三月二十六日當選ノ認可ヲ得同三十日ヨリ出勤執務シタルモノナレハ是事務引繼前即前任町長在職中ノ取扱事務ニ屬シ原告ノ知ル所ニアラスト云フト雖既ニ其事ニシテ不都合ナル以上ハ原告ハ其職務上之ヲ改ムルノ義務アル者ナリ然レハ前任町長ノ失錯ナリトテ其責ヲ免ルルコトヲ得ヌ

第二款市町村ノ歳入出豫算及決算

第七百七條 市參事會ハ每會計年度收入支出ノ豫知シ得可キ金額ヲ見積リ年度前一

箇月ヲ限り歳入出豫算表ヲ調製ス可シ但市町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算表調製ノ式ヲ定ムルコトヲ得

判決要領

- (一) 收入役缺員ノ爲メ一時助役之ヲ兼掌スルモ收入役ノ給料ヲ定メ置クハ必要ノ豫算ナリ(二十八年九月三十日第七十六條參看)

第八百八條 豫算表ハ會計年度前市町村會ノ議決ヲ取り之ヲ府縣知事ニ報告シ並地方

慣行ノ方式ヲ以テ其要領ヲ公告ス可シ

豫算表ヲ市町村會ニ提出スルトキハ市參事會ハ併セテ其市町村ノ事務報告書及財産明

細表ヲ提出ス可シ

判決要領

- (一) 基本財産項目ヲ掲ケサル豫算表等ヲ村會ニ提出シタルニ關シ出訴ヲ許ス法令ナシ(二十九年十月八日第五百五條參看)
- 二 歳入出豫算ニ前年度繰越金ヲ編入セサルヲ不當トスルモ出訴ヲ許ス法令ナシ(卅年十二月十八日)

判決理由

一 原告訴求ノ要旨ハ其年度某村歳入歳出豫算ニ前年度繰越金ヲ編入セサルヲ以テ之ヲ編入セラレンコトヲ村長ニ訴願シタルニ該繰越金ハ同村村會ニ於テ役場新築費ニ充ツル議決アリタルヲ以テ該年度豫算ニ編入スヘカラサルモノト裁決ヲ爲セリ然レトモ原告ハ之ニ服スル能ハス郡參事會ニ訴願セ



シニ亦容レラレヌ依テ尙ホ縣參事會ニ訴願シタルニ本件繰越金ハ本年度豫算ニ編入シタルハ訴願ノ目的ハ既ニ消滅ニ歸シタリトシ却下ノ裁決ヲ與ヘラレタリ是不當ノ裁決ナレハ之ヲ廢棄シ並ニ村長ノ爲シタル裁決ヲモ取消シアランコトヲ請フト云フニ在レトモ本件ハ法律勅令ニ於テ行政訴訟ヲ許シタル規定ナキヲ以テ受理スヘキ限ニアラス

第九九條 定額豫算外ノ費用又ハ豫算ノ不足アルトキハ市會ノ認定ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ得

定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫備費ヲ置キ市參事會ハ豫メ市會ノ認定ヲ受ケスシテ豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコトヲ得但市會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

判決要領

- 一 會計年度ヲ異ニスル收入ヨリ支出シタルハ款項ノ流用ニアラスシテ違法ナリ(三十三年七月十日)
- 二 學校建築費ノ豫算金額以外ニ村會ノ議決ヲ經ス後年度ノ公借償還費ヲ繰入レ支出シタルハ村會ノ權限ヲ侵シタルモノナリ(同上)

判決理由

- 一 某村明治三十一年度臨時歳入出豫算表ニ依レハ右費用ハ三十一年度ノ收入ヨリ支出スヘキモノニシテ其會計年度ヲ異ニスル三十二年度ノ收入ヨリ之ヲ支出シタルハ其年度内ニ於ケル款項ノ流用ト謂フヘキモノニアラス隨テ違法ノ處置タルヲ免カレヌ
- 二 明治三十一年度學校建築費ノ豫算金額以外ニ村會ノ議決ヲ經ス明治三十三年度ノ公借償還費ヲ繰入レ支出シタルハ村會ノ權限ヲ蹂躪シタルモノナリ

第一百十條

市會ニ於テ豫算表ヲ議決シタルトキハ市長ヨリ其謄寫ヲ以テ之ヲ收入役ニ交付ス可シ其豫算表中監督官廳若クハ參事會ノ許可ヲ受ク可キ事項アルトキハ(第二百一十一條ヨリ第二百一十三條ニ至ル)先ツ許可ヲ受ク可シ

收入役ハ市參事會(第六十四條第二項第三)又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス又收入役ハ市參事會ノ命令ヲ受クルモ其支出豫算表中ニ豫定ナキカ又ハ其命令第九九條ノ規定ニ據ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第一百一十條 市會ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年少クモ一回臨時検査ヲ爲ス可シ例月検査ハ市長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時検査ハ市長又ハ其代理者ノ外市會ノ互選シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第一百一十二條 決算ハ會計年度ノ終ヨリ三箇月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併セテ收入役ヨリ之ヲ市參事會ニ提出シ市參事會ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ之ヲ市會ノ認定ニ付ス可シ第六十二條第六項ノ場合ニ於テハ前例ニ依リ町村長ヨリ直ニ之ヲ町村會ニ提出ス可シ其市會ノ認定ヲ經タルトキハ市長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告ス可シ

判決要領

- 一 決算ハ年度後三ヶ月以内ニ結了ヲ要ス(三十三年七月十日)



判決理由

一 町村ノ決算ハ町村制第一百二十二條ニ依リ年度後三ヶ月以内ニ結了セサルヘカラサルニ三十一年度決算ヲ三十二年十月マテ遷延シタル事實アルヲ以テ怠慢ノ責ヲ免カル、コトヲ得ス

第一百二十三條 第二項 決報告ヲ爲スキハ 第三十八條及第四十三條ノ例ニ準シ 市參事會員、議長代理者共ニ故障アルモノトス

判決要領

一 豫算決算ノ報告ハ正式ニ爲スヲ要ス(二十五年二月十八日)

二 決算報告ハ其期限ヲ過クルヲ得ス(二十八年五月十四日)

判決理由

一 原告村長ハ豫算決算ノ報告書ハ當時之ヲ送付報告セリ且畧表ヲ提出シタリト云フト雖モ正式ノ報告ヲ爲サ、リシハ原告自ラ陳述スル處ナリ已ニ正式ノ報告ヲ爲サ、ル以上ハ町村制第八條第一百二條ノ規定ニ違フモノトス故ニ被告郡長カ爲シタル懲戒裁決ハ不當ニ非ス

二 本件原告村長ハ期限内ニ決算ヲ終了セサリシハ怠納處分ノ制裁ナキヨリ自然ニ生シタル結果ナレハ其責ニ任ス可キニ非スト云フト雖モ決算ハ期限ヲ經過スルヲ得サルモノナレハ怠納處分ノ制裁ナキヲ理由トシ其責ヲ免ル、コトヲ得サルモノトス

第五章 特別ノ財産ヲ有スル市區ノ行政

第一百十三條 市ノ一區ニシテ 町村内ノ一區(第六十四條)又ハ町村内ノ一部若クハ合併町村(第四條)ニシテ別ニ其區域ヲ

存シテ一區ヲ爲スモノ 特別ニ財産ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ其一區限り特ニ其費用(九十九條)ヲ負擔スルトキハ 府縣 參事會ハ其市 町村 會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財産及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會 又ハ區總會ヲ設クルコトヲ得其會議ハ市 町村 會ノ例ヲ適用スルコトヲ得

第一百十四條 前條ニ記載スル事務ハ市 町村 會ノ行政ニ關スル規則ニ依リ 市參事會之ヲ管理ス可シ但區ノ出納及會計ノ事務ハ之ヲ分別ス可シ

判決要領

- 一 區會條例ハ町村條例ト等シク町村制第二百五條ニ從ヒ內務大臣ノ許可ヲ要ス(二十五年二月二十六日)
- 二 區會カ區學務委員ノ資格消滅ニ關スル規定ヲ設ケタルハ越權ナリ(二十五年三月三十一日)
- 三 區會越權ノ議決ヲ爲シタルコトニ關シ行政訴訟ヲ許スノ法令ナシ(二十七年十月十一日)
- 四 區會ニ行政訴訟ヲ許ス法令ナシ(二十八年二月八日、同三月二日)
- 五 區會議員選舉ニ市制第三十五條第一項ヲ適用セス(二十八年六月六日)
- 五 區會ハ區會議員選舉効力ニ關スル訴訟ヲ裁決スルヲ得ス(同上)
- 六 區會ハ區有財産及營造物ニ關スル事務ノ外他ニ議決權ナシ(二十八年十月五日)
- 七 村ノ負擔ニ屬スル土木工事ヲ區ノ請負ト爲ス村會ノ議決ハ違法ナリ(二十九年四月二十四日)
- 八 町村内ノ一部特別ニ財産ヲ有スル場合ハ其町村長之カ管理ヲ爲ス可キモノトス(二十九年七月四日、三十一年四月十二日)



九 區會議員選舉ノ効力ニ關シ出訴ヲ許ス法令ナシ（二十九年九月十八日、三十年五月十七日、三十三年十二月五日）

(三) 區會カ其區全體ノ利害ニ關スル堤防ノ修築費ヲ議決シ區内土地所有者ニ賦課シタルハ違法ニ非ス（二十九年十二月二十八日、第九十九條參看）

判決理由

一 本件ノ爭點ハ區會條例ナルモノハ町村制第二百五條ニ依リ内務大臣ノ許可ヲ受クヘキヤ否ニアリトス而シテ町村制第一百十四條郡參事會ハ其町村會ノ意見ヲ聞キ條例ヲ發行シ財產及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會又ハ區總會ヲ設クルコトヲ得トアルハ該條例發行ノ權ヲ特ニ郡參事會ニ付シタルマテニシテ該條例ハ即チ其町村ノ區會條例ナレハ町村條例中ノ一種ニ屬スルモノナルニ依リ同制第二百五條ノ規定ニ從ヒ内務大臣ノ許可ヲ受ケサルヲ得ス故ニ原告カ區會條例ヲ以テ内務大臣ノ許可ヲ受クヘキモノニアラスト云フハ法律ノ解釋ヲ誤ルモノトス

二 原告ハ某區會カ區學務委員ノ員數ニ關スル議案ニ對シ但書ヲ以テ委員職務消滅ニ關スル規定ヲ設ケタルハ畢竟區學務委員條例第二條第三條ノ解釋ヲ下シタルニ過キスシテ毫モ條例ヲ變更シ又ハ之ニ新規ノ規定ヲ附加シタルモノニ非ス隨テ區會ノ議決ハ越權ニアラスト云フト雖モ區學務委員條例第二條ニ委員ノ數ハ每區四人以上トシ其員數ハ區會之ヲ定ムトアリテ市參事會カ該區會ニ提出シタル議案ハ唯其員數ヲ定メントセリ然ルニ區會ハ其員數ノ外猶委員ノ資格消滅ニ關スル規定ヲ許ケタルモノナレハ同區會ノ議決ハ職權外ニ涉リタルモノニシテ其當ヲ得タリト謂フヲ得ス

三 原告訴求ノ要旨ハ某縣參事會ハ地方學事通則第二條及市制第一百三條ニ依リ區會條例ヲ制定シ其第二十五條ニ區會ハ會議細則ヲ設クヘントアリタルヲ以テ市制第四十八條ノ處分ヲ爲スコトアルヘシト議決セリ故ニ市參事會ハ此ノ如キ處分法ハ區會條例ニ明文ナキヲ以テ區會議決ノ權限外ニ涉リ

タルヲ認メ之ヲ再議ニ付セシニ區會ハ尙其議決ヲ更メサルニ依リ縣參事會ノ裁決ヲ申請セリ然ルニ縣參事會ハ不當ニモ其議決ヲ越權ニアラサル旨裁決セリ依テ此不當ナル縣參事會ノ裁決ヲ取消サレタシト云フニ在レトモ本件區會ノ議決權限ヲ越エタル場合ノ如キハ市制其他ノ法律勅令ニ行訴訴訟ヲ許シタル規定アラサルヲ以テ受理スルノ限ニ非ス

四 原告等ハ無效裁決ノ取消、尋常小學校授業料免除ニ關スル不當裁決ノ取消、軍人軍屬ノ保護ニ關スル子女弟妹授業料ニ關スル不當裁決ノ取消訴訟ヲ提起セントスルモ區會ハ法律勅令中行政裁判所ニ出訴ヲ許シタル規定ナキヲ以テ之ヲ提起スルヲ得サルモノトス

五 被告ニ於テ選舉效力ニ關スル區會議員選舉效力ニ關スル訴願ノ如キハ市制第三十五條ニ依リ市會ニ於テ裁決スヘキモノナリト云フト雖モ市制第三十五條第一項ハ市會議員選舉效力ニ關スル訴願ノ裁決ノミヲ規定シタルモノナレハ區會議員ノ選舉效力ニ關スル訴願ノ場合ニ於テ之ヲ適用スヘシトスルハ其解釋ヲ誤ルモノトス然レトモ區會議員ノ選舉效力ニ關スル訴願ノ裁決ハ市制ニ於テハ其權限ヲ規定セサルニ依リ區會ヲ組織スル議員ノ選舉效力ニ關スル事件ナルモ區會ニ於テ該訴願ヲ裁決スルヲ得ス故ニ被告ニ於テ本件某市參事會ノ議決ヲ違法ナリト裁決シタルハ不法ナリト云フヲ得ス

六 本訴所爭ノ要點ハ市參事會カ區會ノ議決ニ對スル再議請求案ヲ議決シタルハ違法ナリヤ否ヤニ在リトス抑モ本訴甲區會カ天機伺トシテ議長ヲ大本營ニ出向セシメント議決シ又乙區會及丙區會カ清國使節ヲ慰問セント議決セシモ區會ハ市制第一百三條ニ依リ區有財產及營造物ニ關スル事務ノ爲メ之ヲ設クルモノニシテ他ニ議決ノ權アルモノニアラサレハ該議決ハ其權限ヲ越ヘタルモノナリト謂ハサルヘカス而シテ市長ノ職務ヲ行フ府知事カ區會ノ議決ニ對シ市制第六十四條ニ依リテ之ヲ再議ニ付スルノ請求案ヲ市參事會ニ提出シタルモ該條ハ市會ノ議決ニ適用スヘキモノニシテ區會ノ議決ニ適用スヘキモノニアラスト隨テ市參事會カ該請求案ヲ議題トシテ其可否ヲ議決シタルハ違法タルヲ



免カレヌ故ニ違法ノ行爲ヲ遂ケントシ被告ノ裁決ヲ取消サントスルハ理由ナキ請求ナリトス

七 原告ハ本件道路橋梁ノ修繕工事ハ區會ニ協議シテ之レヲ區ノ受負ト爲スヘシトノ村會ノ議決ハ違法ニ非スト云フト雖モ區會ハ町村制第百十四條ノ規定ニ基キ區ノ財産及營造物ニ關スル事務ノ爲メ設ケラレタルモノナレハ村ノ負擔ニ屬スル土木工事ノ如キヲ以テ區ノ受負ト爲スヘシトノ村會ノ議決ハ該規定ノ旨趣ニ背キタル違法ノ議決ニシテ區會ノ權限外ニ涉ル事項ヲ議決執行セシメントスルモノト言ハサル可カラス又原告ハ該土木工事ト區ノ負擔ニ屬スル用惡水路ノ工事ノ經濟ヲ一ニスルトキハ工費ヲ減省スルノ利益アルヲ以テ該土木工事ハ區ノ營造物ノ管理方法ニ伴ヒ從タル事柄ナレハ村會カ區ノ受負工事ト爲サントセシハ適法ノ決議ナリト云フト雖モ本件土木工事ト區ノ營造物ノ管理方法トハ別箇ノ事務ナレハ單ニ經濟上ノ利益アルノ故ヲ以テ受負工事ヲシテ區ノ營造物ノ管理方法ニ關スルモノト言フヲ得ス故ニ本訴某村村會ノ議決ハ町村制第百十四條及區會條例ニ背反シタル違法ノ議決ナリト認メサルヲ得

八 原告ニ於テ本件ノ請願ハ固ヨリ大字タル法人ノ資格ヲ以テ爲シタルモノニシテ被告カ之ニ對スル處分モ亦法人タルコトヲ認メ爲シタルモノナレハ請願ノ趣旨及人民總代ナル請願人ノ表示之ニ對スル被告ノ指令書ニ徵シ一點ノ疑ヒナキニ依リ村長ハ其大字ノ爲メ出訴シ得ルモノナリト云フト雖モ町村内ノ一部ニシテ特別ニ財産ヲ所有スル場合ニ於テ之カ管理ヲ爲ス可キ者ノ町村長ナル可キハ町村制第百十五條ノ規定アリ而シテ該請願ノ當時某縣ニ在リテハ既ニ町村制實施ノ後ナルニ由リ町村内一部ノ財産ニ於テモ法定ノ管理者ノ在レハ假令部内人民總代ノ名義ヲ以テスルモ其行爲ハ有效ニ成立ス可キモノニアラス依テ當然ノ管理者即原告村長ニ於テハ未タ民有地回復ノ事項ヲ縣知事ニ出願シタルコトナク隨テ縣知事ノ處分ヲ受ケタルコトナキモノナレハ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノトス

九 原告請求ノ要旨ハ某區會議員半數改選ノ選舉會ハ選舉ノ規定ニ違反セルヲ以テ村會カ之ヲ取消シタルニ被告郡長ハ却テ村會ノ裁決ヲ取消シ縣知事ニ於テモ郡長ノ裁決ヲ適法トシタリ然レトモ原告ハ之ニ服セス被告ノ裁決ヲ取消シ更ニ該區會議員半數改選ノ選舉ハ無効ナリトノ判決ヲ請フト云フニ在レトモ區會議員選舉ノ效力ニ就テハ町村制其他法律勅令中行政訴訟ヲ許シタル規定ナキニ依リ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得サルモノトス

### 第六章 町村組合

町制 第百十六條 數町村ノ事務ヲ共同處分スル爲メ其協議ニ依リ監督官廳ノ許可ヲ得テ其町村ノ組合ヲ設クルコトヲ得

法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪フ可キ資力ヲ有セサル町村ニシテ他ノ町村ト合併(第四條)スルノ協議整ハス又ハ其事情ニ依リ合併ヲ不便ト爲ストキハ郡參事會ノ議決ヲ以テ數町村ノ組合ヲ設ケシムルコトヲ得

#### 判決要領

- 一 村會ノ諮問ヲ經ス組合議員ヲ選定シ組合規則ヲ議決シタル事項ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ(二十三年十一月十八日)
- 二 二十二年法律第十一號ニ基ク水利土功ニ關スル町村聯合會ノ管理ニ屬スル道路事務ニハ本條ヲ適用セス(二十五年七月四日)
- 三 地方稅ヲ以テ支辨シ來リタル數町村ノ水防事業ニ關スル町村組合設置ニハ水利租合條例ヲ適用スルヲ得ス(二十六年三月二十四日)



- 三 郡長カ水防ニ關スル町村組合ノ設置ヲ許可シタルハ違法ニ非ス(同上)
- 四 數町村ノ共同漁業ノ爲メニ本條ノ町村組合ヲ設クルヲ得ス(二十六年十月三十日)
- 五 本條ノ組合村モ教育事務ニ關シ經濟ヲ共通セス各村ニ小學校設置ノ協議決定シタルトキハ其教育事務ニ關シテハ各別トス(二十七年一月十五日)
- 六 町村組合事務ハ公共事務ナラサル可ラス(二十八年六月二十八日)
- 六 漁業ハ營利ヲ目的トスルモノナレハ公共事務ニ非ス(同上)
- 七 町村組合ハ其協議規定外ニ涉リ組合分離ヲ議決シタルハ越權ナリ(二十九年十一月十一日)

判決理由

一 本件ノ要旨ハ某村長ニ於テ本條第一項ニ基キ町村組合ヲ設置スルニ當リ村會ニ諮問セスシテ組合協議員ヲ選定シ組合規則ヲ議決セシメタルヲ不當ノ處分ナリトシ縣知事ニ訴願シタル後内務大臣ニ訴願シタルモ不受理ノ裁決ヲ受ケタルニ服セス尙其裁決ノ取消ヲ訴求シ該協議員ノ選舉及其議定セラル組合規則ヲ無効ナラシメタシト云フニ在レトモ町村制ニ於テハ本件ノ事項ニ關シ行政訴訟ヲ許ス規定ナシ

二 原告訴訟代理人ハ某道路ノ事務ハ水利組合條例ノ實施セラレタル上ハ本條ノ規定ニ依リ該道路ノ事務ハ原告ニ引續クヘキモノナリト云フト雖モ明治二十二年法律第十一號ハ水利土功ニ關スル町村聯合會ヲシテ町村制施行後ト雖モ別ニ規定ヲ設クルマテ舊町村會法ニ依リ之ヲ存續セシムルノ特別法ナルヲ以テ縣知事ニ於テ該法律ノ趣旨ニ依リ縣令ヲ發布シタル以上ハ假令町村制實施ノ後ト雖モ別段ノ法律ヲ以テ其存續ヲ廢止セラレサル限りハ本件道路事務ノ如キハ本條ノ規定ヲ適用シ得ヘキモノニ非ス隨テ該規定ニ依リ町村其引續ヲ爲スヘキモノニ非ス然ルニ原告ハ水利組合條例第一條中水利土功ノ文字アルヲ以テ該條例ハ水利ノミナラス道路ノ事モ亦併セテ規定シタルモノナリト主張スルモ水利土功トハ水利ニ關スル土功ヲ云フモノニシテ該條例中モ道路ニ關スル規定ナキヲ以テ水利組合條例ハ道路ニ關シ法律第十一號ノ所謂別ニ設ケラレタル規定ナリト謂フヲ得ス

三 原告ハ本件水防組合ハ明治二十三年法律第四十六號水利組合條例第一條ニ依リ組織スヘキモノナリト云フト雖モ同條ニハ府縣稅又ハ郡費ノ支辨ニ屬セサル云々特別ノ事情ニ依リ市町村若クハ町村組合ノ事業トナスコトヲ得サルモノアル場合ニ於テハ此法律ニ依リ水利組合ヲ設置スルコトヲ得トアリ而シテ本組合ノ事業ハ從來地方稅ヲ以テ支辨シ來ルモノナレハ水利組合條例第一條ニ依ルヲ得ルモノニアラス又本條ニハ數町村ノ事務ヲ共同處分スルタメ云々其町村ノ組合ヲ設クルコトヲ得トアレハ本件水防組合ノ組織ニ對シ被告郡長カ許可ヲ與ヘタル處分ハ違法ナリト謂フヲ得ス

四 原告ハ所轄郡長ノ許可ヲ得テ二箇町三箇村ノ組合ヲ設ケ其條例及規定ニ依リ常設委員長ニ當選シ共同事業ニ關スル一切ノ事務ヲ管理シツ、アル者ナレハ該町村組合共同漁業ニ賦課セラル、某年度地方稅徵收令書ハ被告ヨリ原告ニ對シ發ス可キモノナルヲ以テ其漁業所在地ナル某村ニ發シタルハ違法ナリト云フト雖モ本條ハ町村ノ行政事務トシテ處分ス可キモノヲ數町村共同シテ處分スル爲メ組合ヲ設クルコトヲ得ルノ規定ナリ然ルニ漁業ハ一種ノ營業ニシテ當初ヨリ營利ヲ目的ト爲スモノナレハ之ニ關スル事務ヲ町村事務ト云フヲ得ス從テ其事務ヲ處分スル爲メ本條ノ組合ヲ設クルコトヲ得サル故原告ハ本訴ヲ提起スル權利ナキモノトス

五 被告參加人ハ某村外二箇村ハ本條第二項ノ規定ニ依ル組合村ナレハ教育事務ニ關シテ其經濟ヲ共通セス又各村ニ小學校ヲ設置スルコトヲ協議決定シタルニ拘ラス教育事務ハ國ノ行政事務ナルヲ以テ小學校令第二十五條第二項ニ依リ該令ニ關シテハ一町村ト同視シ事務委員ハ組合村ニ設置ス可キモノナリト云フト雖モ本條第二項ノ規定ハ場合ニ依リ郡參事會ノ議決ヲ以テ町村ノ組合ヲ設ケシムルコトヲ得セシメタルマテニシテ該項ニ依リ成立シタル組合村ハ何等ノ協議決定アルニ拘ラス組合

スルモ水利土功トハ水利ニ關スル土功ヲ云フモノニシテ該條例中モ道路ニ關スル規定ナキヲ以テ水利組合條例ハ道路ニ關シ法律第十一號ノ所謂別ニ設ケラレタル規定ナリト謂フヲ得ス

三 原告ハ本件水防組合ハ明治二十三年法律第四十六號水利組合條例第一條ニ依リ組織スヘキモノナリト云フト雖モ同條ニハ府縣稅又ハ郡費ノ支辨ニ屬セサル云々特別ノ事情ニ依リ市町村若クハ町村組合ノ事業トナスコトヲ得サルモノアル場合ニ於テハ此法律ニ依リ水利組合ヲ設置スルコトヲ得トアリ而シテ本組合ノ事業ハ從來地方稅ヲ以テ支辨シ來ルモノナレハ水利組合條例第一條ニ依ルヲ得ルモノニアラス又本條ニハ數町村ノ事務ヲ共同處分スルタメ云々其町村ノ組合ヲ設クルコトヲ得トアレハ本件水防組合ノ組織ニ對シ被告郡長カ許可ヲ與ヘタル處分ハ違法ナリト謂フヲ得ス

四 原告ハ所轄郡長ノ許可ヲ得テ二箇町三箇村ノ組合ヲ設ケ其條例及規定ニ依リ常設委員長ニ當選シ共同事業ニ關スル一切ノ事務ヲ管理シツ、アル者ナレハ該町村組合共同漁業ニ賦課セラル、某年度地方稅徵收令書ハ被告ヨリ原告ニ對シ發ス可キモノナルヲ以テ其漁業所在地ナル某村ニ發シタルハ違法ナリト云フト雖モ本條ハ町村ノ行政事務トシテ處分ス可キモノヲ數町村共同シテ處分スル爲メ組合ヲ設クルコトヲ得ルノ規定ナリ然ルニ漁業ハ一種ノ營業ニシテ當初ヨリ營利ヲ目的ト爲スモノナレハ之ニ關スル事務ヲ町村事務ト云フヲ得ス從テ其事務ヲ處分スル爲メ本條ノ組合ヲ設クルコトヲ得サル故原告ハ本訴ヲ提起スル權利ナキモノトス

五 被告參加人ハ某村外二箇村ハ本條第二項ノ規定ニ依ル組合村ナレハ教育事務ニ關シテ其經濟ヲ共通セス又各村ニ小學校ヲ設置スルコトヲ協議決定シタルニ拘ラス教育事務ハ國ノ行政事務ナルヲ以テ小學校令第二十五條第二項ニ依リ該令ニ關シテハ一町村ト同視シ事務委員ハ組合村ニ設置ス可キモノナリト云フト雖モ本條第二項ノ規定ハ場合ニ依リ郡參事會ノ議決ヲ以テ町村ノ組合ヲ設ケシムルコトヲ得セシメタルマテニシテ該項ニ依リ成立シタル組合村ハ何等ノ協議決定アルニ拘ラス組合



内一村限り特別ノ事業ニ係ルモノヲ除ク外一切ノ事務ヲ共同處分ス可キコトヲ命シタルニ非シ而シテ本件某村二箇村ハ該項ニ依リ成立シタル組合ナルモ教育事業ニ關シテハ其經濟ヲ共通セス又各村ニ小學校ヲ設置スルコトヲ協議決定シタルモノナレハ該事務ニ關シテハ共同處分ヲ爲スモノト云フヲ得ス從テ二十三年勅令第二百五號小學校令第二十五條第二項ヲ適用ス可キ限ニ在ラズ故ニ組合村ノ一箇村タル某村ニ於テハ學務委員ヲ設置スルハ違法ト云フヲ得ス

六 原告ハ本件ノ如キ町村將來ノ公益ヲ經營スルノ事業ニ關シテハ其町村ノ組合ヲ設ケ其事務ヲ共同處分スルコトヲ得セシメサル可カラス又町村制ニ於テ此種ノ事業ニ關シ町村組合ヲ設置スルコトヲ禁止スルノ明文ナク既ニ設立シタル原告町村ハ當然本訴提起ノ權アル旨ヲ主張スト雖モ町村ヲ法人トシテ行フ可キ事業ハ公共ノ事務ナル可キハ町村制第二條ニ規定スル所ナリ隨テ本條ニ依リ町村組合ヲ設ケ共同處分スル場合ニ當リテモ其事務ハ公共ノ事務ナラサル可カラス然ルニ本訴ノ目的ハ稼業權即チ鮭留漁業權回復ニ在リテ該事業タル單ニ營利ヲ目的トスルモノナレハ公共事務ナリト謂フ可カラス依テ被告カ爲シタル鮭留稼業ノ件取消ストノ處分ニ對シ原告ハ出訴スルコトヲ得ルノ權ナキモノトス

七 原告ハ町村組合ハ町村會ト同一ニシテ其組合ヲ分離スル議決ヲ爲スハ一ニ組合ニ屬スル權限ニシテ既ニ組合會ナル五箇村ノ代議機關ノ存在シアル以上ハ之カ分離ヲ組合會ニ於テ決議スルハ當然ナリト云フト雖モ組合ハ其協議規定ニ於テ付與セラレタル權限内ノ事項ヲ議決スルニ止マリ苟モ規定外ニ渉ル組合分離議決ヲ爲スカ如キ權能ヲ有セサルモノトス

〔町村制 第百十七條 町村組合ヲ設クルノ協議ヲ爲ストキハ(第百十六條第一項)ノ組合會議ノ組織、事務ノ管理方法並其費用ノ支辨方法ヲ併セテ規定ス可シ

前條第二項ノ場合ニ於テハ其關係町村ノ協議ヲ以テ組合費用ノ分擔法等其他必要ノ事項ヲ規定ス可シ若シ其協議整ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ定ム可シ

判決 頌

- 一 組合會ハ組合規定ノ範圍外ニ涉リ又ハ之ニ矛盾ノ議決ヲ爲スヲ得ス(二十八年五月十五日)
- 二 本條組合會議ノ組織ニハ議員選舉ノ方法及其資格任期ノコトヲ包含ス(三十年七月五日)
- 三 組合村長カ其職責タル事務ヲ他人ニ命シタルモ組合ハ之ニ給料ヲ支拂フ責ナシ(三十二年十月三十日)

判決理由

一 原告ハ本件共有財産管理規定第一條ニ依リ時機ニ依リ本財産ノ處分ヲ各町村ヘ分割シテ保存セシムルコトヲ得ルトノ但書ヲ追加シタルハ本財産ヲ組合ニ於テ保存スルヨリ各町村ノ基本財産トシテ保存セハ反テ安固且利益ナルヲ發見シタル故ナレハ其素志ト目的トニ背戾シタルモノニ非スト云ト雖モ本件町村組合規定ハ其組合ヲ組織スルノ際關係町村ノ協議ヲ以テ成ルモノ故組合會ハ該規定ヲ執行スルニ必要ナル事項若クハ該規定ニ依リテ與ヘタル權限内ノ事項ヲ議決シ得ルハ當然ナレトモ苟モ該規定ノ範圍外ニ涉リ若クハ之ニ矛盾スルカ如キ議決ニ至リテハ之ヲ爲スコトヲ得サルモノトス而シテ本件某町村組合規定ニ依ルニ共有財産ニ關スル議決權ヲ組合會ニ附與シタルノ條項ナキヲ以テ見レハ該共有財産管理規程第一條改正議決ハ組合會ノ權限外ニ屬スルモノト認メサルヲ得ス又同管理規程第八條ノ追加ハ正當ノ理由ナク所有區域ヲ變更減縮シタルモノナリ依テ被告郡長ニ於テ右議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議ニ付シタルハ不當ニ非ス



二 本訴原告被告所争ノ要點ハ本條ノ組合會議ノ範圍如何ニ在リ而シテ被告ハ本條ニ所謂會議ノ組織トハ單ニ會議其物ノ組成方法ヲ措スニ止マリ議員選舉ノ方法並其資格任期ヲ包含スヘキモノニアラスト云フト雖モ本條ニハ會議ノ組織トアリテ其構成ヲ組合ノ規定ニ一任シタル以上ハ之ニ屬スヘキ議員選舉方法及其資格任期ヲモ包含スヘキモノト解釋セサルヘカラス從テ某町外四箇村學校組合規則ハ町村制ニ背反シタル違法ノ規定ト云フヲ得ス

三 本件原告被告所争ノ要點ハ組合町村ノ收入役ハ組合會計事務ニ對シ給料ヲ請求シ得ルヤ否ニ在リ按スルニ該争點ノ如キハ本條ノ規定ニ從ヒ組合規則ニ依テ其組合規則ヲ閱スルニ其第八條ニ組合費ノ收支及會計事務ハ管理者總テ之ヲ掌ルトアリテ即チ管理者タル村長ノ職責タルコト明瞭ナリ然ラハ原告ハ組合村長ノ命ニ依リ實際組合ノ會計事務ヲ掌トリタルコトアルモ是レ單ニ管理者ト相對ノ關係ニシテ組合ノ與カリ知ル所ニアラサレハ之ニ向テ給料ヲ請求スルヲ得ス其改正規則ヲ施行シタル結果始テ收入役カ會計事務ヲ擔任スヘキコトニナリタルモ同第十一條ハ手當ヲ支給スト云フニ過キサレハ是レ亦給料ヲ請求スルノ理由ト爲スニ足ラサルナリ

町制 第百十八條 町村組合ハ監督官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ解クコトヲ得ス

### 第六章 市行政ノ監督

第百十五條 市行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣町村ノ行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス但法律ニ指定シタル場合ニ於テ府縣知事及府縣參事會ノ參與スルハ別段ナリトス

三十三  
律第四十七  
號ヲ以テ第  
二項追加

及府縣參事會ノ參與スルハ別段ナリトス  
町村ノ行政ニ關シ主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項中其輕易ナルモノハ敕令ノ規定ニ依リ其許可ノ職權ヲ府縣知事ニ委任スルコトヲ得

### 判決要領

一 監督權ニ基キ職務違反ノ處分ヲ爲シ法律ノ明示ヲ爲ササルハ違法ニ非ス(二十六年三月二十八日) 法ナリ(二十六年五月五日)

### 判決理由

一 原告ニ於テ被告ハ被告郡長ノ訓示ニ服從ノ義務アリト云フモ訓示ハ命令ニ非ス故ニ必ス服從ス可キモノニ非スト主張スレトモ被告郡長ノ訓示ハ監督廳カ監督上ノ意思ヲ發表シタルモノニシテ即チ命令ノ種類ニ屬スルモノナルニ依リ原告等服從ノ義務ナシト謂フヲ得ス又原告ハ原告等ノ所爲ハ法律上何ニ牴觸スルヤヲ被告カ明示セサルハ不當ナリト云フモ職務ノ權限ハ原告等其身ニ解得ス可キノ責務ヲ有スルニ依リ被告カ明示セサルノ故ヲ以テ不當ナリト謂フヲ得ス  
二 原告ハ郡長ハ假令普通ノ行政事務ニ於テハ村長ヲ指揮監督スルコトアルニモセヨ選舉ニ干與シ又ハ投票場ニ入ルノ權ナキモノナルカ故ニ郡長カ郡書記ヲシテ原告ノ管轄スル衆議院議員選舉投票場ヲ監督セシメタルハ不法ナリ又衆議院議員選舉法第二條ニ依リ府縣知事ノ有スル監督權ハ選舉區ノ選舉事項ヲ總括スルニ止マリ投票場ヲ管轄スルハ村長ノ職權ニ屬スルモノナレハ右郡書記ハ縣知事ノ命令ニ依リ來リタルモノト爲スモ其入場ヲ許ス可キニ非ス故ニ原告カ其入場ヲ拒ミタルハ不法ニ



非スト云フト雖モ衆議院議員選舉法第二條ハ選舉ニ關スル一切ノ監督權ヲ府縣知事ニ與ヘタルモノ  
 タレハ投票所ノ管理ニ付キ之カ監督ヲ爲スカ如キモ固ヨリ其監督權ノ範圍内ニ屬シテ府縣知事  
 カ其監督權ヲ實行スルニ當リ必要ナルトキハ自ラ臨監シ又ハ部下ノ官吏ヲシテ臨監セシムルモ其職  
 權ニ依リ爲シ得ヘキハ勿論衆議院議員選舉事務ノ如キハ本條第二項第九ニ該當スルモノニシテ決シ  
 テ町村制規定ノ範圍外ノモノニアラサルカ故ニ郡長モ亦府縣知事監督ノ下ニ選舉事務ヲ監督スルノ  
 職權アルモノト謂ハサル可カラス既ニ其職權アレハ必要ニ依リ自カラ投票所ニ臨監スルモ或ハ郡書  
 記ヲシテ臨監セシムルモ其職權ニ依リ爲シ得ヘキコトナルヲ以テ原告ニ於テ其實事ヲ知ル已上ハ縣  
 知事若クハ郡長ノ命令ヲ受ケテ投票場ニ臨監シタル郡書記ノ入場ヲ拒ム權ナキモノトス然ルニ本件  
 ニ關シ諸證據ヲ閱スルニ原告ハ郡書記カ縣知事若クハ郡長ノ命令ヲ受ケタル事實ヲ認メナカラ法律  
 ノ解釋ヲ異ニスルトシ其入場ヲ拒ミ尙立會巡查ヲシテ強制退場セシメタルハ違法ニシテ其情狀重キ  
 モナレハ被告カ原告ヲ解職シタルハ不當ニ非ス

第一百六十二條

此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外凡市ノ行政ニ關スル

府縣知事若クハ府縣參事會ニ

訴願シ其府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ 內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

市ノ行政ニ關スル訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル

日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出ス可シ但此法律中別ニ期限ヲ定

ムルモノハ此限ニ在ラス

此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリ

テ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨ  
 リ二十一日以内ニ出訴ス可シ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ內務大臣ニ訴願スルコト  
 ヲ得ス

訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規  
 定アリ又ハ當該官廳ノ意見ニ依リ其停止ノ爲メニ 市ノ公益ニ害アリト爲  
 ストキハ此限ニ在ラス

判決要領

- 一 期限ノ計算方ヲ不服トスル訴願ノ棄却ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ(二十三年十月二十八日)
- 二 行政訴訟提起ノ期限ハ里程ニ對スル仲長日數ヲ加算ス(二十三年十一月九日、廿六年三月十五日)
- (三) 市町村制ノ規定ニ基ク行政訴訟ハ本條第三項ノ期限内ニ提起スルヲ要ス(二十四年三月十二日、  
 同十月九日、二十八年十二月二十五日、二十九年四月三十一日、三十一年十二月十七日、三十二年二  
 月二十日、同五月十日、三十三年十一月十四日、三十三年十二月十四日)
- 四 町村ノ行政事項ニ關スル訴願ニ付縣知事ノ裁決ニ不服アルトキハ町村制ニ出訴ヲ許ス明文アルモ  
 ノヲ除ク外本條第一項ヲ依リ內務大臣ニ訴願スヘシ(二十四年七月十日)
- 五 用水區域ニ編入ノ手續指令書ハ行政廳ノ處分裁決又ハ告知書ニ非ス(二十四年九月二十二日)
- 六 選舉ノ効力ニ關シ縣知事ニ訴願シタル場合ハ出訴スルヲ得ス(二十五年十一月十六日)
- (七) 村長カ縣參事會ニ爲シタル訴願ハ同一事件ニ關シ一個人カ縣參事會ニ爲ス訴願期限ヲ中斷セス



(二十六) 市町村ノ行政ニ關スル訴訟ハ本條第二項ノ期限内ニ提起スルヲ要ス(二十九年四月四、同十月十五日、三十二年六月二十一日)

判決理由

一 本件要旨ハ本條ニ規定セル訴願期限ノ計算ハ交付ヲ受ケタル初日ヲ算入ス可キモノニ非サルニ某縣知事ハ原告ノ提起シタル訴願ニ對シ郡長ヨリ裁決書ノ交付ヲ受ケタル初日ヲ算入シテ其期限經過シタルモノト判定シ之ヲ棄却シタルハ不當ナリト云フニ在レトモ町村制中本件ノ如キニ對シ出訴ヲ許シタル條項ナシ

二 被告ハ原告カ既ニ出訴期限ヲ失シタル訴訟ニ對シ答辯ノ義務ナシト云フト雖モ訴訟提起ノ日限ニ關シテハ行政裁判法第二十二條第二項ニ依リ民事訴訟ノ規定ヲ適用ス可キヲ以テ本條第三項ニ定メタル日限ノ外明治十年第十九號布告第四條第五條及十五條ノ規定ニ依リ出訴スルヲ得ルモノトス故ニ原告ハ住居地ヨリ行政裁判所ニ至ル距離八里毎ニ一日ヲ猶豫スルトキハ期限ヲ經過セス從テ被告ハ答辯ノ義務アリ

四 右原告ヨリ某郡長カ爲シタル處分ニ對シ不服ノ旨ヲ以テ出訴シタル要旨ヲ訴狀ニ就キ審査スルニ縣令ヲ以テ地方稅中商業稅及戶數制各自ノ負擔額ヲ村會ノ議決ニ付託セラレタルニ依リ其議案ヲ某村會ニ付シタルニ村會ハ之ヲ議決スヘキ權限ナキモノトシ其議案ヲ返付シタリ依テ村長ハ監督官廳内訓ノ旨ヲ以テ更ニ之ヲ再議ニ付シタルニ再ヒ其議案ヲ返付シタルニ依リ村長ハ町村制第六十八條ニ依リ郡參事會ノ裁決ヲ請求セルニ郡參事會ニ於テ町村制第二百二十三條ヲ適用シ本村村會ニ代テ議決ヲ爲シタルハ不當ナルニ付其取消方ヲ縣參事會ノ職務ヲ行フ縣知事ニ訴願シタルニ知事カ該處分ハ取消スヘキモノニアラスト裁決シタルハ不服ナルヲ以テ本條ニ依リ右處分ノ取消ヲ要求スト云フ

五 原告ヨリ被告知事ニ對スル違法處分取消ノ件ヲ訴狀ニ就テ審査スルニ被告カ某村外九箇村用水路新設ノ爲メ該村ヲ該聯合區域ニ編入セシハ明治九年第三百號布告ノ趣旨ニ違フモノナルニ依リ之カ取消ヲ要求スト云フニ在リト雖モ是レ當時ノ編入手續伺書ニ對シ郡長カ其手續ヲ示シタル指令書ニシテ行政廳ノ爲シタル處分書裁決書又ハ告知書ト云フヲ得サルニ付本件ノ處分ヲ受ケタルトキヨリ起算スルトキハ行政裁判法第二十二條ノ期限ヲ經過シタルモノナルニ依リ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルモノトス

六 本件村會議員選舉ノ効力ニ關シ原告ハ本條ニ依リ縣知事ニ訴願シタリトアレハ本條ノ明文ニ從ヒ内務大臣ニ訴願スルノ外不服ヲ訴フルノ道アララス故ニ本件ハ當裁判所ニ於テ之ヲ受理スヘキ限ニ非ラス

第一百十七條 監督官廳ハ市町村行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視ス可シ監督官廳ハ之カ爲メニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ竝實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

判決要領

- 一 郡長カ村長ニ對シテ發シタル訓示ハ監督權上ノ命令ナリ(二十六年三月二十八日)
- 二 監督廳ノ訓令ハ下級行政廳ニ對スル命令ナリ(二十六年五月二十七日)

判決理由



一 本件原告等カ衆議院議員某等ニ向テ感謝狀ヲ發シタル行爲ニ對スル郡長ノ訓示ハ命令ニ非ス故ニ必ス服従ス可キ義務アルモノニ非スト云フト雖モ該訓示ハ監督廳カ監督上ノ意見ヲ發表シタルモノニシテ即チ命令ノ種類ニ屬スルモノナルヲ以テ原告等ハ服従ノ義務ナシト云フヲ得サルモノトス

二 原告ハ行政官廳ノ監督權ハ事後ニ行フ可キモノニシテ事前ニ施スヲ得サルモノナルコト本條ニ依リテ明カナリ故ニ本件縣知事カ發シタル訓令ハ監督權ヲ妄用シタルモノナリト云ヘトモ本條ニ依リテ行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯滞セサルヤ否ヲ監視ス可シトアリテ之ヲ監視スルノ方法ハ事後ニ施ス可シト限リタルモノニ非ス即チ本件知事カ縣下町村ノ事務錯亂滯滞ヲ整理センカ爲メ訓令ヲ以テ村役場會計規程及諸帳簿様式ヲ發布シタルハ監督ヲ行フ必要ナル方法ヲ以テ命シタルモノナレハ之レヲ以テ監督權ノ妄用ト云フヲ得ス

第一百八十二條

市 町村又ハ其組合

ニ於テ法律勅令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ

依テ命令スル所ノ支出ヲ定額豫算ニ載セス又ハ臨時之ヲ承認セス又ハ實行セサルトキハ府縣知事ハ理由ヲ示シテ其支出額ヲ定額豫算表ニ加ヘ又ハ臨時支出セシム可シ

市 町村又ハ其組合 於テ前項ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

判決要領

一 強制豫算ニ係ル國稅亡失金支出ノ命令ハ違法ニ非ス(二十七年一月二十四日)

二 村會カ法令ニ依ル負擔ノ支出ヲ拒ムトキハ監督官廳ハ強制豫算ヲ命ス可キモノトス(二十九年六月二十四日)

月五日)

(三) 監督官廳カ町村制第六十一條ヲ適用シ職權ヲ以テ選任シタル村長代理者ノ給料及費用ハ本條當該官廳ノ職權ニ依テ命スル支出ナリ(二十九年七月九日)

四 本條ニ依リ郡長ノ命シタル追加豫算案ヲ町村會カ否決シタル場合ニ町村長之ヲ再議ニ付シタルハ違法ナリ(三十一年三月十四日)

五 本條第二項ノ規定ハ第一項ノ處分ヲ受ケタル町村又ハ組合ニ訴權ヲ與ヘタルモノナリ(三十四年六月二十四日)

判決理由

一 原告主張ノ要點ハ本件國稅亡失金ハ原告村ノ怠慢ニ起因シタルモノニアラサルニ被告カ強制豫算ニ係ル該亡失金支出ノ命令ヲ發シタルハ不當ナリト云フニ在リトモ市町村ハ明治二十二年國稅徵收法第二條ニ依リ其市町村内ノ國稅ヲ徵收シ之ヲ府縣ニ納付スル義務アルモノナレハ同法第五條ニ依リ責任免除ヲ得タル場合ノ外同法第十二條ノ手續ヲ終ヘタルトキニアラサレハ國稅納付ノ義務ハ猶存スルモノト謂フヘキナリ而シテ本件地租及所得稅金ハ納付ノ責任ヲ免除セラレタルニ非スシテ原告ハ在再納付ノ手續ヲ爲サ、ルニ依リ被告ニ於テ強制豫算ニ係ル命令ヲ發スルニ至リタルモノナレハ被告ノ行爲ヲ不當ナリト云フヲ得ス又原告ハ亡失金中發見シタルモノヲ被告カ豫算中ニ控除セサルハ不當ナリト云フモ未タ納付ノ手續ヲ爲スニ至ラサルノ事實アルヲ以テ豫算中ニ國稅亡失金ノ金額ヲ掲ケタルモノナレハ之ヲ不當ト謂フヘカラス

二 被告ニ於テハ原告ハ小學校令第四十三條ニ依リ負擔スル費用ノ支出ヲ拒ミタルニ付其議決ヲ以テ違法ナリトシ町村制第六十八條ニ基ツキ議決ノ執行ヲ停止シ再議ニ付セシメタリト主張スト雖モ若シ果シテ被告主張ノ如ク原告ニ於テ法律勅令ニ依リ負擔スヘキ支出ヲ拒ムコトアリトセハ同制第百



二十二條ノ規定ニ從ヒ強制豫算ヲ命スルノ途アルニモ拘ラス事茲ニ出テスシテ第六十八條ノ規定ヲ適用シ再議ニ付セシメシハ違法ノ處置タルヲ免レサルモノトス

四 被告ハ郡長ノ訓令ニ基ツキ議案ヲ發シテ村會ヲ開キタリ然ルニ村會ハ之ヲ否決シタルヲ以テ再回招集セシモ尙ホ之ヲ肯セサルニ依リ郡參事會ノ裁決ヲ求メタリト云フト雖モ郡長ノ訓令ハ本條ニ依レル強制命令ナリ然ラハ町會カ該命令ニ基ツケル追加豫算ヲ否決シタル場合ニ於テハ村長ハ本條第二項ノ規定ニ依リ村ヲ代表シテ訴願訴訟ヲ提起スルハ格別第六十八條ノ規定ヲ適用シテ之ヲ再議ニ付シタルハ違法ノ處置タルヲ免レヌ從テ郡參事會及縣參事會ノ裁決ハ適法ノモノト云フヲ得ス

五 町村制第二百二十二條第二項ノ規定ハ被告所論ノ如ク同條第一項ノ處分即チ郡長ニ於テ支出額ヲ定額豫算表ニ加ヘ又ハ臨時支出セシメタル處分ニ對シ其處分ヲ受ケタル町村又ハ組合ニ訴權ヲ與ヘタルモノト解スルヲ正當ナリトス而シテ本件ノ事實ハ堀川村會ニ於テ上瀧町外十六個町村組合三十二年度追加堀川村負擔ノ一部ヲ否決シタルニ依リ同村ニ對シ上新川郡長カ否決額ヲ定額豫算表ニ加載シタルモノナルヲ以テ原告タル組合ハ町村制第二百二十二條第二項ニ依リ出訴スル權ナキモノナリ

第一百九十二條 凡市會又ハ市參事會ニ於テ議決ス可キ事件ヲ議決セサルトキハ府縣參事會代テ之ヲ議決ス可ク

判決要領

- 一 本條ノ代決ニ不服アルモ訴訟ヲ提起スルヲ得ス(三十年五月四日)
- 二 本條ニ議決スヘキ事件トアルハ町村會ノ權限ニ屬スル事件ト云フニ同シ(三十四年六月一日)
- 三 本條ハ町村議決機關曠缺ヲ補充スル規定ニシテ町村會存立セサル場合ニモ適用ス(三十四年六月一日)

判決理由

一 原告訴求ノ要旨ハ聯合組合水利土功會ハ明治十七年第十四號布告區町村會法ニ依リ組織セラレ町村制實施後ハ明治二十二年法律第十一號ニ依リ存續スル者ナリ而シテ該水利土功會ハ其費用ノ賦課法ハ各町村會又ハ區會ニ於テ評決スルモノトストノ議決ヲ爲シタルニ付村長ハ其賦課議案按本村會ニ提出セリ然ルニ村會ハ水利土功會創設以來未タ會テ其事務ノ委任ヲ受ケテ之ヲ評決シタル事實アラサレハ町村制實施ノ今日其效ナキモノト認メ之ヲ議定スヘキモノニ非ラスト議決シ該議案按返戻セリ茲ニ於テ村長ハ町村制第六十八條ニ依リ郡參事會ノ職務ヲ行フ郡長ノ處分及裁決ヲ請求シ郡長ハ該費用ハ本村會ニ於テ當然議決スヘキモノトノ裁決ヲ爲シ且本條ニ依リ之ヲ代決シタルモ原告ハ之ニ服從スル能ハサルヲ以テ出訴シタルト云フニ在レトモ本條ニ依リ郡參事會カ町村會ニ代テ議決シタル場合ニ於テ之ニ對シ行政訴訟ヲ提起スルヲ得サルハ勿論同制第六十八條ニ依ルモ本件ノ如ク町村會カ自ら議權ヲ有セスト議決シタル場合ニ於テハ其議決ノ性質ニ於テ執行スルコトヲ得ス隨テ其執行ヲ停止スヘキ事實生セサルヲ以テ該條第二項ノ一ニ依リ出訴スルコトヲ得サルモノトス

二 原告ハ町村制第二百二十三條ニハ「凡町村會ニ於テ議決スヘキ事件ヲ」云々トアリ故ニ町村會ニ於テ議決スヘキ責務アル事件タルコトヲ必要トシ若シ町村會カ議決スルモ又ハ之ヲ爲サ、ルモ其任意ノ職權内ニ屬スルモノナル時ハ郡參事會ハ之ニ容喙シテ代決ヲ爲スヘキモノニアラス而シテ町村制第八條第三項ハ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭退職又ハ實行セサモノニ對シ制裁ヲ加フル規定ニシテ其制裁ヲ加フル權能法律ノ正文ヨリ見テ之ヲ町村會ニ一任シタルモノト謂ハサルヘカラス然ラハ郡參事會カ原告所屬村會ニ代テ議決シタルハ越權不法ノ所爲ナリト云フト雖町村制第二百二十三條ハ町村會ニ於テ議決スヘキ事件トアルハ町村會ノ權限ニ屬スル事件ト云フニ同シク而シテ同第八條第三項ニ依リハ理由ナクシテ名譽職ヲ逃ントスル者ニ對シテ加フル制裁ハ町村會ノ權限ニ屬スル事件タル



コト明カナレハ同第三十三條等ニ於テ規定スル事件ト同様ニ郡參事會ニ於テ代決スルコトヲ得ルモノトス

三 原告ハ郡參事會カ町村會ニ代テ議決スルハ町村會其物ハ存立シ居ルモ其故意又ハ怠慢ヨリシテ其職責ヲ盡サ、ル場合ニ限ルモノニシテ町村會其物カ存立セサルカ又ハ成立ヲ缺ク如キ場合ニ於テモ尙代決權アリト認ムルヲ得ス是レ即チ第二百二十三條ニ議決スヘキ事件ヲ議決セサル時ト明記シタル所以ニシテ議決セサル時ト云ヘルハ或ル主體存在シテ而モ其主體カ或行動ヲ爲サ、ルノ意ナルコト火ヲ略ルヨリモ明カナリトス故ニ如何ニ之ヲ曲解スルモ或主體即チ町村會カ存在セスシテ議決ハ固ヨリ議事スラ開クコトヲ得サル場合ニ於テモ尙之ヲ議決セサルモノト同一ニ見做シ郡參事會カ代決スヘキ權限ヲ有スルモノト見ルヲ得スト主張スレトモ町村制第二百二十三條ハ町村議決機關ノ曠闕ヲ補充スル規定ニ外ナラサレハ同條ニ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキトアルハ單ニ町村會存立シテ議決ヲ爲サ、ルトキノミヲ謂フニアラスシテ議決スヘキ町村會無キ場合ヲモ包括シテ謂ヒタル規定ナリト解釋スルヲ相當トス然レハ議員皆悉ク退職シテ町村會成立スル能ハサル場合ニ於テ郡參事會カ代決ヲ爲シタルハ相當ノ處置ナリ

第二百二十四條 內務大臣ハ<sup>町市</sup>會ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命シタル場合ニ於テハ同時ニ三箇月以内更ニ議員ヲ改選スヘキコトヲ命ス可シ但改選<sup>町市</sup>會ノ集會スル迄ハ<sup>郡府</sup>參事會<sup>町市</sup>會ニ代テ一切ノ事件ヲ議決ス

第二百二十五條 左ノ事件ニ關スル<sup>町市</sup>會ノ議決ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 <sup>町市</sup>條例ヲ設ケ竝改正スル事

三十三  
年法  
第七  
號以  
テ七  
項創  
設ス

二 學藝、美術ニ關シ又ハ歷史上貴重ナル物品ノ賣却讓與質入書入交換若クハ大ナル變更ヲ爲ス事

判決要領

一 區會條例ハ町村條例ト等シク本條ニ依リ內務大臣ノ許可ヲ要ス(二十五年二月二十六日)

判決理由

一 町村制第十四條ハ條例發行ノ權ヲ特ニ郡參事會ニ付シタルマテニシテ該條例ハ即チ其町村ノ區會條例ナレハ町村條例中ノ一種ニ屬スルモノナルニ依リ本條ノ規定ニ從ヒ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第二百二十六條 左ノ事件ニ關スル<sup>町市</sup>會ノ議決ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 新<sup>町市</sup>ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ増加シ及第百六條第二項ノ例ニ違フモノ但償還期限三年以内ノモノハ此限ニ在ラス

二 <sup>町市</sup>特別稅竝使用料、手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

三 地租五分ノ一其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事

四 間接國稅ニ附加稅ヲ賦課スル事

五 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事

三十三  
年法  
第七  
號以  
テ七  
項創  
設ス



判決要領

- 一 本條第三號ノ賦課ニ關スル町會議決ノ許可ニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ(二十五年十二月十日)
- 二 舊債償還ノ爲ニスル起債ハ許可ヲ要セス(二十八年五月十八日)
- 三 年度内ニ許可ヲ得タル地價割ヲ其決算結了前ニ賦課シタルハ違法ニアラス(三十四年六月六日)

判決理由

一 本件ハ某町地先堤防修築費中該町民負擔ノ分ヲ町會ノ決議ニ付セス町長ハ見積額ヲ以テ工事ヲ請負ハシメ竣工後町會ハ之ヲ可決シタルモ該金額ハ本條第三號ノ規定ニ超過スルニ内務大臣カ之ニ向テ許可ヲ與ヘタル不法ノ處分ナリト云フニ在レトモ本件ノ如キハ法令中出訴ヲ許ス規定ナシ

二 被告ニ於テ市制百六條ニハ新タニ公債募集ヲ爲シ得可キ三箇ノ場合ヲ示シ舊債償還ノ目的ヲ以テスルモノヲ其一トシ而シテ本條於テハ新ニ市ノ負債ヲ起サントスル市會ノ議決ハ内務大臣ノ許可ヲ受ク可キヲ規定シタルニ依レハ舊債償還ノ爲ニスル公債募集モ亦新ニ市ノ負債ヲ起スモノナルヲ以テ其許可ヲ要スルヤ明カナリト云フト雖モ第六條第一項ハ公債募集ノ目的ヲ掲ケ其範圍ヲ示シ本條第一號ハ第六條第二項中特ニ官ノ許可ヲ受ク可キ場合ヲ列舉シタルヲ以テ見レハ市ノ負債ハ何レノ場合ニ於テモ必ス許可ヲ受ク可キニ非スシテ之ヲ要セサル場合アリ而シテ本條ニ所謂新ニ市ノ負債ヲ起ストハ起債ノ當時負債ナキ市ニ於テ負債ヲ起ス場合ヲ云フニ止マルモノナレハ舊債償還ノ爲ニスル負債ノ如キハ許可ヲ要セサルモノト云ハサル可ラス

三 原告ハ三十二年度ニ於ケル地租割制限超過ノ村稅ヲ年度經過後即チ明治三十三年六月八日ニ至リ卅二年度ノ村稅トシテ賦課シタルハ違法ナリト云フモ本件地租割制限超過ノ村稅賦課ニ關スル村會ノ議決ハ町村制第二百二十六條ノ規定ニ從ヒ明治三十三年三月廿四日主務大臣ノ許可ヲ受ケタルモノニシテ村稅トシテ賦課シタルハ同年六月八日即チ決算結了以前ナルヲ以テ違法ノ賦課ナリト云フヲ

得ス

第二百二十七條

左ノ事件ニ關スル市町村會ノ議決ハ府縣參事會ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 市ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ並改正スル事
- 二 基本財産ノ處分ニ關スル事(第八十一條)
- 三 市有不動産ノ賣却讓與並質入書入ヲ爲ス事
- 四 各個人特ニ使用スル市有土地使用方法ノ變更ヲ爲ス事(第八十六條)
- 五 各種ノ保證ヲ與フル事
- 六 法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非スシテ向五箇年以上ニ亘リ新ニ市住民ニ負擔ヲ課スル事
- 七 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課スル事(第九十條第二項)
- 八 第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ市内ノ一部ニ費用ヲ賦課スル事
- 九 第一百一條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ヲ課スル事

判決要領

- 一 町村有土地ノ賣買讓與ニ關シテ出訴ヲ許ス法令ナシ(二十四年九月二十八日)
- 二 基本財産支出ノ村會議決ヲ郡長カ不認可シタルニ對シ出訴ヲ許ス法令ナシ(二十五年十二月六日)



三 郡參事會ノ許可ヲ受ケス町村有基本財産處分ニ關スル村會議決ヲ執行スルハ違法ナリ(二十六年三月十七日)

四 町村會カ某議決ノ執行ニ付監督廳ノ許可ヲ要セザル議決ヲ爲スハ越權ナリ(二十七年十二月八日) 本條第七號附加稅ニ非サル戸數割賦課ヲ郡參事會カ許可ノ議決ヲ爲シタルハ違法ナリ(三十年十二月十八日、第九十條參看)

判決理由

一 原告ハ某共有土地ノ讓與ヲ村會ノ議ニ付シ其可決ヲ經本村長ヨリ被告郡長ニ稟請シテ其許可ヲ乞ヒシニ郡長ノ之ヲ許可セサルハ不服ニ付該處分ノ取消アランコトヲ縣知事ニ訴願セシニ縣知事モ亦之ヲ取消ス可キ限リニアラストノ裁決ヲ爲シタルトモ尙ホ不服ナルニ因リ該處分ヲ取消シ速ニ稟請ヲ許可ス可キ様裁決ヲ仰クト謂フニ在リト雖トモ町村有不動産ノ賣却讓與ニ關シテハ法律ニ於テ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ルノ規定ナキヲ以テ之ヲ提起スルコトヲ得サルモノトス

二 原告ハ基本財産ヲ勸業費トシテ支出スル村會議決ノ件ニ付被告カ不認可ノ命令ヲ下シタルハ違法ニシテ基本財産ノ程度如何處分如何ヲ定ムルコトハ原告村カ法律上有スル權限ナルヲ以テ之カ監督者タル被告ニ於テハ違法ノ時ニ非サレハ之ヲ拒絕スルノ權ナキモノニ付之カ認可ヲ與ヘサルハ不法越權ナルヲ以テ被告カ原告ニ下シタル不當命令ヲ取消シ速ニ認可ヲ與フル様裁決アランコトヲ訴求スルニ在リト雖モ村會ノ議決ニ對シ監督廳カ不認可シタル場合ニ於テ法律勸令中行政訴訟ヲ提起シ得ルノ規定ナキヲ以テ本件ハ出訴スルヲ得ヘキ限ニアラス

三 本件基本財産ノ處分ニ關スル村會議決ヲ郡參事會ノ許可ヲ受ケスシテ執行シタルハ本條ノ規定ニ違フモノナレハ被告ニ於テハ該處分ニ關スル村會議決ノ執行ヲ取消スヘキモノトス

四 抑議決ノ執行ニ監督官廳ノ許可ヲ要スルト否トハ村長タル執行者ノ職務ニ屬シ村會ハ之ヲ論スル

ノ權ナキモノトス故ニ本件村會ニ於テ基本財産タル金圓ノ貸付預入ハ其處分ノ範圍ニ非サルヲ以テ村會カ郡參事會ノ許可ヲ受ケルヲ要セスト議決シタルハ違法ニシテ從テ村長カ該議決ノ執行ヲ停止シタルハ不當ニ非ス

第二百二十四條 府縣知事、市長、助役、市參事會員、委員、區長其他町市吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ譴責又過怠金トス

其過怠金ハ二十五圓以下トス 郡長ノ處分ニ係ル過怠金ハ十圓以下府縣知事ノ處分ニ係ルモノハ二十五圓以下トス

追テ町市吏員ノ懲戒法ヲ設クル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ「官吏懲戒例」ヲ適用ス可シ

一 町市參事會ノ懲戒處分(第六十四條第二項第五)ニ不服アル者ハ 郡長ニ訴願シ其郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ 府縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ 行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

二 郡長ノ懲戒處分ニ不服アル者ハ 府縣知事ニ訴願シ 府縣知事ノ懲戒處分 及其裁決ニ不服アル者ハ 行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

三 本條第一項ニ掲載スル町市吏員職務ニ違フコト再ニ及ビ又ハ其情狀重キ者又ハ行狀ヲ亂リ廉恥ヲ失フ者、財産ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務舉ラサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其隨時解職スルコトヲ得可キ者ハ(第六十七條)懲戒裁判ヲ以テスルノ限ニ在ラス



總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ  
 爲レ解職セラレタル場合ヲ除クノ外退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス  
 四 懲戒裁判ハ府縣知事其審問ヲ爲シ府縣參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル  
 者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ 行政裁判所ニ出訴スルコ  
 トヲ得

(市制)

市長ノ解職ニ係ル議決ハ上奏シテ之ヲ執行ス  
 監督官廳ハ懲戒裁判ノ議決前吏員ノ停職ヲ命シ並給料ヲ停止スルコトヲ  
 得

判決要領

- 一 郡長ノ命令ヲ奉セサル町長ヲ縣知事カ懲戒ニ處シタルハ違法ニ非ス(二十四年一月二十九日)
- 二 村治上ニ困難アルモ町長ハ法令ニ從ヒ其職務ヲ行フ義務アリ(二十四年四月二十一日)
- 三 新法實施ニ當リ舊事務結了セサル際ニ就職シタル長村ハ殘務整理ノ職責ヲ有ス(二十四年十一月十日)
- 四 市參事會擔任事務ヲ怠ルトキハ代表者タル市長ニ責任アリ(二十五年二月五日)
- 五 町村長カ衆議院議員ニ感謝狀ヲ發シ懲戒ニ付セラレタルハ當然ナリ(二十六年三月二十八日)
- 六 懲戒裁判ノ審問ニ關スル申供書ニ捺印セサルモ無効ニ非ス(二十六年六月二十四日)
- 七 町村吏員常例ノ手續ヲ盡シ事務ヲ行ヒタル上ハ懲戒處分ヲ受ク可キニ非ス(二十七年二月二十四日)

八 町村役場吏員ノ不正行爲ハ監督ノ責アル町村長ニ責任アリ(二十八年五月十四日)  
 (九) 收入役代務者ノ資格アル者カ其受領ノ金圓ヲ消費シタルトキハ其使役者タル收入役ニ責任アリ  
 (二十八年五月十四日、町村制第二百二十九條參看)

- 一 小學校管理者カ其教員ニ對シ訓戒方法ヲ誤リタルハ懲戒ノ責アリ(二十八年六月一日)
- 二 經由ノ途ニ當レル村長代理カ訴願ヲ却下シタルハ專擅ナリ(二十九年七月九日)
- 三 村會成立セサリシ場合ニ村長カ郡長ニ直ニ報告ヲ爲ササルモ其職務ヲ怠リタルモノト謂フ可ラス  
 (三十年五月三日)
- 三 適法ノ招集手續ヲ盡シタルモ出席議員ナキカ爲ニ村會ヲ開會スルニ至ラサルハ村長ノ職務怠慢ニ  
 アラス(同上)
- 三 町村長ハ町村役場ノ事務多忙ノ故ヲ以テ其職務怠慢ノ責ヲ免カル、コトヲ得ス(三十一年二月十  
 九日)
- 三 町村役場ノ處務規程ニ學事ニ關スル事務ハ助役ノ管理スヘキコトヲ定ムルモ之ヲ以テ該事務ニ關  
 シテ町村長ニ其責任ナシト云フヲ得ス(同上)
- 四 有給町村長助役退職ノ承認ヲ得タル後懲戒ニ付シタルハ違法ノ處分ナリ(三十一年四月二十三日、  
 同十二月十六日及三十二年三月二十二日)
- 五 町村會ノ議事録ノ署名者ヨリ其署名取消ノ申出アリタルニ拘ハラヌ町村長カ之ヲ取消サスシテ監  
 督官廳ニ提出シタルハ其職務ニ違フモノナリ(三十一年十一月二十八日)
- 五 町村長カ町村會ノ議長トシテ不當ノ處置ヲ爲シタルハ即町村長ノ職務ニ違フモノトス(同上)
- 六 懲戒裁判ノ審問ハ書面ヲ以テ爲スヲ得(三十一年十一月二十八日)
- 七 村長カ村會議員ノ招集ノ通知ヲ爲ササルヲ以テ過怠金ヲ科シタルハ不當ニ非ス(三十三年七月九  
 日)



- 日)
- 一 已ヲ得サル事情ナク選舉ヲ中止シタルハ職務ニ違フ情狀重キモノトス(三十四年五月十三日)
- 二 村長カ官吏ノ任免職責ニ關シ是非ノ言議ヲ挿ムカ如キハ職權ノ在ル所ヲ願ミサル行爲ナリトシテ郡長カ訓戒シタルハ不當ニアラス(三十四年五月廿八日)
- 三 村長カ適法ナル郡長ノ訓戒書ヲ不當ナリトシテ返戻シタルハ職務上遵守ノ義務ニ背キタルモノトシ郡長カ之ヲ譴責シタルハ違法ニアラス(同上)
- 四 町村長ヲ解職シタル適法ナル事由(三十四年七月八日)

判決理由

一 原告代人陳述ノ要旨ハ原告ハ郡長ノ命ニ依リ其告示ヲ揭示スル職務ナシト云フニ在レトモ抑郡長ノ職權ニ關シテハ地方官官制第四十七條ニ依リ郡長ハ行政事務ニ就テハ其郡内町村ノ町村長ヲ指揮スルコトヲ得ルモノナレハ町長タル原告ニ於テ郡長ノ發シタル町村役場ニ揭示ス可キノ命令ニ應ス可キハ當然ノ職務ナリ故ニ被告知事ノ懲戒處分ハ取消ス可キ理由ナキモノトス

二 原告カ被告ノ懲戒處分ニ對シ不服ヲ唱フルノ要點ハ地方稅延納出願及村内苦情訴願自己疾病等ノ爲其職ヲ全フスルコト能ハサリシニ在リト云フト雖抑モ村長ノ職ニ當ル者ハ何等ノ事情アリテ村治上ニ困難ヲ見ルコトアルモ法律命令ノ範圍ヲ守リ其職務ヲ盡ササルヘカラサルハ固ヨリ當然ノコトナレハ既ニ職務舉ラサル事實アル以上ハ原告ハ其責ヲ免カルコト能ハサルモノトス又原告ハ本條ノ懲戒處分ハ譴責及過怠金ニ止マルヘク萬一官吏懲戒例ヲ適用スルヲ得ヘシトスルモ輒ク其處分ヲ行フヘキモノニ非スト云フモ被告ハ町村制第三百十條ニ依リ郡參事會ノ資格ヲ以テ本條第四號ノ懲戒裁判ヲ開キ反覆審問ヲ爲シタル上第三號ノ所爲アリト裁決シ村長ノ職ヲ解キタルモノナレハ則チ同制ノ適用ヲ誤リタルモノニ非ス故ニ郡長ノ爲シタル懲戒處分ハ取消スヘキ理由ナキモノトス

- 三 本件飛地組替ハ縣令甲第十二號ニ依リ既ニ確定シ唯其殘務タル手續ヲ結了セサルノミナレハ之ヲ以テ町村制實施後ニ生シタル事件ト同視シ同制第四條ヲ適用ス可キモノニアラス要スルニ新法實施ノ際ニ臨ミ舊事務ノ結了セサルニ其儘就職シタル以上ハ閑飛地ニ關スル處分ノ殘務ヲ整理セサル可ラス然ルニ之ヲ等閑ニ付シ屢郡長ノ諭示ヲ受ルニモ拘ラス知事カ徵稅令書ヲ發シタルコトヲ牽引シ故ラニ引渡手續ヲ爲ササルハ命令ニ背戻シタルモノト言ハサルヲ得ス依テ被告郡長カ本條ニ依リ爲シタル原告村長解職ノ懲戒裁判ハ之ヲ取消ス可キ理由ナキモノトス
- 四 市制第六十四條第二項第五號ニ依リ市吏員ノ職務ヲ監督スルハ市參事會ノ任ナルヲ以テ參事會ニ於テ此職務ヲ怠ルトキハ上司ニ對シ其責任ヲ負フハ參事會ナリ然ルニ參事會ハ團躰ナルヲ以テ之ヲ懲戒スルヲ得サルニ依リ其代表者タル市長其人ヲ懲戒ス可キハ當然ナリ
- 五 町村長ノ職務トシテ町村ヲ代表スルコトハ町村制ノ範圍内ニ屬スル事件ナラサルヘカラス之ニ反スルモノハ行爲不行爲トモ總テ町村長ノ職務ニ違フモノニシテ即チ本件原告カ衆議院議員ニ感謝狀ヲ發シタル事件ノ如キハ原告カ職務トシテ爲スヲ得ヘキモノニアラサルニ依リ原告等ノ行爲ハ町村長ノ職務ニ違フモノニアラスト謂フヲ得ス依テ被告郡長カ懲戒裁判ヲ以テ解職シタルハ不當ニ非ス
- 六 原告ニ於テ被告郡長ハ原告村長ヲ審問シタル後原告ノ申供書ニ捺印ヲ爲サスシテ裁判ヲ申渡セシハ違法ナリト云フト雖モ法律勅令中懲戒裁判審問ニ對スル申供書ニ捺印ス可キ規定ナキニ依リ被告カ審問ヲ無効ナリト云フヲ得ス故ニ本件懲戒裁判ハ之ヲ取消スヲ得サルモノトス
- 七 被告ハ某町役場ニ於テ國稅地方稅等ノ金圓ヲ竊取セラレタルハ原告カ職務上相當ノ注意ヲ缺キタルニ因ルト云フト雖モ當時ニ於テ常例ノ手續ヲ盡シタルハ原告被ノ陳辯並懲戒處分書ニ明カナリ已ニ其事實ニシテ明カナリトモ原告ハ職務上爲ス可キノ注意ヲ缺キタルモノト謂フ可ラス故ニ被告郡長カ原告收入役ニ對シテ懲戒處分ヲ爲シタルハ正當處置ト云フヲ得ス



八 原告村長ハ收入役代務者某カ委托金ヲ消費セシハ原告ニ關係ナシト云フト雖モ會計及出納ヲ監視スヘキ職ニ在ル原告ニシテ之ヲ消費スルニ心付カサルハ其職務ヲ盡シタルモノト云フヲ得ス又原告ハ曩ニ郡長ニ提出セシ上申書ニ未納金ナキカ如ク記載アルハ某カ竊ニ原議ヲ變更シタル者ニシテ原告ノ知ラサル所ナリ是當役場ノ處分ノ手續ノ然ラシムル所ナレハ原告ニ於テ其責ヲ負フヘキニアラスト云フト雖原告ハ町村吏員ヲ監督スヘキ責任アル者ナレハ假ニ原告ノ云フカ如キ事實アリトスルモ原告ハ其責ヲ免カル、コトヲ得ス

〇 原告町長ハ漁獵ノ歸途飢渴ヲ醫スルノ目的ヲ以テ漁裝ノ儘自ラ管理スル所ノ小學校ニ立寄り行厨ヲ開テ飲酒シ其席ニ當直教員ヲ呼ヒ叱責シ同夜割烹店ニ至リテハ該教員ト同席セシモ其宿直ヲ離ル、ヲ問ハス却テ職外人ト共ニ我管理ニ關スル事項ヲ論難シ又同夜職外人ト共ニ校長ノ寓所ニ至リ其職務ニ關スル行爲ヲ責問シ又教員俸給ノ定期支出ヲ怠リタル事實ハ原告ノ自陳スル所ニ依テ明瞭ナリ右行爲ハ訓戒ヲ加フルノ方法ヲ誤リタルモノト言フヘクシテ正當ニ其職務ヲ盡シタルモノト謂フヲ得ス依テ被告ノ爲シタル懲戒處分縣知事ノ裁決ハ共ニ取消スヘキモノニアラス

二 原告ハ第一某等ノ訴願ヲ却下セルハ訴願者ノ請求ニ依レルモノナリト云フト雖モ一モ其事實ヲ認ムヘキ證據ヲ提出セサルノミナラス原告カ村會ノ裁決ヲ經スシテ私擅ニ之ヲ却下シタルコトヲ認ムルニ足レリ第二原告カ該訴願ヲ再ヒ却下セシハ期限ヲ經過シ且侮辱ノ文意アリシカ爲メニシテ專斷ノ處置ニ非ス又該訴願ハ原告ノ注意ニ依リ訂正シテ再提出セシモノニシテ郡參事會ニ宛テタルニ非スト云ヒ其證據ハ訴願者ヨリ直ニ該訴願ヲ郡參事會ヘ提出シタルニ郡參事會ハ村會ノ裁決ヲ經ヘキモノナリト裁決シタルヲ以テ明カナリト云フト雖モ郡參事會ノ裁決ハ原告ノ却下シタル訴願書ノ郡參事會宛ニアラスシテ村長宛ナリシコトヲ證スルニ足ラス訴願書宛名ニ據レハ反テ其郡參事會宛ナリシコト明カニシテ單ニ經由ノ途ニ當レル原告ニ於テ直ニ之ヲ却下シタルハ專斷タルヲ免レズ第

三 郡長ノ令達後ハ原告ニ於テ訴願ヲ却下シタルコトナシト云フト雖モ被告ノ提出證懲戒審問書ニ據レハ郡參事會ノ裁決ニ基ツキ訴願ヲ提出アリタルニ原告ハ期限經過ナリトシテ三タヒ之ヲ却下シタルコトヲ見ルヘク原告ヨリ郡長ニ差出セル上申書ニ據ルモ亦同一ノ事實ヲ見ルニ足レリ第四原告ハ七月十六日村會ヲ召集シ同日之中止シ十月十三日ニ至リ開會シタルハ緩慢ノ處置ニ非スト云ヒ第五七月十六日ノ會議ハ無用ノ言論毀譽褒貶ニ涉リタルヲ以テ之ヲ中止シタルナリト云フト雖モ當日議場騷擾セシ事實ノ有無ニ拘ラス他ニ正當ノ理由アルニ非スシテ七十餘日ヲ空過セシハ緩慢ノ處置ト謂ハサルヘカラス故ニ原告ノ行爲ハ職務ニ違フノ情狀重キモノナルニ依リ郡長カ原告ヲ解職セシハ不當ト謂フヲ得ス隨テ原告ノ訴願ヲ排斥シタル被告ノ裁決ハ取消スヘキモノニ非ス

三 被告郡長ハ本件避病院設置ノ件ニ付テハ屢々訓示ヲ爲シタルニモ拘ハラズ原告ハ之ヲ緩慢ニ付シ且岡田村々會カ避病院建築延期ヲ決議シタルハ公益ヲ害スルモノト認メ町村制第六十八條ニ依リ再議ニ附スルコトヲ命シタルモノナレハ其開會ニ方リ議員ヲ召集スルモ出席者ナク開議ニ至ラサル場合ハ直ニ其顛末ヲ具申スヘキ筈ナルニ其手續ヲ怠リ終ニ年度内建築ノ着手ニ至ラスシテ爲ニ工費ノ補助ヲ受クルヲ得サラシメタルハ則チ原告カ其職務ヲ怠リタル者ニシテ第九號証ノ懲戒處分ヲ行ヒタルハ不當ニアラスト云フト雖被告ノ命令ニ依リ村長ニ於テ村會議員ヲ召集スルモ議員少數若ハ出席議員ナク爲ニ議事ヲ開キ其議決ヲ爲ス能ハサル場合ニ於テ當被告ヨリ原告ニ對シテ其報告ヲ爲スヘシトノ何等命令訓示等ヲ爲ササリシ以上ハ原告ニ於テ直ニ其報告ヲ爲ササリシ事實アルモ之ヲ以テ村長タル原告ノ職務ヲ盡ササルモノト言フヘカラス又年度内建築着手ニ至ラスシテ爲ニ地方稅ノ補助ヲ受クルヲ得サルニ至リタルハ原告カ召集ノ手續ヲ爲シタルニモ拘ハラズ村會議員ノ出席者少數又ハ出席者ナキニ原因スルモノニシテ之ヲ以テ原告職務上ノ怠慢ニ出ツルモノト爲スヲ得ス依テ原告ニ與ヘタル懲戒處分ヲ取消スヘシ



三 本訴所争ノ要点ハ第一原告ハ故ナク再歸熱患者ノ隔離實行ヲ怠リタルモノナルヤ否ヤ第二原告ハ故ナク就學告知書ノ發布ヲ遷延セシメタルモノナルヤ否ヤ又就學告知書ヲ發スル如キ學事ニ關スル事務ハ助役分担ノ事務ナルヤ否ヤ第三原告村長ハ郡長ト對談中故ナク反抗シタル事實アルヤ否ノ三点ニアリ而シテ原告ハ假避病舎修繕ニ着手セシメシテ借家ノ借入ニ着手シタルハ村會ノ決議ニ由リタルモノニシテ決シテ職務ヲ怠リタルモノニ非スト云フト雖被告提出第一號証ニ依レハ原告ハ村役場ノ事務當時殊ノ外多忙ニシテ村長助役書記等就レモ皆出張スル能ハサルヲ口實トシテ故意ニ病舎ノ修繕ニ着手セサリシコト明瞭ナレハ假令借家ノ借入ニ着手シタリトスルモ傳染病患者隔離執行ノ急務ニ對シテハ原告ハ未タ其職務ヲ盡シタルモノト云フヲ得ス又原告ハ就學告知書ヲ期日ニ後レテ發布シタルハ事實ナルモ是レ必竟多數ノ回歸熱患者ヲ發生シタル爲事務多忙ナリシニ由ルト云フト雖事務多忙ノ一事ヲ以テ告知書ニ關スル怠慢ノ責ヲ免カレ、コトヲ得ス又原告提出村役場處務規程ナルモノニ徵スルモ學事ニ關スル事務ハ助役ノ管理スヘキ事務ナルコトハ明カナルモ町村制ノ所謂助役ノ分担事務ト爲シ村長ニ責任ナシト云フヘカラス又原告ハ故ナク郡長ノ命令ニ反抗シタルコトナシト云フト雖被告第一號証ニ依レハ郡長ノ命令ニ服從セサリシコトハ最明カナル事實ナリト認定セサルヲ得ス依テ本件懲戒處分ハ不當ニ在ラス

四 被告ニ於テ有給町村長助役ハ町村制第五十七條ニ於テ如何ナル場合ニアリテモ隨意ニ退職シ得ルノ原則ヲ定メ同時ニ其退職ハ意思表示後三ヶ月ノ後ニ在ルコトヲ明示シタルニ止リ毫モ町村會ニ對シテ其退職ニ關スル職權ヲ規定シタルニ非スト云フト雖モ町村長ハ名譽職ナルト有給ナルトヲ問ハス町村會之ヲ選舉ス可キ者ニシテ有給村長ニ對シテハ町村制第五十七條ヲ以テ三箇月前ニ申立ツルトキハ任期未滿ト雖モ町村會ニ對シ隨時退職ヲ求ムルコトヲ許セリ故ニ町村會ハ該申立アリタル場合ニ之カ認否ヲ議決ス可キハ當然ノ職務ナリ而シテ右申立ノ三箇月前ナルコトヲ要スル規定ハ之カ

爲メ町村事務ニ差支ラ生センコトヲ豫防スルニ在ルモノナレハ町村會ニ於テ其退職アルモ町村事務ニ差支ラ生スルノ虞ナシトシテ之ヲ承認シタルモ該議決ハ違法ニシテ無効ナリト謂フ可ラス故ニ有給村長ニシテ町會ノ退職承認ヲ得タル場合ハ任期滿了ト同シク直チニ其職務ノ解除ヲ得タルモノトス依テ本件原告カ其村會ノ議決ヲ以テ有給村長退職ノ承認ヲ得タル後被告郡長ニ於テ尙之ヲ在職者ト見做シ其懈怠ヲ責メ懲戒ニ付シタルハ處分ヲ誤リタルモノトス

五 郡長不信任事件ノ如キハ町村ノ事件ニ非ラサルヲ以テ町村會ノ權限ニ屬セサルコト明カナリ而シテ假リニ町村會ノ權限内ノ事件ナルモ凡議按ハ町村制第六十八條第二項ニ依リ町村長ヨリ發スヘキモノニシテ議員ヨリ案スヘキモノニアラス然ルニ原告村長ハ此ノ如キ明カニ町村會ノ權限ニ屬セサル事件ノ建議ヲ容レテ之ヲ議題ト爲シ又議事録ニ不參議員ノ署名アリシヲ其署名者ヨリ取消ヲ申出タルニ拘ハラス之ヲ取消サスシテ其儘監督廳ニ提出シタルハ不實ノ報告ヲ爲シタルモノニシテ何レモ村長タルノ職務ニ違フモノトス依テ本件懲戒處分ハ取消スヘキモノニアラス

六 被告ハ懲戒裁判ハ口頭ヲ以テ審問セサルヘカラサルニ被告ハ推問書ヲ發シタルマテニシテ懲戒裁判ノ審問ナルヤ否原告ニ知ラシメサリシハ違法ナリト云フト雖懲戒裁判ノ審問ハ口頭ニ限ルモノニアラス而シテ被告カ推問書ヲ發シテ原告ニ答辯ヲ求メタルハ文書ヲ以テ審問ヲ爲シタルモノト認ムルヲ得レハ違法ナリト謂フヲ得ス

七 原告村長ハ村會議員某ノ二人ハ村稅滯納處分中ナルヲ以テ町村制第九條ニ該當シ議員ノ職自ラ解ケタル者ナレハ之ニ招集ノ通知ヲ爲ササルハ其手續ヲ誤リタルモノニアラスト云ヒ村稅差押帳附箋ニ財產差押通知書ヲ發シタル旨記載シアルヲ以テ證據ト爲スモ之ヲ送達シタル事實ノ見ルヘキモノナキノミナラス徵收督促條例ニ依レハ財產差押ニ着手スル前二回督促ヲ爲シ而シテ再督促ヲ爲シタルモノハ手数料トシテ金參錢ヲ納ムヘキ筈ナルニ其督促ヲ爲シ又ハ手数料ヲ徵收シタル證據ナク又



財産差押調書ヲ作リタル證據モ之ナキニ依リ事實滯納處分ニ着手シタルモノト認メ難ク隨テ本人等ニ招集ノ通知ヲ爲ササルハ其手續ヲ誤リタルモノナレハ本件被告知事カ郡長ノ爲シタル懲戒處分ヲ正當ナリトスル裁決ヲ以テ不當ナリト謂フヲ得ス

一八 本件原告被告カ争フ所ノ要点ハ一旦開始シタル選舉ヲ一時中止スヘキ已ムヲ得サル事情アリシヤ否ニ在リ之ヲ附屬書第一號乃至第四號ニ徵スルニ選舉立會人ト選舉監督ノタメ臨場シタル警部トノ間ニ法律上ノ解釋ニ付一場ノ爭議ヲ生シタルニ依リ之カ當否ヲ縣知事ニ質サントテ中止シタルニ外ナラスシテ斯ル場合ノ如キハ未タ以テ已ムヲ得サル事情アルモノト認ムルヲ得ス然ラハ原告ハ監督警部ノ命ニ應セス徒ラニ選舉ヲ中止シ其職務ニ違フノ情狀重キモノト云ハサルヘカラサルナリ

一九 原告ニ於テ郡長ノ訓戒ハ村長ヲシテ法令ニ依ル當然ノ職務ヲ完全ニ行フコトヲ得サラシムル違法ノ訓戒ナリト雖該訓戒ハ凡ソ村長トシテ官吏ノ任免職責ニ關シ是非ノ言議ヲ挿ムカ如キハ職權ノアル所ヲ願ミサルノ行爲ナルヲ以テ將來右等不都合ノ儀ナキ様篤ト注意セラルヘントノ意ニシテ監督官タル郡長ノ職權内ニ於テ當然發シ得ル訓戒ナリトス而シテ村長ハ舊小學校令第七十條ニ依リ町村ニ屬スル國ノ教育事務ヲ管掌シ町村立小學校ヲ管理スルニ止マルモノナレハ訓戒ニ服從シテ郡視學ノ任免ニ客隊セサルモ之レカ爲メ法令ニ依ル村長ノ職務ヲ完全ニ行フコト能ハサルノ理由アラサレハ違法ノ訓戒ナリト謂フヲ得ス然ルニ原告ハ訓戒書ヲ不當ナリトシ郡長ニ返戻シタルハ不當ノ行爲ナリトス故ニ佐岐郡長カ之ヲ職務上遵守ノ義務ニ背キタルモノトシテ町村制第二百二十八條ニ依リ原告ヲ譴責シタルハ違法ノ處分ナリト謂フヘカラス

二〇 原告ニ於テ第一明治三十年度歳入出追加豫算ハ明治三十一年五月一日ニ於テ違法ニ決議セシモノト謂フヘカラス又該議案タル原告ニ於テ公益ヲ害スルモノト認メ議員ヲシテ再考セシメタル末議員自ラ之ヲ撤回シタルモノニシテ決議ナルモノ存セスト云フト雖同年五月一日ニ於テ明治三十年度追

加豫算ニ付正式ノ會議ヲ開キ議決ヲ爲シ議事録ヲ調製シタルコトハ當日出席シタル村會議員某外十名ノ證言ニ依リ明瞭ナリ然ラハ原告村長ハ町村制及監督官廳ノ訓令ニ依リ該議事ヲ郡長ニ報告スヘキ職責アルニモ拘ハラヌ郡長ノ報告ヲ督促シタル訓令ヲ違法トシ飽マテ郡長ノ命令ヲ拒ミ之ニ從服セサルノミナラス同年五月十日ノ村會ニ於テ獨斷該議事録ヲ塗抹シ會テ追加豫算ニ付會議ヲ開キ決議ヲ爲シタルコトヲ答申シタルハ村長タル職務ニ違背シ郡長ヲ侮蔑シタルノ所爲ナリトス右ノ事實ハ五月十日ノ村會ニ出席シタル者ノ證言及被告提出ノ各證據ニ依リ明瞭ナリ原告ハ訴狀補充書ニ於テ該議事ハ法律上成立セザルモノナルニ郡長ニ於テ其ノ報告ヲ督促スルハ不當ナリト云フモ果シテ該議決ヲ違法ナリトスルトキハ町村制第六十八條ニ依リ之ヲ匡正スヘキ道アルニ拘ラス漫ニ報告ノ提出ヲ拒絕シタルハ失當ノ行爲タルヲ免カレス第二原告ハ明治卅一年度歳入歳出豫算ニ付同年五月十六日ニ至リ議決ヲ取リタルハ其ノ職務ヲ怠ルニアラス特別ノ事情事變アリテ已ムヲ得サルニ出テタルト云フト雖モ町村制第七十條ニハ町村長ハ年度前二ヶ月ヲ限リ豫算表ヲ調製スヘシ又第八十條ニハ豫算表ハ會計年度前町村會ノ決議ヲ取リ云々ト規定シアレハ事情事變ノ爲メニ其ノ法律上職務ノ執行ヲ遷延スルヲ得ス況ンヤ其ノ事情事變ノ爲メニ豫算表ヲ調製シ又ハ村會ヲ招集シ能ハサルノ情況アルニ非レハ原告ノ主張ハ理由ナキモノトス第三原告ハ郡長ノ行爲カ前村長ニ寛ニシテ原告ニ酷ナルハ不當ナリ云々ト陳述スルモ此ノ如キ主張ハ縱令事實ナリトスルモ懲戒裁判ヲ取消スヘキ理由トナラス依テ本件郡長ノ解職シタル處分ハ取消スヘキ者ニアラス

第百二十五條 市吏員及使丁其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事アルカ爲メ町村ニ對シテ賠償ス可キコトアルトキハ府縣參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ府縣參事會ニ訴願



シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ 行政裁判所ニ出訴スルヲ得但出訴ヲ爲シタルトキハ府縣參事會ハ假ニ其財産ヲ差押フルコトヲ得

判決要領

- 一 亡失國税金ハ町村カ國庫ニ辨償シタル上ニ非サレハ賠償責任ノ有無ヲ爭フヲ得ス(二十五年四月六日)
- 二 本條ハ行政裁判法第十六條ト牴觸セス(二十五年六月十一日)
- 三 賠償ノ責任ヲ問ハシニハ其證據明確ナルヲ要ス(二十五年十月十八日)
- 四 其管理中收入役カ不注意ニ依リ税金ヲ亡失シタルトキハ賠償ノ責ヲ有ス(二十五年十一月二十日)
- 五 退職者ニ對シテモ損害賠償ノ裁決ヲ爲スヲ得(二十七年十一月二十八日)
- 六 職務懈怠ニ因リ國庫ニ損害ヲ加ヘサルモ町村ニ損害ヲ與ヘタルトキハ本條ヲ適用ス(同上)
- 七 收入役代務者カ其領收金圓ヲ役場ニ收入セス消費シタルトキハ賠償責任收入役ニ在リ(二十八年五月十四日)
- 七 町村長ハ町村ニ對シ其職務怠慢又ハ越權ノ行爲ヨリ生スル損害賠償ノ責務アリ(三十一年五月二十四日)

判決理由

一 原告ハ某村會ニ於テ村長カ提出シタル本件亡失税金ニ對スル歲出入追加豫算議案ヲ廢棄シ而シテ當時該亡失税金ノ保管者タル村長收入役ヨリノ賠償金ヲ以テ國庫ニ對スル賠償金ニ充テント議決シタルハ不當ニアラスト云フト雖モ本件亡失國税金ノ如キハ該村カ先ツ國庫ニ對シ之ヲ辨償シタル上ニアラサレハ未タ賠償義務ノ有無ヲ爭ヒ得ヘキモノニアラス隨テ原告ハ本條ニ依リ賠償ノ要求ヲ爲

スヲ得サルモノトス

- 二 被告ハ前ニ發セラレタル本條損害賠償ノ件ヲ行政裁判所ニ出訴スルヲ得ルノ規定ハ後ニ發セラレタル行政裁判法第十六條及第四十六條ニ依リ業已ニ其効力ヲ失ヒタルモノナレハ該法ニ違反シタル本訴ニ對シテハ答辨ノ義務ナシト云フト雖モ行政裁判法第十六條ハ行政廳ノ違法處分ニ因ル損害賠償ヲ云フモノニシテ町村制ハ町村自治ニ關スル法律ナレハ從テ本條ハ特別ノ規定ニ屬スルモノナルニ依リ行政裁判法ニ牴觸スル所ナキモノナリ故ニ本訴ニ對シテ答辨ノ義務ナシト云フト得ス
- 三 原告ハ某町小學校建物ハ暴風雨ノ爲メ破損ヲ來シ爾來管理者タル某町長職務懈怠ノ爲メ大破ニ至リタルモノナルカ故ニ本條ニ依リ被告町長ヨリ賠償金圓ヲ拂ハシメンコトヲ請求スト云フト雖モ本件大破ニ至リシ事實ハ被告ノ怠慢ニ起因シタル損害ナリトノ證據明確ナラサルニ依リ被告ヲ以テ賠償ノ責アルモノト爲スヲ得ス
- 四 原告ハ某町役場ニ於テ本訴税金ヲ亡失シタルハ職務上ノ怠慢ニアラサルヲ以テ之ヲ賠償スルノ責ナシト云フト雖モ該税金ハ原告收入役カ管理中役場ニ於テ竊取セラレ原告ハ當時執務中接近ノ場所ニ居テ之ヲ知ラス而シテ相當ノ注意ヲ加ヘテ管理シタルノ證據ナキモノナレハ怠慢ニアラスト謂フヲ得ス又該亡失税金ノ場合ノ如キハ町村制ニ規定ナキ事項ナルニモ拘ハラズ被告郡長カ本條ヲ適用シ之ヲ賠償ス可キ裁決ヲ與ヘタルハ不當ナリト云フト雖モ府縣稅徵收法第八條ニ各納稅人ハ税金ヲ市町村ノ收入役ニ拂込ミ云トアルヲ以テ其拂込ミタル税金ヲ管理スルハ收入役ノ任務ニ屬セリ故ニ郡參事會ノ職務ヲ行フ被告郡長カ其收入役タル原告ニ對シ本條ニ依リ右裁決ヲ與ヘタルハ不當ノ處置ニ非ス

五 第一原告ハ本條ニ依リ裁決ヲ與フルハ現ニ町村吏員ノ職ニ在ル者ナラサルヘカラス然ルニ原告ハ

町村吏員ノ資格ヲ有セス故ニ本條ハ原告ニ對シ適用スヘキモノニアラスト云フト雖本條ハ町村吏ノ



資格ヲ以テ町村ニ損害ヲ與ヘタル場合ニ裁決ヲ爲スノ規定ナレハ假令其職ヲ去リタル後ト雖モ之ヲ適用スルヲ得ルモノトス第二原告ハ本條ニ依リ裁決ヲ與フルハ町村吏員ニ於テ直接ニ町村ノ財産ニ對シ損害ヲ與ヘタル場合ニ限ルモノニシテ國庫ノ財産ニ對シ損害ヲ與ヘタル場合ハ本條ノ支配スヘキモノニアラスト云フト雖モ本件ハ町村ヨリ國庫ニ納付スヘキ税金ヲ亡失シ町村ニ損害ヲ與ヘタルモノナレハ本條ニ依リ裁決スヘキモノト云ハサルヲ得ス第三原告ハ原告カ疾病ノ爲メ知覺精神ヲ失ヒ税金ヲ亡失セシハ醫士ノ診斷書村會ノ決議書等ニ依リ明カニシテ全ク不可抗力ノ爲メ竊取セラレタルモノナレハ一般ノ法理ニ依リ之ヲ賠償スヘキ責任ナシト云フト雖モ原告ノ舉證中一モ其遭難ノ事實ヲ認ムヘキモノ之ナキニ依リ原告ハ賠償ノ責任ヲ免カルルコト能ハサルモノトス第四原告ハ村會ノ決議ハ其村ニ於ケル法律ニシテ村會カ其決議ヲ以テ原告ノ所爲ヲ不可抗力ニ出テタルモノトシ責任免除ヲ大藏大臣ニ訴願セシハ即法律ヲ以テ同時ニ原告ノ責任ヲ免除シタルモノト云ハサルヘカラス然レハ假令其訴願ヲ却下セラルルモ一旦免除セラレタル責任ハ再ヒ生スヘキニ非サレハ該訴願ヲ爲シタル被告村ニ於テ損害ヲ負擔セサルヘカラスト云フト雖モ村會ハ責任免除ヲ大藏大臣ニ出願スルコトヲ議決シタルマテナレハ原告ハ其議決ヲ以テ責任ヲ免除セラレタルモノト謂フヲ得ス

六 原告收入役某カ消費セシ金員ハ某村長ト一個人タル右某トノ間ニ成立タル借用委託金ニシテ未タ組合役場ニ收入シタルモノニアラス故ニ被害者ハ該村長ニシテ組合町村ニアラサレハ原告ハ賠償ノ義務ヲ負フヘキニアラスト云フト雖モ被告ノ立證ニ依レハ右金員ハ某ニ於テ收入役代務者タル資格ヲ以テ既ニ組合役場ニ收入シタルモノト認メサルヲ得ス然レハ同人カ之ヲ費消セシハ右村長ニ損害ヲ與ヘタルニアラスシテ組合町村ニ損害ヲ與ヘタルモノト云フヘシ而シテ其損害ハ原告其義務ヲ放棄シ同人ヲシテ專行セシメタルヨリ生シタルモノナレハ原告ハ組合町村ニ對シ賠償スヘキ義務アルモノト云ハサルヲ得ス

七 原告ハ本件某區裁判所再度ノ第一審判決ニ對シテ村會ハ控訴權ヲ拋棄シテ請負人請求ノ金額及訴訟費ヲ任意辨濟シタルモノナレハ後日ニ至リ原告ニ之レカ賠償ヲ命スルハ不當ノ裁決ナリト云フト雖モ本件工事ハ竣功期日ヲ定メ縣ノ補助ヲ得タルモ右工事監督ノ責任アル原告ハ工事ヲ等閑ニ付シ再三延期ヲ請ヒ尙竣功セサル爲メ縣廳補助金取消ノ達ヲ受ケタルモノナレハ右補助金取消ノ達ハ原告ノ職務怠慢ニ原因セルモノト認メサルヲ得ス又右補助金取消ノ達ヲ受ケタル後ニ於テ村會ノ議決ヲ經スシテ請負人ニ對シ債務ヲ認諾シタルハ是レ町村制第三十三條ノ規定ニ背反セル越權ノ所爲ナリト謂フヘシ而シテ原告カ右認諾ノ契約ヲ締結セル以上ハ此契約ニ因リ請負人ヨリ某村ニ對シ工事殘金ヲ請求スルノ權利ヲ生シ同村ハ之ヲ辨濟スヘキノ義務ヲ負タルコトハ區裁判所ノ判決ヲ待タスシテ明確ナルモノトス然レハ村會カ該判決ニ對シテ控訴ヲナス其債務ヲ辨濟シタルハ當然ノ所爲ナリトス而シテ其辨濟シタル債務ハ原告カ越權ヲ以テ締結シタル契約ニ基クモノナレハ被告郡參事會カ本條ニ依リ原告ニ賠償ヲ命シタルハ不當ノ裁決ナリト謂フヲ得ス又原告ハ本件ニ付助役某ハ村會ノ議決ヲ經スシテ郡參事會ノ裁決ヲ求メタリト云フモ被告提出臨時村會日誌ヲ見ルニ右賠償請求ノ訴願ニ付同村會ノ議決ヲ經タルコト明カナレハ本件訴願ノ手續ニ於テモ違法ノ點ナキモノトス

第七章 附則

第二百二十六條 此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ具申ニ依リ内務大臣ノ指定スル地ニ之ヲ施行ス可シ

第二百二十七條 府縣參事會 郡參事會 府縣參事會 及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務ハ郡



長 府縣參事會ノ職務ハ府縣知事、行政裁判所ノ職務ハ内閣ニ於テ之ヲ行フ可シ

第百二十八條 此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スルニ付市參事會及市會ノ職務並條

例ヲ以テ定ム可キ事項ハ府縣知事又ハ其指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シ

第百三十二條 法律ハ北海道、沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ

施行セス別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第百三十三條 前條ノ外特別ノ事情アル地方ニ於テハ町村會及町村長ノ具

申又ハ郡參事會ノ具申ニ依リ勅令ヲ以テ此法律中ノ條規ヲ中止スルコトアル

可シ

第百三十四條 社寺宗教ノ組合ニ關シテハ此法律ヲ適用セス現行ノ例規及其地

ノ習慣ニ從フ

第百三十五條 此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除

キタル數ヲ云フ

第百三十六條 現行ノ租稅中此法律ニ於テ直接稅又ハ間接稅トス可キ類別ハ内

務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第百三十八條 明治九年十月第百卅號布告各區町村金穀公借共有物取扱土木起

功規則、明治十一年七月第十七號布告郡區町村編成法第四條及第九條但書 明治十

三十一  
年法  
第二十  
號  
三十二  
年法  
第三十  
號  
三十三  
年法  
第三十  
號  
三十四  
年法  
第三十  
號  
三十五  
年法  
第三十  
號  
三十六  
年法  
第三十  
號  
三十七  
年法  
第三十  
號  
三十八  
年法  
第三十  
號  
三十九  
年法  
第三十  
號  
四十  
年法  
第三十  
號

七年五月第十四號布告區町村會法、明治十七年五月第十五號布告、明治十七年七月第二十三號布告、明治十八年八月第二十五號布告其他此法律ニ抵觸スル成規ハ此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第百三十九條 内務大臣ハ此法律實行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布ス可シ

市制 此法律中別段ノ規定アルモノヲ除クノ外東京市、京都市、大阪市及人口二十萬以上ノ市ノ區ニ關シ必要ナル一切ノ事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

### ◎府縣制郡制

#### 第一章 總則

第一條 府縣郡市及島嶼ハ從來ノ區域ニ依リ町村ヲ包括ス

第二條 府縣郡ハ法人トシ官ノ監督ヲ承ケ法律命令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務

並從來法律命令又ハ慣例ニ依リ及將來法律勅令ニ依リ府縣ニ屬スル事務ヲ處理ス

第三條 府縣郡ノ廢置分合又ハ境界變更ヲ要スルトキハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

府縣郡ノ境界ニ涉リテ市町村境界ノ變更アリタルトキハ府縣ノ境界モ亦自ラ變



更ニ町村ヲ變シテ市ト爲シ若ハ市ヲ變シテ町村ト爲シ又ハ所屬未定地ヲ町村ノ區域ニ編入シタルトキ亦同シ  
本條ノ處分ニ付財產處分ヲ要スルトキハ內務大臣ハ關係アル府縣郡市參事會及町村會ノ意見ヲ徵シテ之ヲ定ム但シ特ニ法律ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス

### 第二章 府縣郡會

#### 第一款 組織及選舉

第四條 府縣郡會議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス

選舉區ハ郡市ノ區域ニ依ル但シ東京市京都市大阪市其ノ他勅令ヲ以テ指定シタル市ニ於テハ區ノ區域ニ依ル  
區ノ區域ニ依リ選舉區ヲ設クルコトヲ得  
村ノ區域ニ依リ選舉區ヲ設クルコトヲ得

第五條 府縣郡會議員ハ府縣ノ人口七十萬未滿ハ議員三十人ヲ以テ定員トシ七十萬以上百萬未滿ハ五萬ヲ加フル毎一人ヲ増シ百萬以上ハ七萬ヲ加フル毎一人ヲ増ス

郡制 郡ノ狀況ニ依リ內務大臣ノ許可ヲ得テ前項ノ員數ヲ四十人マテ増加スルコトヲ得

郡會議員ノ定數及 各選舉區ニ於テ選舉スヘキ府縣郡會議員ノ數ハ府縣郡會ノ議決ヲ經內務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事ノ之ヲ定ム

前項議員ノ配當方法ニ關スル必要ナル事項ハ內務大臣之ヲ定ム

#### 判決要領

- 一 町會カ郡會議員配當ノ當否ニ關シ訴願ヲ爲サントスル議決ハ越權ノ行爲ナリ（舊郡制二十四年十一月二十日）
- 二 郡會議員配當更正議案ニ對シ郡會ニ於テ配當上必要ノ結果ニ依リ議員總數ヲ増加シタルハ越權トス（三十五年五月五日）

#### 判決理由

- 一 本件ノ爭點ハ郡長カ郡制第五條（即チ本條ニ該當ス）第八十六條（本制第二百二十五條ニ該當ス）ニ依リ縣知事ノ認可ヲ經テ告示シタル郡會議員配當法ニ對シ町會カ之ヲ不當トシテ訴願セントノ議決ヲ爲シタルハ越權ナリヤ否ニ在リ抑郡會議員ノ數ハ第五條ニ依リ郡會ニ於テ議決シ府縣知事ノ認可ヲ受ケテ定ムルモノナレハ（町會ハ其議員ノ定數ニ對スル選舉ノミヲ行フヘキニ）町會ニ於テ郡會議員配當ノ當否ニ論及シ之カ改正ヲ求ムルノ方法ヲ議決シタルハ法律上町會ニ與ヘタル權限外ニ涉ルモノト云ハサルヲ得ス故ニ被告町長カ其執行ヲ停止シタルハ不適法ノ處置ニアラス
- 二 被告（縣參事會）ハ郡會議員配當更正案ニ對シ配當上ノ必要ヨリ議員二名増加ノ結果ヲ生シ總員



二十七名ノ配當數ヲ議決シタルハ修正權ノ範圍ニ於テ正當ニ議決セシモノナリト主張スルモ議員ノ定員ヲ定ムルト其配當ヲ定ムルトハ各別箇ノ問題ナリ而シテ郡會ノ議案ハ郡制第六十六條二號ニ依リ郡長ノ發案スヘキモノナレハ仮令必要上ヨリ生シタル結果ナリトスルモ本件配當案ニ對シ議員ノ定數ヲ増加シタル議決ハ郡會ノ權限ヲ越ヘタル違法ノモノトス然レハ之ヲ修正權ノ範圍ナリト謂フヲ得ス

第六條

府縣内ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其ノ府縣内ニ於テ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ選舉權ヲ有ス

府縣内ノ市町村公民ニシテ市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其ノ府縣内ニ於テ一年以來直接國稅年額五圓以上ヲ納ムル者ハ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有ス

家督相續ニ依リ財産ヲ取得シタル者ハ其ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス

府縣會議員ハ住所ヲ移シタル爲市町村ノ公民權ヲ失フコトアルモ其ノ住所同郡内ニ在ルトキハ之カ爲其職ヲ失フコトナシ

府縣會議員ノ選舉權及被選舉權ノ要件中其ノ年限ニ關スルモノハ府縣郡市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ノ爲中斷セラルコトナシ

左ニ掲クル者ハ府縣會議員ノ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

一 其所屬府縣ノ官吏及有給吏員

二 其ノ郡ノ官吏及有給吏員

三 檢事警察官吏及收稅官吏

四 神官僧侶其ノ他諸宗教師

五 小學校教員

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選シ之ニ應セストスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受クヘシ

選舉事務ニ關係アル官吏吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セス其ノ之ヲ罷メタル後一箇月ヲ經過セサル者亦同シ

府縣ノ爲請負ヲ爲ス者又ハ府縣ノ爲請負ヲ爲ス法人ノ役員ハ其ノ府縣ノ府縣會議員被選舉權ヲ有セス

府縣制 府縣會議員ハ衆議院議員ト相兼ヌルコトヲ得ス

判 決 要 領

- (一) 選舉ニ先チ土地ノ所有權ヲ所得シタル者ハ選舉ノ際未タ登記ノ手續ヲ盡ササルモ選舉權ヲ有ス(舊郡制二十六年四月五日)
- 二 法律上納稅資格ヲ有スル者ハ事實納稅シタルト否トニ關係ナシ(町村制二十九年二月二十七日)
- 三 本條第八項ニ所謂「其ノ關係區域」トハ官吏員カ職務上選舉事務ニ關係スル區域ヲ云フ(三十



- 二年十二月二十二日、三十三年三月七日、同年五月二十八日)
- 四 市參事會員ハ市長ノ職務ヲ補助ス(キモノナルヲ以テ府縣制第六條ニ所謂選舉事務ニ關係アル吏員ナリ(三十三年二月十四日、同年七月十日)
- 五 本條第六項ノ一其ノ府縣ノ官吏及有給吏員中ニハ郡市町村等ノ有給吏員ヲ包含セス(三十三年三月七日)
- 六 市參事會員ハ本條第八項ニ所謂選舉事務ニ關係アル吏員ナリ(三十三年三月十六日)
- 七 大社教ニ於ケル教會所長又ハ參教ノ職ニ在ル者ハ諸宗教師ニアラス(三十三年五月二十八日)
- 八 助役ハ郡制第六條ノ選舉事務ニ關係アル吏員ナリ(卅三年六月一日、同年十月五日及十一月九日)
- 九 本條ニ選舉事務ニ關係アル吏員トハ現實ニ選舉事務ニ關係スル吏員ノミヲ指スノ主義ニアラス(三十三年六月一日)
- 二 縣ノ爲メ工事ノ請負ヲ爲シタルモ竣工カ選舉前ニアリシトキハ本條第九項ニ該當セス(三十三年六月六日)
- 二 甲乙兩町村ニ住居ヲナスモノ被選舉權ヲ有スル場合(三十三年六月十一日)
- 三 亡父ノ財産ヲ相續シタル者ハ名義書換ヲ爲ササルモ事實納税シ來リシトキハ納税者タルノ資格ヲ有ス(三十三年六月二十日)
- 三 土地賣主カ名義書換ヲ爲ササル爲メ納税シ來リタルモ納税者タルノ資格ヲ有セス(三十三年六月二十七日)
- 四 家督相續人ハ先人ノ公民權ヲ繼承セス(三十三年六月二十七日)
- 五 納税資格ヲ定ムルニハ戸主ノ所得ト其同居家族ノ所得トハ區別スルモノトス(三十三年六月二十七日)

- 二六 甲乙ノ町村ヨリ成立スル郡會議員選舉會ニ於テ甲町長カ選舉事務ノ管理者タル場合ニ於テモ乙村長ハ仍ホ選舉事務ニ關係アル吏員ナリ(三十三年七月四日)
- 二七 村長ハ助役ヲシテ選舉事務ヲ分掌セシムルモ尙ホ選舉事務ニ關係アル吏員ナリ(三十三年七月四日)
- 二八 會社ノ役員カ現ニ辞任シタル以上ハ商業登記簿ニ其記載ナキモ被選舉權ヲ有ス(三十三年七月六日)
- 二九 郡會議員ノ選舉權及被選舉權ヲ得ルニハ郡制ニ定メタル納税資格ト共ニ町村ノ公民ニシテ町村會議員ノ選舉權ヲ有スルコトヲ要ス(三十三年七月十日)
- 三〇 町村公民ノ資格要件タル納税額ニハ本條第三項ノ規定ヲ適用セス(同上)
- 三〇 被相續人カ他人ヨリ讓受ケ一ケ年ヲ經過セサル土地ノ納税額ハ相續人ニ於テ之ヲ繼承スルモ直チニ其納税額ニ算入スルコトヲ得ス(三十三年七月十日)
- 三〇 土地所有權ノ獲得以來一ケ年ニ達セサルトキハ一ケ年分ノ地租全額ヲ納ムルモ本條第二項納税資格ニ算入スルコトヲ得ス(同上)
- 三二 町村公民ノ資格要件タル納税額ニハ郡制第六條第三項ノ規定ヲ適用セス(三十三年十月八日)
- 三二 郡會議員選舉資格ノ要件タル公民ノ資格ヲ具備スルヤ否ヤハ町村制ノ規定ニ依リ之ヲ決定セサルヘカラス(同上)
- 三三 家督相續ニ依ル納税資格算定方(三十三年十一月九日)
- 三三 町村收入役ハ町村役場ノ處務規定ニ明文アルカ又ハ郡長若クハ町村長ヨリ特ニ選舉事務ノ取扱ヲ命セラレタル場合ニアラサレハ選舉事務ニ關係スヘキモノニアラス(三十三年十一月十六日)
- 三三 村役場書記ハ郡制第六條第八項ニ所謂選舉事務ニ關係アル吏員中ニ包含ス(三十三年十二月七日)



- 二五 前戸主カ其家督相續人ニ財産ヲ分與セス自己ノ財産ヲ留保シテ隱居ヲ爲シタル場合ハ後日相續人ノ爲メ家督相續ノ名義ヲ以テ讓渡ノ登記ヲ爲スモ其効力ハ家督相續ノ當時ニ遡ラス(三十三年十月廿四日)
- 二六 新聞社カ一定ノ料金ヲ以テ日々發行ノ新聞紙ニ府縣令達等ノ掲載ヲ引受クルハ府縣制第六條第九項ニ所謂府縣ノ爲メ請負ヲ爲スモノトス(三十四年二月廿二日)
- 二七 新聞社カ縣報ノ印刷ヲ引受ケ縣廳ヨリ其報酬トシテ發行ノ都度一定ノ部數ヲ買上クヘキコトヲ約定シタルトキハ本條ニ所謂府縣ノ爲メ請負ヲ爲スモノトス(三十四年四月十二日)
- 二八 前項ノ契約ヲ締結シタル新聞社ノ取締役カ契約書ニ副社長トノミ記載シテ別ニ其資格ヲ明示セサル場合ト雖該會社ノ取締役タル者ハ總テ本條ニ所謂府縣ノ爲メ請負ヲ爲ス法人ノ役員ニ該當セルモノトス(同上)
- 二九 民法施行以前ニ在リテハ土地家屋ノ如キハ必スシモ家督相續ニ因リ移轉スル權利中ニ包含シ得サルハ此等ノ財産ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ直ニ家督相續人ノ納稅シタルモノト看做スコトヲ得ス(三十四年五月三日)
- 三〇 第六項所屬府縣ノ官吏ノ中ニハ郡ノ官吏ヲ包含セス(三十五年三月十九日)
- 三一 銀行カ地方費金庫事務ノ取扱ヲ引受ケ之ニ對シ報償金ヲ受クルトキハ請負ニ該當ス(三十五年四月十四日)

判決理由

- 二 原告ハ某ハ村費分擔ノ實ナキ者ナルニ村會カ之ヲ公民資格アル者ト爲シタルハ違法ナリト謂フト雖モ本人ハ既ニ原告ノ認ムル如ク廿六年五月ヨリ地租ヲ納ムルヲ以テ實際村稅ヲ納ムルノ資格アリ而シテ之ヲ納メサルハ理事者ノ過誤ニ依リ賦課セサル爲メナレハ之ヲ納稅者ニアラスト云フヲ得ス
- 三 原告ニ於テ府縣制第六條第八項ニ據レハ選舉事務ニ關係アル官吏吏員ハ其ノ關係區域内ニ於テ被選舉權ヲ有セストアリテ其ナル文字ハ選舉事務ノ四文字ヲ受ケ關係區域トハ明カニ選舉區域ヲ指シタルコト言フ埃タス而シテ同制第四條第二項ニ選舉區ハ郡市ノ區域ニ依ルト規定セラレ其郡市全般ヲ通シテ一體ト爲シ別ツヘカラサルコト明ナリ然レハ關係區域トハ選舉區域内ニ各地便宜ニ設クル投票區域トハ其意義ヲ異ニシ選舉區域内ノ一體ヲ通シタル名稱ナリ故ニ村長某ハ其選舉區タル某郡内ニ於テハ被選舉權ヲ有セスト云フト雖モ該條ノ所謂其ノ關係區域トハ官吏吏員カ職務上選舉事務ニ關係スル區域ヲ謂フモノニシテ選舉區域ヲ謂フモノニアラサルナリ故ニ本件某カ村長ノ職務トシテ關係スル區域内ニ在リテハ被選舉權ヲ有セサルモ職務上ノ管理區域外ニ在リテハ被選舉權ヲ妨ケラル、コトナキモノトス
- 四 原告ハ府縣制第六條中ニ選舉事務ニ關係アル吏員トハ其事務ノ執行ニ從事スル者ヲ指稱スル旨趣ニシテ市參事會員ノ如キ補助員ヲ包含スルモノニアラスト主張スレトモ補助員モ亦選舉事務ニ參與スル者ナレハ選舉事務ニ關係ナシト謂フヘカラス而シテ名譽職參事會員ハ市制第六十九條ニ依リ市長ノ職務ヲ補助スヘキ者ナレハ選舉事務ニ關係アル吏員中ニ包含スト斷定セサルヘカラス尙原告ハ市制第七十四條ニ列舉スル委任事務殊ニ府縣會議員ノ選舉事務ヲ網羅セスト云フモ第六十九條ニハ單ニ市長ノ職務云々トアレハ其職務カ市ノ固有事務ナルト他ノ委任事務ナルトト問ハス苟モ市長ノ職務ニ屬スル以上ハ均シク之ヲ網羅スルモノト解釋セサルヘカラス然ラハ被告ニ於テ原告カ某市參事會員タルノ故ヲ以テ同市選舉區ニ於テ被選舉權ヲ有セスト決定シタルハ不當ナリト謂フヲ得ス
- 五 被告縣知事ハ府縣制第六條第六項ノ一ニ明記シアル其府縣ノ官吏及有給吏員ノ中ニハ町村ノ有給吏員ヲモ包含スト云フト雖モ其府縣ノ官吏及有給吏員トアルハ府縣所屬ノ官吏及府縣所屬ノ有給吏員ヲ意味スルモノニシテ被告主張ノ如ク其有給吏員中ニハ郡市町村等ノ有給吏員ヲ包含スルモノニ



非ス故ニ甲太郎及乙平カ町村有給吏員ナルノ故ヲ以テ縣會議員ノ被選舉權ナキモノトシ同人等ノ當選ヲ無効トシタル被告ノ決定ハ其當ヲ得タルモノニアラス

六 本件ノ爭點ハ市參事會員ハ府縣制第六條第八項ニ該當スルヤ否ヤニ在リ按スルニ同第八項ハ官吏ニ被選舉權ヲ有セシメサルノ規定ナリ故ニ本項ハ之ヲ適用スルニ當リ選舉ノ公正ヲ妨クルノ虞アルト無キトニ依リ若クハ關係ノ現ニ成立スルト未成立トニ依リ被選舉權ヲ得喪セシムルノ餘地アルモノト解釋スルコトヲ得ス本件市參事會員ハ府縣制ニ依リ府縣會議員選舉事務ヲ管掌スヘキ市長ノ職務ヲ補助シ市長故障アルトキ之ヲ代理スヘキハ市制第六十九條ノ明定スル所ナレハ其職務ノ性質上縣會議員選舉事務ニ關係アル吏員ナリト言ハサルヲ得ス依テ被告縣知事カ市參事會員タル某ヲ縣會議員選舉事務ニ關係ナキ吏員トシテ當選ヲ有效ト決定シタルハ法律ノ解釋ヲ誤リタルモノトス

七 縣知事ハ某ハ某教會所ノ副長ニシテ小參教在職ノモノナレハ府縣制第六條第六項第三號ニ所謂諸宗教師トアルニ該當スルモノナリト云フモ大社教規並ニ教職役員表ニ依レハ小參教ナルモノハ協贊員中ノ一役ニシテ職務ヲ協贊スルニ止ルモノ又教會所ノ副長ナルモノハ教會所ノ事務ヲ處理スル爲ニ置カレタル職員ナルコトハ右教規ノ明示スル所ナルヲ以テ此ノ如キハ本條ニ所謂諸宗教師ト云フヘキモノニアラス

八 原告ハ郡制第六條第八項ニ所謂選舉事務ニ關係アル吏員トハ則チ自己固有ノ職權ニ據リ選舉事務ヲ取扱フ者ノミヲ指示スルモノナリト云フト雖モ町村制第七十條ニハ單ニ町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ストアルヲ以テ其事務カ町村固有ノ事務ナルト否トニ拘ハラヌ町村助役ハ總テ町村長ノ事務ヲ補助スヘキ者ナレハ本條ノ所謂選舉事務ニ關係アル吏員ナリト言ハサルヲ得ス又原告ハ町村制第七十條第二項ハ同條第一項ノ原則ニ對スル例外ノ規定ナレハ町村行政ノ事務ヲ分掌セル助役ハ町村

長ノ事務補助ノ職責ヲ有スルモノニ非スト主張スルモ同第二項ノ規定ニ依リ町村行政ノ事務ヲ分掌スル助役ト雖モ同條第一項ノ事務補助ノ職責ナキモノト云フヲ得ス

九 原告(助役)ハ郡制第六條第八項ノ所謂選舉事務ニ關係アル吏員中ニハ現實選舉事務ニ關係セシ者ノミヲ指示シ原告ノ如キ本件選舉事務ニ全ク關係セサル者ヲ包含セスト云フト雖モ同條ニ選舉事務ニ關係アル吏員云トアルハ事實選舉ニ關係セシ吏員ノミヲ指示スル者ト解釋スルヲ得ス

一〇 被告縣知事ハ本件選舉ノ當時原告ハ縣ノ爲メ工事請負中ノ者ナレハ本條第九項ニ該當スル無資格者ナリト云フト雖モ原告カ請負タル本件工事ハ選舉前ニ於テ全ク竣工シ既ニ檢査モ濟ミ唯請負金ノ拂渡ヲ了セサルニ過キサルヲハ某ノ證言及原告ノ立證ニ依リ明白ナリ而シテ被告カ證據トシテ提供スル工事請負規程ハ主トシテ請負人ノ責任ヲ規定シタルニ止マルモノナレハ之ニ依リ本件ノ如キ請負工事悉皆完了シ僅ニ債權ノ關係ヲ有スルニ過キサル者ヲ以テ府縣制第六條第九項ニ該當スル者ト云フヲ得ス從テ被告カ原告ハ被選舉資格ヲ有セサル者トシ其當選ヲ無効ト決定シタルハ適法ニ非ス

二 原告ニ於テ某ハ甲町長トナリ同町ニ寄留シ明治三十二年縣會議員選舉ノ際辭職スルモ依然妻子ト俱ニ住居スル者ナレハ單ニ家族ノ乙村ニ殘レル一事ヲ以テ同村ノ公民ナリト云フヲ得スト陳辯スレトモ某ハ本籍ヲ乙村ニ有シ同村ヨリ一里四丁ヲ距ル甲町ニ妻子四人ト俱ニ寄留シ本籍地ニ家族七人ヲ遺留シテ常ニ乙村甲町ノ兩所ヲ來往シ乙村ノ負擔ヲ分任シ同村ニ於テ地租ヲ納ムルモノナレハ乙村ノ公民ニ非ラスト謂フヲ得ス從テ被告カ本條第二項ニ依リ某ニ縣會議員ノ被選舉權アリト裁決シタルハ不當ニ非ス

三 某カ二十八年十一月四日亡父ノ家督ヲ相續シ其後亡父ノ名義ヲ以テ納稅其他村ノ負擔ヲ分任シ三十二年十一月二十五日ニ至リ名義書替ヲ爲シタル事實ハ原告モ認ムル所ナレハ某ハ二十八年十一月四日家督相續ト共ニ亡父財產ヲ取得シ其後亡父名義ノ儘納稅其他村ノ負擔ヲ分任シ來リタルコト明



ナリ左レハ單ニ其當時名義書替ヲ了セサリシ一事ヲ以テ納稅者ニアラス從テ公民權ニ缺クル所アリト云フヲ得ス

三 某ハ其所有土地ノ一部ヲ他ニ賣却シ登記ヲ經テ其所有權ヲ他ニ移轉シ只公簿上ノ訂正ナキカ爲メ依然某ニ於テ既ニ他ニ賣却シタル地所ニ就キ納稅シ來リタルニ過キサレハ之ヲ以テ某ハ選舉權ヲ有スルモノト云フヲ得ス

四 家督相續ニ依ル相續人ハ本條第三項ノ規定ニ由リ被相續人ノ納稅資格ヲ繼承スルモ被相續人ノ有シタル公民權ヲモ併セテ繼承スルモノニ非ス

五 原告ハ所得稅法及同施行規則ヲ戶主及同居家族ノ所得ハ納稅資格ニ關シテモ仍ホ分雖スヘキモノニアラスト云フト雖モ所得稅法第三條第二項ノ規定ハ戶主及其同居家族カ所得ヲ分有スル場合ニ於テ稅率ヲ定ムル手續ヲ規定シタルモノニ過キスシテ納稅資格ニ關スル規定ニアラス納稅資格ニ付テハ戶主ト其同居家族トハ之ヲ區別シ互ニ相混同スルヲ許サス然レハ被告參事會カ無資格者タル某々ノ投票ニ票ヲ無効トシ其結果選舉ノ全部ヲ取消シタルハ相當ニシテ不法ノ裁決ニアラス

六 原告ハ郡制第六條第八項ノ選舉事務ニ關係アル吏員トハ選舉ヲ管理スル町村吏員ヲ指シタルモノニシテ選舉管理以外ノ町村吏員即チ本件乙村村長ノ如キ者ヲ指示スルモノニ非スト云フト雖モ本件ノ如ク甲町長選舉事務ノ管理者ト爲リ選舉ヲ執行スル場合ニ於テモ乙村村長ハ郡制ノ規定ニ依リ其管内ノ選舉人名簿ヲ調製シ及選舉會ノ場所ヲ管内ニ告示スル等ノ職務アリテ選舉ニ關スル諸般ノ準備事務ヲ取扱フモノナレハ該村村長ハ郡制第六條第八項ノ所謂選舉事務ニ關係アル吏員中ニ包含セラレタルモノト云ハサルヲ得ス

七 原告(村長)ハ選舉事務ハ助役カ分掌シ居リテ村長ハ實際事務ニ關係セサルヲ以テ村長ニ被選權ナシト云フヲ得スト云フト雖モ現ニ助役ニ於テ選舉事務ヲ分掌シ居ルモ元來選舉事務ハ村長固有ノ職

務ニ屬スルヲ以テ何時ト雖モ助役ノ分掌ヲ解キ已レ自ラ取扱フコトヲ得ルモノナレハ助役分掌ノ事實アルヲ以テ村長ハ選舉事務ニ關係ナシト云フヘカラス隨テ本件某村村長ハ郡制第六條第八項ノ所謂選舉事務ニ關係アル吏員トアルニ該當シ被選權ヲ有セサルモノトス

八 本件ノ爭點ハ原告ハ明治三十二年九月二十六日選舉ノ當時某株式會社ノ役員タリシヤ否ヤニ在リ被告縣知事ハ原告カ該會社ノ役員ヲ辭任シタルトコトハ商業登記簿ニ其記載ナキヲ以テ公ニ認メ難シト云フモ原告カ該會社ノ役員ヲ辭任シタルモノナルニ於テハ單ニ商業登記簿ニ其記載ナキ一事ヲ以テ本件ノ如キ公法上ノ關係ニ付仍ホ本條第九項ニ所謂法人ノ役員ナリト云フヘカラス而シテ原告ハ明治三十二年九月二十四日右辭任ノ手續ヲ了シタルコトハ其立證ニ依リ明ナルヲ以テ本件選舉ノ當時原告ハ被選權ヲ有セサルモノト云フヲ得ス故ニ被告カ府縣制第三十五條第二項ヲ適用シ原告ノ當選ヲ無効ト決定シタルハ適法ニ非ス

九 郡制第六條第一項第二項ノ後段ニ郡會議員ノ選舉被選舉資格要件トシテ直接國稅年額參圓以上若クハ五圓以上ヲ納ムルコトヲ要シタルハ町村公民ノ資格要件タル納稅ノ外ニ尙ホ之ヲ要シタルモノニアラサレハ納稅者ノ稅額ハ之ヲ兩様ニ區別スルコト能ハス倘シ納稅中家督相續ニ依リ取得シタル財產ニ關スル納稅アラハ何等ノ區別ヲナスコト無ク同條第三項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得ルハ勿論ナリト雖モ之レカ爲メニ町村會議員ノ選舉權ヲ有スル公民タル結果ヲ生セス元來本條第一項第二項ノ前段郡内町村ノ公民ニシテ町村會議員ノ選舉權ヲ有シタルハ町村會議員ノ選舉權ヲ有スル公民タルヲ要スル趣旨ニシテ町村制ノ規定ヲ離レテ單獨ニ郡會議員ノ選舉被選舉ノ資格要件ヲ規定シタルモノニアラス故ニ町村會議員ノ選舉被選舉權ヲ有スル公民タルヤ否ヤハ町村制ノ規定ニ依リテ之ヲ決セサルヘカラス而シテ町村制ニ於テ本條第三項ノ如キ規定ナキヲ以テ家督相續ニ依リ財產ヲ取得シタル場合ニ於テ被相續人ノ爲シタル納稅ト看做シ以テ相續人カ公民權ヲ有スルヤ否ヤヲ定ム



ルコトヲ得サルモノトス然ラハ原告ハ本條第二項前段ノ要件ヲ具ヘサルモノニシテ郡會議員ノ被選舉權ヲ有セサルモノトス

二〇 原告ハ地租金參圓拾錢九厘ニ對スル土地ハ明治三十二年九月廿一日家督相續ニヨリ獲得シタルモノナレハ原告ノ納稅額ニ算入スヘキモノナリト云フト雖被告提出第三號証ニ依レハ該土地ハ明治三十二年九月十八日前戶主甲某カ乙ナル者ヨリ讓受ケタルコト明瞭ナレハ仮令同月廿一日原告ニ於テ之ヲ相續シタレハトテ前戶主カ讓受ケ以來一年ヲ經過セサレハ原告ノ納稅額ニ算入スルヲ得サルモノトス又地租金三圓六拾二錢四厘ニ對スル土地ハ原告ニ於テ明治三十一年七月廿五日ヲ以テ買受タルコトヲ主張スルモ原告提出甲第二十二號証乃至甲第三十三號証土地登記抄本ニハ同年十一月二十五日附賣買証書ニ依リ云々ト記載シアレハ原告ハ同日ヲ以テ之ヲ買得シタルモノト認ムヘク隨テ爾來一ケ年ノ期間ニ達セス尙原告ハ三十一年度ニ對スル地租金額ヲ納メタルコトヲ主張スレトモ仮令之ヲ全納シタレリトスルモ土地所有權ノ獲得以來一ケ年ニ達セサレハ府縣制第六條第二項ノ規定ニ該當セス而シテ原告ノ主張スル地租金合計金拾參圓余ノ内ヨリ右ノ二口ヲ控除スルトキハ原告ノ納稅額法定ノ稅額ニ達セサルヲ以テ被告ニ於テ原告ノ當選ヲ無効ナリト決定シタルハ適當ニシテ取消スヘキ理由ナシ

二一 郡會議員ノ選舉權ヲ取得スルニハ郡制第六條第一項ニ依リ町村公民ノ資格具備スルヲ要スルモノニシテ其公民タルヤ否ヤハ町村制ノ規定ニ依リ決定セサルヘカラス而シテ町村制ニ於テハ第七條中公民ノ資格ヲ取得スル一要件トシテ二年以來町村ノ負擔ヲ分任スヘキコトヲ規定スルノ外郡制第六條第三項ノ如キ家督相續ノ場合ニ於テ被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ相續人ノ爲シタル納稅ト看做スヘキ規定存セサルナリ然ラハ公民權ヲ取得スヘキ者ハ家督相續ノ場合ニ於テモ二年以來町村ノ負擔ヲ分任スルヲ要スルモノト解釋セサルヘカラス

二三 被告ハ棚谷石藏大部萬次郎ハ明治十六年中家督相續ニ依リ被相續人ノ財産ヲ承繼シ明治三十二年八月ニ至リ所有權保存ノ登記ヲ經タルモノナレハ右兩名ハ納稅資格ニ缺クル所ナキヲ以テ選舉權ヲ有スルト云フモ明治三十二年ニ至ル迄隱居タル父ノ所有名義ニシテ父自ラ納稅シ來リ明治三十二年八月一日ニ至リ始メテ所有權保存ノ名義ヲ以テ登記ヲ爲シタルモノナレハ右登記ヲ爲シタル時ヨリ所有權ヲ得タルモノト認ムルノ外ナク假令所有權保存ノ登記ヲ經タリトテ此一事ヲ以テ明治十六年中ニ父ノ財産ヲ家督相續ニ因リ取得シタルモノト斷定スルヲ得ス左レハ右兩名ハ一年以來直接國稅年額三圓以上ヲ納ムルモノナルモ明治三十二年八月以前ニ在テハ町村公民タル資格ヲ有セサレハ郡制第六條第一項ニ該當セサルヲ以テ右兩名ノ爲シタル投票ハ無効ト爲スヘキモノナリ

二四 町村收入役ハ町村制第七十一條ノ規定ニ依リ其職務ヲ執行スル者ニシテ村役場ノ處務規定中反對ノ規定アルカ又ハ郡長若クハ村長ヨリ特ニ選舉事務ノ取扱ヲ命セラレタル場合ニ非レハ選舉事務ニ關係スヘキ者ニ非ス而シテ本件ニ付キ証人トシテ訊問セラレタル某村長ノ訊問調書ヲ閱スルニ「其村役場ノ處務規定等ヲ以テ收入役ヲシテ郡會議員ノ選舉事務ニ關係セシムヘキ場合ヲ規定シアリヤ」トノ問ニ對シ「斯ル規定ハアリマセン」ト答ヘ又「郡長若クハ其村長收入役某ヲシテ特ニ選舉事務ニ關係セシメタルコトアリヤ」トノ問ニ對シ「關係セシメタルコト有リマセン」ト答ヘ又「郡會議員ノ納稅資格ニ關シ選舉名簿ニ關スル調査ヲ手傳ハシメタルコトナキヤ」トノ問ニ對シ「左様ノコトハ有リマセン」ト答ヘタル所ニ依レハ收入役某カ郡會議員納稅資格ニ關スル選舉名簿ノ調査ヲ爲シ又村役場ノ處務規定又ハ郡長若クハ村長ノ命令ニ依リ選舉事務ニ關係シタリト認ムルコトヲ得ス左レハ收入役ハ法律上ハ勿論事實上ニ於テモ選舉事務ニ關係ナク隨テ郡制第六條第八項ノ規定ニ該當スル者ニ非ス

二五 村役場書記ハ元來村長ニ從屬シテ庶務ニ從事スヘキ吏員ニシテ村長ノ指揮ニ依リ何レノ事務ヲモ



取扱フヘキ者ナレハ選舉ノ際他ノ事務ヲ分掌シタリトスルモ村長ノ指揮ヲ受クレハ何時ニテモ選舉事務ニ關係セサルヘカラサルヲ以テ其職務ノ性質上既ニ選舉事務ニ關係ナキ吏員ト云フヲ得ス

三 家督相續ト共ニ被相續人ノ權利義務カ當然相續人ニ移轉スル場合ニ在テハ假令權利移轉ノ登記カ遷延スルモ之カ爲メ相續人ノ權利ニ消長ヲ來サ、ルモ本件ノ如キ前戸主カ明治二十四年中自己ノ財產ヲ留保シテ隱居ヲ爲シ其當時相續人タル原告ニ財產ノ分與ヲ爲シタル形跡ナク同三十二年三月廿九日ニ至リ財產ノ幾部ヲ原告ニ讓與シ且登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ假令其讓渡及登記トモニ家督相續ノ名義ヲ以テ爲シタルモ其讓渡及登記ノ効力ハ既往即家督相續ノ當時ニ遡ルヘキモノニアラス左レハ本件ノ事實ハ郡制第六條第三項ノ規定ニ該當セサルモノトス

四 原告ハ府縣制第六條第九項ニ「府縣ノ爲メ請負ヲ爲ス云々」トアル請負トハ土木工事ノ請負ヲ云フモノニシテ本件ノ如キ縣ノ令達掲載又ハ其印刷物ヲ引受クルハ右請負ノ中ニ包含セサルモノナリト云フト雖府縣制第六條第九項ニ「單ニ」府縣ノ爲メ請負ヲ爲ス云々」トノミアリテ別ニ其請負ノ意義ニ付限定シタル法意ノ見ルヘキモノナケレハ右請負トハ原告主張ノ如ク特ニ土木工事ノ請負ヲ指シタルモノト云フヘカラス即德島毎日社カ明治三十二年以來德島縣ヨリ豫メ一定ノ料金ヲ以テ日々發行ノ新聞紙ニ德島縣令達等ノ登載方ヲ引受ケルカ如キハ府縣ノ爲メ請負ヲ爲スト云フニ包含スヘキモノナルヲ以テ被告カ前法條ヲ適用シタルハ不法ニアラス

五 第一被告ハ本件契約ハ或ル物件ニスル特定ノ賣買契約ニシテ即一種ノ物件調達ヲ約スルモノニ過キスト云フト雖原告提出ノ甲第三號証ヲ閱スルニ該契約ハ一方富山日報社ニ於テ相手方富山縣廳ニ對シ富山縣報ヲ印刷スルコトヲ請負ヒ富山縣廳ニ右發行ノ都度其報酬トシテ千四百十九部若ハ千十七部ヲ買上クルコトヲ約定シタルモノナレハ請負契約ナリト謂ハサルヲ得ス第二被告ハ府縣制第六條第九項ハ府縣ノ議事機關ニ參與シ私利ヲ營ムノ虞アルヨリ之ヲ防遏セントスルノ精神ニ出テタル

モノニシテ本件ノ如キ事實毫モ私利ヲ營ムノ餘地ナキモノヲ包含スルニアラス故ニ請負ノ文字アレハトテ直ニ之ヲ以テ請負契約ナリト爲スハ法律ヲ誤解スルモノナリト云フト雖同條第九項ニ「單ニ府縣ノ爲メ請負ヲ爲ス云々」トノミアリテ別ニ其請負ノ意義ヲ狹メタル法意ノ見ルヘキモノアラサレハ被告主張ノ如ク之ヲ狹義ニ解釋スルヲ得ス第三被告ハ株式會社ヲ代表スヘキモノハ取締役ニ限ルコトハ商法ノ規定スル所ナリ然ルニ該契約ハ副社長ノ名義ヲ冠スルモ取締役タル資格ヲ表示セサルモノナレハ株式會社富山日報社ノ役員ヲ拘束スル謂ハレナシト云フト雖副社長ハ即商法ニ謂フ取締役ニ外ナラサレハ別ニ取締役ノ名義ヲ記セサルモ適法ニ會社ヲ代表シ取結ヒタルモノト認メサルヘカラス隨テ富山日報社ノ役員タル某ハ府縣制第六條第九項府縣ノ爲メ請負ヲ爲ス法人ノ役員トアルニ該當スルモノト謂ハサルヲ得ス

六 家督相續人タルモノハ前戸主ノ有セシ權利ヲ當然繼承スヘキハ皆慣法ノ然ラシムル所ナリ然レハ某外十二名ハ何レモ選舉權ヲ有シ選舉ニ參與スルコトヲ得ヘキ者ナリ且既ニ確定名簿ニ登錄セラレ選舉終了セシモノナレハ該十三名ノ投票ハ有効ナル趣ヲ主張スト雖原告ノ提出スル某村助役ノ證明書ニ依レハ外十一名ハ民法實施前即明治三十一年七月十六日前ニ於テ家督相續ヲ爲シタル者ニシテ其所有財產ニ對スル直接國稅ノ納額ハ金參圓未滿ナリ而シテ其當時ニ在リテハ所有者ノ特定名義ヲ要スル財產即土地家屋ノ如キハ家督相續ニ因ル一切ノ權利移轉中ニ包含シ得サルモノナレハ被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ直ニ家督相續人ナル同人等ノ納稅ナリト看做スコトヲ得ス又某ハ明治三十二年三月八日家督相續ヲ爲シタル者ナルモ被相續人ノ納稅ナク現時所有ノ財產ハ家督相續後ノ所得ニ係ルモノニシテ本件選舉ノ際ハ未タ郡會議員ノ選舉權ヲ生スヘキ時期ニ達セサル者ナレハ共ニ郡制第六條第一項ニ適スル者ト謂フヲ得ス



ヨリ之ヲ觀レハ府縣制第六條第六項ニ所屬府縣ノ官吏ノ中ニハ郡ノ官吏ヲ包含セサルモノト解釋セサルヲ得ス

第七條 府縣 郡 會議員ハ名譽職トス

府縣 郡 會議員ノ任期ハ四年トス  
議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲解任ヲ要スル者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

判決要領

(一) 議員ノ任期ハ曆年ニ依リ計算スヘキモノトス(舊郡制二十六年十二月六日)  
(二) 滿期前ニ改選シタルハ任期短期ノ不法アリ(町村制三十二年四月二十八日)

第八條 府縣 郡 會議員中闕員アルトキ及 府縣 郡 會議員ノ定數ニ異動ヲ生シタル爲又ハ議員ノ配當ヲ更正シタル爲議員ノ選舉ヲ要スルトキハ三箇月以内ニ之ヲ行フヘシ

補闕議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス  
補闕議員ヲ除ク外本條第一項ニ依リ選舉セラレタル議員ハ次ノ改選期マテ在任ス

第九條 第一項 町村長ハ 每年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ 其ノ町村内ノ選舉人名簿ニ本ヲ調製スヘシ 其ノ一本ヲ十月一日マテニ郡長ニ 但シ數町村ノ區域ニ依リ選舉區ヲ設ケタル場合ニ於テハ選舉ヲ管

理スル町村長ニ之ヲ送付スヘシ  
郡長ハ町村長ヨリ送付シタル名簿ヲ合シ毎年十月十五日マテニ其ノ選舉區ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

府縣制 第十條 市長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ十月十五日マテニ其ノ選舉區ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第十一條 第二項 選舉人其ノ住所ヲ有スル市町村外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ九月十五日マテニ當該行政廳ノ證明ヲ得テ其ノ住所地ノ市町村長ニ届出ツヘシ其ノ期限内ニ届出ヲ爲ササルトキハ其ノ納稅ハ選舉人名簿ニ記載セララルヘキ要件ニ算入セス

第十二條 第三項 郡市長ハ十月二十日ヨリ十五日間其ノ郡市役所ニ於テ選舉人名簿ヲ管理スル町村長ハ選舉前五十日ヲ期トシ其日ヨリ七日間町村役場又ハ其他ノ場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ若關係者ニ於テ異議アルトキ又ハ正當ノ事故ニ依リ前條ノ手續ヲ爲スコト能ハスシテ名簿ニ登錄セラレサルトキハ縱覽期限内ニ之ヲ町村長ニ申立ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ 郡市長ハ其ノ申立ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ヲ決定スヘシ

第十四條 前項 郡市長ノ決定ニ不服アル者ハ 郡參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ 府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ 行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

府縣制郡制 府縣制第十條乃至第十二條 郡制第十一條

二百六十一



(第三項) 前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡市長町村長ヨリモ亦訴訟及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

(府縣制) (第四項) 選舉人名簿ハ十一月十五日ヲ以テ確定期限トシ確定期限ハ次年ノ十二月十四日マテ之ヲ据置クヘシ

(第五項) 府縣參事會ノ裁決確定シ又町村長ハ第三項異議ノ決定ニ依リ又ハ第四項訴訟ノ裁決確定シ若ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ

(郡制) (第六項) 本條ニ依リ確定シタル名簿ハ郡内ノ各選舉區ニ涉リ同時ニ調製シタルモノハ確定シタル日ヨリ一年以内ニ於テ行フ選舉ニ之ヲ適用ス其ノ郡内一部ノ選舉區限リ調製シタルモノハ確定シタル日ヨリ一年以内ニ該選舉區ニ於テノ

行フ選舉ニ之ヲ適用ス但シ名簿確定後訴訟ノ裁決若ハ訴訟ノ判決ニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選舉ノ期日前七日マテニ修正スヘシ

(第七項) 本條ニ依リ郡市長ニ於テ名簿ヲ修正シタルトキハ直ニ其ノ要領ヲ告示シ郡長ハ本人住所地ノ町村長ニ通知シ町村長ハ之ヲ告示スヘシ

(第九項) 確定名簿ニ登録セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ記載セララルヘキ確定裁決書若ハ判決書ヲ所持シ選舉ノ當日投票所ニ到ル

者ハ此ノ限ニ在ラス

(第十項) 確定名簿ニ登録セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ名簿ハ之ヲ修正スル限ニ在ラス

(第九項) 異議ノ決定若ハ訴訟ノ裁決確定シ又ハ訴訟ノ判決アリタルニ依リ名簿無効トナリタルトキハ九月十五日ノ現在ニ依リ更ニ名簿ヲ調製スヘシ但シ名簿調製ノ期日マテニ選舉權ヲ失ヒタル者ハ名簿ニ登録スル限ニ在ラス

(第十項) 前項名簿調製ノ期日縱覽修正及確定ニ關スル期限等ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ依リ郡長之ヲ定ム

依リ郡長之ヲ定ム

### 決判要領

(一) 選舉名簿ノ確定ハ資格享有ノ原因トナルヘキモノニアラス(町村制二十六年一月二十一日、市制町村制第十二條參看)

(二) 縱覽期限ハ名簿ヲ變更シタルノ故ヲ以テ延長スルヲ得ス(二十六年一月二十八日、市制町村制第十八條參看)

(三) 選舉人名簿ハ其縱覽期限中ナルト期限後ナルトヲ問ハス法律ニ基ク訴訟、訴訟ノ結果ニ依ルニ非サレハ加除修正ヲ爲シ得ヘキモノニアラス(町村制二十六年一月二十七日、市制町村制第十八條參看)

(四) 選舉人名簿ニ對スル修正ノ申立ハ縱覽期限内ニ於テスルヲ要ス(町村制二十六年四月二十九日、



市制町村制第十八條參看

(五) 名簿確定ノ効力法律上ノ手續ヲ經テ確定シタル選舉人名簿ニ依リ執行シタル選舉ハ之ヲ違法トスル確實ノ證據ナキ限りハ取消スヘキモノニアラス(町村制二十六年十月二十六日、市制町村制第十八條參看)

(六) 町村長ハ縦覽期限後私擅ニ選舉人名簿ヲ修正スルヲ得ス(町村制二十八年十一月二十六日同年十二月二十七日、市制町村制第十八條參看)

(七) 選舉名簿ニ登錄セラレサル者ハ選舉權ヲ行使スルコトヲ得ス然レトモ選舉前ニ被選舉權ヲ得タル者ハ選舉名簿ニ登錄セラレサル者ト雖モ被選舉權ヲ有ス(町村制三十二年十月十六日、市制町村制第十八條參看)

(八) 選舉人名簿ニ登錄セラレサル者ニシテ選舉資格アリトノ裁決ヲ受ケ其裁決ノ確定セサル間ニ選舉ノ執行アリタルトキハ之ヲ選舉人名簿ニ登錄セサルハ正當ナリ(三十三年六月二十六日)

第十三條 府縣 郡會議員ノ選舉ハ 府縣知事ノ告示ニ依リ之ヲ行フ其ノ告示ニハ選舉ヲ行フヘキ選舉區投票ヲ行フヘキ日時及選舉スヘキ議員ノ員數ヲ記載シ 選舉ノ日ヨリ少クトモ二十日 人名簿ヲ調製シテ選舉ヲ行フ場合ニ於テハ少クトモ七十日前其ノ他ノ場合ニ於テハ少クトモ十四日前ニ之ヲ發スヘシ

判決要領

一 本條ノ期間ニハ選舉當日ヲ算入セス(三十一年十二月二日)  
一 選舉期日告示ノ期間ヲ短縮シテ執行シタル選舉ハ無効ナリ(同上)

二 郡會議員選舉ノ時間ヲ定ムルハ郡長ノ職務ナリ(三十三年六月二十六日)  
三 投票ヲ行フヘキ日時トアルハ投票函閉鎖ノ時刻ヲ定ムヘキコトヲ命シタル規定ニアラス(三十三年七月九日)

決判理由

一 郡制第十六條(舊制)ノ告示ハ選舉ノ日ヨリ七日前ニ發スヘキモノニシテ其期間ヲ計算スルニハ選舉當日ヲ算入ス可カラサルモノナルニヨリ本件郡會議員選舉會ヲ開クニ當リ二月九日ヲ以テ告示ヲ發シ同月十五日ヲ以テ選舉ヲ執行セシハ期間ヲ短縮セシモノナレハ該條ノ規定ニ違背スルモノト謂ハサルヘカラス隨テ本件郡會議員ノ選舉ハ有効ノモノニアラス  
二 村長カ選舉ノ場所ノミヲ告示スヘキ(郡制第十二條第三項)ニ時間ヲモ告示シタルハ双方爭ナキ事實ナルモ選舉ノ時日ヲ定ムルハ郡制第九條ニ依リ郡長ノ職務ナルヲ以テ村長ノ告示ハ効力ヲ有スルモノニ非ス故ニ之方爲メ選舉ヲ妨ケタリト云フト得ス  
三 原告ニ於テハ府縣制第十三條ニ府縣知事ハ投票ヲ行フヘキ日時ヲ定メ云トアリテ某府知事カ投票函閉鎖ノ時刻ヲ投票當日午後二時ト定メテ之ヲ告示シタルハ正ニ此ノ規定ニ則リタルモノナレハ投票管理者ハ右告示ヲ嚴守シテ投票函閉鎖時刻ヲ經過シタル投票ハ一切之ヲ受理スヘカラサルニ右告示ヲ以テ投票所閉鎖ノ時刻ヲ定メタルモノトシ右時刻マテニ投票所ニ入りタルモノハ皆投票ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ以テ投票函閉鎖時刻ヲ經過シタル後午後六時マテモ投票ヲ爲サシメタルハ違法ナリト云フト雖本條ハ單ニ投票ヲ行フヘキ日時ヲ定メト規定シタルニ過キスシテ投票函閉鎖ノ時刻ヲ定メサル可カラサル規定ニ非サレハ府縣知事ハ投票所閉鎖ノ時刻ヲ限リ同時刻マテニ入場シタル者ニ投票ヲ許スノ方法ヲ以テ投票日時ヲ定ムルコトヲ得ルハ勿論ナリ而シテ某府告示ニ投票函閉鎖トナルハ府縣會規則ノ用語ヲ襲用シタルモノニシテ投票場閉鎖ノ意義ニ慣用シ來リタル語ナレハ右告示



示ヲ以テ投票所閉鎖ノ時刻ヲ定メタルモノト視ルモ敢テ不當ニアラス然レハ同時刻マテニ入場シタル選舉人ニ投票ヲ爲サシメタルハ相當ニシテ府縣制ノ規定及告示ノ趣旨ニ違背シタルモノニアラス

**第十四條** 府縣會議員ノ選舉ハ郡市長之ヲ管理ス但シ數町村ヲ以テ一選舉區ト爲シタル場合ニ於テハ郡長ノ指定シタル町村長之ヲ管理ス

判決要領

一 助役カ選舉長タル町長ノ代理ヲ爲スニハ別ニ命令書ヲ要セス(三十三年十一月七日)

判決理由

一 原告ハ助役カ町長ヲ代理スヘキ命令ヲ受ケスシテ選舉長タル町長ヲ代理シタルハ違法ナリト云フト雖町長故障アルトキニ當リ助役之ヲ代理スヘキハ法律上當然ノ職務ナルヲ以テ之カ爲別ニ命令書ヲ要セス

**第十五條** 投票所ハ市役所町村役場又ハ市郡制數町村ヲ以テ一選舉區ト爲シタルトキハ選舉ヲ管理スル町村長ハ選舉ノ日ヨリ少クトモ四日前ニ選舉會ノ場所ヲ定メ關係町村長ニ通知スヘシ

前項投票所ハ市町村長ニ於テ選舉ノ日ヨリ少クトモ五日

前項投票所ハ市町村長ニ於テ選舉ノ日ヨリ少クトモ五日町村長ニ於テ之ヲ告知スヘシ

特別ノ事情アル地ニ於テハ命令ヲ以テ二箇以上ノ投票所ヲ設ケ其ノ投票ニ關シ特

別ノ規定ヲ設クルコトヲ得

判決要領

一 郡會議員選舉ノ時日ヲ定ムルハ郡長ノ職務ナリ從テ村長カ告示シタル選舉ノ時日ハ何等ノ効力ナシ(三十三年六月二十六日)

判決理由

一 村長カ選舉ノ場所ノミヲ告示スヘキニ時間ヲモ告示シタルハ雙方爭ナキ事實ナルモ選舉ノ時日ヲ定ムルハ郡制第九條ニ依リ郡長ノ職務ナルヲ以テ村長ノ告示ハ法律上何等ノ効力ヲ有スルモノニアラス故ニ之カ爲メ選舉ヲ妨害シタリト認定スルコトヲ得サルナリ

**第十六條** 市町村長ハ臨時ニ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル選舉人中ヨリ投票立會人二名乃至四名ヲ選任スヘシ

至四名ヲ選任スヘシ

舉立會人ヲ選任シ其ノ町村長ハ選舉長トナル

判決要領

(一) 選舉掛長ノ缺席間假ニ助役ヲシテ其選舉事務ヲ扱ハシメタルハ違法ニアラス(二十六年三月十一日市制町村制第二十條參看)

(二) 郡會議員選舉立會人ノ解任ニ就キテハ之ヲ保障シタル法令ノアラサルヲ以テ選任ノ權アル村長ニ於テ解任スルモ之ヲ違法ト謂フル得ス(三十三年六月二十六日)

(三) 選舉長及ヒ立會人カ自己ノ選舉權ヲ執行センカ爲メ一時其自席ヲ離レタル行爲ハ郡制第十三條ノ



規定ニ背反スル所ナシ(三十四年五月二十八日)  
(四) 選舉掛中副席シタル者アルモ其選舉ハ違法ニアラス(町村制三十四年六月二十九日)

判決理由

三 原告ハ本件郡會議員選舉會ニ於テ選舉長及ヒ立會人カ其自席ヲ離レ他ノ選舉人ト混同シ自己ノ投票ヲ爲シタルハ郡制第十三條ノ規定ニ違背シ同制第二十四條ニ依リ選舉ヲ無効トスヘキモノナリト云フト雖モ選舉長及ヒ立會人カ自己ノ選舉權ヲ執行センカ爲メニ一時其ノ自席ヲ離レタル行爲ノ如キハ郡制第十三條ニ背反スルモノト言フヲ得サルノミナラス其他ノ郡制規定ニモ違背スル所ナキヲ以テ本件選舉ハ郡制第二十四條ニ依リ之ヲ無効トスヘキモノニアラス

第十七條

選舉人ノ外投票所ニ入ルコトヲ得ス但シ投票所ノ事務ニ從事スル者

投票所ニ監視スル職權ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

選舉人ハ投票所ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

判決要領

- 一 投票ノ筆蹟同一ナリトノ主張ハ選舉人互ニ協議シタル事實ヲ證明スルニ足ラス(町村制二十九年六月九日)
- 二 投票函ヨリ文字ノ記載カキ投票用紙ノ一葉出タルノ一事ヲ以テ本條ノ規定ニ違背セル選舉ナリト云フヲ得ス(三十三年六月二十五日)

判決理由

一 數葉ノ投票同一ノ筆蹟ニ成リタリトノ申立ハ選舉人ニ於テ互ニ協議ヲ爲シタルノ證據トナスニ足

ラス(町村制二十九年六月六日)

二 原告ハ第一選舉場ニ出會シタル選舉人總數ヨリ一ノ餘票アルコトハ選舉長及被告參事會カ確認スル所ニシテ即チ府縣制第十七條ノ規定ニ違背スト云フト雖モ投票函ヨリ文字ノ記載カキ投票用紙ノ一葉出タル一事ヲ以テ本條ノ規定ニ違背セリト謂フヲ得ス第二村長選舉掛ハ投票函ヲ旅人宿ニ持込夜中投票函ヲ開キ投票ノ取捨ヲ爲シタルコトナレハ該投票函中ノ投票ハ全部疑ヲ存スト主張スレトモ此ノ事ニ關シ一モ立證ヲ爲サズ單ニ原告ノ陳辯スルニ止マルヲ以テ之カ事實ヲ認ムル由ナシ從テ被告ノ裁決ハ取消スヘキ理由ナキモノトス

第十八條 選舉ハ投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

選舉人ハ選舉ノ當日自ラ投票所ニ到リ選舉人名簿ノ對照ヲ經投票簿ニ捺印シ

投票スヘシ

選舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ自ラ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函ス

ヘシ

投票用紙ニハ選舉人氏名ヲ記載スルコトヲ得ス

自ラ被選舉人ノ氏名ヲ書スルコト能ハサル者ハ投票ヲ爲スコトヲ得ス

投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用フヘシ

判決要領

一 自選投票ハ有効ナリ(舊府縣制三十五年一月十二日)



- 二 無効ノ條件ハ選舉ノ効果ニ影響セス(町村制三十年七月九日)
- 三 郡長ハ投票ノ形式ヲ定メ之ヲ選舉人ニ周知セシムルノ職務アリ(三十三年五月十日)
- 三 成規ノ用紙ヲ用テヘキハ選舉人ノ義務ナリ(同上)
- 四 或者カ投票ヲ奪取シタル事實アルモ更ニ用紙ヲ交付シテ投票ヲ了リタル事實アル選舉ハ無効ニアラス(三十三年五月十四日)
- 五 縣知事ノ定メタル形式ノ用紙ヲ用キタル以上ハ其裏面ニ管理者ノ職印アル一事ヲ以テ本條ノ規定ニ違背シタリト云フヲ得ス(三十三年六月八日)
- 六 本條第五項ハ何人カ何人ヲ選舉シタルヤヲ公示セシメサルノ規定ナリ(三十三年七月十日)
- 六 選舉人ノ證明書ヲ以テ被選舉人ノ何人タルコトヲ証明スルハ法律ノ許サ、ル所ナリ(同上)
- 七 投票簿ニ印章ヲ押捺セスシテ捺印ヲ爲シタルハ本條第三項ニ違背ス然レトモ之レカ爲ニ選舉人ノ人違ヲ來タササル以上ハ其投票ハ有効ナリ(三十三年十一月七日同月九日)
- 八 郡長ノ公布シタル形式ノ投票用紙ヲ用キサル投票ハ無効トス(三十三年十二月二十四日)

判決理由

- 一 原告ハ自己ノ爲セル投票中ノ被選舉員數ヨリ推シテ當選者中ニ自選投票アリト断定シ其投票ヲ無効ニ歸セシメンコトヲ請求スト雖モ府縣會議員ノ選舉ハ舊府縣制第三條(即チ本條ニ該當ス)ニ依リ匿名投票ナルヲ以テ當然ノ手續ヲ經テ選舉了シタル以上ハ該選舉ニ對シテ自選他選ノ別ヲ爭フコトヲ得サルモノトス
- 二 本件ハ法律規定以外ノ制限ヲ設ケタルモ之カ爲メ投票ノ投入ヲ爲サシメス又ハ投票ヲ無効ト爲シタルノ事實アラサレハ現ニ無効ノ條件ヲ揭示セシニ過キスシテ違法選舉ナリト云フヲ得ス
- 三 郡制第十五條ニ依レハ投票用紙ノ式ヲ定ムルハ郡長ノ職責タルト同時ニ成規ノ用紙ヲ用フヘキハ

- 又選舉人ノ義務ニシテ此ノ式ヲ選舉人ニ周知セシメルヘカサルコト同條ノ法文解釋上自ラ明カナリ然ルニ本件ノ如ク郡長ノ定メタル一定ノ式ヲ選舉人ニ周知セシメス選舉會場ニ於テ投票用紙ヲ各選舉人ニ交付シタル以上ハ假令郡長ノ定メタルモノト異ナル所アルモ是只内部ノ關係ニ過キサレハ該交付ノ用紙ヲ以テ成規ノモノトセサルヘカラス故ニ此ノ用紙ヲ用キタル投票タル以上ハ之ヲ無効トスヘキモノニアラス
- 四 選舉錄ニハ單ニ選舉人某ニ投票交換ノ嫌疑アリタルニ依リ更ニ用紙ヲ交付シテ投票セシメタリトアルモ郡書記ノ復命書及村長ノ答申書ニ依レハ無資格者數名會場ニ入り來リ某ノ投票ヲ奪ヒ取リタルトアルヲ以テ此事實ハ之ヲ認ムルヲ得ヘシ然レトモ警察官ノ制止ニ依リ此等ノ者ヲ場外ニ退去セシメタル後更ニ用紙ヲ交付シテ投票セシメタルノ事實明確ナレハ其選舉ハ無効トスヘキ理由ナキモノトス
- 五 本件某村投票所管理者タル村長カ選舉人ニ交付シタル投票用紙ハ縣知事ノ定メタル方式ヲ具ヘタルモノナルモ其裏面ニ村長ノ職印ヲ押捺シタルノ事實アルヲ以テ被告ハ之ヲ違式ノ用紙ト認定シ府縣制第十八條第七項ニ違背スルモノナリト云フト雖モ抑モ同條第七項ハ投票用紙ノ亂雜區々ニ涉ル弊害ヲ防止シ選舉ノ正確ニ失ハシメサルノ規定ナリ本件村長ノ行爲ハ投票用紙ヲ亂雜ナラシメ又ハ選舉ノ正確ヲ失ハシムルノ事實ナキモノナレハ村長カ投票用紙自體ハ縣知事ノ定メタル方式ニ依リタルモノニ單ニ職印ヲ押捺シ之ヲ總選舉人ニ交付シタルノ一事ヲ以テ同項ニ違背シタルモノト斷定スルヲ得ス隨テ本件選舉ハ之ヲ無効トスルノ理由ナキモノトス
- 六 郡制第十五條第五項ニ投票用紙ニハ選舉人ノ氏名ヲ記載スルコトヲ得ストアルハ何人カ何人ヲ選舉シタル哉ヲ公示セシメサルノ規定ナレハ後日ニ至リ投票者氏名ヲ調査シ其何人ナルヤヲ認識スル如キハ法律ノ禁スル所ナリ故ニ本件某外九十九名ノ證明書ハ法律上調査若クハ認識ヲ爲スコトヲ得



サル事實ニ對スル證據ナレハ本件ヲ裁斷スルニ何等ノ効力ヲ有セシムルコトヲ得ス左レハ被告カ該證明書ヲ排斥シ當初選舉ヲ無効ト爲シタルハ適法ノ裁決ナリトス

七 受付簿及投票用紙交付簿ナルモノハ孰レモ本件選舉ノ事務取扱上便宜ノ爲之ヲ設ケ一ハ選舉人カ會場ニ參着シタル順次ニ氏名ヲ記載シ一ハ選舉人名簿ニ對照シ投票用紙ヲ交付スルノ際氏名ヲ記入スルモノニシテ此二個ノ帳簿ニ字佐見政四郎氏名ノ記載シアルノミナラス該帳簿ニ記載シタル政四郎以外ノ選舉人ハ孰レモ現ニ投票シタルノ事蹟ニ徴スレハ同人ハ投票簿中自己ノ名下ニ捺印ヲ爲サスシテ投票ヲ爲シタルモノニシテ即原告ノ陳述スル過剩ノ一票ハ政四郎ノ爲シタル投票ナリト認ムルニ足レリ又郡制第十五條第三項ニ投票簿ニ捺印シタルハ印章ヲ押捺スルモノニシテ捺印ノ如キハ之ニ包含スルモノト解釋スルヲ得サレハ選舉人某カ投票簿ニ爲シタル捺印ヲ以テ右十五條第三項ノ所謂捺印ヲ爲シタルモノト云フヲ得サルニ依リ右十五條三項ノ規定ニ違背スルモノナレトモ該規定ハ選舉人ノ人違ナキコトヲ期スルニ外ナラサレハ事實人違ニアラサル以上ハ該投票ハ無効ナリトスルヲ得ス

八 乙第一號証告示第十三號ニ依レハ海西郡長カ郡制第十五條末項ノ規定ニ從ヒ投票用紙ニ郡會議員選舉投票用紙海西郡役所ト刻セル印章ヲ押捺スルヲ以テ一定ノ式ト爲シタルコト明カナリ而シテ告示ニ付其公布式ハ何等ノ規定シタル所ナケレハ乙第二號証ノ縣令ニ定メタル郡令ノ公布式ニ從フモ妨ケナシ故ニ郡長カ右郡令ノ公布式ヲ準用シ告示第十三號ヲ郡内各村役場ニ配付シタル事實ナル上ハ其告示ハ公布セラレタルモノト謂ハサルヘカラス而シテ本件所爭ノ一票ハ郡會議員選舉用紙海西郡役所ト刻シタル印影ヲ脱落セルニ付既ニ公布セラレタル一定ノ式ニ違背スルモノナルニ依リ郡制第十六條第一號ノ成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノトアルニ該當スルカ故ニ該投票ハ無効トセサルヘカラス

第十九條 投票ノ拒否... 市町村長之ヲ決スヘシ

判決要領

一 投票ノ受理ニ關シ選舉掛ノ意見ニ說ニ分レタルトキ選舉會長カ兩說ヲ排斥シ別ノ意見ヲ以テ之ヲ決定セシハ違法ナリ(三十一年六月二十三日)

判決理由

一 郡制第十八條第五項末段ニ投票ノ受理並ニ効力ニ關スル事項ハ選舉掛假リニ之ヲ議決シ可否同數ナル片ハ選舉會長之ヲ決ストアルニ依レハ選舉掛ノ意見ニ說ニ分レ共ニ同數ナルトキハ選舉會長ハ右二說ノ内何レカ其一說ヲ採用シテ之ヲ決スヘキハ當然ナリトス而シテ本件ハ選舉掛中二名ハ甲ノ受任ヲ不當ト認メ乙ノ受任ヲ正當トシ同人ノ投票ヲ受理スヘシト主張シ他ノ二名ハ乙ノ受任ヲ不當ト認メ甲ノ受任ヲ正當トシ同人ノ投票ヲ受理スヘシト主張シタルモノナレハ選舉會長ハ右二說ノ中何レカ一方ノ說ヲ採用シテ議決スヘキモノトス然ルニ甲乙ノ受任兩ナカラ之ヲ不當ト認メ何レノ投票ヲモ受理セサリシハ是レ選舉會長カ選舉掛中何レノ意見ニモ依ラスシテ別ニ一己ノ意見ヲ以テ投票ノ受理ノ決定シタルモノニシテ即郡制第十八條第五項末段ノ規定ニ違反シタルモノナリト謂ハサルヘカラス

第二十條 市町村長ハ投票録ヲ製シ投票ニ關スル顛末ヲ記載シ投票立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ

第二十一條 投票ヲ終ハリタルトキハ町村長ハ其ノ指定シタル投票立會人



ト共ニ直ニ投票函及投票録ヲ選舉會場ニ送致スヘシ

判決要領

一 投票管理者カ其選舉管理者タル郡長ノ命ニ依リ投函ヲ投票ノ翌日マテ留置キタルハ違法ニアラス(三十三年七月九日)

判決理由

一 本訴ノ要點ハ某村外ニ簡村ガ郡長ノ通牒ニ依リ投票函ヲ選舉ノ翌日マテ留置キタルハ府縣制第二十一條ニ違背シタルモノナルヤ否ヤニ在リ而シテ被告ハ郡長ハ其職務上斯ノ如キ命令ヲ發スヘキ權限ナキモノナレハ假ニ之ヲ發シタリトスルモ爲ニ法律ノ明文ニ違背スルコト能ハスト主張スルモ郡長ハ選舉管理ノ責任アル者ナレハ其必要上右等ノ命令ヲ發スルハ其職權ノ許ス所ニシテ同制第二十一條ハ之レマテヲ禁シタルモノニアラス而シテ其證據書類ニ依レハ郡長ヨリ翌日午前八時マテニ投票函ヲ送致スヘキ旨ヲ達シタルハ明白ノ事實ニシテ右三村ハ之ニ依リ留置キタルモノナレハ同條ニ違背シタルモノニアラス

〔府縣制〕第二十二條 島嶼其ノ他交通不便ノ地ニ對シテハ府縣知事ハ適宜ニ其ノ投票期日ヲ定メ選舉會ノ期日マテニ其投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

〔府縣制〕第二十三條 選舉會ハ郡役所市役所又ハ郡市長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ開クヘシ

前項選舉會ノ場所ハ郡市長豫メ告示スヘシ

〔府縣制〕第二十四條 郡長ハ各投票所ヨリ參會シタル投票立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以

テ選舉立會人二名乃至六名ヲ定ムヘシ

市長ハ選舉人中ヨリ選舉立會人二名乃至六名ヲ選任スヘシ

選舉立會人ハ名譽職トス

〔府縣制〕第二十五條 郡市長ハ選舉長ト爲リ郡ニ於テハ投票函ノ總テ到達シタル翌日市ニ於テハ投票ノ翌日選舉立會人立合ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由ヲ選舉録ニ記載スヘシ但シ場合ニ依リ選舉會ハ郡ニ於テハ投票函到達ノ日市ニ於テハ選舉ノ日之ヲ開クコトヲ得

前項ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ選舉立會人ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

判決要領

一 郡會議員ノ選舉ヲ行フニ當リテ郡長事故アル時ハ上席郡書記ヲシテ代リテ選舉會長タラシムルコトヲ得ヘキモノトス(三十一年十二月十六日)

二 投票函到達ノ後一日ヲ經テ開票スルモ其投票函ヲ嚴重ニ警護シテ投票拔替等ノ恐ナキ以上ハ其選舉ハ有効ナリ(三十四年五月三十一日)

判決理由

一 本訴ノ要點ハ舊郡制第十七條第二項但書ノ解釋ハ如何ニアリ被告ハ郡制第十七條第二項但書ハ特別規定ニ屬スルヲ以テ普通規定タル地方官官制第四十五條ヲ適用スルヲ得ス即該但書ノ選舉會長タル職務ハ郡長自ラ爲スニアラサレハ郡長ハ町村長ヲ指定シテ選舉會長タラシムヘキモノナリト論ス



レトモ郡制第十七條第二項但書ニ「郡長又ハ郡長ノ云々」トアルハ選舉ノ當初選舉會長ヲ定ムル方法ヲ云フニ止マルモノニシテ既ニ郡長ト定マリタル以上ハ郡長ノ職務代理ニ關スル一般ノ規定ヲ適用スルヲ得ルモノト解釋スルヲ相當トス然レハ地方官々制第四十五條ノ一般ノ規定ニ從ヒ郡長事故アル場合ニ於テ上席郡書記其ノ職務ヲ代理シ選舉會長タルヲ得ルハ當然ナルヲ以テ本件郡會議員ノ選舉ハ違法ナリト云フヲ得ス

二 原告ハ本件選舉ハ府縣制第二十五條ニ違背シ投票函ノ到達シタル後一日ノ間ヲ置キ開票シタルタメ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スヘキ虞アルヲ以テ同制第三十五條ニ依リ之ヲ無効トスヘキモノナリト云フト雖本件ノ場合ニ於テ投票函ハ嚴重ニ警護セラレアルヲ以テ原告主張ノ如ク投票板替等ノ恐レナク其他選舉ノ結果ニ異動ヲ生スヘキ虞アリト認ムヘキ事實存セサレハ第三十五條但書ノ規定ニ依リ選舉ヲ無効トスヘキ限ニアラス

〔府縣制〕第二十六條 選舉人ハ其ノ選舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第二十七條 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 成規ノ用紙ヲ用井サルモノ
- 二 一選舉中二人以上ノ被選舉人ヲ記載シタルモノ
- 三 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
- 四 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 五 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位職業身分住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

判決要領

- 一 投票ニ記載スル氏名ノ者ナキトキハ最モ能ク類似スル氏名ノモノヲ指示シタルモノト認定スルヲ至當トス（舊府縣制二十五年四月二十一日）
- 二 投票ニ記入セル墨汁カ文字外ニ浸出スルモ其讀ミ難キニ至ラサルモノハ無効ニアラス（舊府縣制二十五年十一月十四日）
- 三 投票ニハ被選舉人ノ姓ト名トヲ併記スルヲ要セス（舊府縣制三十年十月二十七日）
- 四 投票ニ記載ノ人名カ候補者ト異姓同名ナルモ該候補者ヲ指シタルモノト認メ得ヘキトキハ有効トス（舊府縣制三十一年二月三日）
- 五 郡會議員選舉ノ投票ニ郡會議員ノ四字ヲ冠記スルモ無効ニアラス（舊郡制三十一年五月五日）
- 六 小林隼人ヲ小林ハヤ人ト記シタル投票ハ有効ナリ（三十二年十一月二日）
- 七 成規ノ用紙ヲ用キサル投票アルトキハ其投票ヲ無効トスヘクシテ選舉全部ヲ無効トスルモノニアラス（三十三年二月十四日、同三月十六日及四月二日）
- 八 投票ニ字畫ノ不備若ハ誤字又ハ落字等アルモ被選人ノ何人タルヲ識認シ得ルモノハ有効ナリ（三十三年三月十一日）
- 九 赤祖父牛知、赤祖父手知、赤祖父火牛知、赤祖父半知ト記シタル投票ハ赤祖父牛知ノ得票ト認ムルコトヲ得（三十三年四月九日）
- 一〇 捺印アル投票ハ無効ナリ（三十三年四月十一日）
- 一一 投票以外ノ事實證據等ヲ以テ投票ニ記載シタル被選人ノ何人タルヲ確認スルノ資料ニ供スルトコトヲ得（三十三年五月七日）
- 一二 秋原定七郎ト記載シアル投票ハ秋原定七郎ノ得票ニ算入スヘキモノトス（三十三年五月十四日）



- 三 投票ニ記載シタル字体ノ不明ニシテ何人ヲ指シタルモノナルヤヲ知ルニ由ナキモノハ無効ナリ  
(三十三年六月十八日)
- 四 脱落又ハ片仮名アルモ何人タルヲ確認シ得ルモノハ有効ナリ(三十三年六月十八日)
- 五 投票ニ斗鳥等一ト記載シタルモノハ平島純一ノ得票ト認ムルヲ得ス(三十三年六月二十日)
- 六 或ル文字ヲ猫書スルニ筆勢ノ働キシモノ又ハ音調ノ訛リテ記シタルモノハ有効投票ト推定スヘキ  
モノトス(三十三年六月二十九日)
- 七 本條第三號ハ投票ヲ審査点檢シテ何人ヲ選舉シタルヤヲ確認シ得ルニ於テハ之ヲ有効ト爲スモノ  
トス(三十三年七月二日)
- 八 單ニ姓ノミヲ記シタル投票認定方(三十三年七月四日)
- 九 投票ノ字体端正ナラス又ハ点畫ヲ欠キ或ハ假字ヲ以テ書シアルモ何人ヲ指シタルカヲ確認シ得ル  
モノハ有効ナリ(三十三年七月五日)
- 一〇 投票ノ記載ニ些少ノ瑕瑾アルモ被選人ノ何人タルヲ確認シ得ルモノハ有効ナリ(三十三年七月九  
日)
- 一一 投票用紙ノ裏面ニ算用數字ヲ記入シタルハ本條第五號ニ所謂他事記入ノ投票トス(三十三年七月  
十日)
- 一二 投票ノ文字ニ誤記アルモ被選人ノ何人タルヲ確認シ得ルニ於テハ其投票ハ有効ナリ(三十三年七  
月十日)
- 一三 候補者類似氏名ノ投票認定方(三十三年七月十日)
- 一四 單ニ投票欄内ニ縦線ヲ畫シ若クハ或ル文字ヲ消抹シ其痕跡ヲ止メサリシ投票ハ投票ニ有害ナル他  
事記入ト認ムルヲ得ス(三十三年九月二十六日)

- 一四 鉛筆ニテ記載セル不明瞭ノ投票ハ本條第三號ニ該當ス(同上)
- 一五 無資格者ノ氏名ヲ記載セル投票ト雖其類似ノ候補者ノ得票トスルヲ得ス(三十三年十月十日)
- 一六 すゞき喜作鈴木喜次等ノ投票ハ鈴木喜作ノ得票ト認ムルモノトス(三十三年十月十九日)
- 一七 森陸治森陸五郎トアルヲ森陸太郎ノ得票ト認ム(三十三年十月二十六日)
- 一八 木谷三治郎類似ノ投票認定方(三十三年十一月七日)
- 一九 宅孫トアルヲ定彌ノ投票ト認ム(三十三年十一月二十八日)
- 二〇 白川與一トアルハ白川與市ノ得票ト認ム(三十四年二月四日)
- 二一 字畫ヲ缺キ又ハ誤記アルモ被選人中其類似氏名ノ者ヲキトキ認定方(三十四年二月二十二日)
- 二二 同一選舉区内ニ同名氏名ノ者ナキ限リハ同名氏名ヲ聯記シタル投票ヲ以テ二名以上ノ被選舉人ヲ記載  
セシモノト認ムルヲ得ス(三十四年五月二十四日)
- 二三 一投票中數次ニ被選舉人ノ氏名ヲ記載スルモ其何人タルヤヲ確認セシメントスル意思ニ出ツルト  
キハ之ヲ以テ他事記入ノ投票ナリト謂フヲ得ス(同上)

判決理由

一 被告ハ本件縣會議員選舉ニ於ケル投票中小野順太小野寺順及小野寺順吉ト記載シアル三票ハ各其  
人ヲ指示シタルモノナリト云ヒ又此三票カ何人ヲ選舉シタルモノナルヤ判然セサルヲ以テ府縣制第  
三條第二ノ二(即チ本條第三號ニ該當ス)ニ依リ無効ニ決シタリト云フト雖モ此三票ニシテ果シテ  
各其人ヲ指示シタルモノナリトセハ之ヲ以テ同上第二ノ二ニ該當スルモノト爲シ無効トスルヲ得サ  
ルモノナリ然ルニ既ニ之ヲ無効ト爲シタル以上ハ被告ハ是等ノ投票ニ適合スル被選人ノ無キコトヲ  
認メタルモノト言ハサルヲ得ス抑モ法律ニ所謂被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノト爲シ投票ヲ  
無効トスル場合ニ方リテハ現投票ニ付之カ査定ニ注意シ被選舉人中投票ニ記載セル氏名ノ者ナク而



シテ却テ之ニ最モ能ク類似スル氏名ノ者アルカ如キ場合ニハ其投票記載ノ氏名ハ被選人中其最モ能ク類似スル氏名ノ者ヲ指示シタル者ナリト認定スルヲ至當ト爲ス即チ本件投票ノ如キハ被選人中投票ニ記載セル氏名ノ者ナキヲ知ル以上ハ被選人中之ニ最モ能ク類似スル小野寺順太ノ氏名ヲ記載セシトシテ其氏名中一字ヲ脱落シ或ハ字畫ヲ誤リタルモノト認定スルニ足ルヘキヲ以テ府縣制第三條第二ノニ該當スルモノトナスヲ得ス

二 原告ハ選舉投票中汚染シテ文字ノ讀ミ難キモノ數票アルニ拘ラス其効無効ヲ決定セザリシハ不當ナリト主張スレトモ各投票紙ニ就テ之ヲ閱スルニ墨汁ノ文字外ニ浸出シタルマテニシテ讀ミ難キニ非サルヲ以テ該投票ハ無効トスルノ限ニアラス

三 原告ノ主張スル要點ハ凡權利義務ニ關係ナキ普通社交上ノ稱呼往復等ヲ除クノ外公法上私法上ニ於テ人ノ同一ヲ表スルニハ其姓名ヲ明記セサルヘカラサルヲハ現行法令並ニ慣行ノ命スル所ニシテ即チ府縣制第三條第二項(即チ本條第一號以下ニ該當ス)ハ姓名ト名トヲ併記セヨト命シタルモノナルヘシ而シテ同項一及ヒ三ニ人名ノ文字アリ四ニモ亦氏名ノ文字アリ總テ投票ニ人名ヲ記スヘキコトハ同條項ノ必要條件トシタルモノナリ同項ノ一ニ被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノト規定シアルハ例セハ姓名ヲ併記セサルモノ又ハ想像ノ人名ヲ記シ或ハ故人ノ姓名ヲ記シタルモノ、如キ其他投票ヲ一見シテ直ニ何人ヲ指シタルヤ判別シ難キモノ等ノ規定ナリト信ス故ニ本件大久保君ト記シタル投票ハ同條第二項ノニ該當スルモノニシテ無効タルコト明カナリト云フニ在レトモ同條第二項ノニ依レハ被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノアリテ投票ハ必ス姓名併記ノ者ニ限ルト命シタル法意ニアラス亦想像若ハ故人ノ姓名ヲ記シ或ハ投票其物ヲ一見シテ直ニ何人ト確認シ難キモノ、ミニ限リタル狹義ノモノニモ非ス換言スレハ該條項ノ規定ハ投票ノ完備セルト否トニ拘ハラズ何人ヲ指シタルモノナルヤ確ト認メ難キモノヲ無効トスルノ法意ニ外ナラス然ラハ投票其物ハ不完備ナ

ルモ果シテ何人ヲ指シタルモノナリト確認シ得ラル、ニ於テハ之ヲ有効トスル固ヨリ違法ノコトニアラス本件大久保君ト記シタル投票ハ事實不完備ニシテ且某郡其他同縣内ニ大久保姓ヲ冒シ被選舉權ヲ有スルモノ數名アリト雖モ同縣各郡ニ於テ這般執行シタル縣會議員選舉會ニ於テ某郡ヲ除クノ外大久保姓ノ者ニシテ投票ヲ得タル者ハ同縣下ニ一人モ有ラス殊ニ某郡ニ在リテモ大久保姓ノ投票ハ大久保已之作ノ得票十箇ト本件係爭投票一箇トニ止マリ他ニ一票タモ有ル無シ而シテ之ニ加フルニ大久保已之作ハ經歷上ニ於テモ得票上ニ於テモ係爭投票ハ同人ヲ指シタル者ト確認シ得ルニ足レリト云フヘシ又原告ハ係爭投票ノ効力ニ關シテ選舉會ノ議ニ付シタルニ之ヲ無効トスルモノ十一名之ヲ有効トスルモノ十名アリテ既ニ無効ニ決セリ左スレハ右十一名ノ内ニハ大久保君ト決シタル投票者アルヤ數理ニ於テ明ナリト主張スルモ果シテ其無効トスル十一名ノ内ニハ係爭投票ヲ爲シタル者カ之ニ加ハリタルヤ否確認スルニ由ナキモノトス以上ノ事項ニ徵スレハ被告カ爲シタル裁決ハ取消スヘキモノニアラス

四 本件爭フ所ノ要點ハ其村荒井彦四郎ト記載シタル投票ハ遠藤彦四郎ニ對スル有効ノ投票ト認メ得ルヤ否ニ在リ而シテ選舉會長ハ之ヲ無効投票ト定メタルモ同人ハ元來某村ノ住民ニシテ同村中他ニ彦四郎ト稱スルモノナク又荒井姓ノ者モナキ事實ニ徵スレハ該投票ハ遠藤彦四郎ニ對シ爲シタルモノト認メ得ルヲ以テ有効投票トシテ同人ノ得點ニ算入スルヲ當然トス

五 本件所爭ノ要點ハ町村ニ於テ行フ郡會議員選舉ニ郡會議員ノ四字ヲ附記シタル投票ノ効力有無ニ在リ原告ハ町村制第二十三條第二項ノ四ニ被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノト規定シ在リテ其所謂他事ナル文字ハ被選舉人氏名ヲ除クノ外一切ノ事ヲ包含スルモノナレハ本件郡會議員ト附記シタル投票ハ全然無効ナリト云フト雖モ同條第二項ノ四ハ選舉ニ有害ノ雜事ヲ記入スルヲ云フモノニシテ本件ノ如キハ之ヲ含有スルモノニアラス故ニ郡會議員ト附記シタル某ノ得票ハ無効ナリト云フ



ヲ得ス

六 原告ハ訴狀ニ於テ被告ノ決定ニ對スル不服ノ理由トシテ其縣下ニ小林隼人ノ外別ニ小林ハヤ人ナルモノアルヤ否未タ知ル可ラサルニ被告カ其有無如何ヲ調査セス同一人ナリト決定シタルハ不法ナリト陳述スルニ拘ラス本年十月十八日附ヲ以テ當裁判所ニ提出シタル申請書ト題セル書面ヲ以テ某縣下ニ小林隼人ノ外小林ハヤ人ナル者ナク唯小林隼人ノ隼ノ文字ヲ片假名ニテ記シタルノ一事ノミニ依リ其投票ハ無効ノモノナリト云ヘリ左レハ某縣下ニ小林ハヤ人ナル者ナキハ原告被告共ニ爭ハサル事實トス而シテ該文字ヲ片假名ニテ記シタルノ投票ハ府縣制第二十七條第三號ニ掲クル被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノニ非ス依テ被告縣知事ノ與ヘタル決定ハ取消スヘキモノニ非ス

七 本件ノ所爭ヲ斷スル要點ハ縣會議員選舉ノ際成規ノ用紙ヲ用キサル投票アルトキハ府縣制第三十五條第一項ノ規定ニ該當スルヤ將タ同制第二十七條ノ規定ニ依リ其投票ノミヲ無効ト爲ス可キヤ否ヤニ在リ依テ按スルニ投票ノ無効ナル場合ニ在テハ制第三十五條第一項ノ規定ニ依リ選舉ノ全部ヲ無効ト爲スヘキモノニアラスシテ單ニ無効投票ノミヲ控除シ當選者ヲ定ムヘキ筋合ナルヲ以テ本件ノ如キハ制第二十七條第一號ニ該當スル投票ヲ控除シテ當選者ヲ定ムルニ止マリ制第三十五條ノ規定ニ依リ選舉ノ結果如何ニ論及ス可キモノニアラス故ニ被告ノ裁決ハ結局選舉全部ヲ無効トスヘキモノニアラスト云フニアレハ之ヲ取消ス可キ理由ナキモノトス

八 本件所爭ノ要點ハ曩キニ被告カ有効ト決定シタル投票中原告カ無効ナリト主張スル二十票ノ効力如何ニ在リ原告ハ右二十票ハ府縣制第二十七條第三號ニ所謂「被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ」トアルニ該當スル無効ノ投票ナリト主張スルヲ以テ其投票ヲ檢スルニ投票中原告陳述ノ如ク某ノ氏名ニ對シ字畫若クハ字體ノ不整或ハ假名ヲ以テ記シ又ハ落字等アリテ不完全ナルモノアルモ文字ノ判讀シ難キニアラサルノミナラス某ハ本件選舉ニ於ケル議員ノ候補者ニ立テ他ニ數百ノ投票ヲ

得而シテ同時ニ被選舉權ヲ有スル者ニシテ類似ノ氏名ナキヲ以テ見レハ右投票ハ某ニ投シタルモノト判斷シ得ヘキヲ以テ同條第三號ニ所謂「被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ」トアルニ該當スル無効ノ投票ナリト云フヲ得ス

九 原告赤祖父牛知ノ得票中赤祖父牛知赤祖父手知赤祖父火午和赤祖父半知ト記シタル投票ノ如キハ被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノナルヲ以テ無効ナリト主張スト雖モ赤祖父牛知ハ本件選舉ノ當時縣會議員ノ候補者ニ立テ既ニ數百ノ投票ヲ得タル事實アルノミナラス其際被選舉人中類似ノ氏名ナキヲ以テ見レハ右投票ハ赤祖父牛知ヲ指シタルモノト認メ得ヘキヲ以テ無効トスヘキモノニ非ス

一〇 被選舉人ノ投票中其名下ニ捺印アルモノハ本條第五ノ規定ニ違フモノナルヲ以テ之ヲ無効トス  
 一一 原告ニ於テ郡制第十六條第三號ハ投票其モノノミニ依リテ被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノヲ無効トスルノ趣旨ナレハ推測ニ基キ係爭投票ヲ某ノ得票ニ販シタル縣參事會ノ裁決ハ違法ナリト云フト雖モ確認ナルモノハ本來原告主張ノ如キ意義ヲ有スルモノニ非サレハ投票以外ノ事實證據等ニ依リ投票ノ效力ヲ定ムルコトヲ妨ケサルノミナラス係爭投票ヲ檢閱スルニ就レモ被選舉人ノ氏名中一字若クハ二字字畫ヲ誤リタルモノアリト雖モ全體ヨリ觀ルトキハ皆悉ク某ヲ指示シタルコト明カナリ即投票其モノニ依リテ被選舉人ノ何人タルヲ確認スルコトヲ得ルヲ以テ係爭投票ヲ某ノ得票ト査定シタル縣參事會ノ裁決ハ不當ニアラス

一二 本訴ニ於テ被告ヨリ提出スル郡會議員選舉投票都合六票ノ内一票ハ原告ニ於テ有效ナリトノ主張ヲ除却シ萩原定七郎ナル一票ハ被告縣參事會ニ於テ既ニ有效ト爲シタルモノナリ而シテ被告ハ其他ノ二票及萩原定七郎ナル一票ト同參事會ニ於テ新タニ無効ト認メシ一票ハ共ニ萩原定七郎ノ得票ト爲スヘキモノニアラスト云フト雖モ右ノ内三票ハ萩原定七郎ナルコトヲ讀得ヘキモノナリ又萩原定七郎ナル一票ハ某村内ニ該氏名ノ者ナキニ因リ全ク萩ノ字ノ草冠ヲ誤脱シ萩原定七郎ニ投票シタル



モノト認定ス隨テ縣參事會ニ於テ一票ヲ取捨セシ萩原定七郎ノ得票六十三票ニ該四票ヲ加フルトキハ六十七票ト爲リ他ノ候補者ノ得票六十六票ニ比算シ原告ハ一票ノ多數ヲ得タルモノナリ

三 本件ニ於テ原告被告相争フ所ノ投票二箇アリ而シテ其一票ニ付キ被告ハ記載ノ文字完全ナラサルモ長松某ヲ指名選舉セシモノト確認シ得ルコトヲ主張スルモ該投票ヲ檢スルニ長ノ一字ハ稍之ヲ認メ得ルモ他ハ字體頗ル不明ニシテ果シテ何人ヲ指シタル者ナルヤヲ知ルニ由ナク隨テ郡制第十六條ニ所謂被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノニ該當スレハ之ヲ無効ナリト判斷セサルヘカラス既ニ該票ニシテ無効ト決スル以上ハ原告ノ得票ハ長松庄三郎ノ得票ト同數トナリ且原告ハ某ニ對シ年長者ナルヲ以テ郡制第十八條ニ依リ原告ヲ當選者ト定メサルヘカラス然ルニ被告ニ於テ該票及他ノ一票ヲ有効ト認メタル結果終ニ原告ノ當選ヲ取消シタルハ其當ヲ得タルモノニアラス

四 被告ハ原告カ某縣某郡會議員選舉某村選舉區ノ選舉錄中第十六項ノ第一及第二ニ該當スル二個ノ投票ヲ三澤幸次郎ノ得票數ニ加フヘキ筈ナリト主張ニ對シ該投票ノ字体不明瞭ニシテ被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キニ由リ無効ト認定シタリト云フト雖右二箇ノ投票ハ一ハ三澤幸次郎ノ次字ヲ脱落シ一ハ三澤幸次郎ヲ平仮名ニテ記載シタルニ過キサレハ其投票ハ三澤幸次郎ヲ指シタルモノト確認スルヲ得ヘク從テ被告カ之ヲ無効ト決定シタルハ其ノ當ヲ得サルモノトス然レトモ選舉錄中第十六項ノ第四第五第六第七ニ該當スル投票ハ石川竹治郎ヲ石川竹次郎ト誤記シ又ハ石川竹太郎ノ字ヲ誤記シタルノ類ニシテ之ヲ選舉當時ノ事實ニ徴スルニ右四箇ノ投票ハ石川竹太郎ヲ指シタルモノト確認スルヲ得ヘシ

五 本訴ノ係争投票ハ平島純一ヲ指シタルモノナルヤ否ニ在リ而シテ原告ハ該投票ハ字體稍明瞭ヲ缺クモ候補者ハ平島純一野田多吉ノ二人ノミナルヲ以テ平島純一ヲ指シタルモノト推認スルヲ得ヘシト云フモ右投票ヲ檢スルニ平島純一トアリテ平島純一ニ符合スルモノハ只其「一」ノ字ニ過キサレ

ハ假令候補者ニ平島純一ナル者アリトシテ之ヲ視ルモ同人ノ氏名ヲ記シタル投票ト認ムルヲ得ス

二六 被告ニ於テ凡有效投票ハ被選人ノ何人タルヲ確認シ得ヘキモノタラサル可ラサルハ府縣制ノ規定ニ依リ明灼ナリ『アジキ』『ソズキ』『ぶない』ナル三票ノ文字ハ字體頗ル鮮明ニシテ毫モ字畫ヲ誤リタルモノナク『フヂキ』ト讀ムコトヲ得ス從テ原告ヲ指名選舉シタルモノト認確スルニ由ナク又無資格者ノ投票十二票ヲ原告ノ得票中ヨリ控除スルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アルモノトシテ本件選舉ヲ無効ト決定シタルハ正當ノ決定ナリト云フト雖モ該三票ノ内『アジキ』ノ『ア』ハ『フ』ヲ描畫スルニ筆勢ノ働キシモノ『じ』ハ『ジ』ノ草體ニシテ『ヂ』ヲ誤リタルモノ并ニ『ソズキ』ノ『ソ』ハ『フ』ノ筆勢ニ輕重アリシモノ『ズ』ハ『ヂ』ノ音調ヲ訛リテ書シタルモノニテ共ニ『フヂキ』ナルコトヲ推知シ得ヘク又別ニ藤井ナル姓氏ヲ稱スル被選人無キヲ以テ原告藤井某ノ得票ナリト認定ス然レハ原告ノ得票七百七十箇ノ内ヨリ『ぶない』ナル無効票投一箇及無資格者ノ投票十一箇ヲ控除スルモ七百五十八箇ニシテ他ノ候補者某ノ得票七百五十八票ニ比シ同數ナルカ故ニ府縣制第二十九條ニ依リ年長者タル原告ヲ當選者ト定メ得ヘキモノナレハ選舉ノ結果異動ヲ生スルノ虞アラサルモノナリトス

二七 原告ハ府縣制第二十七條第三項ノ規定ハ選舉人名簿ニ記載シタル氏名ヲ標準トシ之ニ適合セサル投票ハ無効トスルノ旨趣ナレハ『慎』ヲ『じん』ト記載シタル投票又ハ字畫運筆ノ不整ニシテ一柳慎ト讀ミ得サル投票ハ無効ト爲ス可キ筈ナルニ之ヲ有効トシ如何ナル標準ニ依リ之ヲ有効ト爲シタルヤ其理由ヲ説明セサル縣參事會ノ決定ハ違法ナリト云フモ同第三號ノ規定ハ各投票ニ就キ逐一審査點檢ヲ爲シ現實何人ヲ選舉シタルヤヲ確認シ得ルニ於テハ之ヲ有効ト決定シ得ルモノト解釋セサル可カラス而シテ縣參事會ハ三百八票ノ無効投票ニ就キ逐一審査點檢ヲ爲シ以テ有効無効ヲ決シタルモノナレハ如何ナル標準ニ依リ之ヲ決シタルヤニ付其理由ヲ説明スルノ必要ナキモノトス依テ參



事會ノ決定ハ相當ニシテ原告ノ云フカ如キ不法アルモノニ非ス

一八 被告ハ本件所争ノ石黒ト記載シタル投票ヲ某村會議員候補者ノ一人ナル石黒逢太郎ノ得票ト爲シタルハ不當ニ非スト云フト雖モ石黒逢太郎ノ外石黒五郎右衛門石黒六之丞石黒十右衛門等ノ郡會議員ノ被選舉權ヲ有スル者數名アルコトハ被告ニ於テモ争ハサル事實ナルノミナラス選舉人ハ候補者以外ニ何人ヲモ隨意ニ選舉スルコトヲ得ルモノナレハ本件ノ如キ場合ニ於テハ單ニ石黒ト記シタル投票ヲ以テ石黒逢太郎ノ得票ナリト確認スルヲ得ス隨テ該投票ハ有效ノモノニアラス

一九 原告ハ郡參事會及縣參事會ニ於テ有效ト爲シタル投票八個ハ無効ナリト云フモ之ヲ查閱スルニ字體端正ナラス又ハ點畫ヲ闕キ或ハ假字ヲ以テ書シタルモノ等アルモ共ニ某ヲ指定シタル投票ナルコトヲ確認スルニ足レリ故ニ被告ニ於テ之ヲ有効ト爲シ某ノ得票數ニ算入シタル結果同人ヲ以テ當選者ト爲シタル裁決ハ相當ニシテ不公偏頗ナリト云フヘキモノニ非ス

二〇 原告ハ中ノ目猪三郎及中野目猪三郎ト記シタル投票ハ中目猪三郎ヲ指シタルモノニアラスシテ無効ノ投票ナリト主張スルモ抑投票ハ其有効無効ヲ査定スルニ當リ投票面記載ノ氏名ニ些少ノ瑕瑾アルモ被選舉人ノ何人タルヲ確認シ得ル場合ニ於テハ之ヲ無効ト爲ス可カラズ本件係争ノ二箇ノ投票ハ「野」若クハ「ノ」ノ贅字ヲ誤記シタルモノニシテ中目猪三郎ノ五字ハ明カニ記載シアリ且中目猪三郎ハ五百餘ノ得票アル事實ニ徴スレハ該投票ハ中目猪三郎ヲ指シタルモノト確認スルニ餘リアリトス又原告ハ同郡内ニ中野目及中目ト稱スル區名並ニ中野伊三郎ナル人名アルヲ立證スルモ其區名及人名ハ本件ニ直接ノ關係ナキ名稱ナレハ以テ原告ノ主張ヲ確ムル證據ト爲スニ足ラス依テ被告ノ裁決ハ取消スヘキモノニ非ラス

二一 投票用紙ノ様式一定シアリテ其用紙ニ數字ヲ記載スル如キハ該様式ニ於テ毫モ認ムル所ニアラス而シテ本件各投票用紙ノ裏面下部ニ算用數字ヲ以テ「ヨリ一九二迄」ヲ格別ニ記入シタルハ其之ヲ記載

シタル者ハ原告ナルト選舉人ナルトヲ問ハス投票ヲ爲ス當時之ニ被選舉人氏名以外ニ選舉ニ必要ナキ事項ヲ記入シタルモノナレハ該投票ハ何レモ他事ヲ記入シタルモノニシテ郡制第十六條第五號ノ規定ニ違背シタル無効ノ投票ナリトス原告ハ投票用紙ノ裏面ニ記入シタルハ何等ノ關係ナキモノ、如ク論スルモ其裏面ノ記載モ是レ等シク投票中ニ他事ヲ記入スルモノナレハ本件記入ノ數字カ投票用紙ノ裏面ニアル故ヲ以テ法律ノ規定ニ違背シタルモノニ非スト云フヲ得ス然ラス本件選舉ハ自ラ無効ニ皈スヘキモノトス

二三 本件係争ノ二個ノ投票ノ如キハ岡村喜萬太ノ萬字ヲ誤記シタルニ過キササルモノニシテ此一事ハ未ダ以テ該投票ヲ無効ト爲スノ理由トスルニ足ラス又原告ハ同村中ニ岡村喜平太ナルモノアルヲ以テ該投票ハ同人ヲ指シタル者ナルヤ判別スルニ由ナシト云フモ本選舉ニ於テ同人ハ一票ノ得票ナキ而已ナラス選舉前後ノ狀況ニ徴スルニ該投票ハ岡村喜萬太ヲ指シタル者ト確認スルニ余リアリトス左レハ原裁決ニ於テ岡村喜萬太ノ得票ヲ五十六点トシ之ヲ田中喜代馬ノ得票五十七点ニ比シ其差二票ナルニ無資格者ノ投票アリタル爲メ選舉ノ結果ニ異動ヲ及ホスノ虞アリトシテ選舉ヲ取消シタルハ適法ノ處置ナレハ被告ノ裁決ハ取消スヘキモノニアラス

二四 本件係争ノ四個投票ヲ熟閱スルニ一票ハ小ノ字曖昧ニシテ字畫ヲ成サス一票ハ下ノ字不明ニシテ其字体ヲ成ササルモ該二票トモ他ノ三字ハ孰レモ明カニ讀ミ得ヘク又他ノ二票中ノ一票ハ半平トアリ一票ニハ小平次ト記載シタルモ孰レモ山下ナル姓ハ明カニ記載シアル尚ホ且ツ原告カ本件選舉ニ於テ既ニ百餘點ノ得票ヲ得タル事實ニ徴スレハ本件係争投票ハ孰レモ原告山下小平次指示シタルモノト認ムルニ足レリ隨テ被告カ選舉區内ニ井口小平次ナル者アリトノ事實ヲ以テ山下小平次トアル一票ハ原告ヲ指シタルモノニアラストノ主張ハ其當ヲ得ス

二五 甲投票ハ單ニ投票欄内ニ縦線ヲ畫シ乙投票ハ最初ニ或ル文字ヲ記シテ之ヲ消抹シ其痕跡ヲ止メサ



ルモノナレハ府縣制第二十七條第五號ノ解釋上選舉ニ有害ナル他事記入ト認ムルヲ得ス又丙投票ハ鉛筆ヲ以テ記載シタルモノニシテ其文字極メテ明瞭ヲ缺キ到底何人ヲ指シタルヤヲ確認シ難シトス

三 選舉人カ投票ヲ爲スニ方リ被選舉人ノ資格ニ付十分ナル調査ヲナス誤テ無資格者ヲ選舉スルコトハ往々免レサル所ニシテ郡制第十六條第四ニ依ルモ被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタル無効投票ノ生スル場合アルヘキハ勿論ナレハ田尻清五郎ニ被選舉權ナシトノ理由ヲ以テ現ニ田尻清五郎トアル投票ヲ田尻清三郎ノ得票ト査定シタルハ不當ナリ

二 甲投票ハすゞき喜作ノ字稍明瞭ヲ缺クモ他ノ文字ハ讀ミ得ヘクシテ鈴木喜作ヲ指名シタルモノナルヲ認ムヘク又乙投票ハ全部平仮名ニテ書シ其中ノ一字少シク不明ナルモ是又鈴木喜作ヲ指名シタルモノナルコト明カナレハ右二票ハ鈴木喜作ノ得票ト爲スヲ相當トス又被告ハ鈴木喜次ト記載シタル投票ハ是等ノ姓名ハ普通現存スヘキモノナレハ之ヲ別人ニ當テタル投票ト見做サヘカラスト云フト雖事實鈴木喜次ナル者之レナク而シテ多數ノ投票ヲ得タル鈴木喜作ナル者之レアルヲ以テ觀レハ該投票ハ全ク鈴木喜作ヲ指名シタルモノト認メサルヲ得ス

三 原告ハ森陸治森陸五郎ト明記セル投票ヲ森陸太郎ノ得票トシタルハ全ク不當ノ認定ナリト云フト雖是等氏名ノ者他ニ存在セル事ヲ舉示セス而シテ多數ノ投票ヲ得タル森陸太郎ナル者現ニ之レアルヲ以テ之ヲ觀レハ該投票ハ全ク森陸太郎ヲ指名シタルモノト認ムルヲ相當トス然レトモ選舉會ニテ無効又ハ別人ト爲シタル投票中係争投票四個ハ文字ノ稍不明ナルモノアルモ何レモ原告ヲ指名シタルモノト確認シ得ヘキモノナレハ右四票ハ原告ノ得票ト爲スヘキモノトス然レハ原告ノ得票ハ百三十四票トナリ森陸太郎ノ得票ニ比シ三個ノ多數ナルヲ以テ原告ノ當選者タルコトハ依然トシテ動かサルモノトス

二 原告カ有効ナリト主張スル北谷三治郎木谷治郎木田三治ト記載シタル投票ニ對シ被告ハ生駒郡

選舉區内ノ北谷仙三郎ハ北谷三治郎ニ木谷次三郎及木谷政治郎ハ木谷治郎ニ木田寛次郎ハ木田三治トニ類似スルヲ以テ其何人ヲ指シタルヤ確認シ難キヲ以テ原告ノ得票ニ算入スヘキモノニアラスト云フモ北谷三治郎木田三治郎ナル氏名ヲ北谷仙三郎木田寛次郎ナル氏名ニ對照スルトキハ寧ろ原告ノ氏名ニ類以スルモノト云フヲ至當トスヘキノミナラス原告ハ既ニ五百票ノ投票ヲ得タルノ事實ニ徴スルモ其原告ヲ指シタルモノナルヲ確認スルニ足ル然ラハ當選者ノ得票中ヨリ馬井藤太郎ト記載シタル投票ヲ控除セサルモ前記二票ヲ原告ノ得票中ニ加算スヘキヲ以テ駒井藤太郎ノ得票ニ比シ一票ノ多數トナルニ依リ其他ノ争点ニ對シ一々説明スルノ必要ヲ見ス

二 係争投票ヲ檢スルニ佐藤定彌トハ讀ミ難ク寧ろ佐藤宅孫ト讀ムノ當レルカ如クナルモ内山村ニ斯ノ如キ氏名ノ者之レ無ク而シテ佐藤定彌ハ本選舉ノ候補者ト成リ多數ノ投票ヲ得タル者ナルト又定彌ト宅孫トハ之ヲ草書ニテ記スルトキハ其字形稍類似スル所アルヲ以テ之ヲ觀レハ宅孫ハ全ク定彌ノ誤記ニシテ該投票ハ佐藤定彌ヲ指名シタルモノト認ムヘク而シテ之ヲ同人ノ得票ニ加算スルトキハ岩井勘七郎ノ得票ト同數ナルヲ以テ其年長者タル佐藤定彌ヲ當選人ト爲シタルハ不當ニアラス

三 白川與市ハ本件郡會議員選舉ニ關シテハ被選舉資格ヲ有スル者ナルコトハ原告ニ於テモ自認スル所ナルノミナラス被告カ參考書トシテ提出シタル白川與市ノ書面封筒裏面ニ自ラ白川與一ト記シタル投票ヲ以テ被告カ白川與市ヲ指示シタルモノト認定スルハ相當ニシテ原告主張ノ如ク白川與八カ本件選舉ノ被選舉人タル候補者ナルノ一事ヲ以テ直チニ其係争投票ハ同人ヲ指示スルモノト確認スルヲ得ス故ニ被告ニ於テ白川與八ヨリ多數ノ投票ヲ得タル川内康山ヲ以テ當選者ト決定シタルハ不當ナリト言フヲ得ス

三 係争投票ヲ檢閱スルニ被告主張ノ如ク多少字畫ヲ缺キタルモノ或ハ文字ヲ誤記シタルモノアリト雖被選舉人中他ニ類似ノ氏名ヲ有スル者ナキ事實ヨリ觀レハ某ヲ指シタルコトヲ確認シ得ルヲ以テ



無効ノ投票ナリト云フヲ得ス

三 原告ニ於テ高村宰兵衛ノ得票數ニ算入セラレタル一票ハ高村宰兵衛ト記シ其左則ニ宰ノ一字ヲ記入シ更ラニ同一ノ氏名ヲ左則ニ記シ而カモ其位置ハ最初ノ名ノ下部ニ記シタルハ選舉人カ自己ノ氏名ヲ記載シタルモノナレハ第一ニハ郡制第十五條第四號ノ規定ニ違反スルモノナリト云フト雖凡テ投票ヲ爲スニ其有効ナランコトヲ期スルハ投票者當然ノ意思ナリトス然レハ假リニ自己カ被選舉人タランコトヲ欲シ投票スルモノトスルモ選舉人トシテ其氏名ヲ記シ故ラニ法律ノ規定ニ違フ行爲アルヘキ理由ナケレハ投票ニ選舉人ノ氏名ヲ記シタルモノト認メ難ク第二ニハ一步ヲ讓リ記名投票ニアラストセハ一投票ニ二名以上ノ被選舉人ヲ記シ同制第十六條第二號ノ規定ニ違反スルモノナリト云フト雖同一選舉區内ニ同氏名ノ者ナキ限リハ同氏名ヲ聯記スルモノヲ以テ二名以上ノ被選舉人ヲ記載シタル投票ニシテ該規定ニ違フモノナリト認メ難シ第三ニハ更ラニ一步ヲ讓リ記名式ニアラス聯記無記名式ニアラストセハ同條第五號ノ本文ニ該當スルモノナリト云フト雖係争ノ原投票ヲ閱スルニ高村宰兵衛ナル氏名ヲ記シ左則ニ宰字ヲ記シ又一字ヲ記シ之ヲ塗抹シ更ラニ左則上位ニ高村宰兵衛ト記シ都合四次ニ之ヲ記載シタルモノナレトモ全ク被選舉人ノ何人ナルヤ確認セシメントスル意思ニ出タルモノニシテ他事ヲ記入スルノ意思アリシコトヲ認ムルニ足ルモノナク右規定ニ該當スルモノト謂フヲ得ス

〔府縣制〕第二十八條 投票ノ効力ハ選舉立會人之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

第二十九條 府縣 郡 會議員ノ選舉ハ有効投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選

者ヲ定ム

同時ニ補闕員數名ヲ選舉スルトキハ投票ノ數多キ者、投票ノ數相同キトキハ年長者ヲ以テ殘任期ノ長キ前任者ノ補闕ト爲シ同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム

第三十條 選舉長ハ選舉錄ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記載シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人二名以上ト共ニ之ニ署名シ投票、選舉人名簿其ノ他關係書類ト共ニ選舉ノ効力確定スルニ至ルマテ之ヲ保存スヘシ

判決要領

- (一) 事後ノ辨明書ハ選舉錄記載以外ノ事實ヲ證明スルニ足ラス(二十五年十二月十二日、町村制第二十七條參看)
- (二) 選舉錄ノ調製カ法式ニ違フモ選舉ノ効力ニ影響スルモノニ非ス(二十七年一月卅一日、町村制第二十七條參看)
- (三) 個人隨意ノ作成ニ係ル證明方法ハ選舉錄ヲ無効ニ歸セシムルニ足ラス(二十八年十一月二十七日及二十九年五月七日町村制第二十七條參看)
- (四) 選舉錄ニ記載ナキ爭點ハ投票ヲ以テ證左ト爲スコトヲ得(三十年十一月五日、町村制第二十七條參看)
- 五 選舉錄ニ立會人ノ署名ナキハ選舉ノ瑕疵トナラス(三十三年十一月十六日)

判決理由



五 選舉錄ニ選舉立會人二名中ノ一名ノ署名ナキハ郡制第十九條ノ規定ニ違背スルモノナレハ選舉ハ無効ナリト云フト雖モ選舉錄ハ選舉終了後其事實ヲ証スル爲メ調製スル所ノ記録ニ過キスシテ之ニ依リ選舉ノ有効ハ無効ナリト云フト雖モ選舉錄ハ選舉終了後其事實ヲ証スル爲メ調製スル所ノ記録ニ過キスシテ之ニ依リ選舉ノ有効無効ヲ定ムルモノニ非サレハ本件立會人ノ署名ナキハ單ニ選舉錄其モノ、瑕疵ニ止マリ選舉効力ニ影響ヲ及ホス可キモノニ非ス

第三十一條 選舉ヲ終リタルトキハ選舉長ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知シ同時ニ選舉錄ノ寫ヲ添ヘ當選者ノ住所氏名ヲ府縣知事ニ報告スヘシ  
府縣知事ニ報告スヘシ  
郡長ニ報告スヘシ  
當選者當選ノ告知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其ノ當選ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ申立ツヘシ

一人ニシテ數選舉區ノ選舉ニ當リタルトキハ最終ニ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ何レノ選舉ニ應スヘキカヲ府縣知事ニ申立ツヘシ  
定期改選増員選舉補闕選舉等ヲ同時ニ行ヒタル場合ニ於テ一人ニシテ其ノ數選舉ニ當リタルトキハ前項ノ例ニ依ル  
前三項ノ申立テ其期限内ニ爲ササルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス  
第六條第七項ノ官吏ニシテ當選シタル者ニ關シテハ本條ニ定ムル期間ヲ二十日以内トス

判決要領

一 選舉ハ投票ヲ終ヘ當選人ノ定マリタルトキニ終了ス(二十七年一月二十七日、町村制第二十七條參看)

第三十二條 府縣會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

二人以上投票同數ニシテ年長ニ由テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ年少ニ由テ當選セサリシ者ヲ以テ當選トス但シ年少ニ由テ當選セサリシ者二人以上アルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

二人以上投票同數ニシテ抽籤ニ依テ當選シタル者其ノ當選ヲ辭シタルトキハ抽籤ノ爲當選セサリシ者ヲ以テ當選トス但シ抽籤ノ爲當選セサリシ者二人以上アルトキハ選舉長抽籤シテ其ノ當選者ヲ定ム

第三十三條 當選者其ノ當選ヲ承諾シタルトキハ府縣知事ハ直ニ當選證書ヲ付與シ及其ノ住所氏名ヲ告示スヘシ

第三十四條 選舉人選舉若ハ當選ノ効力ニ關シ異議アルトキハ選舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ府縣知事ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ  
府縣知事ニ於テ選舉若ハ當選ノ効力ニ關シ異議アルトキハ第一項申立ノ有無ニ郡長



拘ラス第三十一條第一項ノ報告ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ郡府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得

本條府縣參事會ノ決定ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定及裁決ニ關シテハ府縣知事郡市長選舉ヲ管理スル町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

判決要領

一 選舉會ニ違法アルコトヲ主張スルノ訴ニ於テ選舉會長ヲ相手取リタルハ正當ナリ(舊府縣制二十四年十二月二十八日)

二 選舉結了後無効投票アリシコトヲ主張スルニハ其當時ニ於テ其原因ノ存在スル証アルヲ要ス(舊府縣制二十五年四月八日)

三 郡會議員選舉取消ノ訴ニ付キ村長ヲ被告トスルモ不當ニ非ス(舊郡制二十八年二月一日)

四 訴願審理ノ際發見シタル法律違反ノ事項ニ付キ裁決スルハ訴願ノ範圍外ニ非ス(舊郡制二十八年六月四日)

五 訴願ヲ爲ササル者ト雖共同訴訟ヲ提起スルコトヲ得(町村制三十年五月二十四日)

六 府縣參事會ノ裁決ヲ經タル後ニアラサレハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス(舊府縣制三十年十月六日)

七 被選舉ノ有無並選舉ノ効力ニ關シテ爭フ所ナク單ニ當選人ノ指定ヲ請求スルニ付訴訟ヲ許スノ法令ナシ(舊府縣制三十年十月六日)

八 郡參事會ハ本條ニ依リ縣參事會ノ裁決ニ對シ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス(三十年十一月十二日)

九 一ノ選舉ニ付キ數箇訴願ノ一カ不服申立ノ期限ヲ經過スルモ他ノ一カ上級行政廳ニ繫屬スルトキハ選舉ノ効力ハ何人ニ對シテモ未確定ノモノトス(町村制三十二年十月二十三日)

二 知事ハ選舉ノ効力ニ關シ異議アルトキハ當選証書交付後ト雖本條ニ依リ參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得(三十三年二月十四日)

三 郡長ニ於テ異議アルトキハ本條及郡制第二百五條ニ依ルモノトス(三十三年三月十九日)

四 舊郡制ニ依リ執行シタル選舉ノ効力ニ關スル訴訟ハ新郡制ノ施行ト共ニ目的物消滅ス(三十三年四月六日)

五 判決確定後同一ノ請求ハ目的物消滅トス(三十三年四月十一日)

六 適法ニ訴願ヲ經由セサル行政訴訟ハ受理セス(三十三年五月二日)

七 期限經過後ニ提出シタル訴願ヲ受理スヘキ宥恕ノ事由アリヤ否ヲ定ムルハ行政廳ノ職權ニ屬ス(三十三年五月九日)

八 郡制施行ノ際郡參事會成立セサルトキニ於テ郡長カ與ヘタル決定ニ原因スル訴訟ニ付テハ郡參事會ハ答辨ヲ爲スノ義務アリ(三十三年五月十四日)

九 出訴期限ヲ經過シタル訴訟ハ受理セス(三十三年五月二十三日)

十 郡長ニ於テ異議ヲ郡參事會ノ決定ニ付スルトキハ投票等ノ提出ヲ選舉長ニ命スルノ權アリ(三十三年六月二十七日)

十一 郡會議員選舉ニ關スル事務ハ村長ノ職務ニ屬ス(同上)

十二 投票ノ効力ニ關スル選舉掛ノ議決ニ對シ異議ノ申立アルトキ其當否ヲ裁決スルハ上級廳ノ職權ニ



屬ス(三十三年七月五日)  
 〇 選舉ノ効力ヲ判定スル爲メ必要ナルトキハ爭ヒナキ投票ト雖モ其効力ノ有無ヲ判定スルコトヲ得  
 (三十三年七月九日)  
 二 選舉ノ異議申立委任狀肩書(三十三年七月十日)  
 二 選舉ノ異議申立委任狀代理權限ノ範圍及追加申立効力(同上)  
 三 當選者タルコトヲ爭フ原告カ行政訴訟中議員ノ職ヲ辭シタル時ハ其訴訟ノ目的ハ消滅ニ飯ス(三十三年十二月二十六日)  
 三 當選ノ當否ヲ決定スルニハ何人ハ正當ニ有効投票ノ多數ヲ得タルヤヲ判斷セサルヘカラス(三十四年二月二十日)  
 四 府縣參事會ハ訴願ニ係ル選舉會及郡參事會ニ於テ議決シタル投票ノ効力ヲ審査スルノ權能ヲ有ス  
 (三十四年二月二十日)  
 五 府縣參事會ニ於テ甲ヲ當選者ト爲シタル郡參事會ノ決定ヲ取消シ乙ヲ當選者ト爲スノ裁決ヲ與ヘタル場合ニ在リテハ甲ヲ當選者ト定メタル選舉會ノ議決ハ自ラ廢棄セラレタルモノトス(三十四年二月二十日)

**判決理由**

一 被告郡長ニ於テ本件ハ選舉ノ効力即チ結果ノ異議ニ外ナラスシテ郡長ハ選舉會場一部ノ整理ヲ爲スニ止マリ其結果ハ當選人ノ確定ニ歸スルモノナレハ當ノ敵タルヘキモノハ此實權者ニ歸セサル可カラスト云フト雖モ府縣會議員ノ選舉ハ郡ニ在テハ郡長ヲ會長ト爲スヘキハ府縣制第三條(本制第二十五條ニ該當ス)ヲ以テ命スル所ナリ而シテ本案原告ノ請求ハ選舉會ニ違法アリト主張スルモノナレハ其當務者タル會長即チ郡長ニ於テ其責任ヲ縣知事ニ讓ルコトヲ得可カラサルモノトス依テ

原告ノ請求ニ對シ被告ニ於テ本案ノ答辯ヲナス可キハ當然ノ責務ナリトス

二 本件所爭ノ要點ハ某ノ得點中一票ノ裏面ニ記セル文字ハ選舉會ニ於ケル投票點檢ノ以前ヨリ存在セシモノナルヤ否ヤニ在リトス而シテ被告ハ選舉會閉會ノ後選舉人ノ申立ニ依リ更ニ之ヲ調査セシニ果シテ其記入アルヲ發見シタル以上ハ假令議事録ニ此事ヲ記載セストモ是即チ選舉ノ効力ヲ爭フヘキ證據物ナリ隨テ縣參事會カ該票ヲ無効ト認定セシハ不當ノ裁決(本條ノ決定ニ該當ス)ニアラスト云フト雖モ元來選舉會場ニ於テ既ニ投票ヲ點檢シ當選人ヲ報導シ議事録ヲ作り閉會ヲ告ケ渾テ式ノ如ク選舉ヲ結了シタルヲ以テ投票ハ總テ廢止ト見做シ閉會後ニ之ヲ封緘シタルモノナレハ若閉會後投票無効ノ原因アリト主張スルモノハ確固タル證據ナカルヘカラス即チ其得點ノ一票裏面ニ記入セル文字ハ其選舉ノ當時既ニ記入セル事ヲ證明セサルヘカラス然ルニ縣參事會裁決(即チ決定)ニ依ルモ被告陳辯ニ依ルモ當ニ裏面ノ文字今日現在スト云フニ止マリ其投票ノ當時ニ記入セシ證據ナキモノナレハ無効ノ投票ト爲スヲ得サルモノトス

三 訴願ニ對スル縣參事會ノ裁決ノ取消ヲ求ムル訴訟ト雖モ其目的カ郡會議員選舉ノ取消ニ在ルハ之カ選舉會長タル村長ヲ被告トスルモ不當ニアラス又選舉ノ効力ニ關スル訴訟ハ其選舉人中ヨリ訴願ノ手續ヲ爲シタル以上ハ他ノ選舉人ハ何時ニテモ之ニ加入スルヲ得ルモノトス

四 原告ハ縣參事會ニ於テ某等カ訴願ノ項目トモ爲サス郡參事會ノ裁決(決定)ヲ經サル論點ニ付キ裁決ヲ爲シタルハ不當ナリト云ト雖モ本件ハ選舉ノ効力ニ關シ某等ヨリ提起セル訴願ニ基因スルモ要スルニ郡制二十二條(即チ本條ニ該當ス)ニ依リ選舉ノ効力ヲ爭フモノナレハ同人等ヨリ特ニ法律違反ノ事ヲ申立サルモ縣參事會ニ於テ訴訟審理ノ際本件選舉規定タル郡制第十六條(本制第九條ニ該當ス)ニ違背シタルヲ發見シ之ニ付キ裁決ヲ爲シタルモノナレハ訴願ノ範圍外ニ涉ル裁決ナリト云フヲ得ス



- 五 選舉ノ効力ニ關シ自ラ訴願ヲ爲ササルモ他ノ選舉人カ訴願ノ手續ヲ經タルトキハ其選舉人ト共ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得
- 六 原告訴求ノ要旨ハ某ハ府縣制第四條第一項(即チ本制第六條第二項ニ該當ス)ノ要件ヲ具備セザルニ因リ同人ヲ以テ當選人ト爲セシハ全ク投票ノ査定ヲ誤リタルモノナルニ付キ之ヲ除ケハ則チ有効投票ノ多數ヲ得タル原告ヲ以テ當選人ト指定ス可キハ勿論ノ次第ナルニ被告ハ右某ノ當選無効ヲ以テ議員中關員ヲ生シタル場合ト同一視シ更ニ某郡選出縣會議員ノ補闕選舉ヲ執行セシメタルハ頗ル不當ニ付其取消ヲ要ムト云フニ在レトモ府縣會議員選舉ノ効力ニ就テハ府縣制第十一條及第十四條(即チ本條ニ該當ス)ニ從ヒ先ツ府縣參事會ニ訴願シ(本條ニ所謂異議ノ申立)其裁決(本條ノ決定ニ該當ス)ヲ受ケ尙ホ不服ナル場合ニ於テ始メテ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルモノニシテ初ヨリ直ニ行政裁判ニ出訴ス可キモノニアラス
- 七 原告訴求ノ要旨ハ當選人某ハ府縣制第四條(本制第六條ニ相當ス)ノ資格ヲ具ヘサル者ニシテ同人ニ對スル投票ハ無効ナリト思料スルニ付右某ノ當選ヲ取消シ原告ヲ以テ當選人ト指定ス可キ旨ヲ被告ニ訴願(異議ノ申立)セシ處被告ハ願意ノ一部ヲ容レ某ノ當選ヲ取消シタルトモ縣參事會ハ當選人ヲ定ムル裁決(決定)ヲ爲スノ權限ナシトノ趣旨ヲ以テ原告ヲ當選人ト指定スル裁決(決定)ヲ爲サス然レトモ某ノ當選ニシテ既ニ取消ト爲リタル以上ハ有効投票ノ多數ヲ得タル原告ヲ以テ當選人ト定ムヘキハ言ヲ俟タサル次第ナルニ付右縣參事會ノ裁決(決定)ヲ取消シ原告ヲ以テ當選人ト爲ス可キモノナリトノ裁判ヲ受ケタシト云フニ在レトモ本件ノ如ク被選權ノ有無並ニ選舉ノ効力ニ付些モ争フ所ナク單ニ當選人ノ指定ヲ請求スルニ止マル事件ニ付テハ府縣制ハ勿論他ノ法律勅令中行政訴訟ヲ許スノ規定ナキヲ以テ本件ハ之ヲ受理スル限ニラス
- 八 舊郡制第二十五條ニ依リ縣參事會ノ裁決ニ對シ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ルモノハ選舉人若

- ハ被選人ニ限リ訴願ノ前裁決者タル郡參事會ニ出訴ヲ許シタル規定無シ
- 九 本件ノ争點ハ一定ノ選舉事件ニ付甲乙二個ノ訴願起リ甲訴願ノ裁決ニ對シ不服ヲ申立ル者ナク法定ノ期間經過シタルトキハ乙訴願ノ裁決ニ對シ上級廳ニ提起シタル訴願ハ之ヲ却下スヘキヤ否ニ在リ按スルニ選舉ノ効力ヲ目的トスル訴願ハ訴願者ニ係ル關係ノ効力ヲ争フニ非スシテ選舉其モノノ効力ヲ絕對的ニ争フモノトス從テ同一選舉事件ニ付二個以上ノ訴願起リタル場合ニ於テ其中一個不服ヲ申立テラレサル裁決アルモ爾餘ノ裁決ニシテ不服ヲ申立テラレタル以上ハ選舉ノ効力ハ何人ニ對シテモ未タ確定セサル者ナルカ故ニ獨リ不服ヲ申立テラレタル裁決ヲ受ケタル者ニ對シテ確定スルノ條理ナシ換言スレハ數個訴願ノ全體結局ニ至ラサレハ選舉ノ効力確定セサルカ故ニ其中一個訴願訴訟繫屬中ノモノアルトキハ不服ヲ申立テラレサル裁決ハ確定効力ノ發生ヲ妨ケラル可キモノトス
- 一〇 原告ニ於テ本條ニ當選ノ効力ニ關スル異議云々トアルハ當選後未タ當選證書ヲ受ケス隨テ議員タル資格ヲ得サル場合ニ於ケル争議ヲ決定スヘキ旨趣ニシテ本件ノ如キ既ニ當選證書ヲ受ケ隨テ議員タルノ資格ヲ得タル場合ニ於テハ第三十七條ニ依リ決定ヲ與フヘキモノナリト云ト雖モ本條第三項ニ依レハ府縣知事ハ選舉ノ効力ニ付キ異議アルキハ一定ノ期限内ニ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スルコトヲ得ルモノナレハ該法定期限内ニ在リテハ當選證書交付後ト雖モ本條ニ依リ決定ニ付スルコトヲ得ルモノト解釋セサルヘカラス而シテ本件ハ右期限内ニ付議シタルモノナレハ法廷ノ手續ニ違背シタルモノニ非ス
- 一一 被告(縣知事)ハ郡長カ郡會議員選舉ヲ無効ト爲シタルハ郡制第二十三條第百二十五條ニ依リタルモノニアラサレハ原告ハ出訴スルコトヲ得サルモノナリト云フト雖モ郡長カ之ニ依ラスシテ爲シタリト認ムヘキ證據ナキノミナラス郡長ニ於テ選舉ヲ無効トスルハ右二箇條ニ依ルノ外他ニ途ナキ



ヲ以テ之ニ依ラサルモノト認ムルヲ得サルニ依リ原告ハ訴權アルモノト謂ハサルヲ得ス又被告ハ該選舉ハ其管理者ニ於テ擅ニ投票時間ヲ短縮シ選舉ヲ中止シタル爲メ選舉人總數百二十名中四十名ハ任意ノ投票ヲ爲シ得スシテ終了シタルモノナリト云フモ其證據タル附屬書類ニハ『一時中止シタル爲メ既ニ入場券ヲ受取リタル者五名其他受附所ヨリ退去シタルモノ凡十名位ト思量セリ』トアルノミニシテ中止シタル爲メ止ムコトヲ得スシテ退去シタルヤ將タ任意ニ退去シタルヤ明カナラサレハ本件ノ證據ト爲シ難ク又附屬書類ニハ『立會人ハ投票所ヲ立去リ投票者ハ三々五々門外ニ退去シ全ク投票事務ハ絶斷セラレ到底其回復ノ効ナキヲ認メタリ』『特ニ投票中止ト同時ニ投票ノ揭示表札ノ如キニ至ル迄撤去セリ』云々トアルトモ選舉錄ニ依レハ『午後二時中止ノ說ヲ取消シ投票ヲ繼續スル事ニ決シ投票者續々入場セリ』トアルヲ以テ是亦被告ノ主張ヲ認ムヘキ證據トナスニ足ラス從テ其選舉ハ取消スヘキモノニ非ス

三 原告訴求ノ要旨ハ二十九年九月二日甲村村長某カ甲村村會乙村村會同選舉長ト爲リ執行シタル郡會議員ノ選舉ハ無効ナリトノ判決ヲ求ムト云フニ在レトモ本件ハ三十二年法律第六十五號新郡制ノ施行セラレタル上ハ其結果トシテ訴訟ノ目的物消滅シタルモノナルニ依リ裁判スヘキ限ニアラス

三 選舉効力ニ關スル訴訟ニ對シ行政裁判所ノ確定判決アリタル以上ハ同一ノ選舉ニ對シ他ノ原告ヨリ出訴シタル同一ノ請求ハ其目的物消滅シタルモノトス

四 原告乙者請求ノ要旨ハ郡參事會ノ職權ヲ以テ某郡長カ爲シタル某村選舉會ニ於テ査定シタルハ郡會議員當選人甲者ノ當選ヲ取消ストノ判決アリタシト云フニアレトモ本件ハ縣參事會ノ判決ヲ非認スヘキ原告ノ舉證ナキヲ以テ訴訟ノ際訴訟法第二條第二項ニ從ヒ郡參事會ヲ經由シタルモノト認ムルヲ得ス仍テ本訴ハ受理スヘキ限ニアラス

五 原告陳述ノ要旨ハ某村ニ於テ執行シタル郡會議員ノ選舉ハ違法ナルニ付異議ヲ申立テ郡參事會ノ

決定ヲ經テ縣參事會ニ訴願ヲ爲シタルニ其提出ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由セサルヲ以テ却下セラレタリ如何ニモ原告カ直接ニ縣參事會ニ提出シタルハ手續ヲ過リタルニ相違ナキモ縣參事會ノ手申ニ二十八日間受付ノ儘放置セラレタルカ爲期限經過シタルニ付訴願却下ノ後訴訟法第八條ニ依リ期間經過ニ宥恕ノ申立ヲ爲シタルモ是亦却下セラレタルハ不當ナリ依テ本件選舉ハ無効ナリトノ裁判ヲ求ムト云フニ在レトモ訴訟法第八條ニハ『行政廳ニ於テ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得宥恕ヲ爲スト否トハ行政廳ノ職權ニ屬スルヲ以テ被告カ宥恕ヲ爲スヘキ限ニアラストシテ却下シタルハ不當ニ非ス從テ本訴ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルヲ以テ行政裁判法第二十七條ニ依リ之ヲ却下ス

六 被告(郡參事會)ハ當初郡長カ選舉効力ニ關スル異議ノ申立ニ對シ決定ヲ爲シタル郡參事會成立以前ニ在リテ法律ノ委任ニ依ルモノナレハ其行爲ハ全然郡長ノ職務ニ專屬シ從テ其責任モ亦終始郡長ニ歸セサル可ラスシテ之ヲ他ニ嫁スルヲ得ス故ニ該決定ヲ不服トスル訴訟ハ責任者タル郡長ヲ措テ他ニ之カ對手人タルヘキ者ナシト云フト雖モ本件選舉ハ郡制施行ニ際シ郡參事會未タ成立セサル時ニ執行シタルモノナレハ郡長カ選舉ニ關スル異議申立ヲ決定シタルハ即チ郡制第百二十五條ニ基キ郡參事會ニ代リ當然爲スヘキ職務ヲ行ヒタルニ外ナラス然ラハ其事務ヲ繼承シタル今日ニ於テ郡參事會ハ被告ノ位地ニ立チ答辨スルノ義務ナシト云フヲ得ス

七 原告訴求ノ要旨ハ縣參事會カ三十三年三月十六日爲シタル裁決ヲ取消シ其外四名カ三十二年十月五日爲シタル郡會議員選舉投票効力ニ關スル異議ノ申立ヲ却下スヘシトノ判決ヲ請フト云フニ在レトモ本件縣參事會ノ裁決ハ三十三年三月十六日附ニシテ原告カ其送達ヲ受ケタルハ同年四月廿四日ナルヲハ訴狀ニ明記スル所ナリ依テ本訴ハ三十三年三月二十五日ヨリ起算シ郡制第百九條ニ定ムル所ノ出訴期限二十一日ヲ計ヘ更ニ民事訴訟法第六十七條ノ規定ヲ適用シ原告ノ住居地ト裁判所々



在地ト距離二十七里路程八里毎ニ一日ノ仲長期間四日ヲ加フルモ同年四月十八日マテニ本訴ヲ提出スヘキモノトス然ルニ原告カ訴狀ヲ當裁判所ニ提出シタルハ同年四月二十四日ニシテ既ニ法定ノ期限ニ在ラス

一八 原告ハ當選ノ效力ニ關シ異議ノ申立アリタル場合ハ郡長カ之ヲ郡參事會ノ決定ニ付スヘキハ郡制第二十三條ノ規定スル所ナルモ郡長カ選舉長ヲシテ先ツ投票及關係書類ヲ提出セシムヘシトノ規定ナキヲ以テ郡長ノ命令ニ對シ提出ヲ拒絕スルモ法律上何等ノ不法ナシト論スルモ同條第二項ニ依リ郡長ニ於テ選舉若ハ當選ノ效力ニ關スル異議ニ付郡參事會ノ決定ニ付スルニハ之カ必要ナル投票及關係書類ヲ選舉長タル村長ヨリ提出セシムルノ權利アル者ニシテ尙ホ本件ハ當時郡參事會ノ未タ成立セサルヲ以テ郡制第百二十五條ニ依リ郡長ハ郡參事會ノ職務ヲモ行フモノナレハ郡長カ裁決ヲ爲ス爲メ必要上投票並ニ關係書類ノ提出ヲ命スルニ當リテハ選舉長タル原告村長ハ之ヲ拒ムヲ得サルモノトス又原告ハ本件ハ町村行政上ノ吏員即チ村長タル職務上ノ行爲ニアラサルヲ以テ原告ニ多少ノ過失アリトスルモ町村制第百二十八條ヲ適用スヘキモノニ非サルニ同條ニ依リ其情狀重キモノトシテ解職シタルハ不當ナリト論スルモ本件郡會議員ノ選舉ノ如キハ即チ郡制第十條乃至第十三條ノ規定ニ依リ當然原告村長ノ職務ニ屬スルモノナルヲ以テ前段説明ノ如ク原告カ提出ノ義務アルニ拘ラス上司タル郡長ノ命令ヲ拒ミタルヲ理由トシテ町村制第百二十八條ニ依リ其情狀重キモノト認メ解職シタルハ不當ニアラス又原告ハ懲戒裁判ハ郡長ノ審問ナク郡參事會ノ裁決ナキハ不法ナリト論スルモ被告カ提供スル審問書及其他ノ證據書類タル原告ノ答辯書ニ依レハ郡長カ審問ヲ爲シタル事明カニシテ當時郡長ハ郡參事會ノ職務ヲ行フモノナルヲ以テ原告ノ主張ハ其理由ナシ又原告ハ解職ノ如キ事體ノ重大ナルモノハ郡參事會ノ成立ノ後ニ於テ爲スヘキモノニシテ郡長ノ專決ヲ許ササルモノナルニ之ヲ決行シタルハ郡制第百二十五條ヲ濫用シタル不法ノ裁判ナリト論スルモ事ノ重大ナ

ルモノニ對シテ本條ヲ適用スルヲ得ストノ規定アルニアラサレハ被告ニ對シ本件懲戒裁判ヲ爲シタルハ不法ト云フヲ得ス

一九 原告ハ選舉掛ニ於テ無効ト決シタル投票幾何ハ公平且慎重ニ論議シタル上之ヲ無効トシ以テ原告ヲ當選者ト定メタル事理顯然タルニ關ラス被告カ徒ラニ選舉掛ノ職權ヲ無視シ且投票ノ再調査ヲモ爲サス訴願人ノ請求相立タスト爲シタル裁決ハ不公偏頗ニ出テタルモノナリト云フト雖モ選舉掛カ議決シタル投票ノ効力有無ニ付異議ノ申立アル場合ニ於テ上級廳カ之ヲ裁決スヘキハ當然ノ職權ナリ故ニ選舉掛ノ職權ヲ無視シタリト謂フヲ得ス

二〇 原告ハ縣參事會ニ於テ無効投票ト決定シタル二十二票ノ内三票ハ自己ノ得票中ニ加算スヘキモノニシテ之ヲ加算スルトキハ得票數ハ六百七十四點ト爲リ此内ヨリ無資格者ノ投票四點ヲ控除スルモ某ノ得票數六百六十八點ニ比シ尙多數ナレハ選舉ノ結果ニ影響ヲ及ホス所ナシト云フト雖モ該二十二個ノ投票ヲ査閱スルニ原告指ス所ノ三票ハ其得點ト認ムルニ足リ計六百七十四個ノ得票ナリ然レトモ其ノ得票ト認ムヘキモノモ亦五票アリ計六百七十三票ノ得票ト爲レリ原告ハ何人モ之ヲ有効ナリト主張セサルヲ以テ裁判所ニ於テ之ヲ有効ト爲スヘキモノニ非スト云フモ裁判所ハ選舉ノ結果即チ當選ノ正否ヲ査閱スル場合ニ於テ彼是公平ノ認定ヲ爲スヘキハ當然ナリトス因テ原告ト某トノ得票總數ヲ比較スレハ僅々一票ノ差アルノミニシテ此内ヨリ無資格ノ投票四個ヲ控除スルトキハ尙選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルヲ免レス故ニ本件縣會議員ノ選舉ヲ無効ト決定シタル被告ノ決定ハ取消スヘキモノニアラス

二一 甲某外七名ハ實際選舉人タル以上ハ委任狀ノ肩書ニ誤記アリテ訂正ノ手續ニ不充分ノ点アリトスルモ之カ爲メニ議員選舉異議ノ申立ヲ爲スノ權能ヲ失フモノニアラス甲某外七名カ爲シタル異議申立ニ關シテハ乙某ハ其委任ヲ受ケアリテ其委任狀ノ趣旨ニ依レハ追加申立ヲ爲ス如キハ該委任ノ權



限内ニ屬スルモノナレハ特ニ代理ノ資格ヲ表示セサルモ右追加申立ハ代理行爲ト認メサルヲ得ス又原告ハ追加申立書ノ日附ニ陳辨スル所アルモ該申立書ハ乙某カ代理者トシテ提出シタルモノナレハ本人甲某等カ提出シタルト同一ナルヲ以テ仮令當該官廳カ十月十六日ニ受理シタリトスルモ異議ノ決定以前ニ係ルヲ以テ之カ提出ヲ妨ケサルモノトス

三 自己カ當選舉者タラントヲ求ムル訴訟目的ニ關シ其訴訟中郡會議員ノ職ヲ辞シタルモノハ訴訟ノ目的ハ既ニ消滅ニ皈シタルモノナリ

三 原告ハ被告カ原告ノ異議申立以外ニ涉リ且曩ニ無効ト確定シタルニモ拘ハラス十七票ヲ今峯儀造ノ得票ナリト決定シタルハ越權不法ナリト主張スト雖原告カ被告ニ對シ今峯儀造ノ當選ヲ無効トスルノ決定ヲ求メタルコトハ異議申立ニ依リ明ニシテ即原告ノ爭フ所ハ今峯儀造カ當選ノ効力如何ニアルヲ以テ其當否ヲ決定センニハ何人カ正當ニ有効投票ノ多數ヲ得タルヤヲ判斷セサルヘカラス故ニ被告カ原告ノ申立ニ係ル次点者中村敬一ノ得票ヲ調査スルト同時ニ今峯儀造ハ果シテ有効投票ノ多數ヲ得タルモノナルヤ否ヤヲ審査判斷スヘキハ審理上當然ノ筋合ナルヲ以テ被告ノ處置ハ不法ナリト云フヲ得ス

二 郡制第二十三條ノ規定ニ依レハ其議決ノ結果ヨリ生スル當選ノ効力ニ關シテハ選舉人ニ於テ異議ノ申立ヲ爲シ得ヘキモノニシテ又當選ノ効力ニ關シテ異議ノ申立若ハ訴願アル時ハ郡參事會又ハ府縣參事會ハ之ヲ決定若ハ裁決スヘキモノナルコトハ明カナリ故ニ選舉會ニ於テ議決シタル投票ノ効力ニ就テモ之ヲ審査スルノ權能アルヲ以テ被告府縣參事會カ本件選舉會及郡參事會ニ於テ無効ト決シタル投票二十一票ヲ更ニ有効ト決シタルハ選舉立會人ノ權能ヲ侵シタルニアラサレハ毫モ不當ト云フヲ得ス

二 原告ハ被告ノ裁決ハ郡參事會ノ決定ヲ取消シタルノミニシテ選舉會ノ議決ヲ取消シタルニアラサ

ルヲ以テ其議決ハ依然効ヲ有シ甲カ當選者タルニ拘ハラス更ニ乙ヲ當選人ト裁決シタルハ不當ナリト云ヒ被告裁決ノ主文ニ甲ノ當選ヲ取消ス旨ノ記載ナキハ稍明瞭ヲ欠クモノ、如クナル者モ郡參事會ハ選舉會ノ議決ヲ是認シ甲ノ當選ヲ有効トシタルニ之ニ對シ異議申立入ハ被告ニ訴願シ該決定ヲ取消シ乙ヲ當選者ト爲サンコトノ裁決ヲ求メタルモノニシテ選舉會ノ議決ト郡參事會ノ決定ト同一ニ歸セシ者ナレハ被告ニ於テ郡參事會ノ決定ヲ取消シ乙ヲ當選者ト爲シタルニ於テハ其結果トシテ甲ノ當選ハ取消サレタルモノナレハ選舉會ノ議決ハ自ラ廢棄セラレタルモノト謂ハサルヲ得ス

第三十五條 選舉ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ其ノ選舉ヲ無効トス但シ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞ナキモノハ此ノ限ニ在ラス當選者ニシテ被選舉權ヲ有セサルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

判決要領

- 一 成規ノ用紙ヲ用キサル投票アルトキハ其投票ノミヲ無効トスヘキモノトス(三十三年二月十四日同三月十六日及四月二日)
- 二 無資格者ノ爲シタル投票アルモ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セサルトキハ其選舉ハ無効ニ非ス(三十三年六月二十二日)
- 三 投票用紙ノ裏面ニ算用數字ヲ記入シタル投票ハ無効ナリ(三十三年七月十日)
- 四 無効ノ投票アリテ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スル場合ニ於テハ其選舉ノ全体ヲ無効トスヘキモノトス(三十三年七月十日)
- 五 郡參事會カ郡會議員當選効力異議ノ申立ヲ受ケタル場合ニ於テ得票ノ効力ニ關スルトキハ之ヲ審査スルニ方リ更ニ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スヘキヤ否ヲ檢案シ選舉ノ効力ノ有無ヲ決定シタルハ違法



- ニアラス(三十四年五月三日)
- 六 過剩投票アルモ之ヲ控除シ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セサルトキハ該選舉ハ有効ナリ(三十四年五月十七日)
- 六 止ヲ得サル事實アリテ選舉開會時刻ヲ遲延シタルハ規定違背ニアラス(同上)
- 七 選舉區内ノ一投票所ノ選舉カ定規ニ違背シタル場合ト雖選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アルトキハ本條ニ依リ其選舉全体ヲ無効ト爲スヘキモノトス(三十四年五月三十一日)
- 八 投票管理者タル村長カ瑕瑾ノ取扱ヲ爲スモ一私人ノ爲シタル何等ノ効ナキ選舉行爲ト云フヲ得ス(三十四年六月三日)

判決理由

一 本件ノ所争ヲ斷スル要點ハ縣會議員選舉ノ際成規ノ用紙ヲ用キサル投票アルトキハ本條第一項ノ規定ニ該當スルヤ將タ同制第二十七條ノ規定ニ依リ其投票ノミヲ無効ト爲ス可キヤ否ヤニ在リ依テ按スルニ投票ノ無効ナル場合ニ在テハ本條第一項ノ規定ニ依リ選舉ノ全部ヲ無効ト爲スヘキモノニアラスシテ單ニ無効投票ノミヲ控除シ當選者ヲ定ム可キ筋合ナルヲ以テ本件ノ如キハ制第二十七條第一號ニ該當スル投票ヲ控除シテ當選者ヲ定ムルニ止マリ本條ノ規定ニ依リ選舉ノ結果如何ニ論及ス可キモノニアラス故ニ被告ノ裁決ハ結局選舉全部ヲ無効トスヘキモノニアラスト云フニアレハ之ヲ取消ス可キ理由ナキモノトス

二 原告ハ本件選舉ニ於テ無資格者ノ投票アルヲ以テ選舉ハ根本ニ於テ違法ナリ且選舉ノ結果トハ選舉ヲ終了シ有効投票ヲ調フルヨリ當選者ヲ定ムル迄ノ謂ニシテ單ニ當選ノ結果ノミニアラスト云フト雖モ府縣制第三十五條但書ニ所謂選舉ノ結果ニ異動云々トアルハ選舉ノ結果ヲ指シタルニ外ナラス而シテ無資格者ノ投票ハ其違法タルヲ勿論ナルモ之カ爲メ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セサルトキハ選

舉ヲ取消スヘキモノニ非ス然ルニ本件選舉ニ於テハ無資格者ノ投票三票ニ過キササルヲ以テ之ヲ假リニ當選者中最少數得點者ノ投票中ヨリ控除スルモ尙次點者ノ投票ヨリ多キヲ以テ選舉ノ結果ニ異動ヲ生セサルコト明ナリ故ニ被告カ本條第一項但書ニヨリ本件選舉ヲ無効トスヘキ限リニアラスト決定シタルハ不當ニ非ス

三 投票用紙ノ様式一定シアリテ其用紙ニ數字ヲ記載スル如キハ該様式ニ於テ毫モ認ムル所ニアラス而シテ本件各投票用紙ノ裏面下部ニ算用數字ヲ以テ一ヨリ一九二迄ヲ格別ニ記入シアルハ其之ヲ記載シタル者ハ原告ナルト投票人ナルトヲ問ハス投票ヲ爲ス當時ニ被選舉人氏名以外ニ選舉ニ必要ナキ事項ヲ記入シタルモノナレハ該投票ハ何レモ他事ヲ記入シタルモノニシテ郡制第十六條第五號ノ規定ニ違背シタル無効ノ投票ナリトス原告ハ投票用紙ノ裏面ニ記入シタルハ何等ノ關係ナキモノ、如ク論スルモ其裏面ノ記載モ是レ等シク投票中ニ他事ヲ記入スルモノナレハ本件記入ノ數字カ投票用紙ノ裏面ニアルノ故ヲ以テ法律ノ規定ニ違背シタルモノニアラスト云フヲ得ス然ラハ本件投票ハ自ラ無効ニ歸スヘキモノトス

四 本件選舉ハ當選者甲某ノ得票ト次點者乙某ノ得票ト僅ニ一票ノ差異ニシテ其無効投票三個ハ何人ノ投票ニ飯シタルヤヲ知ルニ途ナキモノナレハ則チ府縣制第三十五條ニ該當スル投票ナルヲ以テ之ヲ無効トスヘキモノトス第二原告ハ飯ニ三個ノ不正投票アリトスルモ當選者丙某ト次點者乙某トノ投票ノ差ハ三十七票ノ多キニ在ルモノナレハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スヘキモノニアラサルニ被告ハ丙ノ當選迄無効ト決定シタルハ不當ナリト論スレトモ府縣制第三十五條ニ所謂選舉無効ハ選舉全体ヲ指シタルモノナレハ其選舉カ他ノ點ニ於テ無効ニ飯スル以上ハ丙ノ當選ヲ有効ナリト云フヲ得ス

五 原告ニ於テ本件異議申立ハ當選無効ニアルヲ被告カ郡制第二十四條第一項ト第二項トノ適用ヲ誤リタルハ規定ニ違背セル決定ナリト云フト雖本件當初ノ異議某ノ當選無効ノ申立ニ止ルモ其問題タ



ル同人ノ被選舉權有無ニアラスシテ其得票ノ効力ニ關スルモノナレハ之カ決定ヲ爲スヘキ郡參事會ニ於テ訴願ヲ審査スルニ方リ更ニ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スヘキコトヲ檢舉シ選舉効力ノ無効ヲ決定シタルハ當然ナリ故ニ郡制第二十四條第二項ニ依ラスシテ其第一項ニ依ルヘキハ勿論ニシテ規定ニ違背セシモノト謂フ得ス

六 被告ハ原告ノ得タル有効投票四十三票ニ尙有効ノ投票ト認知シ得ヘキニ票ヲ加ヘ都合四十五票ト爲ルモ投票全數ニ於テ一票ノ過剩アリシヲ假リニ原告ノ得票中ニ在リトシ之ヲ除却シ又甲ノ有効得票ハ四十三票ナレトモ選舉當日開會時刻遲延ノ爲投票ヲ爲シ得サリシ某甲ニ投票スヘキモノト假定スレハ則四十四点ト爲リテ原告ト同數ナリ且乙外二名ノ不參ハ任意ニ選舉權ヲ拋棄シタルモノト認ムル能ハサルニ由リ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アリト云フト雖選舉會ノ開始カ一時二十五分間遲延シタルモノトスルモ投票時間ハ尙數時間ノ殘餘アルモノナレハ某外三名ノ不參ハ選舉權ノ行使ヲ全ク障害セラレタルモノニアラスシテ任意ニ其權利ヲ拋棄シタルモノト爲スヲ相當トス又其開會時刻ヲ遲延シタルハ立會人ノ遲參ニ因テ生シ止ムヲ得サル事實ナレハ規定ニ違背シタルモノト爲スニ足ラス故ニ甲ノ投票ハ四十三票原告ノ投票ハ四十五票ニシテ過剩投票一票ハ原告ノ得票ニ存在スルモノトシテ之ヲ控除スルモ原告ハ尙有効投票ノ多數ヲ得タルモノナルコト明カナルヲ以テ其當選ニ異動ヲ生スルコトナシ然レハ本件選舉ハ無効ト爲スヘキ理由ナキモノトス

七 本件所争ノ要點ハ選舉區内ノ一票所ニ於ケル選舉カ規定ニ背キ且選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルカ爲メ府縣制第三十五條ニ依リ選舉ヲ無効トスル場合ニ於テ選舉區全部ノ投票ヲ無効トスヘキヤ將タ一票所ノ投票ノミヲ無効トスヘキヤ否ニ在リ而シテ被告ハ本條ニ所謂選舉無効トハ其瑕瑾ノ影響スヘキ區域ヲ意味スルモノニシテ即チ其瑕瑾カ選舉全体ニ關スルトキハ其全部又一部ノミニ關スルトキハ其一部ノ選舉ヲ無効ナラシムルノ旨趣ナリト云フト雖府縣制第三十五條ニ所謂選舉無効トハ

選舉全体ヲ指シタルモノナレハ其瑕瑾カ一部ニ存スルト否ト問ハス苟モ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スヘキ處アルトキハ選舉全体ヲ無効トセサルヘカラス故ニ本件ノ場合ニ於テ被告カ一票所區内選舉ノミヲ取消シタルハ其當ヲ得タルモノニ非ス

八 原告ニ於テハ第一村長カ同村ニ於ケル投票管理者トシテ縣會議員ノ選舉投票ヲ爲サシムルニ方リ既ニ選舉シタル投票ヲ無効ナリト決定シ擅ニ投票函ヲ開キ函中ノ投票悉皆ヲ燒燬シタル後府縣知事ノ告示ヲ待タス直ニ再度ノ投票ヲ爲サシメタル行爲ハ背法越權ニシテ結局一私人カ自擅ノ行爲ト均シク選舉行爲トシテ何等ノ効力ナキモノナリト云ヘリ按スルニ投票管理者タル村長カ選舉執行中投票函ヲ開キ在中投票ヲ無効ナリトシテ悉皆之ヲ燒燬シタル後兩ヒ選舉人ヲシテ投票ヲ爲サシメタル行爲ハ府縣制第二十五條第二十八條及第十三條ノ違背ニシテ同制第三十五條ヲ以テ論スヘキ瑕瑾アル行爲タルヤ勿論ナリト雖投票管理者カ私意ヲ掃ミテ爲シタルニアラス單ニ職務執行上ノ過失タルニ過キササルモノナルカ故ニ之ヲ以テ一私人ノ行爲ト均シク選舉行爲トシテ何等ノ効力ナキモノナリト謂フヲ得ス

第三十六條 選舉若ハ當選無効ト確定シタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ但シ得票數ノ査定ニ錯誤アリタル爲又ハ選舉ノ際被選舉權ヲ有セサル爲當選無効ト確定シタルトキハ第二十九條及第三十一條ノ例ニ依ル

判決要領

- 一 再選舉ハ特ニ明文アルト否ト問ハス前選舉ノ確定ヲ俟タサルヘカラス (三十一年九月三十日)
- 二 投票査定ノ錯誤ニ本條ヲ適用シタルハ違法ニ非ス (三十二年十一月十一日)

判決理由



一 原告ハ凡ソ行政處分ノ執行ハ停止セサルヲ以テ原則トスレハ前選舉ヲ取消シタルトキハ假令訴願アリタルモ再選舉ヲ命シタルハ不當ニアラスト云フト雖同一ノ選舉事件ニ付二回ノ選舉ヲ行ハシムルトキハ前後選舉ノ結果ニ異同アルヲ免レス故ニ前選舉ノ確定ヲ俟タスシテ再選舉ヲ命スルニ於テハ裁判ノ結果二種ノ當選人ヲ出スノ虞アルヲ以テ選舉ニ付テハ特ニ其明文アルト否トヲ問ハス前選舉ノ確定ヲ俟タサルヘカラス

二 選舉會ニ於テ投票ノ査定ヲ誤リ當選者ヲ決定シタル場合ニ在リテ該選舉ニ對スル訴願ノ裁決ヲ爲スニ當リ縣參事會カ府縣制第二十六條但書ノ規定ヲ適用シタルハ違法ニアラス

第三十七條 府縣 郡 會議員ニシテ被選舉權ヲ有セサル者ハ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ニ關スル異議ハ 府縣 郡 參事會之ヲ決定ス

府縣 郡 會議員ニ於テ其ノ議員中被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキハ之ヲ 府縣 郡 知事ニ通知スヘシ但シ議員ハ自己ノ資格ニ關スル會議ニ於テ辯明スルコトヲ得ルモ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

府縣 郡 知事ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ之ヲ 府縣 郡 參事會ノ決定ニ付スヘシ 府縣 郡 知事ニ於テ被選舉權ヲ有セサル者アリト認ムルトキ亦同シ

本條 府縣 郡 參事會ノ決定ニ不服アル者ハ 府縣 參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ 行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得 前項ノ決定及裁決ニ關シテハ 府縣 知事 郡 長 ヨリモ亦 訴願及 訴訟ヲ提起スルコトヲ得

府縣 郡 會議員ハ其ノ被選舉權ヲ有セストスル決定 若ハ裁決 確定シ又ハ判決アルマテハ會議ニ列席シ及發言スルノ權ヲ失ハス

判決要領

- 一 被選舉權ナシトノ決定アリタルトキ選舉人ヨリ訴願訴訟ヲ爲ス事ヲ得ス(三十三年五月十一日)
- 二 本條第四項ニ依リ縣參事會ノ決定ニ對シ訴訟ヲ提起シ得ル者ハ失職者トセラレタル者若ハ異議ノ當事者ニ限ル(三十三年五月二十一日)
- 三 府縣制實施ノ際府縣參事會ノ職務ニ屬スルコトヲ知事ニ於テ行フコトヲ得ルノ權能ハ府縣參事會ノ成立ト共ニ知事ノ權域ヲ脫スルモノトス(三十三年五月二十八日)
- 四 本條第一項ノ規定ハ決定以前ニ於テ失職者ニ告知ヲ爲シ之ニ對スル異議ノ申立アリタルトキハ始メテ決定ヲ爲スヘシトノ法意ニアラス(二十四年五月廿七日)
- 五 本條議員ノ職ヲ失フニハ初ヨリ被選舉權ヲ有セサルト中途ニテ被選舉權ヲ失ヒタルトヲ區別セス(二十四年十月廿五日)

判決理由

- 一 郡會議員ノ被選舉權ノ有無ニ關シ郡制第二十六條第四項ニ依リ訴願及訟認ヲ爲スコトヲ得ル者ハ被選舉權ナシトノ決定ヲ受ケタル郡會議員自身ニシテ選舉人ヨリハ訴訟ヲ爲スコトヲ得サルモノトス
- 二 原告ハ府縣會議員タル者ハ府縣制第三十七條第一項ニ定ムル所ノ被選舉權ニ關スル異議ヲ主張シ得可キニ依リ同條第四項ニ依リ出訴ノ權アリト言フト雖モ抑モ第一項ハ府縣會議員ノ被選舉權ニ關スル異議決定ヲ府縣參事會ノ權限ニ屬セシムル原則ヲ規定シタルノミナレハ原告陳述ノ如キ一己ノ



議員ニシテ參事會ニ向テ直ニ異議ヲ主張スルコトハ法律ノ許ササル所ナリ隨テ參事會ノ決定ニ對シテハ失職者トセラレタル議員若クハ異議ノ當事者ニ非サレハ同條第四項ニ依リ行政訴訟ヲ提起シ得サルモノト解釋セサルハカラス本件ノ原告某外二名ハ縣會議員タルモ自己ノ被選舉權ニ毫モ關係アルコトナク即チ異議ノ當事者ト爲ルコトヲ得サルモノナレハ本訴ヲ提起スルノ權利ナキモノトス

三 被告ハ法律上附與セラレタル權能ニ基キ失職ノ決定ヲ爲シタルモノナレハ縣參事會成立後ト雖モ其決定ヨリ發生シタル訴訟ニ付テハ被告縣知事ニ於テ其答辯ヲ爲スヘキハ當然ノ條理ナリト云フト雖モ府縣制第四百三條ノ規定ヲ閱スルニ府縣參事會ニ屬スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノハ其成立ニ至ルマテノ間ニ制限セラレタルコト明カナリ左レハ縣參事會カ既ニ成立シタル以上ハ縣參事會ノ職務ニ屬スル事項ハ之ト共ニ縣知事ノ權域ヲ脱シ縣參事會ニ於テ之ヲ承繼シタルモノト云ハサルヲ得ス果シテ然ラハ本訴ニ付キ被告タルノ權義モ亦制第三十七條ノ規定ニ依リ縣參事會ノ職務ニ屬スル事項中ノ一ナルヲ以テ縣參事會ノ成立ト共ニ縣參事會ニ於テ承繼シタルモノト爲スヲ相當ナリトス故ニ被告縣知事ニ於テ本案ノ答辯ヲ爲スハ其當ヲ得タルモノニ非ス

四 原告ハ被選舉權ニ關スル問題ニ付テハ先ツ失職者ニ對シ其告知ヲ爲シ異議ノ申立アリタルトキ始メテ失職ノ決定ヲ爲ス可キモノナレハ原告ニ對シ何等ノ告知ヲモ爲サス直チニ失職ノ決定ヲ爲シタルハ府縣制第三十七條第一項ニ背キタルモノナリト云フモ同條ノ規定ハ決定以前ニ於テ失職者ニ告知ヲ爲シ之ニ對スル異議ノ申立アリタルトキ始メテ決定ス可シトノ法意ナリト解スルヲ得ス

五 原告ハ原告ノ如キ當初選舉權ト被選舉權ヲ有シ一旦有効ニ當選シタル以上ハ中途輕罪公判ニ付セラレタルノ一事ヲ以テ直ニ縣會議員タルノ職ヲ失フモノナリト決定シタルハ不當ナリ又町村制第十二條但書ノ規定ハ町村會議員ノ選舉ヲ爲スニ付テノ要件ヲ掲ケタルモノニシテ本件ノ如キ場合ニ何

等ノ關係ヲ有スル者ニ非スト雖モ町村制第九條及第十二條ノ規定ハ當然府縣會議員ノ資格ニ關スル場合ニ適用スヘキモノト言ハサルヲ得ス何トナレハ府縣制第六條第二項ノ規定ニ依レハ府縣會議員ノ選舉權ヲ有スルニハ必ス市町村會議員ノ選舉權ヲ有セサルヘカラス而シテ市町村會議員ノ選舉權ノ有無ニ付テハ市制町村制第九條及第十二條ニ依ラサルヲ得サレハナリ而シテ市制町村制第九條第二項ニハ公權停止ヲ附加スヘキ重輕罪ノ爲メ公判ニ付セラレタルトキハ公民權ヲ停止セラル、コトヲ規定シ同制第十二條第一項但書ニハ公民權ヲ停止セラル、者ハ市町村會議員ノ選舉權ヲ有セサルコトヲ規定シアルヲ以テ原告カ詐僞取財被告事件ノ爲メ輕罪ノ公判ニ付セラレタルニ因リ公民權ヲ停止セラレ隨テ村會議員ノ選舉權ヲ有セサルニ至リタルヲ明カナリ然レハ原告ハ府縣制第六條第二項ノ規定ニ依リ縣會議員ノ被選舉權ヲ有セス隨テ同制第三十七條ノ規定ニ依リ其ノ職ヲ失ヒタルモノト言ハサルヲ得ス而シテ同條ノ規定ニ依リ縣會議員ノ職ヲ失フヘキ場合ハ當初ヨリ被選舉權ヲ有セサルト中途ニシテ被選舉權ヲ失ヒタルヲ區別スヘキモノニアラス

第三十八條 本款ニ規定スル異議ノ決定及訴願ノ裁決ハ其ノ決定書若ハ裁決書ヲ交付シタルトキハ直ニ之ヲ告示スヘシ

第三十九條 第四條第二項但書ノ市ニ於テハ市長トアルハ區長又ハ市トアルハ區、市役所トアルハ區役所ト看做シ本款ノ規定ヲ準用ス

町村組合ニシテ町村ノ事務ノ全部ヲ共同處理スルモノハ之ヲ一町村ト看做シ本款ノ規定ヲ準用ス

第四十條 府縣 郡 會議員ノ選舉ニ付テハ 衆議院議員 市町村會議員ノ選舉ニ關スル罰則ヲ準用ス



第二款 職務權限及處務規程

- 第四十一條 府縣 郡會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ
- 一 歳入出豫算ヲ定ムル事
- 二 決算報告ニ關スル事
- 三 法律命令ニ定ムルモノヲ除ク外使用料手数料府縣稅及夫役現品ノ賦課徵收ニ關スル事
- 四 不動産ノ處分並買取受讓受ニ關スル事
- 五 積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事
- 六 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事
- 七 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法律命令中別段ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス
- 八 其ノ他法律命令ニ依リ府縣郡會ノ權限ニ屬スル事項
- 第四十二條 府縣 郡會ハ其ノ權限ニ屬スル事項ヲ府縣參事會ニ委任スルコトヲ得
- 第四十三條 府縣 郡會ハ法律命令ニ依リ選舉ヲ行フヘシ
- 第四十四條 府縣 郡會ハ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ内務大臣ニ呈出スルコトヲ得

呈出スルコトヲ得

判決要領

- 一 府縣會カ知事ノ解任ヲ内務大臣ニ建議スルハ越權ナリ(舊府縣制二十六年三月二十二日)
- 二 府縣會ガ府縣金庫ノ事務ヲ取扱フ銀行ノ變更ヲ望ム旨ノ意見書ヲ議決シタルハ府縣制第四十四條ニ所謂府縣ノ公益ニ關スル事件ニ係ルモノニシテ其權限ヲ超ユルモノニアラス(三十四年四月十五日)

判決理由

原告ハ府縣制第十七條(即チ本條ニ該當ス)ニ於テ府縣會ニ建議ノ權ヲ許シタルハ其事件ノ何タルヲ問ハス苟モ府縣ノ全部又ハ一部ノ公益ニ關スル事件ハ總テ其意見ヲ建議シ得ルノ規定ニシテ知事ノ施政如何ハ縣下ノ公益ニ關スルカ故ニ縣會ニ於テ被告ノ解任ヲ内務大臣ニ建議スルノ議決ヲ爲シタルハ其權限ヲ超ヘタル者ニアラスト云フト雖同項ハ府縣ノ全部又ハ一部ノ公利公益ヲ増進シ若ハ之ヲ損害スルモノアルトキ府縣會ハ之ニ關シ施行スヘキ事件ニ付意見ヲ建議スルヲ云フモノニシテ本件ノ如キ縣知事其人ノ適否ヲ論シ其任免ニ付キ建議スルヲモ包含スルニアラス又原告ハ府縣制第八十四條第二項(本制第八十二條ニ相當ス)ハ府縣會ノ議決ニ對シ其處分法ヲ規定シタルモノニシテ同制第十五條(本制第四十一條ニ相當ス)ノ執行スヘキ義務アル事柄ニ適用シ得ヘキモ同制第十七條ニ所謂建議ニ付テハ之ヲ適用スヘカラスト云フト雖モ府縣制第八十四條第二項ノ規定ハ同制第十七條ニ列記ノ場合ト同制第十七條建議ノ場合トヲ問ハス苟モ府縣會ノ議決其權限ヲ越ヘ又ハ法律命令ニ背クニ於テハ同シク之ヲ適用スヘク隨テ知事カ縣會ノ議決ヲ取消シタルハ不當ノ處分ナリト云フヲ得ス



二 本訴ノ争点ハ原告根島縣會カ同縣金庫ノ事務ヲ從來ノ銀行ニ取扱ハシムルヲ危險ナリトシ資産豊富基礎鞏固ナル松江銀行及ヒ農工銀行ノ兩行ニ之ヲ取扱ハシメンコトヲ望ムノ意見書ヲ議決シ之ヲ同縣知事ニ呈出シタルハ府縣制第八十二條ニ所謂府縣會ノ議決其權限ヲ超ヘタルモノナリヤ否ヤニ在リ因テ之ヲ審按スルニ府縣制第四十四條ニ依レハ府縣會ハ府縣ノ公益ニ關シ施行スヘキ事件ニ付意見書ヲ府縣知事若ハ內務大臣ニ呈出スルコトヲ得ヘキモノナリ本訴縣ノ金庫事務ヲ取扱フ銀行ヲ定ムルコトタル縣有財產ニ至大ノ關係ヲ有ス若之ヲ定ムルコト其當ヲ失シ薄資又ハ信用ナキ銀行ニ之ヲ取扱ハシメンカ縣有財產ニ不測ノ損害ヲ及ホスモ知ルヘカラサレハ之ヲ公益ニ關スル事件ナリト云ハサル可カラス又被告縣知事ハ明治三十三年內務省令第七號第二十條ニ依リ縣ノ金庫事務ヲ取扱フ銀行ヲ定メサル可ラサレハ之ヲ縣ノ公益ニ關シ施行スヘキ事件ナリト云ハサル可ラス被告ハ府縣金庫ハ府縣行政ノ一機關ニシテ其行政機關タル事務取扱者ヲ指定スルハ恰モ府縣官吏ヲ指定シテ其更迭ヲ求ムルト一般ニシテ如此ハ府縣制第四十四條ノ所謂公益ニ關スル事件ニアラスト云フモ縣知事ニ於テ銀行ヲ指定スルハ右內務省令ニ依リ金庫事務取扱ノタメ爲スモノニシテ官吏ノ任命ト性質ヲ異ニスルモノナレハ本件意見書ノ如キハ官吏ノ更迭ト同一ニ論スヘキモノニアラス之ヲ要スルニ原告縣會ノ行為ハ府縣制第八十二條ノ所謂府縣會ノ議決其權限ヲ越ヘタルモノト云フコトヲ得ス隨テ被告縣知事カ同條ニ依リ原告縣會ノ議決ヲ取消シタルハ其當ヲ得サルモノトス

第三十五條 府縣會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ

府縣會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ府縣會招集ニ應セス若ハ成立セス又ハ意見ヲ呈出セサルトキハ當該官廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十六條 府縣會議員ハ選舉人ノ指示若ハ委囑ヲ受クヘカラス

第三十七條 府縣會ハ議員中ヨリ議長副議長各一名ヲ選舉スヘシ

議長副議長ハ議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ

第三十八條 議長故障アルトキハ副議長之ニ代リ議長副議長共ニ故障アルトキハ臨時ニ議員中ヨリ假議長ヲ選舉スヘシ

第三十九條 府縣知事及其委任若ハ囑託ヲ受ケタル官吏吏員ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許スヘシ但シ之カ爲議員ノ演說ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第三十八條 府縣會ハ通常會及臨時會トス

通常會ハ毎年一回之ヲ開ク其ノ會期ハ十四日以内トス臨時會ハ必要アル場合ニ於テ其ノ事件ニ限り之ヲ開ク其ノ會期ハ七日以内トス

臨時會ニ付スヘキ事件ハ豫メ之ヲ告示スヘシ但シ其ノ開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ府縣知事直ニ之ヲ會議ニ付スルコトヲ得

判決要領

一 臨時會ニ於テハ豫告又ハ郡長カ要急事件トシテ議事ニ付シタルモノ、外議決ヲ爲スコトヲ得ス



(二十三年六月二十六日)

判決理由

一 原告ハ郡會カ提出シタル意見書ナルモノハ郡制第三十二條ノ權限ニ據ルモノニシテ禁止ノ規定アラサル限リハ越權ナリト謂フ可カラス而シテ之ヲ被告カ主張スル如クスレハ同條ノ精神ニ背クト云フト雖モ郡制第三十八條第一項ニ『臨時會ハ必要ナル場合ニ於テ其事件ニ限リ之ヲ開ク云々』及第二項ニ『臨時會ニ付スヘキ事件ハ豫メ之ヲ告示スヘキ云々』トアルヲ以テ觀レハ臨時會ニ於テハ其豫メ告示ヲ爲シタル事件又ハ同上但書ニ依リ郡長ニ於テ急施ヲ要スルモノトシテ付議セシメタル事件以外ニ涉リ議決スルコトヲ許サ、ルモノト解釋スルヲ相當トス然レハ郡長ニ於テ郡制第六十九條ニ依リ本件郡會ノ議決ヲ取消シタルハ違法ニアラス

第三十九條 府縣知事之ヲ召集ス

召集ハ開會ノ日ヨリ少クトモ十四日前ニ告示スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

府縣知事之ヲ開閉ス

第五十二條 府縣會ハ議員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

判決要領

一 郡會議員半數以上出席シタルトキハ其郡内ニ於テ未タ郡會議員ヲ選舉セサル町村アルモ郡會ハ適法ニ成立ス(舊郡制二十五年十一月二十九日)

判決理由

一 原告カ被告ノ處分ヲ不當トスル要點ハ本件郡費各村分賦額ヲ議決シタル郡會ハ郡内八ヶ村中五ヶ村ヨリ選出ノ議員ノミヲ以テ開會議決シタルモノニシテ郡會ハ郡制第四條(本制同條)第五條(本制同條)ニ依リ法律ノ命シタル數ノ議員ヲ選出シタル上ナラテハ適法ノ成立ト云フヘカラス若シ各村中當選ノ承諾ヲ爲サ、ル者アルトキハ郡制第二十條(本制第二十一條第二項ニ相當ス)ノ規定アリ又缺員アルトキハ第十四條(本制第八條ニ當ル)ノ規定アリ右等ノ條規ヲ履行スルモ尙郡會ノ成立セサル場合ニ在リテハ第七十七條(本制七十二條ニ當ル)ノ在ルアリ然ルニ被告カ一モ右等ノ手續ヲ履行セス違法ノ郡會カ議決シタル郡費ヲ原告村ニ負擔セシメタルハ不當ナリト云フニ在リト雖モ郡制第四條第五條ハ單ニ郡會ヲ組織スル議員ノ種類及各町村ニ於テ選舉スヘキ議員ノ數ヲ規定シタルモノニ係リ又第十四條ハ郡會議員補缺選舉ノ場合ヲ規定シタルモノ第二十條ハ當選議員カ其當選ヲ辭シ又ハ當選議員カ承諾ノ届出ヲ爲サ、ル者アルトキハ選舉ヲ行フノ規定ニシテ原告村ノ如キ會テ議員ヲ選出セサルモノニ對シ適用スルヲ得ヌ又第七十七條ハ郡會召集ニ應セス又ハ郡會議員法定ノ數ニ達セサル場合ヲ云フモノニシテ本件郡會ノ如キ既ニ就職シテ全郡ノ代表者タル議員半數以上出席シタルトキハ第三十三條(本制第四十條ニ當ル)ニ依リ其會議ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハ原告二ヶ村ハ未タ郡會議員ヲ選出セサルモ同制第七十七條ヲ適用スルノ必要ナク而シテ該郡會ノ議決ハ適法ニシテ有効ナルモノナレハ被告カ爲シタル處分ハ不當ナリト云フヲ得ス

第五十三條 府縣會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第五十四條 議長及議員ハ自己若ハ父母祖父母妻子孫兄弟姊妹ノ一身上ニ關ス



ル事件ニ付テハ<sup>府縣</sup>郡會ノ同意ヲ得ルニ非ラサレハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス

第五十三條 法律命令ノ規定ニ依リ<sup>府縣</sup>郡會ニ於テ選舉ヲ行フトキハ一名毎ニ匿名投票ヲ爲シ有効投票ノ過半数ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若過半数ヲ得タル者ナキトキハ最多數ヲ得タル者二名ヲ取り之ニ就キ決選投票ヲ爲サシム其ノ二名ヲ取ルニ當リ同數者アルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム此ノ決選投票ニ於テハ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年月ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム其ノ他ハ第十八條<sup>第二十七條及第二十八條</sup>ノ規定ヲ準用ス

判決要領

- 一 縣會ノ副議長等ノ選舉ヲ議長ノ指名推選ニ一任シタルハ違法ナリト主張スル事件ニ關シ訴訟ヲ許ス法令ナシ(三十二年十二月二十五日)
- 二 議長副議長名譽職參事會員及補充員ノ選舉當否ニ關シテ訴訟ヲ許スノ法令ナシ(三十三年三月七日)

判決理由

一 原告請求ノ要旨ハ縣知事ハ三十二年十月二十六日縣會議員當選者ノ告知ヲ爲シ十一月一日臨時縣

會ヲ招集シ之ニ參集シタル十五名ノ議員ハ先ツ議長ヲ選任シ次テ副議長名譽職參事會員及補充員臨時土木調査委員補充員議事錄署名委員ハ議長ノ指名推選ニ一任スルノ動議ヲ可決セリ依テ議長ハ右諸役員ノ指名ヲ爲シテ其選舉ヲ終了シタルモノニシテ如斯議長ノ指名推選ニ一任シテ爲シタルハ該縣會役員選舉ハ違法ノモノナルニ付之カ取消ヲ求ムト謂フニ在レトモ本件ノ如キハ府縣制其他ノ法令中訴訟ヲ許シタル規定ナキヲ以テ受理スルノ限ニアラス

二 原告請求ノ要旨ハ臨時郡會ニ於テ議長副議長名譽職參事會員及補充員ヲ選舉スルニ郡制第四十三條ニ規定セル選舉立會人ヲ設ケス議長ノ獨斷ヲ以テ選舉ノ効力ヲ決定シタルハ違法ノ處置ナリ依テ該選舉ヲ無効トスルトノ判決ヲ請フト云フニアレトモ郡會議長副議長名譽職參事會員及補充員選舉ノ當否ニ關シテハ郡制其他ノ法令ニ於テ行政訴訟ヲ提起セルコトヲ許セル規定ナキヲ以テ原告ハ出訴スルヲ得サルモノトス

第五十四條 <sup>府縣</sup>郡會ノ會議ハ公開ス但シ左ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一 <sup>府縣</sup>郡知事ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ

二 議長若ハ議員二名以上ノ發議ニ依リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ

前項議長若ハ議員ノ發議ハ討論ヲ須ヒス其ノ可否ヲ決スヘシ

第五十七條 議長ハ會議ノ事ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ

第五十八條 <sup>府縣</sup>郡會議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用井又ハ他人ノ身上ニ涉リ言論スル

コトヲ得ス



第五十九條 會議中此ノ法律若ハ會議規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若ハ發言ヲ制止シ若ハ發言ヲ取消サシメ命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得  
議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第六十條 傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其ノ他會議ノ妨害ヲ爲ストキハ議長ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得  
傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第六十一條 議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ會議ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議員若ハ第四十九條ノ列席員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得  
第六十二條 府縣會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ處理セシム  
書記ハ議長之ヲ任免ス

第六十三條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ制シ會議ノ顛末並出席議員ノ氏名ヲ記載セシムヘシ會議録ハ議長及議員一名以上之ニ署名スルヲ要ス其ノ議員ハ

府縣會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

議長ハ會議録ヲ添ヘ會議ノ結果ヲ府縣知事ニ報告スヘシ  
第六十四條 府縣會ハ會議規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ府縣知事ノ許可ヲ受クヘシ  
第六十五條 府縣會ニ法律並會議規則ニ違背シタル議員ニ對シ府縣會ノ議決ニ依  
リ五日以内出席ヲ停止スル規定ヲ設クルコトヲ得

### 第三章 府縣參事會

#### 第一款 組織及選舉

第六十五條 府縣ニ府縣參事會ヲ置キ府縣知事府縣高等官二名及名譽職參事會員ヲ以テ之ヲ組織ス

府ノ名譽職參事會員ハ八名トシ縣ノ名譽職參事會員ハ六名トス  
府縣高等官ニシテ府縣參事會員タルヘキ者ハ內務大臣之ヲ命ス

第六十三條 郡ニ郡參事會ヲ置キ左ノ職員ヲ以テ之ヲ組織ス  
一 郡長

二 名譽職參事會員 五名  
第六十六條 名譽職參事會員ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ



府縣會ハ名譽職參事會員ト同數ノ補充員ヲ選舉スヘシ  
 郡長ハ名譽職參事會員中闕員アルトキハ府縣知事ハ補充員ノ中ニ就キ之ヲ補闕ス其ノ  
 順序ハ選舉同時ナルトキハ投票數ニ依リ投票同數ナルトキハ年長者ヲ取り同  
 年月ナルトキハ抽籤ニ依リ選舉ノ時ヲ異ニスルトキハ選舉ノ前後ニ依ル仍闕  
 員ヲ生シタル場合ニ於テハ臨時補闕選舉ヲ行フヘシ  
 補充員ハ前任者ノ殘任期間在任ス

名譽職參事會員及其ノ補充員ハ府縣會議員ノ定期改選毎ニ之ヲ改選スヘシ  
 但シ名譽職參事會員ハ後任者就任ノ日マテ在任ス

第六十七條 府縣參事會ハ府縣知事ヲ以テ議長トス 府縣知事 故障アルトキハ 高等官參  
 事會員議長ノ職務ヲ代理ス 郡長 府縣知事 故障アルトキハ 出席會員  
 中ヨリ臨時議長ヲ互選スヘシ

判決要領

一 知事ハ當然參事會長タルノ資格ヲ有ス(舊府縣制三十年十月二十二日)

判決理由

一 原告ハ被告縣參事會カ縣知事名宛ノ訴願書ニ就キ裁決シタルハ形式上不當ナリト云フト雖モ府縣  
 制第四十條(本條ニ相當ス)ニ依レハ府縣參事會ハ府縣知事ヲ以テ議長トストアリテ縣知事ハ法律  
 上其職務ニ於テ既ニ議長タル資格ヲ具有スルモノナレハ被告參事會カ縣知事宛ノ訴願書ニ就キ裁決  
 シタルハ不當ニアラス

第六十八條 第二款 職務權限及處務規程

府縣參事會會員ノ職務權限左ノ如シ

- 一 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決スル事
  - 二 府縣會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ 府縣知事 郡長 於テ之ヲ招集  
 スルノ暇ナシト認ムルトキ 府縣會ニ代テ議決スル事
  - 三 府縣知事ヨリ 府縣會ニ提出スル議案ニ付 府縣知事 郡長 對シ意見ヲ述フル事
  - 四 府縣會ノ議決シタル範圍内ニ於テ財産及營造物ノ管理ニ關シ重要ナル事  
 項ヲ議決スル事
  - 五 府縣會費ヲ以テ支辨スヘキ工事ノ執行ニ關スル規定ヲ議決スル事但シ法律  
 命令中別段ノ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
  - 六 府縣會ニ係ル訴願訴訟及和解ニ關スル事項ヲ議決スル事
  - 七 其ノ他法律命令ニ依リ 府縣參事會ノ權限ニ屬スル事項
- 第六十九條 府縣參事會ハ名譽職參事會員中ヨリ委員ヲ選舉シ之ヲシテ 府縣  
 出納ヲ檢查セシムルコトヲ得
- 前項ノ檢查ニハ 府縣知事 郡長 又ハ其ノ指名シタル官吏若ハ吏員之ニ立會フコトヲ要  
 ス



第七十八條 第三十四條第三十五條第三十七條及 六十二條ノ規定ハ府縣參事會ニ之ヲ準用ス

第七十九條 府縣參事會ハ府縣知事之ヲ招集ス若名譽職參事會員半數以上ノ請求アル場合ニ於テ相當ノ理由アリト認ムルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ヲ招集スヘシ

府縣參事會ノ會期ハ府縣知事之ヲ定ム

判決要領

一 或ル會員ニ開會ノ旨ヲ他ノ會員ニ傳達アリタキ旨ヲ口達シタルモノハ適法ノ手續ニ依ル招集ト云フヲ得ス(三十四年五月廿八日)

判決理由

一 本件ニ就テハ先ツ明治三十三年十月十一日縣會議員橫尾輝吉失職ノ件決定ノ爲メ開キタル縣參事會ハ適法ニ成立シタルモノナルヲ決セサルヘカラス何トナレハ此点ニシテ違法ト決スル以上ハ他ニ査究ノ要ナケレハナリ依テ之ヲ審按スルニ被告ニ於テハ明治三十三年十月十一日該會ヲ開クニ當リ從來ノ慣例ニ依リ會員小峯新太郎ニ本日開會ノ旨竝ニ他ノ會員傳達アリタキ旨口達シ通知ヲ爲シタルモノナレハ其手續ニ於テ缺クル所ナシト主張スルモ是只被告ノ陳辯ニ止リ一モ其事實ノ見ルヘキモノアラサルヲ以テ同人ニ於テ果シテ其通達ヲ爲シタルモノト認メ難ク隨テ該會ハ適法ニ成立シタルモノト謂フヲ得ス

第七十二條 府縣參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス

第七十三條 府縣參事會ハ議長 又ハ其ノ代理者 及名譽職參事會員定員ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第六十八條 第二ノ議決ヲ爲ストキハ府縣知事高等官參事會員ハ其ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス

府縣參事會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

會議ノ顛末ハ之ヲ會議録ニ記載シ議長及名譽職參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

判決要領

一 府縣參事會ノ議長タル府縣知事ハ可否同數ナル場合ニ於テ表決權ヲ有スルニ止マリ議長席ヲ離レテ自己ノ意見ヲ吐露スルハ禁スル所ニアラサルモ其意見ヲ探テ直チニ之ヲ可否ノ數ニ加フルコトヲ得ス(三十四年五月二十八日)

判決理由

一 參事會ノ議長タル知事ハ府縣制第七十三條第三項ノ規定ニ依リ可否同數ナル場合ニ於テ表決權ヲ有スルニ止マリ議長席ヲ離レテ自己ノ意見ヲ吐露スルハ禁スル所ニ非サルモ其意見ヲ探ツテ直チニ之ヲ可否ノ數ニ加フルハ其當ヲ得サルモノトス故ニ宮城縣參事會ニ於テ同縣知事カ有資格論者四名無資格論者三名ナル場合ニ於テ參事會員ノ資格ナリトシテ無資格論ヲ贊成シ其意見ヲ探ツテ可否ノ



數ニ加ヘ可否同數ナラシメ而シテ議長ノ資格ヲ以テ無資格ナリト表決シタルハ決議ノ方法ヲ誤リタルモノニシテ隨テ該決定ハ正當ニ成立シタルモノト云フヲ得ス

第七十四條 第五十四條ノ規定ハ府縣參事會員ニ之ヲ準用ス但シ同條ノ規定ニ依リ會員ノ數減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ府縣知事ハ補充員ニシテ其ノ事件ニ關係ナキ者ヲ以テ第六十六條第三項ノ順序ニ依リ臨時之ニ充テ仍其ノ數ヲ得サルトキハ府縣會議員ニシテ其事件ニ關係ナキ者ヲ臨時ニ指名シ其ノ闕員ヲ補充スヘシ

府縣制 議長及其ノ代理者共ニ除席セラレタルトキ八年長ノ會員ヲ以テ假議長ト爲スヘシ

### 第四章 府縣行政

第一款 府縣吏員ノ組織及任免

第七十五條 府縣ニ有給ノ府縣吏員ヲ置クコトヲ得 其ノ定員ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ郡長之ヲ定ム

前項ノ府縣吏員ハ府縣知事之ヲ任免ス

第七十六條 府縣ニ出納吏ヲ置キ官吏吏員ノ中ニ就キ府縣知事之ヲ命ス

第七十七條 府縣ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ臨時若ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得

委員ハ名譽職トス

委員ノ組織選任任期等ニ關スル事項ハ府縣會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事之ヲ定ム

第二款 府縣官吏府縣吏員ノ職務權限及處務規程

第七十八條 府縣知事ハ府縣ヲ統轄シ府縣ヲ代表ス

一 府縣費ヲ以テ支辨スヘキ事件ヲ執行スル事

二 府縣會及府縣參事會ノ議決ヲ經ヘキ事件ニ付其ノ議案ヲ發スル事

三 財産及營造物ヲ管理スル事但シ特ニ之カ管理者アルトキハ其ノ事務ヲ監督スル事

四 收入支出ヲ命令シ及會計ヲ監督スル事

五 證書及公文書類ヲ保管スル事

六 法律命令又ハ府縣會若ハ府縣參事會ノ議決ニ依リ使用料手数料府縣稅及夫役現品ヲ賦課徵收スル事



七 其ノ他法律命令ニ依リ府縣知事ノ職務ニ屬スル事項

第六十九條 府縣知事ハ議案ヲ府縣會ニ提出スル前之ヲ府縣參事會ノ審査ニ付若シ

郡府縣參事ト其ノ意見ヲ異ニスルトキハ府縣參事會ノ意見ヲ議案ニ添ヘ府縣會ニ提出スヘシ

判決要領

一 郡長カ郡參事會ノ意見ニ同意シタル場合(舊郡制二十五年七月八日)

判決理由

一 郡制第六十五條第二項(本條ニ該當ス)ニ郡長ト郡參事會ト意見ヲ異ニスルトキアルハ郡長カ郡參事會ノ審査意見ヲ否認シタル場合ヲ指シ郡長カ郡參事會ノ意見ニ同意シ豫算案ヲ改造シタル場合ニ適用セス

第六十八條 府縣知事ハ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ郡島ノ官吏

吏員又ハ市町村吏員ニ補助執行セシメ若ハ委任スルコトヲ得

府縣知事ハ行政ニ關シ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ府縣吏員ニ臨時代理

セシムルコトヲ得

第八十一條 府縣知事ハ府縣吏員ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分

ハ譴責二十五圓以下ノ過怠金及解職トス

府縣知事ハ府縣吏員ノ懲戒處分ヲ行ハントスル前其ノ吏員ノ停職ヲ命シ並給

料ヲ支給セサルコトヲ得

懲戒ニ依リ解職セラレタル者ハ一年間其ノ府縣公職ニ選舉セラレ若ハ任命

セララルコトヲ得ス

第六十二條 府縣會若ハ府縣參事會ノ決議若ハ選舉其ノ權限ヲ越エ又ハ法律命令

ニ背クト認ムルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣監督官廳ノ指揮ニ依リ理

由ヲ示シテ直ニ其ノ議決若ハ選舉ヲ取消シ又ハ議決ニ付テハ再議ニ付シタル

上仍其ノ議決ヲ改メサルトキハ之ヲ取消スヘシ

前項取消處分ニ不服アル府縣會ハ府縣參事會ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル

トキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

府縣會若ハ府縣參事會ノ議決公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ自己ノ意見

ニ依リ又ハ內務大臣監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改

メサトキハ府縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

前項府縣知事ノ處分ニ不服アル郡會若ハ郡參事會ハ內務大臣ニ訴願スルコ

トヲ得



判決要領

- (一) 府縣會カ知事ノ解任ヲ内務大臣ニ建議スルハ越權ナリ(舊府縣制二十六年三月二十二日)
- (二) 郡會ノ權限ハ郡制ニ規定セル範圍内ニ限ルモノトス(舊郡制二十五年四月十九日)
- (三) 縣會カ委員ヲ外部ニ派出シテ調査ヲ爲サシムル議決ヲ爲スハ越權ナリ(二十八年六月廿一日)
- (四) 郡會カ郡立學校建築費豫算案ヲ議決スルニ當リ校舍ノ位置ニ付條件ヲ附シタル場合ニ於テ郡長カ本條ニ依リ再議ヲ命シテ其條件ヲ删除セシメントスルニハ更ニ該豫算案ヲ提出スヘキモノトス(三十年一月十三日)
- (五) 知事不信任ノ議決ハ其性質上之カ執行ヲ停止スヘキ事實生セサルヲ以テ該議決ノ取消ヲ命シタル縣知事ノ裁決ニ對シテハ本條ノ規定ニ依ル行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス(三十二年十一月十日)
- (六) 郡會カ内務大臣ヘ陳情書ヲ呈スルコト及縣知事ヘ辭職ノ勸告ヲ爲スコトノ議決ヲ爲シタルハ越權ナリ(三十二年十一月十日)
- (七) 郡會カ越權ノ議決ヲ爲シタル場合ニ於テ縣知事カ郡長ノ申請ニ依リ本條ヲ適用シテ其議決ヲ取消ストノ裁決ヲ與ヘタルハ適法ナリ(同上)
- (八) 臨時會ニ於テ法律ノ認メサル議決ヲ爲スハ越權ナリ(三十三年六月二十五日)

判決理由

一 原告ハ郡會ニ於テ農ニ縣會カ可決シタル臨時土木費ノ取消ヲ内務大臣ニ請願センコトヲ議決シタルハ法律上一個人タル郡會カ帝國憲法ニ依リ獲得シタル請願ノ權利ヲ執行スルモノナリト云フト雖モ郡會ノ議決ハ郡制ニ規定セル範圍内ニ於テセサルヲ得ス故ニ郡會ノ議決若シ此權限ヲ越ユルトキハ郡長之カ執行ヲ停止シ得ヘキコトハ郡制第七十五條(本條ニ相當ス)ニ明示セル處ナリ然ルニ本件郡會カ土木費ノ取消ヲ内務大臣ニ請願セント議決シタルハ郡制規定ノ範圍外ニ涉ルモノナレハ被

告郡長之カ執行ヲ停止シタルハ違法ノ處分ナリト云フヲ得ス

- 三 原告縣會議長ハ教育費調査委員ヲ設ケ之ヲ農學校ヘ派遣シ調査ヲ爲サシムル縣會ノ議決ハ縣會ノ權限ヲ超ヘタルモノニアラスト云ト雖議事機關ナルヲ以テ其權限ニ屬スル事項ニ對シテハ議決ヲ爲スノ權能有スルモ委員ヲ外部ニ派遣シテ調査ヲ爲サシムル如キハ議事機關タル縣會ノ爲シ得ヘカラサルノ行爲ナリ從テ其行爲ヲ執行セントスル議決ノ如キハ縣會ノ權限ヲ超ヘタルモノト言ハサルヘカラス故ニ大分縣會ノ議決ハ縣會其モノ、性質上爲シ得ヘカラスナル議決ナルノミナラス府縣制及ヒ其他ノ法令中本件ノ如キ議決ヲ爲スノ權限ヲ付與シタル規定ナキヲ以テ該議決ノ取消ヲ命シタル被告ノ處分ハ不當ノ處分ナリト言フヲ得ス
- 四 被告郡長ニ於テ原告第三號証ハ即チ舊郡制第七十五條ニ依リ發シタル再議命令ニシテ其費用ヲ併セ再議セシメサリシハ建築費ニ於テハ原案ノ儘可決シタルモノニシテ執行上完全ノ議決ナルヲ以テ之カ更正ノ要ナク只建築費豫算以外ノ決議ニ屬スル條件ハ違法ナルヲ以テ單ニ其删除ヲ求メタルモノナリト云フト雖郡會カ校舍位置ノ條件ヲ附シタルハ校舍建築費豫算案ナルヲ以テ郡制第七十五條ニ依リ再議ヲ命シテ其條件ヲ删除セシメントスルニハ更ニ該豫算案ヲ提出セサルヘカラス
- 五 原告郡會ハ知事不信任ノ議決ハ單ニ郡會ノ意思ヲ發表シタルニ過キサレハ舊郡制第七十五條ニ該當セサルモノナルニ被告ハ該條ニ依リ原告ノ議決ヲ取消シタルハ不當ナリト主張スルモ元來該議決ハ性質ニ於テ執行スルヲ得ス隨テ議決ノ執行ヲ停止スヘキ事實ノ生スヘキ理由ナキヲ以テ郡制第七十五條ニ依リ被告ノ裁決ニ對シ行政訴訟ヲ爲スヲ得ス
- 六 原告ハ内務大臣ヘノ陳情書及知事辭職勸告書ハ舊制第七十五條ニ依リテ越權ノ議決ナリトシテ取消サルヘキ理由ナシト論スルモ凡ソ郡會ノ議決スヘキモノハ郡制第二十六條列記ノ事項其他ノ法律命令ニ依リ其權限ニ屬スル事件ニ限ルモノトス而シテ該條及其他ノ法令ニ照スニ郡會ニ於テ本件ノ如



キ縣治ノ弊害ヲ指摘シ之ヲ矯正スルコトニ關シ陳情辭職勸告ヲ議決スルノ權限ヲ與ヘラレタルコトナシ然ラハ則チ原告カ內務大臣ヘノ陳情及縣知事ノ辭職勸告ヲ議決セシハ全ク其職權ニ屬セサル事項ヲ議決セシモノニシテ即チ其權ヲ超越シタルモノトス原告ハ辭職勸告ノ如キハ郡制第二十八條ニ依レル郡ノ公益ニ關スル建議ナリト云フモ同條第二項ハ郡ノ全部又ハ一部ノ公益ヲ増進シ若クハ之ヲ損害スルモノアルトキ郡會ハ之ニ關シ施行スヘキ事項ニ付建議スルヲ云フモノニシテ本件ノ如キ辭職勸告ヲ議決スルヲモ包含スルモノニアラス故ニ被告カ郡長ノ申請ニ依リ郡制第七十五條ニ基キ原告ノ議決ヲ取消シタルハ相當ニシテ原告ノ請求ハ理由ナキモノトス

七 原告ハ郡會カ提出シタル意見書ナルモノハ郡制第三十二條ノ權限ニ據ルモノニシテ禁止ノ規定アラサル限リハ越權ナリト謂クヘカラス而シテ之ヲ被告カ主張スル如クスレハ同制第三十二條ノ精神ニ背クト云フト雖郡制第三十八條第一項ニ『臨時會ハ必要アル場合ニ於テ其事件ニ限リ之ヲ開ク云々及第二項ニ臨時會ニ付スヘキ事件ハ豫メ之ヲ告示スヘシ云々』トアルヲ以テ之ヲ觀レハ臨時會ニ於テハ其豫メ告示ヲ爲シタル事件又ハ同條但書ニ依リ郡長ニ於テ急施ヲ要スルモノトシテ付議セシメタル事件以外ニ涉リ議決スルコトヲ得サルモノト解釋スルヲ相當トス然レハ郡長ニ於テ郡制第六十九條ニ依リ本件郡會ノ議決ヲ取消シタルハ違法ニアラス

第七十三條 府縣 郡會若ハ府縣 郡參事會ニ於テ府縣ノ收支ニ關シ不適當ノ議決ヲ爲シタルキハ府縣知事ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ內務大臣ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付シ仍其ノ議決ヲ改メサルキハ內務大臣ノ府縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ但シ場合ニ依リ再議ニ付セスシテ直ニ內務大臣ノ府縣知事ノ指揮ヲ請フコトヲ得

郡制前項府縣知事ノ處分ニ不服アル郡會若ハ郡參事會ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得

第七十四條 府縣知事ハ期日ヲ定メテ郡會ノ停會ヲ命スルコトヲ得

第七十五條 府縣 郡會若ハ府縣 郡參事會召集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ府縣知事ハ內務大臣ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得

第七十四條 第六十四條ノ場合ニ於テ會議ヲ開クコト能ハサルトキ亦同シ

府縣 郡會若ハ府縣 郡參事會ニ於テ其ノ議決スヘキ事件ヲ議決セス又ハ府縣 郡會ニ於テ其ノ召集前告示セラレタル事件ニ關シ議案ヲ議了セサルトキハ前項ノ例ニ依ル  
府縣 郡參事會ノ決定若ハ裁決スヘキ事項ニ關シテハ本條第一項第二項ノ例ニ依ル此ノ場合ニ於ケル府縣知事ノ處分ニ關シテハ各本條ノ規定ニ準シ訴願及訴訟ヲ提起スルコトヲ得

本條ノ處分ハ次ノ會期ニ於テ之ヲ府縣 郡會若ハ府縣 郡參事會ニ報告スヘシ

第七十六條 府縣 郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ府縣知事ニ於テ之ヲ召集スルノ暇ナシト認ムルトキハ府縣知事ハ專決處分シ次ノ會期ニ於テ其ノ處分ヲ府縣 郡參事會ニ報告スヘシ



第八十七條 府縣 參事會ノ權限ニ屬スル事項ハ其ノ議決ニ依リ 府縣知事 郡長 於テ專決 處分スルコトヲ得

第七十八條 官吏ノ行政ニ關スル職務關係ハ此ノ法律中規定アルモノヲ除ク 外國ノ行政ニ關スル其ノ職務關係ノ例ニ依ル

第七十九條 府縣 出納吏ハ出納事務ヲ掌ル 府縣 吏員ハ 府縣知事ノ命ヲ受ケ事務ニ從事ス

第七十七條 委員ハ 府縣知事ノ指揮監督ヲ承ケ財產若ハ營造ヲ管理シ其ノ他 府縣 行政事務ノ一部ヲ調査シ又ハ一時ノ委託ニ依リ事務ヲ處辨ス

第七十九條 府縣 事務ニ關スル處務規程ハ 府縣知事 郡長 之ヲ定ム 第三款 給料及給與

第九十三條 有給 府縣 吏員ノ給料額並旅費額及其ノ支給方法ハ 府縣知事ノ許可ヲ得

第九十四條 府縣 會議員名譽職參事會員其ノ他名譽職員ハ職務ノ爲要スル費用ノ 辨償ヲ受クルコトヲ得 府縣 內務大臣 府縣知事ノ許可ヲ得テ 府縣知事 郡長 之ヲ定ム 若之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ 府縣知事 內務大臣 府縣知事 之ヲ定ム

第九十五條 有給 府縣 吏員ノ退隱料退職給與金遺族扶助料及其ノ支給方法ハ 前條第 二項ノ例ニ依リテ之ヲ定ム 府縣 內務大臣 府縣知事ノ許可ヲ得テ 府縣知事 郡長 之ヲ定ム 若之ヲ許可スヘカラスト認ムルトキハ 府縣知事 內務大臣 府縣知事 之ヲ定ム

第九十六條 退隱料退職給與金遺族扶助料及費用辨償ノ給與ニ關シ異議アルキ ハ之ヲ 府縣知事 郡長 申立ツルコトヲ得

前項ノ異議ハ之ヲ 府縣 參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ 府縣 參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ 行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ決定 及裁決ニ關シテハ 府縣知事 郡長 ヨリモ 亦 訴願及 訴訟ヲ提起スルコトヲ 得

第九十七條 給料旅費退隱料退職給與金遺族扶助料費用辨償其ノ他諸給與ハ 府縣 郡長 之ヲ負擔トス

### 第五章 府縣ノ財務

第一款 財產營造物及 府縣 稅

第九十八條 府縣 積立金穀等ヲ設クルコトヲ得



第九十九條 府縣ハ營造物若ハ公共ノ用ニ供シタル財産ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ又ハ特ニ一箇人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徵收スルコトヲ得

第八十七條 此ノ法律中別ニ規定アルモノヲ除ク外使用料手数料ニ關スル細則ハ府縣會議ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ府縣知事郡長之ヲ定ム其ノ細則ニハ過料ニ

過料ニ處シ及之ヲ徵收スルハ府縣知事郡長之ヲ掌ル其ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ裁決ニ關シテハ府縣知事郡長ヨリモ亦訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第八十八條 府縣ハ其ノ公益上必要アル場合ニ於テハ寄附若ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第八十九條 府縣ハ其ノ必要ナル費用及法律勅令又ハ從來ノ慣例ニ依リ府縣ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辦スル義務ヲ負フ

前項ノ負擔ハ財産ヨリ生スル收入及其ノ他ノ收入ヲ以テ充ツルモノノ外之ヲ郡内各町村ニ分賦スヘシ

府縣制 第九十三條 府縣稅及其ノ賦課徵收方法ニ關シテハ法律ニ規定アルモノヲ除ク外勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ費用ヲ市町村ニ分賦スルコトヲ得

府縣制 第一百四條 府縣内ニ住所ヲ有スル者ハ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

府縣制 第一百五條 三箇月以上府縣内ニ滞在スル者ハ其ノ滞在ノ初二週リ府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

府縣制 第一百六條 府縣内ニ住所ヲ有セス又ハ三箇月以上滞在スルコトナシト雖府縣内ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ若ハ使用シ又ハ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ

又ハ府縣内ニ於テ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其土地家屋物件營業若ハ其ノ收入ニ對シ又ハ行爲ニ對シテ賦課スル府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フ其ノ法人タルトキ亦同シ但シ國ノ事業若ハ行爲ニ對シテハ此限ニ在ラス

判決要領

一 他府縣ノ者ニ從網場稅ヲ賦課スルモ違法ニアラス(三十四年十一月一日)

判決理由

一 原告ニ於テ本件從網場稅ハ明治十三年太政官第十七號布告營業稅雜種稅規則第九條ニ依リ縣會ノ決議ヲ經政府ノ認可ヲ受ケ新設スルヲ得ルモ是唯該規則第九條ニ列舉以外ノ特種稅目ヲ新設スルヲ得ルト云フニ止マリ其納稅義務者ハ舊府縣制第五十九條ノ範圍ヲ超越スヘカラサルモノナルヲ以テ他府縣ニ住所ヲ有スル原告ハ納稅義務ナシト主張シ被告ハ之ニ對シ太政官布告ハ明カニ特種ノ府縣稅ヲ認ムルヲ以テ法定ノ手續ニ依リ之ヲ新設シタル以上ハ何人ニ賦課スルモ法律上差支ナシト答辨セリ之ヲ按スルニ太政官布告第九條ハ特種ノ稅目ヲ設クルヲ得ルノ規定ナルヲ以テ法律上他ニ別段ノ規定ナキ以上ハ其稅目ヨリ生スル結果トシテ何人ニ賦課スルモ差支ナシト雖納稅義務ニ付法律上



特別ノ規定アルトスレハ其範圍内ニ於テ義務者ヲ定メサルヘカラス故ニ此ノ点ニ付テ原告ノ論旨ハ相當ナリトス然レトモ舊府縣制第五十九條第一項ニハ府縣内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ店舗ヲ定メテ營業ヲ爲ス者ハ其土地家屋營業ニ對シテ府縣稅ヲ納ムルモノトス云々ト在リ又第二項ニハ府縣内ニ一戸ヲ構フル者ハ其戸數ニ對シテ府縣稅ヲ納ムルモノトス云々トアリテ土地家屋營業者クハ戸數ニ對スル納稅義務者ヲ定ムルニ過キスシテ一般ニ府縣稅ノ義務者ヲ限定スルモノニアラサレハ本件雜種稅タル筏網場稅ニ對スル納稅義務者ニ關係ナキモノトス而シテ其第五十七條ニハ府縣稅目及其賦課徵收方法ニ關スル規定ハ此法律ニ依リ變更シタルモノヲ除クノ外從前地方稅ニ關スル規定ニ依ルトアルヲ以テ之ヲ觀レハ從前ノ規定タル太政官布告ニ基キ定メタル本件縣令ハ違法ナリト謂フヲ得ス又現行府縣制ニ依レハ其第四百四條ニ於テ凡ソ府縣内ニ住所ヲ有スル者ハ府縣稅ヲ納ムルノ義務ヲ負フトノ通則ヲ定メタルト同時ニ其第六六條中ニ府縣内ニ住所ヲ有セサルモ府縣内ニ於テ特定ノ行為ヲ爲ス者ハ其行為ニ對スル府縣稅ヲ納ムル義務ヲ負フトノ規定ヲ設ケタレハ明文ヲ以テ本件課稅ノ義務者ヲ認メタリ故ニ本件縣令ハ之ヲ現行府縣制ニ照ラスモ法律ニ抵觸スル所ナシ又原告ハ假リニ縣令ヲ有効ナリトスルモ縣令ハ筏ヲ組ム者ニ賦課スルトアリ而シテ原告ハ材木ノ所有者タルノミニシテ筏ヲ組ム者ニアラス此行為ヲ爲ス者ハ材木ノ川下ヲ營業トスル沿川ノ人民ナリト云フト雖沿川ノ人民ハ原告ノ依頼ニ由リ筏ヲ組ミタルニ過キサレハ此行為ヲ爲サシメタルハ原告ノ特定行為ナリト認メサルヘカラス然ラハ該縣令ニ依リ原告ニ本件網場稅ヲ賦課シタルハ不當ナリト謂フヲ得ス

**府縣制 第一百七條** 納稅者ノ府縣外ニ於テ所有シ若ハ使用スル土地家屋物件又ハ府縣外ニ於テ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ニ對シテ府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得ス

住所、滞在一府縣以上ニ涉ル者ノ收入ニ對シ府縣稅ヲ賦課スルトキハ其ノ收入ヲ各府縣ニ平分シ其ノ一部ニミ賦課スヘシ但シ土地家屋物件又ハ營業所ヲ定メタル營業ヨリ生スル收入ハ此ノ限ニ在ラス

**府縣制 第一百八條** 一府縣以上ニ涉リ營業所ヲ定メテ營業ヲ爲シ且其ノ本稅ヲ分別シテ納メサル者ニ對シ關係府縣ニ於テ營業稅ノ附加稅ヲ賦課スルトキハ關係府縣知事協議ノ上其ノ歩合ヲ定メ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クヘシ若協議調ハサルトキハ内務大臣及大藏大臣之ヲ定ム

**郡制 第九十條** 郡費分賦ノ割合ハ其ノ豫算ノ屬スル年度ノ前前年度ニ於ケル各町村ノ直接國稅府縣稅ノ徵收額ニ依ル但シ本條ノ分賦方法ニ依リ難キ事情アルトキハ郡長ハ郡會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ特別ノ分賦方法ヲ設クルコトヲ得

**府縣制 第一百九條** 府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ハ府縣會ノ議決ニ依リ關係市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得

市町村會ニ於テ府縣會ノ議決ニ依リ定マリタル期限内ニ其ノ議決ヲ爲ササルトキ若ハ不適當ノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ

**判 決 要 領**

一 縣會カ縣稅戶數割等差ヲ村會ノ議決ニ付スルモ之ヲ議決セザルトキハ縣參事會之ヲ議決スヘク郡



參事會カ代決スヘキモノニ非ス(舊府縣制二十五年十月四日)

二 市町村會カ府縣稅賦課ノ細目ヲ議決スル方法ニ關シテハ市町村制中何等ノ制限ヲ設クルコトナシ(舊府縣制三十二年十一月二十七日)

三 町村會カ納稅者ノ貧富ニ應シテ設ケテ府縣稅ヲ賦課スルノ議決ヲ爲シタルハ違法ニ非ス(舊府縣制三十二年十二月十五日)

判決理由

一 原告ハ本訴郡參事會カ府縣稅戶數割等差決議爲ラシタルハ明治二十一年法律第一號町村制第四十五條第二項ヲ根據トシ府縣制第六十一條第三項(即チ本條第二項ニ相當ス)及縣令等ヲ參照シテ議決シタルモノニシテ權限ヲ踰ヘタルモノニアラスト云フト雖モ縣稅戶數割等差ノ件ハ府縣制第六十一條第一項(本條第一項ニ當ル)ニ依リ縣會ヨリ村會ノ議決ニ付シタルモノニシテ村會ニ於テ議決ヲ爲サ、ルトキハ右第六十一條第三項ニ依リ縣參事會之ヲ議決スヘキモノナレハ縣會ノ指定シタル期限ノ内外ニ拘ハラヌ郡參事會ニ於テハ之ヲ議決スルヲ得ス且町村制第四十五條第二項ノ如キハ本件ノ場合ニ適用スヘキモノニアラサルニ依リ郡參事會カ村會ニ代リ縣稅戶數割等差ノ議決ヲ爲シタルハ越權ニアラスト謂フヲ得ス

二 原告ハ明治三十年及三十一年度共ニ納稅資格ニ毫モ變更ナク又本縣ニ於テ一般賦課稅率ヲ増加シタルコトナキニ原告ニ對シ前年度ニ比シ二十七倍ノ加重ヲ爲シタル定率ヲ以テ戶數割ヲ賦課シタルハ全ク錯誤ニ出タル不當ノ課稅ナリ而シテ被告主張ノ如ク單ニ町會ノ意見ニ依リ之ヲ定ムルモノトセハ町會ハ數百萬圓ノ資産ヲ有スル者ト雖モ納稅ノ資格ナシトシ又赤貧洗フカ如キ者ト雖モ多額ノ納稅資格アリト議定スルコトヲ得ルニ至ルヘシ如此ハ獨リ租稅徵收ノ原理ニ反シ遂ニ府縣制第六十八條(本制第一百十五條第一項ニ該當ス)ハ空文徒法ニ屬スルナラン故ニ町會カ納稅者各自ノ等級課

額ヲ定ムルニハ必ス納稅者ノ現實ノ資格ヲ基本ト爲サ、ルヘカラス町會ト雖モ本件ノ如キ現實ノ資格ニ符合セサル等級課稅ヲ議定スルノ權限ハアルモノニアラスト主張スルニ在レトモ府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ヲ市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得ヘキハ府縣制第六十一條(即チ本條)ノ示ス所ニシテ其市町村會ニ於テ議決スル場合ニ關係スル方法ハ同制中何等規定スルモノナキヲ以テ原告主張ノ如ク課稅ノ原理ニ反シ穩當ナラサルモノトスルモ之ヲ違法トシ賦課稅額ヲ更正シ得サル者トス

三 原告ニ於テ村會カ縣稅戶數割ノ賦課額ヲ議定スルハ平均戶數割家屋建坪割ノ類ニテ明確不動産ノ財源ヲ認サルヘカラス各自ノ財產ニ就キ豫想上ヨリ標準ヲ貧富ノ程度ニ取ルハ錯誤ト云ハンヨリ寧ロ不法ナリト云フト雖モ府縣稅賦課ノ細目ニ係ル事項ヲ市町村會ノ議決ニ付スルコトヲ得ヘキハ府縣制第六十一條(即チ本條ニ該當ス)ノ示ス所ニシテ市町村會ニ於テ之ヲ議決スヘキ方法ニ關シテハ同制中何等ノ規定ナシ又縣會ヲ規定アリ故ニ每戶ノ賦課額ヲ議定スルニ方リ町村會カ納稅者ノ貧富ニ應シテ設ケタルモ該等差ハ違法ノモノナリト謂フヲ得ス隨テ該等差ニ據リ賦課シタル戶數割モ亦不法ナリト謂フヲ得ス

府縣制 第一百十條 府縣稅ヲ賦課スルコトヲ得サルモノニ關シテハ法律勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノヲ除ク外市町村稅ノ例ニ依ル

第九十一條 府縣 郡 內ノ一部ニ對シ特ニ利益アル事件ニ關シテハ勅令……ノ定ムル所ニ依リ不均一ノ賦課ヲ爲スコトヲ得

第九十二條 府縣 郡 其ノ必要ニ依リ夫役及現品ヲ府縣 內一部ノ市町村 其ノ他公共團體

若ハ一部ノ納稅義務者ニ賦課スルコトヲ得但シ學藝美術及手工ニ關スル勞役ヲ課



スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ニ算出シテ賦課スヘシ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其ノ便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコヲ得又夫役及現品

ハ急迫ノ場合ヲ除ク外金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

判決要領

(一) 夫役ハ金額ニ算出シテ賦課スルモ一般町村税ト其性質ヲ異ニス(二十九年四月四日市制町村制第

(十三條參看)

(府縣制) 第九十三條 府縣税ノ減免若ハ納税ノ延期ハ特別ノ事情アル者ニ限り府縣

知事ハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ許スコトヲ得

(府縣制) 第九十四條 市制施行ノ府縣ニ於テハ郡廳舎建築修繕費及郡役所費ハ郡ニ

屬スル部分ノ負擔トス

第九十五條 府縣税ノ賦課.....ナ受ケタル者其ノ 賦課ニ付違法若ハ錯誤ア

リト認ムルトキハ徵稅令書又ハ徵稅傳令書ノ交付後二箇月以内ニ府縣知事ニ異議ノ

申立ヲ爲スコトヲ得

第九十三條第二項ノ場合ニ於テ市町村ハ府縣費ノ分賦ニ關シ違法若ハ錯誤アリト認ムルハ

其ノ告知ヲ受ケタル時ヨリ三箇月以内ニ府縣知事ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前二項ノ異議ハ之ヲ府縣參事會ノ決定ニ付スヘシ其ノ決定ニ不服アル者ハ府縣

參事會ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

(府縣制) 使用料及手数料ノ徵收ニ關シテモ亦第一項及第二項ノ例ニ依ル

本條ノ決定及裁決ニ關シテハ府縣知事郡長官吏吏員市町村吏員ヨリモ亦訴願及

訟ヲ提起スルコトヲ得

判決要領

一 兩村ニ住居ヲ有スル者ト雖同一ノ標準ニ依リ双方ニ於テ戶數割ヲ賦課シタルハ違法ナリ(三十四

年十月十四日)

判決理由

一 縣令第五號第二十八條ニ依レハ市町村會ニ於テハ適宜標準ヲ設ケ毎戶ノ分限ニ應シ各自ノ課額ヲ

定ムルモノトストアリテ戶數割ハ各人資産ノ多寡ニ應シテ賦課スルモノタルヲ明カナレハ一府縣内

ニ於ケル一個ノ資産カ甲乙兩村ニ於テ同時ニ同一府縣税ノ目的タルヘカラサルヤ勿論ナリ然ルニ甲

第七號証ノ一二ニ依ルトキハ甲ニ於テ課税ノ標準タリシモノカ乙村ニ於テモ亦其標準トナレルヲ明

ニシテ原告カ該標準ニ基ツキ兩村ニ於テ戶數割ノ賦課ヲ受ケタルモノナレハ被告所論ノ如ク設令原

告尙乙村ニ於テ其居住ヲ有スル者トスルモ同村ニ於ケル課税ハ重複ニ互ル不法アルヲ免レサルモノ

トス

(府縣制) 第九十六條 府縣税ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該行政廳ハ日出

ヨリ日没マテノ間營業者ニ關シテハ仍其ノ營業時間家宅ニ臨檢シ又ハ帳簿物

件ノ検査ヲ爲スコトヲ得



府縣稅使用料手数料夫役現品ニ代フル金錢 過料其ノ他 府縣ノ收入ヲ定期内ニ納メサル者  
 使用料手数料...  
 アルトキハ 國稅滯納處分ノ例ニ依リ之ヲ處分スヘシ  
 本條ニ記載スル徵收金ハ 府縣ノ徵收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徵還附及  
 時効ニ付テハ 國稅ノ例ニ依ル  
 本條第二項ノ場合ニ於テ 郡島ノ官吏吏員市 町村吏員ノ處分ニ不服アル者ハ 府縣參  
 事會ニ訴願シ其ノ裁決又ハ 府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ 府縣參事會ニ訴願シ其ノ裁  
 決ニ不服アル者ハ 行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
 前項ノ裁決ニ關シテハ 府縣知事郡島ノ官吏吏員市 町村吏員ヨリモ 亦 訴願及 訴訟ヲ  
 提起スルコトヲ得

本條第二項ノ處分ハ其ノ確定ニ至ルマテ執行ヲ停止ス

第九十七條 府縣ハ其ノ負債ヲ償還スル爲又ハ 府縣ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出  
 ナ要スル爲又ハ 天災事變等ノ爲必要アル場合ニ限リ 府縣會ノ議決ヲ經テ 府縣  
 債ヲ起スコトヲ得  
 府縣債ヲ起スニ付 府縣會ノ議決ヲ經ルトキハ 併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償  
 還ノ方法ニ付議決ヲ經ヘシ  
 府縣ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲本條ノ例ニ依ラス 府縣參事會ノ議決ヲ經テ一時ノ

借入金ヲ爲スコトヲ得

第二款 歲入出豫算及決算

第九十八條 府縣知事 郡長ハ 每會計年度歲入出豫算ヲ調製シ 年度開始前 府縣會ノ議決ヲ  
 經ヘシ  
 府縣會ノ會計年度ハ 政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ヲ 府縣會ニ提出スルトキハ 府縣知事 郡長ハ 併セテ 財産表ヲ提出スヘシ  
 判決要領

- 一 府縣會ニ於テ知事ノ發案シタル豫算書ノ事項外ニ新タニ費目ヲ增加スルハ越權ナリ(二十八年四月二十日)
  - 一 豫算書ニ添付スル説明書ノ各目ハ明治二十四年内務省令第十二號第二條ニ依リ豫算ノ基ク所ヲ示シタルモノナレハ其目以外ニ新タニ他ノ目ヲ增加スルハ金額ノ増減ニ止ラス豫算案目的外ノ費用ヲ增加スルモノナリ(同上)
  - 二 豫算ノ發案權ハ郡長ノミニ屬ス(舊郡制二十八年七月三日)
  - 二 郡會カ原案以外ノ一項ヲ新設スル如キハ其修正權ノ範圍ヲ脱ス(同上)
  - 三 府縣歲入出豫算ノ發案權ハ知事ニ屬ス(舊府縣制三十二年七月十日)
  - 三 縣會ニ於テ知事ノ發案ニ包含セサル歲入豫算按ヲ議決シタルハ越權ナリ(同上)
- 判決理由
- 一 原告縣會議長ハ橋梁橋費金貳千九百六拾四圓參拾參錢八厘ヲ道路橋梁費中ニ加ヘタルハ越權ノ議



決ニ非スト云フト雖豫算書各項ノ金額ハ其豫算書ニ添付シタル説明書ノ事項ヨリ成立ツモノニシテ  
 其事項ハ豫算調製ノ權ヲ有スルモノ即チ府縣知事ニ於テ之ヲ選フヘキモノナレハ府縣會ニ於テ新タ  
 ニ事項ヲ舉ケ其費目ヲ増加スルハ發案權ヲ侵スモノト謂ハサルヲ得ス而シテ原告ハ豫算書ハ款項ノ  
 二種ニ止リ目ニ於テハ何等効力ヲ有セサルヲ以テ其目ヲ増加スルモ豫算書一項内ノ修正ニ止マリ  
 修正權ノ範圍内ニアルモノナリト云フモ説明書ノ名目ハ明治二十四年内務省令第十二號第二條ニ依  
 リ豫算ノ基ク所ヲ示シタルモノナレハ其目以外ニ於テ新タニ他ノ目ヲ増加スルハ金額ノ増減ニ止マ  
 ラス豫算ノ目的外ノ費目ヲ増加スルモノニシテ修正權ノ範圍内ニ在ルモノト謂フヲ得ス

二 原告ハ郡長ノ發シタル議案中第四款勸業費ノ第三項巡廻教師費ヲ削除シ勸業諮問會費ヲ以テ之ニ  
 代ヘタルハ勸業費ノ内譯ニ就キ修正ヲ加ヘタルニ過キスシテ郡長ノ發案權ヲ侵シタルモノニ非スト  
 云ト雖モ款ノ費額ハ項ニ於テ示セル事項ニ基キ而シテ其事項ハ豫算調製ノ權アル郡長之ヲ選フヘキ  
 モノナルヲ以テ原告郡會カ郡長發案ノ事項ニ屬スル費額ノ廢存増減ヲ議スルニ止ラス原案已外ナル  
 勸業諮問會費ノ一項ヲ新設セシハ修正權ノ範圍ヲ超越シ郡長ノ發案權ヲ侵シタルモノトス故ニ其議  
 決ヲ無効トセシ被告知事ノ裁決ハ至當ニシテ取消スヘキモノニアラス

三 原告ハ縣會ニ發案權ナシトハ何等ノ明文ニ基キ之ヲ斷言シ得ルヤ府縣制中未タ嘗テ其發案權ナキ  
 コトヲ規定セス其知事ノミニ限リ發案權ヲ有ストノ明文ナシ又假令發案權ハ縣會ニ存セサルモノト  
 假定スルモ縣會カ課目課額議案ニ就キ修正補足ヲ加ヘタル以上ハ歲入出豫算議案ニ於テ遊覽所稅ノ  
 一項ヲ挿入捕足スルハ自然ノ結果ニシテ毫モ知事ノ發案權ヲ侵シタルモノニ非スト云フト雖モ府縣  
 制第七十五條第一項(本條ニ該當ス)ニ依レハ府縣歲入出豫算ノ發案權ハ獨リ府縣知事ニ屬スルコ  
 ト明瞭ナリトス而シテ其歲入出豫算議案按ト縣稅營業稅雜種稅課目課額議案按トハ固ト各個獨立ノ議案  
 ナルカ故ニ其課目課額議案ニ於テ修正増補ヲ爲シタルノ理由ヲ以テ縣會ニ於テ知事ノ發案ヲ待タス

豫算按ニ一項ヲ挿入議決シタルハ其權限ヲ超ヘタルモノトス

第一百九十七條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加若ハ更正ヲ爲スコトヲ  
 得

第一百九十八條 府縣會費ヲ以テ支辨スル事件ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ  
 數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ府縣會ノ議決ヲ經テ其ノ年期間各

第一百九十九條 豫算外ノ支出若ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ  
 但シ府縣會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第二百一十二條 豫算ハ議決ヲ經タル後直ニ之ヲ內務大臣ニ報告シ並其ノ要領ヲ告  
 示スヘシ

第二百一十三條 府縣知事ハ府縣會ノ議決ヲ經テ特別會計ヲ設クルコトヲ得

第二百一十四條 決算ハ翌翌年ノ通常會ニ於テ之ヲ府縣會ニ報告スヘシ

府縣知事ハ決算ヲ府縣會ニ報告スル前府縣參事會ノ審査ニ付スヘシ若  
 府縣知事ト  
 府縣參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ府縣知事ハ府縣參事會ノ意見ヲ決算ニ添  
 府縣會提出スヘシ



決算ハ之ヲ内務大臣府縣知事ニ報告シ其ノ要領ヲ告示スヘシ

第百二十五條 豫算調製ノ式並費用流用其ノ他財務ニ關スル必要ナル規定ハ内務大臣之ヲ定ム

第百二十六條 府縣吏員ノ身元保證及賠償責任ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

### 第六章 郡組合

郡制 第百五條 特定ノ事務ヲ共同處理セシムル必要アル場合ニ於テハ府縣知事ハ關係アル郡參事會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ郡組合ヲ設置スルコトヲ得郡組合ノ廢止若ハ變更ニ付テモ亦同シ

郡制 第百六條 郡組合ヲ設置スルトキハ府縣知事ハ關係アル郡參事會ノ意見ヲ徵シ府縣參事會ノ議決ヲ經内務大臣ノ許可ヲ得テ郡組合會ノ組織事務ノ管理方法並其ノ費用ノ支辦方法其ノ他必要ナル事項ヲ定ムヘシ

郡制 第百七條 郡組合ハ法人トス  
郡組合ニ關シテハ本章中規定スルモノヲ除ク外此法律ノ規定ヲ準用ス但シ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルモノハ此ノ限ニ在ラス

### 第六章 府縣 行政ノ監督

第百二十七條 府縣ノ行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第百二十八條 郡制此ノ法律中別段ノ規定アル場合ヲ除ク外郡ノ行政ニ關スル府縣知事ノ處分ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

此ノ法律ニ規定スル異議若ハ訴願ハ處分ヲ爲シ又ハ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ十四日以内ニ之ヲ提起スヘシ但シ此ノ法律中別ニ期限ヲ定メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

此ノ法律ニ規定スル行政訴訟ハ處分ヲ爲シ決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケタル翌日ヨリ起算シ二十一日以内ニ之ヲ提起スヘシ

裁決定書若ハ裁決書ノ交付ヲ受ケサル者ニ關シテハ前二項ノ期間ハ告示ノ翌日ヨリ起算ス

郡制 行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得  
此ノ法律ニ規定スル異議ノ決定ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其ノ理由ヲ付スヘシ



前項異議ノ決定書ハ之ヲ申立人ニ交付スヘシ  
 此ノ法律ニ規定スル異議ノ申立若ハ訴願ノ提起ニ關スル期間ノ計算竝天災事  
 變ノ場合ニ於ケル特例ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ス  
 異議ノ申立テ又ハ訴願訴訟ヲ提起スル者アルトキハ行政廳及行政裁判所ハ其  
 ノ職權ニ依リ又ハ關係者ノ請求ニ依リ必要ト認ムル場合ニ限り處分ノ執行ヲ  
 停止スルコトヲ得

判決要領

- 一 形式上ノ裁決後更ニ實體上ノ裁決ヲ爲スハ一事再理ニ非ス(町村制二十六年十月十九日)
- 一 訴願期限ハ手續ノ繫屬中經過スルコトナシ(同上)
- 二 縣會議員選舉効力ニ關スル訴訟ハ府縣制第二百二十八條第二項ニ定メタル期限内ニ提起スルコトヲ要ス(三十二年十二月二十二日)

判決理由

一 原告ハ本件ハ一事再理ノ不法アリト云ヘトモ當初郡參事會ハ單ニ訴願權ノ有無ニ付訴願權ナシト裁決シタルモ被告ハ之ニ服セス縣參事會ニ訴願シタルニ訴願權アリトノ裁決ヲ得タルヲ以テ更ニ村會裁決ノ當否ニ付裁決ヲ求メタルモノナレハ其裁決ハ同一ノ事柄ニ付再ヒ受理シタルモノト云フヲ得ス又原告カ訴願權アリトノ裁決ヲ得タル上ハ行政裁判所ニ出訴スルカ又ハ內務大臣ニ訴願ス可キニ郡參事會ニ立戻リ訴願ヲ爲シタルハ既ニ訴願期限ヲ經過シタルモノナリト云ヘトモ縣參事會ノ訴權アリトノ裁決ニ依リ郡參事會ニ立戻リ更ニ村會裁決ノ當否ニ付訴願セシモノナレハ新訴願ニ非ス

シテ前ノ訴願ヲ繼續シタルモノナリ從テ期限ヲ經過シタルモノニ非ス

二 本件ノ要旨ハ三十二年九月二十五日某縣某村ニ於テ執行シタル縣會議員ノ選舉ニ用キタル投票用紙ハ縣知事ヨリ郡會議員選舉用紙トシテ制定セラレタル用紙ニシテ縣會議員選舉用紙ニアラス從ツテ該用紙ハ縣會議員選舉用紙トシテ縣知事カ定メタル一定ノ方式ニ據ラサルモノニシテ該用紙ヲ用キタル投票ハ總テ無効ナリ然ルニ之ヲ有效トシ選舉ヲ行ヒシハ不法ニ付之レカ取消ヲ要ムト云フニ在レトモ原告等カ縣知事ノ決定書ノ送達ヲ受ケタルハ三十二年十月十九日ニシテ原告等住所ト行政裁判所トノ距離百二十里ナルコト訴狀ニ依テ明瞭ナリ左ラハ本件出訴期限ハ制第二百二十八條第二項及民事訴訟法第六十七條第一項ノ規定ニ從ヒ三十二年十一月十四日ヲ以テ滿了スルモノトス然ルニ十一月二十二日ニ至リ訴狀ヲ提出セシハ期限經過後ノ訴訟ニシテ法定ノ手續ニ違背シタルモノナルヲ以テ本件ハ行政裁判法第二十七條ニ依リ之ヲ却下ス

第二百二十九條 內務大臣ハ府縣ノ行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ又ハ公益ヲ害セサル

ヤ否ヲ監視スヘシ 內務大臣ハ之カ爲行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ書類帳簿ヲ徵シ竝實地ニ就キ事務ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

內務大臣ハ府縣ノ行政ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ處分ヲ爲スノ權ヲ有ス  
 第三百十一條 內務大臣ハ府縣ノ豫算中不適當ト認ムルモノアルトキハ之ヲ削減スルコトヲ得

第三百十二條 內務大臣ハ勅裁ヲ經テ府縣會ノ解散ヲ命スルコトヲ得

府縣會解散ノ場合ニ於テハ三箇月以内ニ議員ヲ選舉スヘシ



解散後始メテ府縣知事ハ會ヲ招集スルトキハ府縣知事ハ第五十八條第二項ノ規定ニ拘ラ

ス府縣知事ハ許可ヲ得テ別ニ會期ヲ定ムルコトヲ得

第三百二十三條府縣知事ハ吏員ノ服務紀律ハ內務大臣之ヲ定ム

府縣制 第三百二十三條 左ニ掲クル事件ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 學藝、美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ若ハ大ナル變更ヲ爲ス事

二 使用料、手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

三 寄附若ハ補助ヲ爲ス事

四 不動産ノ處分ニ關スル事

五 第一百十二條ニ依リ夫役及現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ハ此ノ限ニ在

ラス

六 繼續費ヲ定メ若ハ變更スル事

七 特別會計ヲ設クル事

郡制 第一百十四條 左ニ掲クル事件ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ若ハ大ナル變更ヲ爲ス事

二 使用料手数料ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事

郡制 第一百十六條 左ニ掲クル事件ハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 積立金穀等ノ設置及處分ニ關スル事

二 寄附若ハ補助ヲ爲ス事

三 不動産ノ處分ニ關スル事

四 第九十二條ニ依リ夫役及現品ヲ賦課スル事但シ急迫ノ場合ハ此ノ限ニ在

ラス

五 繼續費ヲ定メ若ハ變更スル事

六 特別會計ヲ設クル事

府縣制 第三百二十四條 左ニ掲クル事件ハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコト

ヲ要ス

一 府縣債ヲ起シ竝起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若ハ變更ス

ル事但シ第十七條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

二 地租三分ノ一ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事但シ法律勅令中別段ノ規

定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

三 法律勅令ノ規定ニ依リ官廳ヨリ下渡ス歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル

コ得

郡制 第一百十五條 郡債ヲ起シ竝起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ若ハ

之ヲ變更スルトキハ內務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス但シ第九



十五條末項ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

第百三十五條

府縣ノ行政ニ關シ

主務大臣ノ監督官廳

ノ許可ヲ要スヘキ事項ニ付テハ

第百三十六條

府縣ノ行政ニ關シ

主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項中其ノ輕易ナル

モノハ勅令ノ規定ニ依リ

第百三十八條

府縣ノ行政ニ關シ

主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項中其ノ輕易ナル

モノハ勅令ノ規定ニ依リ

第百三十九條

府縣ノ行政ニ關シ

主務大臣ノ許可ヲ要スヘキ事項中其ノ輕易ナル

モノハ勅令ノ規定ニ依リ

### 第七章 附則

第百三十七條

此ノ法律ハ明治二十二年法律第二十五號

府縣制ヲ施行シタル府縣

ニハ明治三十一年七月一日ヨリ之ヲ施行シ其ノ他ノ府縣ニ關スル施行ノ時期

第百三十八條

府縣知事ノ具申ニ依リ

內務大臣之ヲ定ム

第百三十九條

郡內總町村ニ屬スル事業並其ノ財產營造物ハ

小學校ヲ除ク

第百四十條

此ノ法律ノ規定ニ依リ

府縣知事府縣參事會ノ職權ニ屬スル

事件ニシテ數府縣ニ涉ルモノアルトキハ關係府縣知事ノ具狀ニ依リ

第百四十一條

府縣知事及府縣參事會ヲ指定スヘシ

第百四十二條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百四十三條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百四十四條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百四十五條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百四十六條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百四十七條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百四十八條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百四十九條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百五十條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百五十一條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百五十二條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百五十三條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百五十四條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百五十五條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百五十六條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百五十七條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百五十八條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百五十九條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百六十條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百六十一條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百六十二條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百六十三條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百六十四條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百六十五條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百六十六條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百六十七條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

第百六十八條

島嶼ニ關シ

ハ別ニ勅令ヲ以テ其ノ制ヲ定ム

府縣制郡制 第百卅九條乃至第百四十二條 第百二十四條

三百五十七

町村制ヲ施行セサル島嶼ヨリ選出スヘキ府縣會議員ノ選舉ニ關スル事項ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

前項ノ島嶼ハ勅令ヲ以テ之ヲ指定ス

第百二十九條 法律命令中別段ノ規定アルモノヲ除ク外此ノ法律ニ規定ス

ル郡長ノ職務ハ嶋司ヲ置ケル嶋嶼ニ於テハ嶋司之ヲ行ヒ町村長ノ職務ハ町村

制ヲ施行セサル地ニ於テハ戶長又ハ之ニ準スヘキ者之ヲ行フ

第百四十條 從前郡市經濟ヲ異ニシタル府縣ノ財產處分ニ關スル規定ハ內

務大臣之ヲ定ム

特別ノ事情アル府縣ニ於テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ市郡部ノ經濟ヲ分別シ

市部會、郡部會、市部參事會、郡部參事會ヲ置キ其ノ他必要ナル事項ニ關シ

別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第百四十一條 明治二十三年法律第八十八號府縣稅徵收法及地方稅ニ關ス

ル從前ノ規則ハ此ノ法律ニ依リ變更シタルモノヲ除ク外勅令ヲ以テ別段ノ規

定ヲ設クルマテ其ノ効力ヲ有ス

第百四十二條 明治二十二年法律第二十五號府縣制ノ規定ニ依リ選舉セラレタル

府縣會議員、府縣參事會員ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ其ノ職ヲ失フ

本法發布後施行ノ日ニ至ルマテノ間ニ明治二十三年法律第三十五號府縣制ヲ

施行シタル府縣ニ於テハ府縣會議員ノ改選ヲ要スルコトアルモ其ノ改選ヲ行



ハス議員ハ本法施行ノ日マテ在任ス

判決要領

一 舊郡制ニ依リ執行シタル選舉ノ效力ニ關スル訴訟ハ新郡制ノ施行ト共ニ目的物消滅ス(三十三年四月六日)

判決理由

一 原告訴求ノ要旨ハ二十九年九月二日甲村村長某カ甲村村會乙村村會同選舉會長トナリ執行シタル郡會議員ノ選舉ハ無効ナリトノ判決ヲ求ムト云フニ在レトモ本件ハ卅二年法律第六十五號新郡制ノ施行セラレタル上ハ其結果トシテ訴訟ノ目的物消滅シタルモノナルニ依リ裁判スヘキ限ニアラス  
第二百四十三條 此ノ法律施行ノ際府縣會及郡參事會ノ職務ニ屬スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノハ其ノ成立ニ至ルマテノ間府縣知事之ヲ行フ

判決要領

一 郡制施行ノ際郡參事會ノ成立セサルトキニ於テ郡長カ本條ニ依リ與ヘタル決定ニ原因スル訴訟ニ付テハ郡參事會ハ答辨ヲ爲ス義務アリ(三十三年五月十四日)  
二 府縣制實施ノ際參事會ノ職務ニ屬スルコトヲ知事ニ於テ行フコトヲ得ルハ權能ハ府縣參事會成立ト共ニ知事ノ權域ヲ脫スルモノトス(三十三年五月二十八日)  
三 府縣會議員ノ資格ノ有無及ヒ其失職者ナルト否トヲ定ムルハ府縣制第四十三條ニ所謂急施ヲ要スルモノトス(三十四年五月廿七日)

判決理由

一 被告(郡參事會)ハ當初郡長カ選舉効力ニ關スル異議ノ申立ニ對シ決定ヲ爲シタルハ郡參事會成立以前ニ在リテ法律ノ委任ニ依ルモノナレハ其行爲ハ全然郡長ノ職務内ニ專屬シ從テ其責任モ亦終始郡長ニ歸セサル可ラスシテ之ヲ他ニ嫁スルヲ得ス故ニ該決定ヲ不服トシ訴訟ハ責任者タル郡長ヲ措テ他ニ之カ對手人タルヘキ者ナシト謂フト雖モ本件選舉ハ郡制施行ノ際郡參事會未タ成立セサル時ニ執行シタルモノナレハ郡長カ選舉ニ關スル異議申立ヲ決定シタルハ即チ郡參事會ニ代リ當然爲スヘキ職務ヲ行フタルニ外ナラス然ラハ其事務ヲ承認シタル今日ニ於テ郡參事會ハ被告ノ位置ニ立チ答辯スルノ義務ナシト云フヲ得ス

二 被告ハ法律上附與セラレタル權能ニ基キ失職ノ決定ヲ爲シタルモノナレハ縣參事會成立ノ後ト雖モ其決定ヨリ發生シタル訴訟ニ付テハ被告縣知事ニ於テ其答辯ヲ爲ス可キハ當然ノ條理ナリト云フト雖モ府縣制第四百十三條ノ規定ヲ閱スルニ府縣參事會ノ職務ニ屬スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノハ其成立ニ至ルマテノ間府縣知事ニ於テ之ヲ行フトアリテ縣知事ニ附與シタル權能ハ縣參事會ノ成立ニ至ルマテノ間ニ制限セラレアルコト明カナリ左レハ縣參事會カ既ニ成立シタル以上ハ縣參事會ノ職務ニ屬スル事項ハ之ト共ニ縣知事ノ權域ヲ脫シ縣參事會ニ於テ之ヲ承繼シタルモノト云ハサルヲ得ス果シテ然ラハ本訴ニ付キ被告タルノ權義モ亦制第三十七條ノ規定ニ依リ縣參事會ノ職務ニ屬スル事項中ノ一ナルヲ以テ縣參事會ノ成立ト共ニ縣參事會ニ於テ之ヲ承繼シタルモノト爲スヲ相當ナリトス故ニ被告縣知事ニ於テ本案ノ答辯ヲ爲スハ其當ヲ得タルモノニ非ス

三 本件ノ決定ハ急施ヲ要スルモノニ非サルニ縣知事カ之ヲ急施ヲ要スルモノト認メ決定ヲ爲シタルハ府縣制第四百十三條ヲ濫用シタルモノナリト云フモ縣會議員資格ノ有無及ヒ其失職者ナルト否トヲ定ムルハ縣治上關係スル所大ナルヲ以テ縣知事カ急施ヲ要スルモノト認メタルハ相當ナリトス  
府縣制 第四百十四條 此ノ法律施行ノ際議員ヲ選舉スルニ必要ナル選舉人名簿ノ



府縣制郡制 府縣制第四百十五條以下 郡制第百廿六條以下 水利組合條例 三百六十

調製ニ限リ第九條乃至第十二條ノ期日及期間ハ勅令ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得但シ其ノ選舉人名簿ハ翌年調製スル選舉人名簿確定ノ日マテ其ノ効力ヲ有ス

第百二十六條 此ノ法律ニ定ムル府縣參事會ノ職務ハ府縣制ヲ施行シ府縣參事會成立ニ至ルマテノ間府縣知事之ヲ定フ

第百二十五條 此ノ法律ニ定ムル直接稅ノ種類ハ內務大臣及大藏大臣之ヲ告示ス

第百二十六條 明治十三年第十五號布告 府縣會規則明治十四年第八號布告區郡部會規則明治二十二年法律第六號府縣會議員選舉規則 其ノ他此ノ法律ニ牴觸スル法規ハ此ノ法律

施行ノ地ニ於テハ其ノ効力ヲ失フ

第百二十七條 此ノ法律ヲ施行スル爲必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

◎水利組合條例 (明治二十三年六月廿日 法律第四十六號)

水利組合條例

第一章 總則

第一條 府縣稅又ハ郡費ノ支辨ニ屬セサル水利土功ニ關スル事業ニシテ其利害關係ノ區域市町村ノ區

ト符合セサルモノ又ハ符合スト雖ニ市町村以上ニ涉ルモノニシテ特別ノ事情ニ依リ市町村若ハ町村組合ノ事業トナスコトヲ得サルモノアル場合ニ於テハ此法律ニ依リ水利組合ヲ設置スルコトヲ得

判決要領

一 從來地方稅ヲ以テ其費用ヲ支辨シ來リタル數町村ノ水防事業ニ關スル町村組合設置ニハ本條ヲ適用スルコトヲ得サルモノトス (二十六年三月廿四日)

判決理由

一 本組合ノ事業ハ從來地方稅ヲ以テ支辨シ來ルモノナレハ水利組合條例第一條ニ依ルヲ得ルモノニアラス又町村制第十六條ニハ數町村ノ事務ヲ共同處分スルタメ其町村ノ組合ヲ設クルコトヲ得トアレハ本件水防組合ノ組織ニ對シ被告郡長カ許可ヲ與ヘタル處分ハ違法ナリト謂フヲ得ス

第二條 水利組合ハ分テ左ノ二種トス

- 一 普通水利組合
- 二 水害豫防組合

第三條 普通水利組合ハ用惡水等專ラ土地保護ニ關スル事業ノ爲設置スルモノトス

第四條 水害豫防組合ハ水害防禦ノ爲ニスル堤防浚渫砂防等ノ工事ニシテ普通水利組合ノ事業ニ屬セサルモノ、爲設置スルモノトス

第五條 水利組合ハ組合規約ヲ設ケ其組合ニ關スル重要ノ事項ヲ規定スヘシ

第六條 二府縣以上ニ涉リテ水利組合ヲ設クルノ必要アルトキ此法律中府縣知事ノ職權ニ屬スル事項ハ其關係ノ府縣知事協議ノ上之ヲ處分スヘシ若シ互ニ意見ヲ異ニスルトキハ內務大臣ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第二章 組合ノ設置及廢止

水利組合條例



第七條 普通水利組合ハ組合事業ノ爲利益ヲ受クル土地ヲ以テ區域トシ其土地所有者ヲ以テ組合員トス但舊慣アルモノハ其舊慣ニ依リ區域ヲ畫スルコトヲ得

第八條 普通水利組合ハ左ノ場合ニ於テ第十條乃至第十二條ノ手續ニ從ヒ之ヲ設置スルモノトス

一 組合員タルコトヲ得ル者五名以上ノ請願アリタルトキ

二 組合事業ニ關係アル土地ノ郡長又ハ市町村長ノ具狀アリタルトキ

第九條 前條ノ請願ニハ市町村長ニ於テ意見ヲ付シ町村長ハ郡長ヲ經、市長ハ直ニ之ヲ府縣知事ニ差出スヘシ

第十條 第八條ノ請願又ハ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ公益上設置スヘキモノト認ムルトキハ假ニ組合關係ノ區域ヲ指定シ其土地ノ郡長又ハ市町村長ノ内一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ

第十一條 創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ關係者ノ總會議ニ付スヘシ關係者百人以上ニ及フトキハ府縣知事ノ認可ヲ經テ便宜總代人ヲ選ハシメ其集會ヲ以テ總會議ニ充ルコトヲ得

前項ノ總會議ハ關係者若ハ總代人ノ全員三分ノ二以上出席スルトキハ議決ヲ爲スコトヲ得其議決ハ過半数ニ依ル

第十二條 創立委員ハ關係者ノ總會議ニ於テ組合規約ノ議決ヲ經タルトキハ府縣知事ノ認可ヲ請フヘシ

府縣知事ニ於テ前項ノ認可ヲ爲ストキハ同時ニ組合設置ノ旨並其管理者タルヘキ郡長若ハ市町村長ヲ告示スヘシ

判決要領

一 水利組合ハ該組合規約ノ認可ヲ得ルト同時ニ成立ス府縣知事ノ告示ニヨリ始メテ組合ノ設置成リ管理者定マルモノニアラス、(二十八年三月廿七日)

判決理由

一 原告代理人ハ水利組合條例第二十九條ノ規定ハ管轄廳カ組合管理者ヲ指定スルノ標準ヲ定メタルモノニシテ同條例第十二條第二項ニ規定シタル府縣知事ノ組合設置及ヒ管理者タルヘキ者ノ告示ニ依リ始メテ管理者ナルモノ定マリ又組合成立スルモノナリ然ルニ本件議員ノ選舉ヲ行ヒシハ明治二十四年四月十九日ニシテ府知事ノ告示ヲ爲シタル前日ナルヲ以テ此日ハ既ニ組合ノ認可ヲ受ケ居ルモ未タ府知事ノ告示セサルノ日ナレハ即チ組合設置以前ニ係ルモノニシテ隨テ此選舉ハ無効ナリト云フト雖本件水利組合ノ區域ハ某村一村内ニ止マルヲ以テ水利組合條例第二十九條前段ニ依リ該組合規約ノ認可ヲ得ルト同時ニ當然其村長ナル者之レカ管理者タルヘキモノナリ而シテ同條例第十二條第二項ノ規定ニ依ル府縣知事ノ告示ハ既定ノ組合設置及ヒ其管理者ヲ公衆ニ告示スルニ過キサルモノナレハ該告示ヲ以テ始メテ組合ノ設置成リ管理者定マリタルモノト云フヲ得ス故ニ本件水利組合ノ如キハ同條例第一項ノ手續ヲ經既ニ府知事ノ告示以前ニ成立シタルモノニシテ隨テ組合會議員ノ選舉ヲ無効ナラシムル理由ナキモノトス

第十三條 普通水利組合ハ組合會ノ議決ニ依リ府縣知事ノ認可ヲ經テ之ヲ廢止スルコトヲ得此場合ニ於テ府縣知事ハ組合廢止ノ旨ヲ告示スヘシ但組合ニ於テ猶民法上ノ義務ヲ負フトキハ其義務ヲ完了スルカ又ハ完了ノ方法ヲ確定スル迄廢止スルコトヲ得ス

第十四條 水害豫防組合ハ府縣知事ニ於テ第十六條第十七條ノ手續ニ從ヒ水害ヲ受クヘキ地ニ就キ區域ヲ畫シテ之ヲ設置スルモノトス但舊慣アルモノハ舊慣ニ依リ其區區域ヲ畫スルコトヲ得

前項ノ區域内ニ土地家屋ヲ有スル者ハ總テ其組合員トス

第十五條 水害ヲ受ケサル土地ト雖水害ヲ受クヘキ地ニ接近シ組合事業ノ爲直接ノ利益ヲ受クルモノハ之ヲ組合區域内ニ編入スルコトヲ得但此場合ニ於テハ其部分ニ限リ土地所有者ノミ組合員タルモノ



ノトス

第十六條 府縣知事ニ於テ水害豫防組合ノ區域ヲ畫セントスルトキハ關係アル郡市參事會ノ意見ヲ聞  
 キ之ヲ定ムヘシ區域ノ變更ヲ要スルトキ亦同シ

第十七條 府縣知事ニ於テ水害豫防組合ノ區域ヲ定メタルトキハ其事業ニ關係アル土地ノ郡長又ハ市  
 町村長ノ内一人又ハ數人ニ創立委員ヲ命スヘシ

創立委員ハ組合規約案ヲ調製シ之ヲ組合員ノ總會議ニ付スヘシ其他ハ第十一條及第十二條ヲ適用ス

第十八條 水害豫防組合ハ府縣知事ニ於テ組合會ノ意見ヲ聞キ之ヲ廢止スルコトヲ得此場合ニ於テ府  
 縣知事ハ組合廢止ノ旨ヲ告示スヘシ但組合ニ於テ猶民法上ノ義務ヲ負フトキハ第十三條但書ノ例ニ  
 依ル

第三章 水利組合ノ會議

第十九條 水利組合ニ組合ヲ置ク

第二十條 組合會議員ハ其組合員ニ於テ之ヲ選舉スヘシ議員ノ數、資格、任期及選舉ノ方法ハ組合規約  
 ノ定ムル所ニ依ル

判決要領

一 規約ニ選舉人名簿縦覽及選舉ノ場所ハ組合内ニ公告スヘシトノ規定アルハ單ニ組合員ニ對シ公告  
 スヘシトノ意義ナリ(三十二年十二月廿七日)

判決理由

一 原告ハ選舉人名簿縦覽及選舉ノ場所等ハ組合規約第十一條及十三條ニ依リ組合内ニ公告スヘキ筈  
 ナルニ管理者ニ於テ組合區域外ナル某村役場ノ揭示場ヲ用ヒタルハ違法ナリト云フト雖モ該規約第  
 十一條及第十三條ニ組合内ニ公告スヘシトアルハ單ニ組合員ニ對シ公告スヘキ旨ヲ規定シタルモノ

ト認メサルヲ得サルニ依リ本件管理者ノ處置ハ違法ナリト云フヲ得ス

第二十一條 組合會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

一 組合規約ヲ改正追加シ及普通水利組合區域ヲ變更スル事但其議決ハ議員三分ノ二以上ノ同意ヲ  
 得ルヲ要ス

二 組合費ノ豫算ヲ定メ及決算報告ヲ認定スル事

三 組合費及夫役現品ノ賦課徵收方法ヲ定ムル事

四 組合ニ屬スル財産ノ賣買、交換、讓渡、讓受並質入、書入ヲ爲ス事

五 豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事

判決要領

一 組合員ニアラサル者ハ其組合會カ如何ナル決議ヲ爲スモ之ニ因テ權利ヲ侵害セラレタリト云フヲ  
 得ス(廿九年六月十九日)

二 水利組合管理者カ訴訟代理人ヲ選任スルノ議案ヲ提出シタルニ組合會カ代理人其人ヲ指名シテ議  
 決ヲ爲シタルハ越權ナリ(三十三年十一月廿八日)

三 水利組合會ノ發案權ハ其管理者ニ專屬ス(同上)

判決理由

一 原告ハ某組合會ノ議決ニ依リ用水使用權ヲ侵害セラレタリト云フト雖原告ハ其組合員ニアラサレ  
 ハ某用水ヲ使用スル權利ナキノミナラス決議ヲ以テ特ニ其使用權ヲ與ヘラレタル者ニアラサレハ其  
 議決ニ依リ侵害セラレヘキ使用權アリト云フヲ得ス

二 按スルニ管理者ノ提出ニ係ル議案ハ管理者ニ於テ代理人ヲ選定シテ之ト代理契約ヲ締結スル權限  
 ヲ附與スヘシトノ旨趣ナルニ此議案ニ對シ代理人タルヘキ辯護士其人ヲ指名シテ議決シタルハ原案



以外ニ渉ル議案ヲ提出シテ之ヲ可決シタルモノト認メサルヲ得ス而シテ發案權ノ組合會ニ屬セスシテ單ニ管理者ノミニ屬スルコトハ水利組合條例中組合會ニ發案權ヲ與ヘタル規定ナキニ反シ其第三十二條ニ於ケル管理者職務ノ概目中ニ組合會ノ議事ヲ準備シトノ規定アルニ依リ明カナリ依テ本件議決ハ修正ノ範圍ヲ超越シ管理者ノ發案權ヲ侵シタルモノト云ハサルヲ得ス

第二十二條 組合會ハ組合事業ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ管理者ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ施行並收入支出ノ正否ヲ監査スルコトヲ得

第二十三條 議員選舉ノ効力若ハ議員ノ資格ニ關スル異議ハ組合會之ヲ議決スヘシ組合會ノ議決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願スルコトヲ得其組合ノ區域、郡市又ハ數郡ニ渉ル場合ニ於テ組合會ノ議決ニ不服アル者及郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

前項ニ依リ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
組合ノ區域ニ府縣以上ニ渉ル場合ニ於テ府縣參事會ニ訴願スル者アルトキハ其關係參事會ニ於テ協議ノ上主管ヲ定ムヘシ若シ協議調ハサルトキハ內務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

判決要領

一 普通水利組合會ノ議員選舉ニ於テ組合規約ニ違背シタル無効ノ投票アルモ其選舉全體ヲ取消スノ理由トナラス(廿七年七月十日)

一 普通水利組合ノ規約ニ明文ナキ以上ハ選舉ノ定規ニ關シテ市町村制ヲ適用セス(廿七年七月十日)

二 投票用紙ノ保存シアラサルノ故ヲ以テ其選舉ヲ無効ナリト云フヲ得ス(二十八年三月廿七日)

判決理由

一 原告主張ノ如ク本件選舉ニ於テ代人投票ヲ爲サシメタルハ組合規約第九條ニ違背シタルモノナルモ投票ノ効力如何ニ依リ其選舉ヲ不法ナリト云フヲ得ス隨テ選舉全體ヲ取消スヘキモノニアラス又

原告等ノ異議申立ニ依リ再タヒ投票ヲ調査スルニ當リ選舉會場ニアラサル場所ニ於テ立會人ノ意見ヲ聽クコトナクシテ其選舉ヲ訂正シタルハ組合規約ノ手續ヲ缺キタルモノニシテ被告ニ於テモ自認スル所ナリト雖モ組合規約ニハ市町村制ニ於ケル如キ選舉ノ定規違背ノ場合ハ其選舉ヲ無効トスヘキ規定ナキヲ以テ是亦選舉全體ヲ無効トスヘキ理由ト爲ヌヲ得ス

二 原告代理人ハ議員選舉ハ組合規約第七條ニ依リ投票ヲ以テ行フヘキモノナレハ管理者ニ於テハ其投票用紙及其他之レニ關スル必要ノ書類ヲ保存スヘキハ水利組合條例第三十二條四ニ明記シアル如ク管理者職務ノ一ナルニ之レヲ保存シアラサルヲ以テ見レハ適法ニ選舉ヲ行ハサリシヲ知ルニ足ルヘシト云フト雖水利組合條例第三十二條四ノ規定ハ投票用紙等ノ保存ヲ指示シタル規定ト認ムル能ハサルノミナラス其他投票用紙等ヲ保存スヘキ何等ノ規定ナキヲ以テ投票用紙ノ保存シアラサルノ故ヲ以テ選舉ヲ無効ナリト云フヲ得ス

第二十四條 組合會ハ管理者ヲ以テ議長トハ管理者故障アルトキハ代理者ヲ以テ之ニ充ツ

第二十五條 組合會ハ毎年一回若ハ二回通常會ヲ開キ其他臨時ノ必要アル毎ニ臨時會ヲ開ク但通常會ノ時期及度數ハ組合規約ノ定ムル所ニ依ル

組合會ハ管理者之ヲ招集ス若シ議員四分ノ一以上ノ請求アルトキハ必ス之ヲ招集スヘシ  
招集狀ハ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外遅クモ會議ノ三日前ニ之ヲ發スヘシ

第二十六條 組合會ハ議員三分ノ一以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲナスコトヲ得ス

判決要領

一 水利組合條例第二十六條ハ組合會ニ於テ議事ヲ開キ議決ヲ爲スニ要スル人員ヲ定メタルモノニシテ組合會成立ノ人員ヲ定メタル規定ニアラス(三十二年十二月二十七日)

判決理由



一 被告ハ組合會ハ水利組合條例第廿六條ニ依リ議員三分ノ一以上出席スレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲ス  
 一得ル者ナレハ該定員數ノ議員當選確定シタル片ハ組合會ハ成立スル者ナリ而シテ某村大字小屋  
 ノ選舉ニ於テ歸ニ半數ノ議員ハ當選確定シタルニ付即開議シ得ヘキ定員數以上ノ議員アルカ故ニ組  
 合會ヲ召集セサルヘカラス然ルニ管理者カ茲ニ出テスシテ水利組合條例第五十六條ヲ適用セシハ違  
 法ナリト云フト雖同條例第廿六條ハ組合會ニ於テ議事ヲ開キ議決ヲ要スル人員ヲ定メタル者ニシ  
 テ該會成立ノ人員ヲ定メタルニアラス換言スレハ同條例ハ組合會議事規則ニシテ該會成立ノ後適用ス  
 ヘキ規定ナリ然ルニ本件管理者カ選舉取消ノ請求ヲ受ケタルハ大字小屋ノ選舉ハ執行濟ナルモ大字  
 濱ノ邊ノ選舉ハ執行未濟ニシテ未タ組合會成立ニ到ラサル時ナレハ之ヲ適用スヘキ場合ニアラス然  
 レハ管理者ニ於テ同條例第五十六條ニ依リ處理セシハ相當ノ處置ニシテ違法ト爲スヘキ者ニアラス  
 第二十七條 組合會ノ議決ハ過半數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル  
 第二十八條 組合員少數ノ組合ニ於テハ組合會ヲ設ケス組合規約ノ規定ニ依リ組合員總會ヲ以テ之ニ  
 充ルコトヲ得

第四章 組合ノ管理

第二十九條 水利組合ハ其組合ノ區域一市町村内ニ止ルトキハ其市町村長之ヲ管理ノ數市町村又ハ郡  
 市若ハ數郡ニ涉ルトキハ府縣知事ニ於テ便宜郡長又ハ市町村長ノ内一名ヲ指定シ之ヲ管理セシムヘ  
 シ

第三十條 水利組合ノ收入及會計ノ事務ハ郡長ニ於テ管理者タル場合ハ郡ノ會計吏ヲシテ兼掌セシメ  
 市町村長ニ於テ管理者タル場合ハ其市町村收入役ヲシテ兼掌セシムヘシ  
 組合區域數市町村ニ涉ルトキハ各市町村收入役ハ管理者ノ求ニ依リ組合費ノ徵收ヲ爲スヘシ

第三十一條 管理者タル郡長又ハ市町村長ニ於テ行フ職務ニ關シ組合ノ爲特ニ要スル費用ハ其組合ノ  
 負擔トス組合ノ收入及會計事務ヲ兼掌スル郡會計吏又ハ市町村收入役ニ於テ行フ職務ニ關スル費用  
 亦同シ

第三十二條 管理者職務ノ概目左ノ如シ

- 一 組合一切ノ事務ヲ管理スル事
- 二 組合會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ組合會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又  
 ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改  
 メサルトキハ郡參事會ノ議決ヲ請フヘシ郡參事會ノ議決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スル  
 コトヲ得但權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事  
 會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得  
 前項ノ場合ニ於テ其組合ノ區域郡市若ハ數郡ニ涉ルトキ又ハ郡長ニ於テ管理者タルトキハ府縣  
 參事會ノ議決ヲ請フヘシ府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得但權限  
 ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ議決ニ不服  
 アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 三 組合ノ權利ヲ保護シ收入金其他ノ財産ヲ管理シ歲入出豫算其他組合會ノ議決ニ依テ定マリタル  
 收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事
- 四 諸證書及其他書類ヲ保管スル事
- 五 外部ニ對シテ組合ヲ代表スル事

判決要領

(一) 水利組合條例第三十二條四ハ投票用紙等ノ保存ヲ指示シタル規定ニアラス(廿八年三月廿七日)  
 第三十三條 管理者ハ特ニ組合會ノ委任ヲ受ケ又ハ其議決ヲ經タル事件ニ非サレハ組合ノ爲契約ヲ結



ヒ又ハ義務ヲ負擔スヘキ證書若ハ委任狀ヲ發スルコトヲ得ス  
 第三十四條 組合ハ必要ナル委員又ハ附屬ノ僱員ヲ置クコトヲ得委員ハ組合會之ヲ選任シ僱員ハ管理  
 者之ヲ任用ス  
 委員又ハ僱員ノ爲ニ要スル費用ハ其組合ノ負擔トス

第五章 組合ノ會計

第三十五條 普通水利組合費ハ土地ニ賦課シ水害豫防組合費ハ土地及家屋ニ賦課スルモノトス但舊慣  
 アルモノハ專ラ土地ニ賦課スルコトヲ得又第十五條ノ組合員ニ對シテハ土地ニ限リ之ヲ賦課スヘシ  
 第三十六條 組合費ハ組合規約中ニ豫メ連年据置ノ賦課額ヲ設ケ之ヲ徵收スルコトヲ得  
 第三十七條 組合費豫算額ノ剩餘ハ之ヲ積金ト爲スノ方法ヲ設クルコトヲ得其積立並支出ノ方法ハ組  
 合會ノ議決スル所ニ依ル

第三十八條 組合ハ其事業ノ爲夫役現品ヲ組合員ニ賦課スルコトヲ得但水害豫防組合ニ在テハ夫役ニ  
 限リ其區域内ニ住居スル一般ノ人民ニ賦課スルコトヲ得  
 夫役現品ニ關スル規定ハ組合規約中ニ之ヲ定ムヘシ

第三十九條 普通水利組合費ノ賦課額ハ組合會ノ議決ニ依リ水害豫防組合費ノ賦課額ハ府縣知事ニ於  
 テ其關係郡市參事會ノ意見ヲ聞キ其事業ヨリ受クル利益ノ厚薄ニ依リ區域ヲ限リ其割合ニ差等ヲ設  
 クルコトヲ得

判決要領

一 水利組合費ノ賦課ニ關シ本條ヲ適用スルト否トハ組合會ノ議決ニ據ルヘキモノトス(二十八年十  
 月廿九日)

判決理由

一 原告ハ其所有ニ係ル某地ハ排水工事ノ利益ヲ享クルコト僅少ナレハ之ニ均一ノ組合費ヲ賦課スル  
 ハ水利組合條例第三十九條ヲ無視シタル不法ノ行爲ナリト云フト雖トモ該條ヲ適用スルト否トハ組  
 合會ノ議決ニ據ルヘキモノニシテ某沼普通水利組合規約ハ其第二十八條ヲ以テ均一賦課スヘシト規  
 定スルニヨリ組合會ノ議決ヲ以テ之ヲ改正セサル限りハ原告所有ノ土地ニ對シテ均一ノ賦課ヲ爲ス  
 コト固ヨリ適當ノ行爲ナリト謂ハサルヘカラス

第四十條 組合費ノ徵收及滯納處分ハ市町村稅ノ例ニ依ル

判決要領

一 水利組合費賦課徵收ニ關スル事件ハ二十三年法律第六號ニ據リ出訴スルコトヲ得(二十八年十  
 月廿九日)

判決理由

一 水利組合費ハ其性質町村稅ト同一ナルニ依リ其賦課徵收ニ關スル事件モ亦明治二十三年法律第六  
 六號ニ據リテ行政裁判所ニ出訴スルヲ得ヘキモノトス  
 第四十一條 組合ハ天災事變ノ爲止ムヲ得サル支出若ハ組合永久ノ利益トナルヘキ事業ニ付通常ノ歲  
 入ヲ増加スルトキハ其組合員ノ負擔ニ堪ヘサル場合ニ限リ負債ヲ起スコトヲ得  
 組合ニ於テ負債ヲ起スコトヲ議決スルトキハ其借入及償還ノ方法及期限並利足ノ定率ヲ定ムヘシ  
 年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキ一時ノ借入金ハ前項ノ例ニ依ルノ限ニアラス但組合會ノ議決ヲ經ル  
 コトヲ要ス

第四十二條 管理者ハ每會計年度ノ歲入出豫算ヲ調製シ會計年度前ノ通常組合會ノ議決ニ付スヘシ  
 第四十三條 歲入出豫算ハ組合會ノ議決ヲ經タル後之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ  
 第四十四條 決算ハ第三十條ノ會計吏又ハ收入役ニ於テ會計年度ノ終ヨリ三箇月以内ニ之ヲ結了シ證



書類ヲ併テ之ヲ管理者ニ提出シ管理者ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ之ヲ次回ノ通常組合會ノ認定ニ付スヘシ

決算報告書竝之ニ關スル議決ハ管理者ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第六章 水利組合ノ監督

第四十五條 水利組合ハ第一次ニ郡長第二次ニ府縣知事第三次ニ内務大臣之ヲ監督ス其郡長又ハ市長ニ於テ管理スル場合ニ於テハ第一次ニ府縣知事第二次ニ内務大臣之ヲ監督ス

第四十六條 此法律中別段ノ規定アルモノ、外管理者ノ處分ニ不服アル者ハ組合所在地ノ郡參事會ニ訴願シ郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得其組合ノ區域郡市又ハ數郡ニ涉ル場合ニ於テ管理者ノ處分ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願スルコトヲ得

前條ニ依リ府縣參事會ニ訴願シ其裁決ニ不服アル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得  
組合ノ區域二府縣以上ニ涉ル場合ニ於テ府縣參事會ニ訴願スル者アルトキハ第二十三條第三項ノ例ニ依ル

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス

第四十七條 賦課金納付ノ義務ニ關スル訴願ハ其徴收令書ヲ交付シタル日ヨリ三箇月以内ニ提出スヘシ

前項ノ場合ニ屬セサル事件ニ關シ訴願セントスル者ハ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出スヘシ

判決要領

一 第二項ハ訴願ノ期限ニ關スル規定ニシテ議員選舉ノ効力ニ關スル異議申立ニ適用セス(二十八年三月廿七日)

判決理由

一 被告代理人ハ本件議員選舉ノ効力ヲ爭ハント欲セハ水利組合條例第四十七條第二項ニ依リ二十一日ノ期間内ニ於テセサルヘカラス然ルニ原告ハ明治二十四年四月十九日ノ選舉ノ効力ニ付明治二十四年七月ニ至リ異議ヲ申立テタルモノナレハ行政訴訟ノ根本ニ於テ既ニ不合法ノモノナリト云フト雖水利組合條例第四十七條第二項ハ訴願期限ニ關スル規定ニシテ本件ノ如キ同條例第二十三條ニ依リハ異議申立ニ之レヲ適用スヘキモノニアラス故ニ此点ニ於ケル被告代理人ノ申立ハ法律ノ誤釋ニ起因スル不當ノ申立ナリトス

第四十八條 水利組合會ハ内務大臣ニ於テ之ヲ解散セシムルコトヲ得解散ヲ命スルトキハ同時ニ三箇月以内更ニ議員ヲ選舉スヘキコトヲ命スヘシ

第四十九條 監督官廳ハ組合事務ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事業ノ公益ヲ害セサルヤ否ヤヲ監視シ兼テ其會計事務ヲシテ錯雜セサラシムルコトヲ務ムヘシ監督官廳ハ之ヲ爲組合事務ノ報告ヲ爲サシメ竝實地ニ就テ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルコトヲ得

組合ニ於テ公益ヲ害スヘキ工事ヲ執行スルカ又ハ正當爲スヘキ工事ヲ執行セサルカ爲公益ヲ害スルノ虞アルトキハ府縣知事ハ其工事ノ變更又ハ執行ヲ命スルコトヲ得若シ其命令ニ服從セサルトキハ府縣知事ニ於テ之ヲ執行シ其實費ヲ追徴スルコトヲ得

第五十條 組合會ニ於テ組合規約ノ改正追加及普通水利組合區域變更ノ議決ヲ爲シ又ハ不動産ノ賣却、交換、讓渡又ハ質入、書入ノ議決ヲ爲シ又ハ第三十九條ニ依リ普通水利組合費ノ賦課額ニ差等ヲ設クルノ議決ヲ爲シタルトキハ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

組合會ニ於テ負債ヲ起スコトヲ議決シタルトキハ借入及償還ノ方法及期限並利息ノ定率ヲモ併テ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ



其他組合規約中ニ監督官廳ノ認可ヲ受クヘキ事項ヲ増加スルコトヲ得

第五十一條 水害豫防組合關係者總會議又ハ水害豫防組合會ニ於テ其議決スヘキ事項ヲ議決セサルカ爲公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ府縣參事會若ハ郡參事會ニ付シテ決定セシムルコトヲ得關係者總會議ニ出席セス又ハ議員ヲ選舉セス若ハ議員ノ當選ヲ承諾セサル爲總會議又ハ組合會成立ニ至ラサルトキ亦同シ

水害豫防組合會ニ於テ組合事業ノ爲必要ナル費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖必要ノ給需ヲ缺クトキハ管理者ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但府縣知事ハ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以內ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第五十二條 水利組合關係者總會議ニ於テ議決シタル組合規約法律命令ニ背キ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ府縣知事ハ其理由ヲ示シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ改メサルトキハ内務大臣ノ指揮ヲ請フヘシ

第五十三條 監督官廳ハ出水ノ爲危險アルトキ水利組合ニ對シ防禦ニ必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得前項ノ場合ニ於テ郡長市町村長又ハ警察官ハ組合區域內ニ住居スル一般ノ人民ヲ指揮シテ防從濫ニ事セシメ及必要ナル現品ヲ收用スルコトヲ得但現品ハ追テ組合ノ費用ヲ以テ相當ノ賠償ヲ爲サシムヘシ

第五十四條 水利組合理管者及其事務ニ服從スル者ニ對シ懲戒處分ヲ要スルトキハ町村制第二百二十八條ヲ適用シ其職務ヲ盡サヌ又ハ權限ヲ越エタル爲組合ニ賠償スヘキコトアルトキハ町村制第二百二十九條ヲ適用ス

第七章 附 則

第五十五條 府縣參事會、郡參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務ハ郡長府縣參事會

ノ職務ハ府縣知事行政裁判所ノ職務ハ從來ノ慣行ニ依リ控訴院ニ於テ之ヲ行フヘシ  
第五十六條 此法律ニ依リ初テ議員ヲ選舉スル場合ニ於テ組合會ノ議決スヘキ事項ハ其成立ニ至ル迄ノ間管理者ニ於テ之ヲ行フヘシ

判 決 要 領

(一) 組合會ノ成立前ニ在リテ管理者カ水利組合條例第五十六條ニ依リテ其事務ヲ處理セシハ違法ナリ  
(三十二年十一月廿七日)

第五十七條 此法律ニ依リ設置スル水利組合ニ於テ舊町村會又ハ水利土功會ノ事業ヲ繼續スルトキハ其既成ノ工事及所屬ノ財産ハ總テ其組合ニ引繼クヘキモノトス

判 決 要 領

一 水利土功會ハ水利組合ノ會議設立迄存續ス(二十六年五月廿五日)

判 決 理 由

一 本件ハ水利組合會議未タ開設ニ至ラサル場合ニ於テハ水利組合條例施行期日以後ニ於テモ尙水利土功會ヲ有効ニ存續スルヲ得ルヤ否ノ論點ニ歸着スルモノトス依テ之ヲ説明センニ市制第三百二十二條町村制第三百二十八條ニ明治十七年五月第十四號布告區町村會法云々此ノ法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ストアレハ同制施行ノ日ニ於テハ區町村會法ニ依リテ組織シタル會議ハ總テ廢止ニ歸スルモノナルヲ以テ二十二年法律第十一號ヲ以テ水利及學事ニ關スル會議ニ限リ別ニ規定設立ニ至ルマテ舊法ニ依リテ存續スルヲ得セシムルモノニシテ其之ヲ存續セシムル所以ハ此等ノ行政機關ヲシテ絶止セシメサシムルノ法意ニ外ナラス然ルニ水利組合條例施行ノ日即チ未タ水利組合會議設立セサルノ時ニ於テ水利土功會ノ存續ヲ止メンカ水利土功ニ要スル行政機關ハ一時絶止ニ歸シ其結果明治二十二年法律第十一號ハ逐ニ其目的ヲ完フスルヲ得サルニ至ラントス故ニ水利土功會議ノ存續期ハ



水利組合條例ニ依據シタル會議ノ設立ト同時ニ盡クルモノナリト言ハサルヘカラス  
第五十八條 此法律ハ市制町村制ヲ施行スル地方ニ於テ府縣知事ハ内務大臣ニ具狀シ其指揮ニ依リ之  
ヲ施行ス

◎行政裁判法 (明治二十三年六月二十八日) 法律第四十八號

行政裁判法

第一章 行政裁判所組織

第一條 行政裁判所ハ之ヲ東京ニ置ク

第二條 行政裁判所ニ長官一人及評定官ヲ置ク評定官ノ員數ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

行政裁判所ニ書記ヲ置ク其員數及職務ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 長官ハ勅任トス評定官ハ勅任又ハ奏任トス

長官及評定官ハ三十歳以上ニシテ五年以上高等行政官ノ職ヲ奉シタル者若クハ裁判官ノ職ヲ奉シタル者ヨリ内閣總理大臣ノ上奏ニ依リ任命セラル、モノトス

書記ハ長官之ヲ判任ス

第四條 長官及評定官ハ在職中左ノ諸件ヲ爲スコトヲ得ス

- 一 公然政事ニ關係スルコト
- 二 政黨ノ黨員又ハ政社ノ社員トナリ又ハ衆議院議員府縣郡市町村會ノ議員若クハ參事會員タルコト
- 三 兼官ノ場合ヲ除ク外俸給アル又ハ金錢ノ利益ヲ目的トスル公務ニ就クコト

四 商業ヲ營ミ其他行政上ノ命令ヲ以テ禁シタル業務ヲ營ムコト

第五條 第六條ノ場合ヲ除ク外長官及評定官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非レハ其意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命セラル、コトナシ

行政裁判所ノ長官又ハ評定官ヲ兼任スル者ハ其本官在職中前項ヲ適用ス

懲戒處分ノ法ハ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 長官及評定官身體若クハ精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルコト能ハサルトキハ内閣總理大臣ハ行政裁判所ノ總會ノ決議ニ依リ其退職ヲ上奏スルコトヲ得

第七條 長官ハ行政裁判所ノ事務ヲ總理ス  
長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代理ス官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其先ナル者之ヲ代理ス

第八條 長官ハ自ら裁判長トナリ若クハ評定官ニ裁判長ヲ命スルコトヲ得  
部ヲ分ツノ必要アルトキハ其組織及事務分配ハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第九條 行政裁判所ノ裁判ハ裁判長及評定官ヲ併セ五人以上ノ列席合議ヲ要ス但列席ノ人員ハ奇數ニ限ル若シ缺席ノ爲偶數トナリタルトキハ官等最モ低キ評定官ヲ議決ヨリ除ク官等同シキトキハ任官ノ順序ニ依リ其後ナル者ヲ除ク議決ハ過半數ニ依ル

第十條 長官又ハ評定官ハ左ノ場合ニ於テ評議及議決ニ加ハルコトヲ得ス

- 一 裁判スヘキ事件自己又ハ父母兄弟姉妹若クハ妻子ノ身上ニ關スルトキ
- 二 裁判スヘキ事件一私人ノ資格ヲ以テ意見ヲ述ヘタルモノ又ハ理事者代理者若クハ職務外ノ地位ニ於テ取扱ヒタルモノニ關スルトキ
- 三 裁判スヘキ事件行政官タルノ資格ヲ以テ其事件ノ處分又ハ裁決ニ參與シタルモノニ關スルトキ



第十一條 前條ノ場合ニ於テ原告又ハ被告ハ原因ヲ疏明シテ文書又ハ口頭ヲ以テ長官又ハ評定官ヲ忌避スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十二條 忌避若クハ除斥ノ原因タル事情ニ付キ長官又ハ評定官ヨリ申出アルトキ又ハ他ノ事由ヨリシテ長官又ハ評定官カ法律ニ依リ評議及決議ニ加ハルヲ得サルノ疑アルトキハ行政裁判所ハ本人ヲ回避セシメ之ヲ議決ス

第十三條 行政裁判所ノ處務規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 行政訴訟ノ辨護人タルコトヲ得ルハ行政裁判所ノ認許シタル辨護士ニ限ル

第二章 行政裁判所ノ權限

第十五條 行政裁判所ハ法律勅令ニ依リ行政裁判所ニ出訴ヲ許シタル事件ヲ審判ス

第十六條 行政裁判所ハ損害賠償ノ訴訟ヲ受理セス

第十七條 行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外地方上級行政廳ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニ非サレハ之ヲ提起スルコトヲ得ス

各省大臣ノ處分又ハ内閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ處分ニ對シテハ直ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得各省又ハ内閣ニ訴願ヲ爲シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

判決要領

一 縣參事會ニ訴願ヲ提起セシ以上ハ假令其事項ニ就キ裁決ヲ受ケサルモ直ニ該事項ノ訴訟ヲ提出スルコトヲ得(二十八年十一月十九日)

二 縣知事カ爲シタル選舉取消處分ニ對シテハ直ニ訴訟ヲ提起スルコトヲ得(二十九年一月廿八日)

三 本條第二項ハ第十五條ノ範圍内ニ於テ出訴ヲ許スモノトス(二十九年十月五日)

四 行政廳ニ於テ本案ノ裁決ヲ爲サ、ル事件ト雖訴願ノ順序ヲ履タルモノハ訴訟ヲ提起スルコトヲ得(三十年六月二十五日)

五 期限ヲ經過シタルトノ理由ヲ以テ訴願ヲ却下シタル裁決ニ對シテハ單ニ期限ノ点ニ止マラス直チニ本案ノ行政訴訟ヲ起スコトヲ得(三十二年十一月六日)

六 適法ニ訴願ヲ經由セサル行政訴訟ハ受理セス(三十二年十二月廿七日)

七 郡長ノ處分ニ對スル訴訟ハ縣知事ニ訴願シ其裁決ヲ經タル後ニアラサレハ提起スルコトヲ得ス(二十三年十月廿四日)

判決理由

一 被告ニ於テ原告カ縣參事會ノ裁決シタル訴願不受理ノ當否ニ付毫モ不服ヲ申立ス直ニ選舉効力ノ有無ニ付本訴ヲ提起シタルハ甚タ不當ナレハ之ヲ棄却アリタシト云フト雖原告カ縣參事會ニ訴願ヲ提出セシ上ハ假令其事項ニ就キ裁決ヲ受ケ得サルモ訴願ノ期間裁決ノ爲本願意ヲ達シ得サルニ至リシモノナレハ直ニ該事項ノ訴訟ヲ行政裁判所ニ提出スルコトヲ得ルハ當然ナリトス

二 地方上級行政廳タル被告縣知事ニ於テ選舉ノ定規ニ違背スルヲ認メ選舉取消ノ處分ヲ爲シタルニ起因スルモノハ選舉人ニ於テ之ニ對シ出訴スルニ當リ行政裁判法第十七條第一項ニヨリ訴願ノ手續ヲナスヲ要セス同條第二項ニヨリ直ニ行政訴訟ヲ提起スルヲ得ルモノトス

三 被告カ訴願期限ノ論ニ對シ訴願法第四條ヲ適用シ原告ノ訴願ヲ却下シタルハ不當ナリ故ニ行政裁判法第十七條第二項各省大臣ノ處分ニ對シ直ニ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得トアルニ依リ本訴ヲ提起スト云フト雖同條ノ規定ハ同法第十五條ノ範圍内ニ於テ出訴ヲ許スモノニシテ本件ノ如キニ適用スヘキニアラス

四 被告郡長ハ縣知事ハ原告ノ訴願ヲ却下シ選舉ニ關スル本案ニ付テハ未タ裁決ヲ爲ササレハ原告ハ



先ツ縣知事ヲ被告トシ其却下ノ當否ニ付裁決ヲ求メサルヘカラス然ラハ本件ノ對手人ハ縣知事ニシテ郡長ヲ被告トセシハ對手人ヲ誤リタルモノナリト云フト雖行政裁判所ハ行政廳ニ於テ本案ノ裁決ヲ爲サ、ルモ原告ニ於テ訴願ノ順序ヲ履ミタル以上ハ之ニ付裁決ヲ爲シ得ルモノナレハ必スシモ被告主張ノ如ク爲スヲ要セス故ニ原告カ本件ニ付郡長ヲ被告トセシハ對手人ヲ誤リタルモノト謂フヲ得ス

五 本件ハ原告カ適法ノ訴願ヲ被告ニ提出シタルニ被告ニ於テ違法ノ裁決ヲ爲シタルヲ以テ茲ニ出訴シタルモノニテ適法ニ訴願經過ノ手續ヲ履行シタルモノナレハ直チニ被告ニ對シ本案某件許可ノ取消ヲ求ムルハ固ヨリ不當ノコトニアラス

六 訴願法ハ訴願ニ關スル普通法ナルヲ以テ他ノ法令ニ特別ノ規定ナキ以上ハ訴願ノ經由ニ就テハ訴願法第二條ノ規定ニ從ハサルヘカス而シテ郡制ニ於テハ訴願經由ニ關スル特別ノ規定ナキニ由リ縣參事會ニ於テ訴願法第二條第一項ノ手續ヲ履マサル不適法ノ訴願ナリトシ本件訴願ヲ却下セシハ不當ニアラス然ラハ本件ハ適法ニ地方上級行政廳ニ訴願シテ其裁決ヲ經タルモノト言フヲ得サルニ付當裁判所ニ於テ之ヲ受理スルノ限ニアラス

七 本件ハ郡長ノ處分ナルニ其地方上級行政廳タル縣知事ニ訴願シ其裁決ヲ經ルノ手續ヲ爲サス即チ行政裁判法第十七條第一項ノ手續ニ違背スルモノナルヲ以テ之ヲ受理スルノ限ニアラス

第十八條 行政裁判所ノ判決ハ其ノ事件ニ件關係ノ行政廳ヲ羈束ス

判決要領

(一) 訴訟費用ハ判決ヲ以テ其負擔ヲ命セラレタル者ニ於テ償却スヘキモノトス (二十六年四月八日)

第十九條 行政裁判所ノ裁判ニ對シテハ再審ヲ求ムルコトヲ得ス

判決要領

- 一 行政裁判所ノ裁決ハ即裁判ニシテ此ノ裁決ニ對スル異議ノ申立ハ再審ヲ求ムルモノナルニ依リ之ヲ受理セス (三十二年四月一日)
- 二 行政裁判所ハ再審ノ申立ヲ受理セス (三十三年一月十九日)
- 三 行政裁判所ノ裁判ニ對シテハ再審ヲ求ムルコトヲ得ス (三十三年十一月十二日、同年十一月二十一日)

判決理由

一 原告ハ行政裁判法第十九條ニ行政裁判所ノ裁判ニ對シテハ再審ヲ求ムルコトヲ得ストノ明文アレトモ訴狀ノ受理ト不受理トノ審査裁決ハ裁判ト稱スヘキモノニアラサルハ勿論行政裁判所ハ帝國唯一ノ裁判所ナルヲ以テ訴狀却下ノ裁決ニ對シテハ異議ノアル所ヲ審ニシ果シテ其異議ノ理由アル場合ニハ原狀ニ復シ本案ノ裁判ヲ受クルコトヲ得ヘキモノト思考ス依テ本件訴狀却下ニ對スル裁決ヲ取消シ本案ノ裁判ヲ受ケタシト云フニ在レトモ行政裁判所ノ裁決ハ即裁判ナルヲ以テ之ニ對シ異議ノ申立ヲ爲スハ再審ヲ求ムルニ外ナラサレハ行政裁判法第十九條ニ依リ之ヲ受理セス

二 村會議員違法選舉取消ノ訴ニ付裁決所ニ於テ判決ヲ與ヘタル件ニ對シ原告ハ誤謬裁判更正願ト題スル書面ヲ提出シタリ其要旨ハ一級納稅額五百九拾壹圓五厘ニシテ二級納稅額ハ五百八拾八圓參拾錢ナルヲ以テ二級納稅額ノ内無資格者三名ノ納稅額八圓拾七錢ヲ右二級納稅額ヨリ控除セハ五百八拾圓拾八錢トナルニ付一級納稅額ト比較セハ二級納稅額ヨリ一級納稅額ハ金拾圓八拾七錢五厘ノ超過アリ故ニ一級ノ末尾タル某ノ納稅額七圓九拾八錢ヲ控除スルモ尙二級納稅額ヨリ一級納稅額ハ金貳圓八拾九錢五厘ノ超過アリ如此一級選舉ニ異動ヲ生セサルモノナルニ當裁判所ハ一級選舉ニハ異動ヲ生セサルニ依リ一級選舉ハ取消スヘキモノニアラスト裁判セラレタルハ不當ナルヲ以テ某日某村ニ於テ執行セラレタル村會議員一級選舉ヲ取消シ更ニ選舉ヲ行フヘシトノ判決ヲ求ムト云



ウニ在レトモ如斯申立ハ再審ヲ求ムルモノナルニ依リ行政裁判法第十九條ニ從ヒ之ヲ受理セス  
三 本件ハ當裁判所ニ於テ既ニ却下ノ裁決ヲ爲シタルモノナレハ行政裁判法第十九條ニ依リ再審ヲ求ムルコトヲ得ス

第二十條 行政裁判所ハ其權限ニ關シテハ自ラ之ヲ決定ス

行政裁判所ト通常裁判所又ハ特別裁判所トノ間ニ起ル權限ノ爭議ハ權限裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第二十一條 行政裁判所ノ判決ノ執行ハ通常裁判所ニ囑託スルコトヲ得

第三章 行政訴訟手續

第二十二條 行政訴訟ハ行政廳ニ於テ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ告知シタル日ヨリ六十日以内ニ提起スヘシ六十日ヲ經過シタルトキハ行政訴訟ヲ爲スコトヲ得ス但法律勅令ニ特別ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

訴訟提起ノ日限其他此法律ニ依リ行政裁判所ノ指定スル日限ノ計算並ニ災害事變ノ爲遷延シタル期限ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス

判決要領

(一) 原狀回復ハ天災其他避クヘカラサル事由ノ爲ニ不變期間ヲ遵守スルコトヲ得サリシ場合ニ限り之ヲ許ス(二十六年十月九日)

(二) 司法裁判ノ結果ヲ待チタル爲行政訴訟ノ期間ヲ經過シタルハ原狀回復ノ理由トナラス(同上)  
二 行政廳カ同一事件ノ再願ニ對シ前指令ノ通心得ヘントノ指令ヲ爲シタルニ對シ行政訴訟ヲ提起セントスル者ハ其初願ニ對シ處分ヲ受ケタル當日ヨリ起算シ其期限ヲ計算スヘキモノトス(二十九年七月九日)

三 出訴期限ヲ經過シタル行政訴訟ハ之ヲ受理セス(三十三年五月十八日、同年七月九日、同年十月

廿四日、同年十月廿六日、同年十一月七日、同年十二月廿四日)

四 出訴期限ヲ經過シタル行政訴訟ハ之ヲ受理セス(三十三年十二月十四日)

五 出訴期限ヲ經過シタル行政訴訟ハ之ヲ受理セス(同上)

判 決 理 由

二 被告カ原告ノ再願ニ對スル指令ノ旨趣ハ原告ノ再願ハ新タナル證據ナキニ依リ明治二十五年十二月二十日付ヲ以テ指令ニ及ヒタル外處分ノ道ナシトノ心得方ヲ示シタルモノニ過キサレハ是ヲ以テ更ニ處分ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス故ニ原告ニ於テ其處分ニ服セス本訴ヲ提起セントナレハ其初願ニ對シ處分ヲ受ケタル當日即明治二十五年十二月二十日ヨリ起算シ行政裁判法第二十二條ノ期限内ニ出訴ヲ爲スヘキモノトス

三 原告ニ於テ本件處分ノ交付ヲ受ケタルハ明治三十二年十二月二十一日ニシテ本訴ヲ提起シタルハ本年三月二十日ナルヲ以テ法定ノ期間二十一日ニ民事訴訟法第六十七條ノ伸長日數ヲ加フルモ既ニ出訴期限ヲ經過シタルモノナレハ之ヲ受理スヘキ限リニ在ラス

四 本訴ハ行政裁判法第二十二條ニ從ヒ原告ニ於テ被告ノ指令ヲ受タルヨリ起算シ民事訴訟法第六十七條ニヨリ原告居住地ヨリ行政裁判所ニ至ル距離百四十里十九町ニ對シ與フヘキ行程日數十八日ヲ除キ六十日間ニ提起セサルヘカラス然ルニ訴狀ニ依レハ原告カ指令ヲ交付セラレタルハ五月五日ニシテ本訴ヲ提起セシハ七月二十三日ナレハ其間七十九日ニシテ既ニ制規ノ日數ニ一日ヲ超過シ而シテ當日ハ日曜日其他一般ノ祝祭日ニ當ラサルヲ以テ民事訴訟法第六十六條ヲ適用スヘキモノニアラサレハ本訴ハ出訴ノ期限ヲ經過シタルモノニシテ受理ス可キ限ニアラス

五 本件ニ付キ青森縣參事會ヨリ裁決書ヲ交付シタルハ本年九月十九日ナルコトハ訴狀ニ明記スルトコロナリ依テ本訴ハ翌二十日ヨリ起算シ町村制第二百二十條第三項ノ期間二十一日ニ民事訴訟法第百



六十七條ノ伸長日數二十四日ヲ加フルモ十一月三日マテニ本訴ヲ提起セサルベカラス然ルニ原告カ  
訴狀ヲ當裁判所ニ提出シタルハ十一月十日ニシテ既ニ法定ノ期限ヲ經過シタルモノナレハ本訴ヲ受  
理スルノ限ニ在ラス

第二十三條 行政訴訟ハ法律勅令ニ特別ノ規程アルモノヲ除ク外行政廳ノ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止  
セス但行政廳及行政裁判所ハ其職權ニ依リ又ハ原告ノ願ニ依リ必要ト認ムルトキハ其處分又ハ裁決  
ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第二十四條 行政訴訟ハ文書ヲ以テ行政裁判所ニ提起スヘシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條 訴狀ハ左ノ事項ヲ記載シ原告署名捺印スヘシ

一 原告ノ身分、職業、住所、年齢

二 被告ノ行政廳又ハ其ノ他ノ被告

三 要求ノ事件及其理由

四 立 證

五 年月日

訴狀ニハ原告ノ經歷シタル訴願書裁決書並ニ證據書類ヲ添フヘシ

第二十六條 訴狀ニハ被告ニ送付スル爲ニ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

第二十七條 行政裁判所ハ原告ノ訴狀ニ就テ審査シ若シ法律勅令ニ依リ行政訴訟ヲ提起スヘカラサル  
モノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ其理由ヲ付シタル裁決書ヲ以テ之ヲ却下スヘ  
シ

其訴狀ノ法式ヲ缺クニ止マルモノハ之ヲ改正セシムル爲メ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第二十八條 行政裁判所ニ於テ訴狀ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ被告ニ送付シ相當ノ期限ヲ指定シテ

答辨書ヲ差出サシムヘシ

答辨書ニハ原告ニ送付スル爲メ必要文書ノ副本ヲ添フヘシ

判 決 要 領

(一) 訴訟ノ目的物消滅シタリト主張スルハ本案ノ答辨ニ属スヘキモノニシテ妨訴抗辨ノ理由ト爲スニ

足ラス(二十七年十一月九日)

第二十九條 行政裁判所ハ必要ナリト認ムルトキハ其期限ヲ指定シテ原告被告交互ニ辨駁書及再度ノ

答辨書ヲ差出サシムヘシ

第三十條 行政裁判所ハ訴狀及答辨書ノ附屬文書ノ副本ヲ原告被告交互ニ送付スル代リニ所内ニ於

テ之ヲ閱覽セシムルコトヲ得

第三十一條 行政裁判所ハ訴訟審問中其事件ノ利害ニ關係アル第三者ヲ訴訟ニ加ハラシメ又ハ第三者

ノ願ニ依リ訴訟ニ加ハルコトヲ許可スルヲ得

前項ノ場合ニ於テハ行政裁判所ノ判決ハ第三者ニ對シテモ亦其効力ヲ有ス

判 決 要 領

一 本條ハ主參加ト從參加トヲ區別セス訴訟ニ關係ヲ有スル者ニ參加ヲ許ス規定ナリ(二十九年二月

四日)

(二) 從參加人トシテ裁判ヲ受ケタル者ハ其既判力ニ對抗スルコトヲ得ス(二十九年三月五日)

(三) 前訴ノ從參加人トシテ判決ヲ受ケタルトキハ獨立シテ再ヒ同一ノ事件ヲ争フコトヲ得ス(同上)

判 決 理 由

一 原被告ニ於テハ行政訴訟手續中主參加ヲ許ストノ法則ナキヲ以テ參加人ハ本件訴訟ニ參加スル權



利ナシト主張スレトモ行政裁判法第三十一條ニハ主參加ト從參加トヲ區別スルニト無ク汎ク訴訟ニ付キ利害ノ關係ヲ有スル第三者ニ對シ申立ニ依リ又ハ職權ヲ以テ參加ヲ爲シ得ル旨ヲ規定セルヲ以テ苟モ利害ノ關係ヲ有スル以上ハ其訴訟ニ參加スルコトヲ得ルヤ明瞭ニシテ其主參加タルヤ將タ從參加タルヤハ一ニ訴訟ノ情況如何ニ因ルモノトスサレハ第三者ニ對シ參加ヲ許スト否トハ主トシテ訴訟ニ付キ利害ノ關係ヲ有スルヤ否ヤノ一點ニ存スルモノトス仍テ按スルニ本件ハ原告被告等ニ於テ參加人ノ當選ノ効力ニ付キ訴訟ヲ爲ズモノニシテ其裁判ノ如何ハ直チニ參加人カ選舉ニ依テ得タル議員ノ資格ノ得喪ニ影響スルヲ以テ參加人ハ本件訴訟ニ付キ利害ノ關係ヲ有スルモノタルコト明カナリ而シテ原告被告ノ主張ハ其ニ參加人ノ當選ヲ以テ無効トスルニ在リテ絶エテ爭フ所ナルヲ以テ其反對ノ利益ヲ有セル參加人ニ於テハ原告被告ヲ對手人トシテ選舉ノ効力ヲ爭フヨリ他ニ其途ナキモノトス然ラハ則チ參加人カ本件ニ付キ主參加ヲ爲セシハ當然ニシテ原告被告ノ異議ハ其理由ナキモノトス

第三十二條 行政官廳ハ其官吏又ハ其申立ニ依リ主務大臣ヨリ命シタル委員ヲシテ訴訟代理ヲ爲サシムルコトヲ得

代理者ハ委任狀ヲ以テ代人タルコトヲ證明スヘシ

第三十三條 行政裁判所ハ豫メ指定シタル期日ニ於テ原告被告及第三者ヲ召喚シテ審廷ヲ開キ口頭審問ヲ爲スヘシ

原告被告及第三者ニ於テ口頭審問ヲ爲スコトヲ望マサル旨ヲ申立タル場合ニ於テハ行政裁判所ハ文書ニ就キ直ニ判決ヲ爲スコトヲ得

第三十四條 審廷ニ於テハ原告被告及第三者ノ辨明ヲ聽クヘシ  
審廷ニ於テハ裁判長ノ許可ヲ得タル者ヨリ順次發言スヘシ

原告被告及第三者ハ事實上及法律上ノ點ニ就キ文書ニ盡サ、ル所ヲ補足シ又ハ誤謬ヲ更正シ若シクハ新ニ証憑ヲ提出シ及証書ヲ指示スルコトヲ得

第三十五條 主務大臣ハ必要ト認ムル場合ニ於テハ公益ヲ辯護スル爲委員ヲ命シ審廷ニ差出スコトヲ得

行政裁判所ハ判決ヲ爲ス前ニ委員ヲシテ意見ヲ陳述セシムヘシ

第三十六條 行政裁判所ノ對審判決ハ之ヲ公開ス  
安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アリ又ハ行政廳ノ要求アルトキハ行政裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第三十七條 公開ヲ停ムルノ決議ヲ爲シタルトキハ公衆ヲ退カシムルノ前之ヲ言渡ス

第三十八條 行政裁判所ハ原告被告及第三者ニ出廷ヲ命シ並ニ必要ト認ムル証憑ヲ徵シ証人及鑑定人ヲ召喚シ審問ニ應シ証明及鑑定ヲ爲サシムルコトヲ得

証人又ハ鑑定人トシテ審問ニ應シ証明及鑑定ヲ爲スヘキ義務ニ關シテハ民事訴訟ノ規程ヲ適用ス其義務ヲ盡サ、ル場合ニ於テ處分スヘキ科罰ハ行政裁判所自ラ之ヲ判決ス

行政裁判所ハ口頭審問ニ於テ舉証ノ手續ヲ爲シ又ハ評定官ニ委任シ若クハ通常裁判所又ハ行政廳ニ囑托シテ之カ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十九條 行政裁判所ニ於テ審問中ノ事件ニ關シ民事上ノ訴訟起ルコトアリテ通常裁判ノ確定ヲ待ツノ必要アリト認ムルトキハ其審問ヲ中止スルコトヲ得

第四十條 審問手續ニ關スル故障ノ申立ハ行政裁判所自カラ之ヲ判決ス

判決要領

(二) 訴狀ニ記載シタル被告ノ氏名ヲ訂正センコトヲ願出テ行政裁判所ハ之ヲ許可セストノ決定ヲ與ヘ